

第147図1には出土した土製品を示す。皿を模したものと考えられる。内面に葉脈状の文様を型押し施し表し、鉛釉系の釉薬を施す。

#### 第7号溝跡（第143・147図）

E 7-1 6 グリッド、第4区画（区画X）の東側で検出された比較的短い溝跡である。長さは4.3m、幅40cmで、走行方向は南北方向（N-20°-W）である。

重複する第289・293号土壤（いずれも栗橋7期以降）より新しい。

出土した遺物は少ない。第147図2は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外面に草文が染付される。このほか、瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗は4片認められる。他に瀬戸美濃系磁器の端反碗・型押し壽文皿が含まれている。以上の様相から、本跡は栗橋8期、降っても9期はじめ頃までに機能したものと考えられる。

#### 第8号溝跡（第143・147図）

E 7-F3・4 グリッド、第9区画（区画S）の西側で検出された溝跡である。西側は調査区外へ延び、東側は複数の土壤と重複して延長部を追えなくなる。長さは4.45m、幅55cmで、走行方向はN-70°-Eである。重複する第230号土壤（栗橋9期）・第334号土壤（栗橋9期）・第339号土壤（栗橋7期）より新しい。

出土した遺物は極めて少ない。第147図3は肥前系磁器の粗製碗で、雪輪草花文が染付される。高台疊付きには砂が多く付着する。

図示した以外の陶磁器は、肥前系磁器碗細片2点、瓦質土器培縁細片1点のみであった。従つて、遺物から時期を絞りこめないが、遺構の重複関係から栗橋9期の遺構と考えられる。

#### 第15号溝跡（第148～151図）

第15～24号溝跡は、敷戸の地境として機能したものと考えられる。これらの多くは、側板を有する溝跡と考えられるが、同一箇所で何度も改修された形跡があり、必ずしも一条の溝とは言い難

い場合も多い。

第15号溝跡は、F 7-A 5～7、B 5 グリッドに位置し、第1・2区画（区画Z・AA）間の地境溝である。調査区を東西に横断し、検出長23mである。複数の杭列が遺存しており、特に東側では側壁に沿ってしがらみ状の横棒や、幅の短い板状の木材が遺存していた。第148図C-C'セクションにみると、掘り直し（改修）の痕跡も認められる。

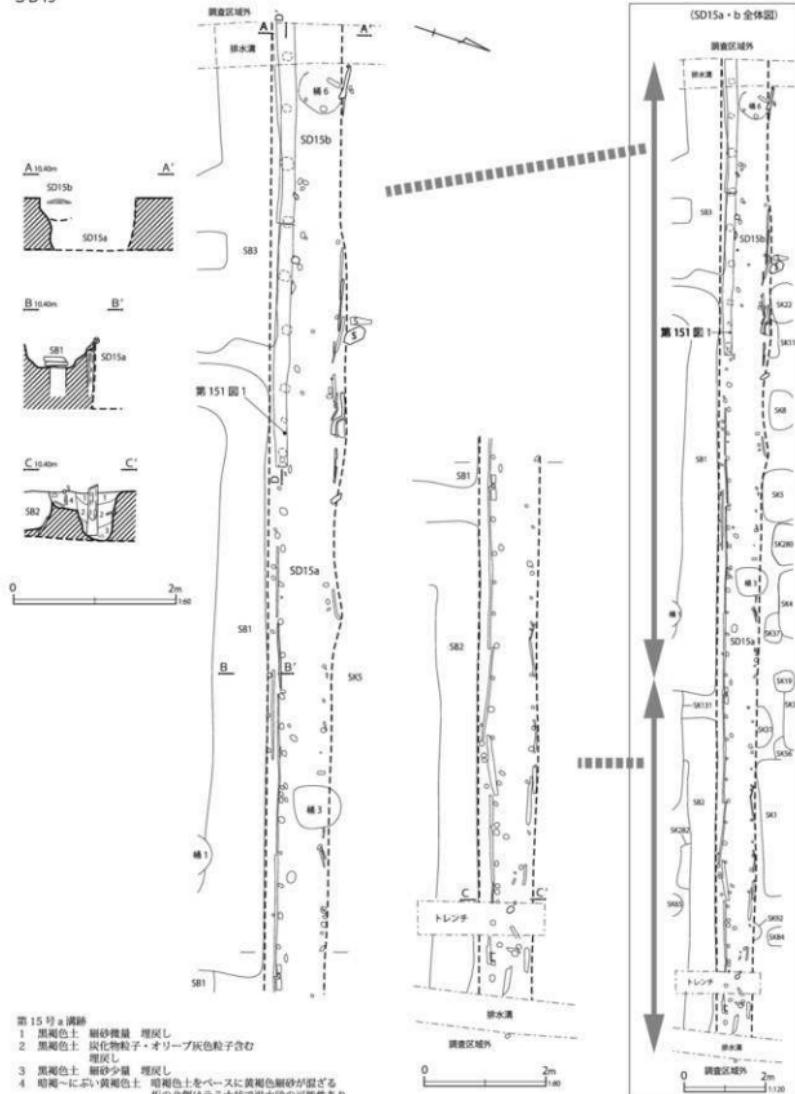
なお、本跡の西側の一部に、下部に捨杭を伴う根太状の遺構が検出されている（第149図）。建物の土台ではないかとも思われるが、対応する基礎が特定できない。また、溝跡を掘り込んで構築されているのか否かも定かではない。本来は基礎状遺構として独立して報告すべきかもしれないが、溝跡に伴う施設の可能性も否定できず、ここでは便宜的に第15b号溝跡として報告する。根太状の木材は、東西に2本直列して検出されている。幅は25～30cmほどである。西側のものは調査区外に統いており全体が把握できないが、現存長3.25mである。東側のものは長さ3.95mである。

第150図に出土した陶磁器を示す。

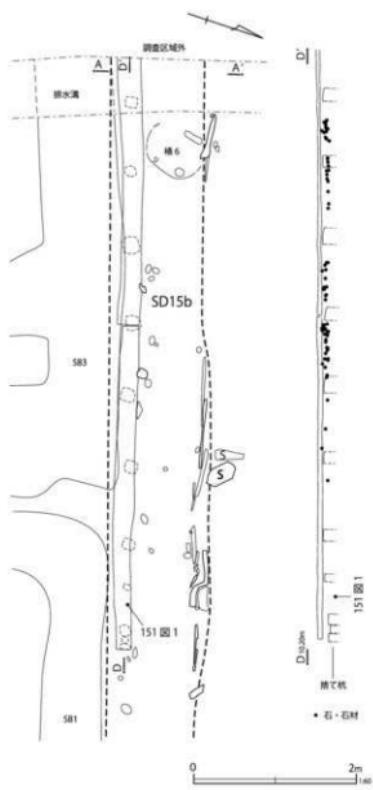
1は瀬戸美濃系磁器の碗で、外面の染付は丸文内に富士山等を描き、周間に梅花文などを散らす。内面口縁部は著しく崩れた四方櫻文、内底面は壽文を染付するものらしい。2は肥前系磁器の薄手半球形碗で、外面に草花文、内面口縁部に角渦文を染付する。3は肥前系磁器の端反碗で、外面に草花文、内底面に唐花らしい花文を染付する。高台内に焼き継ぎ印「八」が確認できる。

4は、肥前系磁器の猪口で、広東碗形を呈するものである。5は瀬戸美濃系磁器の皿で、酸化コバルト染付で墨艺文を描く。

6・7は瀬戸美濃系磁器の爛就利で、6の外面に酸化コバルト染付の團線を確認できる。いずれも底部に墨書きがあり、6は判然としないが、残画



第148図 第15号溝跡(1)



第149図 第15号溝跡（2）

から「紀州屋」と思われる。7は「紀印」である。8は肥前系磁器と思われる紅皿で、外面の蛸唐草文は陽刻状、遺存部は外面まで全面施釉される。

9は京都信楽系陶器の壺で、外面を亀甲状に面取りして、腰部に刻みを入れるものである。胎土は磁質で焼き締まる。10は萩焼の壺で、外面にピラ掛けを施す。11は京都信楽系陶器のカンテラである。高台内・腰部は回転ケズリ痕が残る。

釉薬は黄色味が強く細かい貫入がある。注口状の端部に煤が付着する。12は土瓶蓋で、外面には、トビガンナ状施文の後に光沢の強い黄土色の鉄釉が施される。つまみのほうから、うのふ釉状の青白い釉が流れ込む。

13は瀬戸美濃系磁器の土瓶の底部で、酸化コバルト染付が施される。底部に墨書「く□」がある。

遺構の性格上、遺物の一括性は無いものと考えられるが、磁器では瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗が多い。酸化コバルト染付のものは少量で、型紙模絵染付の爛徳利が1点含まれている。全体的には栗橋8期頃の遺物が多い。

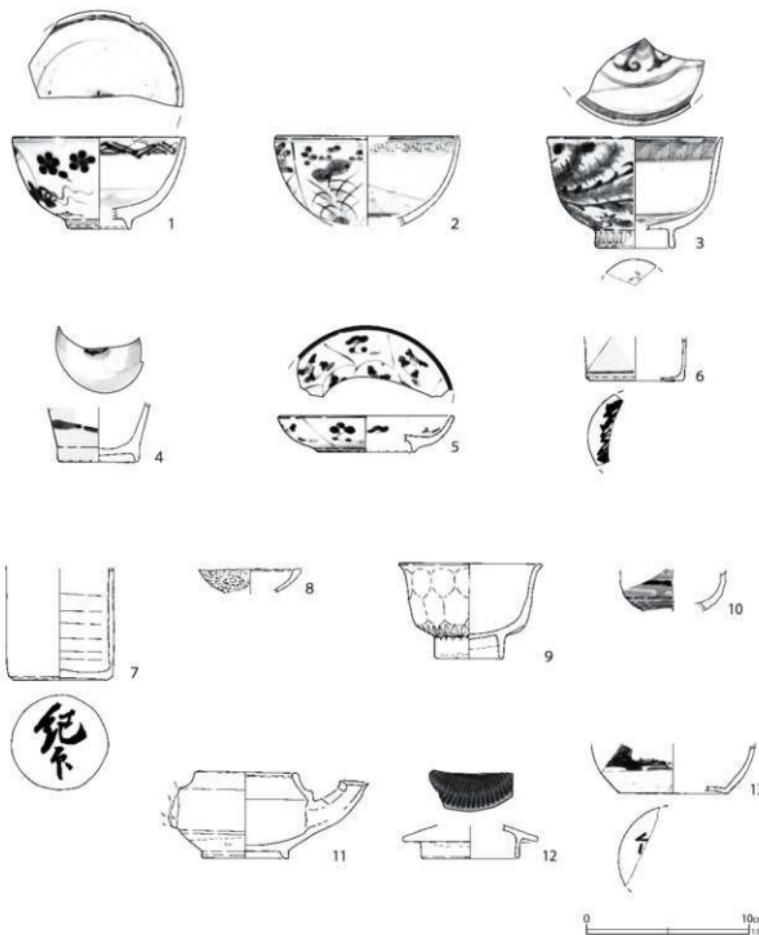
第151図1は施釉土器の釜で、ミニチュアと思われる。内面と外面上位のみ、薄く透明釉が施釉される。江戸在地系土器である。2は土製品の猫の人形で、前後合せ型成形である。3は鉄製品の火格子で、格子は方形である。

#### 第16号溝跡（第152・153図）

E 7-J 6, F 7-A 5・6グリッド、第2・3区画（区画Y・Z）の地境である。調査区を東西に横断し、検出長19.0mである。複数の杭列が遺存しており、東側では側壁に沿ってしがらみ状の横棒が遺存していた状況は、第15号溝跡と共に通項が多い。ただし、全体的に杭や構築材の遺存は第15号溝跡ほど良好ではない。なお、第4号溝跡の項で記載したとおり、本跡の北側に並行して第3号竹樋が埋設されているが、両者の関連性について不詳である。

検出遺物も他の地境溝と比較して少ない状況である。第152図に出土した陶磁器を示した。

1は肥前系磁器の壺で、半球形のものと外面に赤で色絵が施される。2は瓦質土器の蓋であるが、ほぼ酸化炎焼成である。断面中心は黒く黄灰色～褐灰色を呈する。胎土には微細な雲母を含んでいる。上面は砂目を一部ナデ消しているようだが、剥落が激しく詳細を観察し難い。外面上位は



第150図 第15号溝跡出土遺物（1）

ケズリ、他は回転ナデだが、内面頂部の中心に近い部分は平滑にナデられる。

陶磁器に関しては、全体的に18世紀後半～19世紀前半までのものが主である。磁器に、型紙摺絵染付の鉢類、銅版転写染付の急須蓋が各1片み

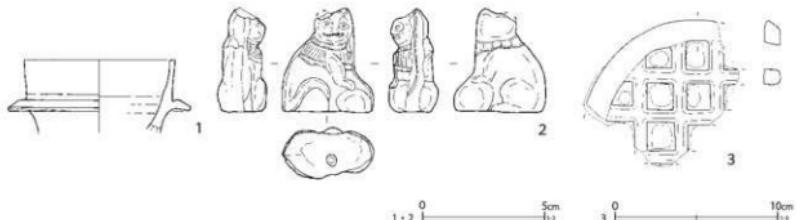
られるが、総体的には栗橋7・8期の遺物が主体のように思われる。

#### 第17号溝跡（第154～156図）

E 7-I 7、J 5～7グリッド、第3・4区画（区画X・Y）の地境溝である。調査区を東西に

第80表 第15号溝跡出土遺物観察表(1)(第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	図版
1	磁器	瓶	(10.4)	5.6	(3.7)	-	40	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
2	磁器	瓶	(11.0)	[5.5]	-	-	10	普通	白	SD15	肥前系 内外面施釉・染付 口縁部のみ被熱	
3	磁器	瓶	(10.6)	6.8	(4.6)	-	25	良好	白	SD15	肥前系 内外面施釉・染付 焼き繕ぎ痕・焼き緋印「人」(白) (瀬戸反碗)	
4	磁器	猪口	-	[3.4]	(4.6)	-	15	普通	白	SD15	肥前系 内外面施釉・染付	
5	磁器	皿	(10.5)	2.2	(5.8)	-	10	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
6	磁器	燐德利	-	[2.6]	(5.6)	-	5	普通	白	SD15	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 底部墨書「紀州屋カ」第242表3	79-2
7	磁器	燐德利	-	[6.9]	5.7	-	35	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 外面施釉 底部墨書「紀印」	79-3
8	磁器	紅皿	(6.3)	[1.4]	-	-	40	良好	白	SD15	肥前系か 型成形 内外面施釉 外面型押施文	79-4
9	陶器	坪	(8.4)	5.8	3.9	-	75	普通	灰白	SD15	京都信楽系 内外面透明釉 外面施文 脱土留置	79-5
10	陶器	坪	-	[2.5]	-	I	10	普通	灰白	SD15	萩 外面ビラ掛け	
11	陶器	カンテラ	5.7	5.3	5.2	DHK	95	普通	灰白	SD15	京都信楽系 内外面施釉	79-6
12	陶器	蓋	-	[2.0]	(5.8)	I	10	普通	灰白	SD15	大堀相馬系か 上面トピガナ状施文・鉄輪、上部一筋のふ軸状に発色 最大径 (8.2) 第242表4	79-7
13	磁器	土瓶	-	[3.0]	(6.6)	-	10	良好	白	SD15	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書「く□」	



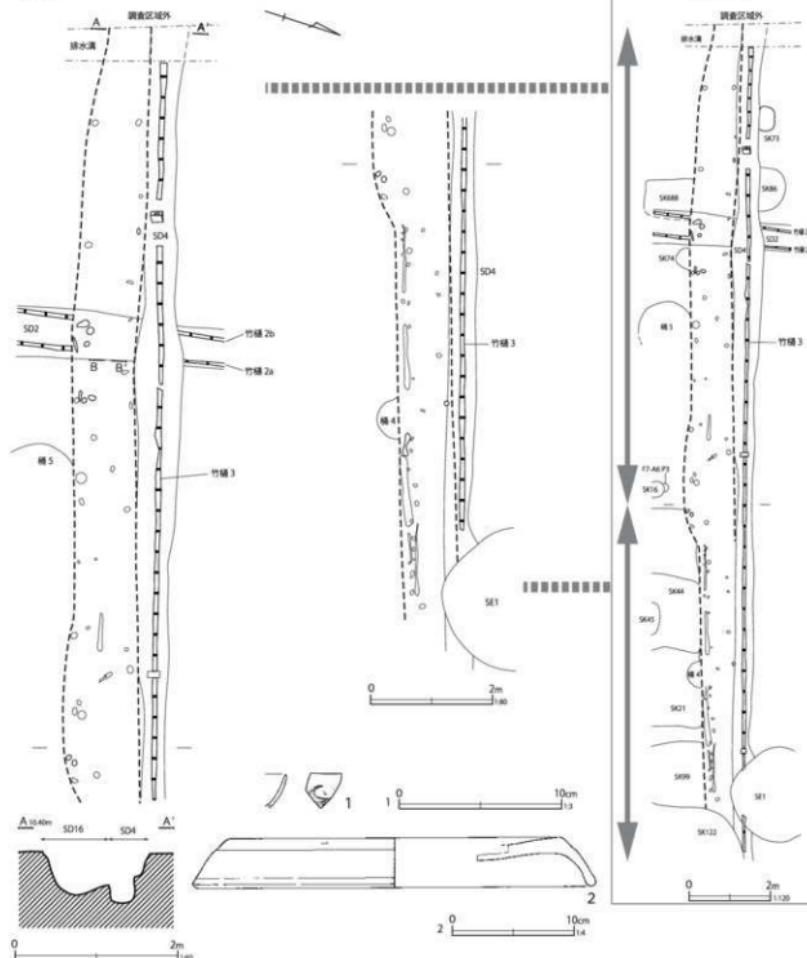
第151図 第15号溝跡出土遺物(2)

第81表 第15号溝跡出土遺物観察表(2)(第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	図版
1	施釉土器	ミニチュア	(6.0)	[3.0]	-	AII	30	普通	橙	SD15	江戸在地系 外面施釉 通	
2	土製品	人形	3.8/4.3	-	1.5	22.5	A HK	良好	橙	SD15	鶴 左右合二枚型成形 中実	242-6
3	鉄製品	火格子	縦 [8.8] 横 [9.9] 厚さ 1.0 重さ 192.4	法量	-	-	-	-	-	造構	備考	図版

横断し、検出長23.7mである。複数の杭列が遺存している。西側では、南壁に沿って、棒状の木材が数本並行して残っている状態で、その北側には杭が並んでいる。東側も、棒状の木材が壁に沿って遺存しており、やはり外側(北側)には杭が打ち込まれているが、西半部と異なって本数は一本である(第154図A-A'セクション参照)。

このような側壁に沿って、しがらみ状の横棒が遺存している状況は、栗橋宿跡の地境では度々みられる構造である。しかし、しがらみと異なつて、棒状木材は上部のみで垂直方向に連続する様子はない。溝の上端に棒状の木材を、浅く埋め込むように設置してあるものらしいが、詳細な機能は不明である。本跡や第15号溝跡では建物跡の



第152図 第16号溝跡・出土遺物(1)

第82表 第16号溝跡出土遺物観察表(1)(第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	壺	-	[2.0]	-	-	5	普通	白	SD16	肥前系 内外面施釉 外面赤絵	
2	瓦質土器	蓋	(27.0)	4.0	(32.0)	A	10	普通	橙・褐灰	SD16	上面砂目、一部ナゲ消し やや酸化焼成 内面煤付着	

横にこの構造がよく残っているので、建造物との関連で構の側壁を補強するものかもしれない。

第155図は出土した陶磁器類である。

1は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、小型で环に近い形態のものである。外面に龍文・内面口縁部に変形の四方擗文が染付される。呉須は鮮やかな青だが、酸化コバルト染付ではないようである。2は肥前系磁器の端反碗で、外面と内底面に蛸唐草文、内面口縁部に四方擗文を染付する。3は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、色絵が施される。外面は赤で区画し、濃淡のある緑色絵具で松竹梅文を描くものらしい。4は肥前系磁器の猪口で広東碗形のものである。外面に鶴や若杉文を染付しているらしい。5は瀬戸美濃系磁器の环で、体部が丸い卵殻手酒杯と思われる。外面高台部に櫛齒波状文を染付、内面上に上絵付けで美人画を描く。高台内は製作時に、陽刻状に象って女性器を模す。赤・黒で彩色が加えられる。6・7は肥前系磁器の合子で、6は体部が丸いもの、外面の染付は圓線のように濃み塗りして同心円状の横帶とする。7は低い円筒形のもので、小型である。いずれも露胎部を中心に煤の付着が認められる。8は瀬戸美濃系磁器の土瓶で、型成形である。外面に貼付

文のように唐子を施し、その上から染付を施す。

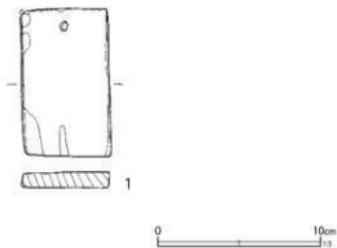
9は陶器の秉燭で、茶色味を帯びる鉄釉が施釉されるが、大部分が白濁している。底部は糸切痕を残し墨書がみられるが、窯内の付着物も多い。胎土は極めて硬質で緻密である。10は瀬戸美濃系陶器の水注で、薄手である。黄色味の強い灰釉は細かい貫入が多い。口縁部から把手の付け根付近にかけて、一部綠釉を流し掛け状に施釉する。11は陶器の土瓶のようだが、内面も均等に施釉されており、他の器種の可能性もある。器壁は薄手、灰釉は深緑色に発色するが、下部の釉溜りなどは青白く海鼠釉状である。外面露胎部はケズリ、底部はケズリ痕をナデ消している。12は陶器土瓶の蓋で、練り込み手である。

13は、土師質土器の瓦燈の上部破片である。細かい雲母を多く含むが、僅かに角閃石も含む。江戸在地系土器である。14は陶器の涼炉で白色土器質である。京都系のものである。15は瓦質土器の焙烙である。口縁部はやや丸みを帯びた角頭形、体部外面下位は全面にシワ状痕が残り無調整である。体部下端は尖る。内耳の底部との接地面も、一部が体部に及び、古手の様相を示す。胎土に角閃石を多く含む。

本跡からの陶磁器の出土量は多いが、遺構の性格上、一括性は乏しい物と思われる。それでも、全体的に目立つのは瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗などで、酸化コバルト染付の磁器などは少量に留まる。概ね栗橋7・8期の陶磁器類が主体となる様相は、他の地壇跡と共通する点である。

第156図には、土製品・瓦・金属製品・石製品を図示する。

1・2は、土製品で、泥面子の面打である。2は赤化しており、被熱したものとみられる。文様

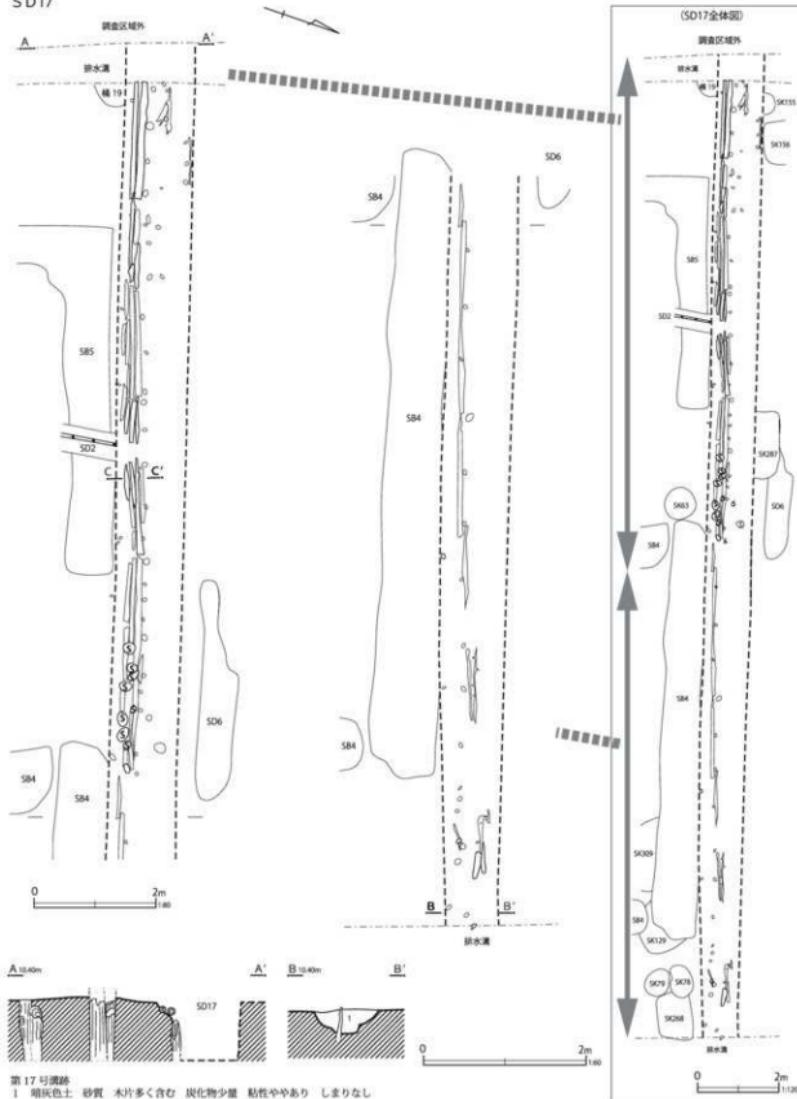


第153図 第16号溝跡出土遺物(2)

第83表 第16号溝跡出土遺物観察表(2)(第153図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	木札	9.0	5.4	0.9	-	-	-	板目	SD16	表裏面墨書き	241表6 296-1

SD17



第17号調査  
1 噴灰色土 砂質 木片多く含む 壩化物少量 黏性ややあり しまりなし

第154図 第17号溝跡



第155図 第17号溝跡出土遺物（1）

第84表 第17号溝跡出土遺物観察表(1)(第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考		国版
1	磁器	碗	6.3	5.0	3.3	-	80	良好	白	SD17	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)		
2	磁器	碗	(10.8)	5.6	(4.4)	-	30	普通	白	SD17	肥前系 内外面施釉・染付 (端反碗)		
3	磁器	碗	(9.6)	5.0	3.8	-	50	良好	白	SD17	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵 (赤・緑・黄・黒) (觸反碗)	80-1	
4	磁器	猪口	(7.8)	5.6	(5.4)	-	20	普通	白	SD17	肥前系 内外面施釉 染付		
5	磁器	杯	-	[1.3]	2.4	-	50	普通	白	SD17	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵 (黒・赤・金・緑・黄) 外面染付 (押款手酒杯)	80-2	
6	磁器	合子	4.2	2.7	2.2	-	95	良好	白	SD17	肥前系 内外面施釉 外面染付 煙付着	80-3	
7	磁器	合子	2.1	1.0	2.2	-	95	良好	白	SD17	肥前系 内外面施釉 少量煤付着		
8	磁器	土瓶	-	[4.4]	5.9	-	20	良好	白	SD17	瀬戸美濃系 型成形 施釉・施文・染付	80-4	
9	陶器	秉燭	-	[4.0]	4.4	K	55	良好	灰白	SD17	底部系切痕 (右)・墨書 内外面鉄軸	80-5	
10	陶器	水注	(7.4)	10.2	(7.3)	K	80	良好	灰白	SD17	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面一部絞釉流し掛け	80-6	
11	陶器	土瓶か	-	[4.8]	6.2	DHK	25	良好	灰白	SD17	内外面灰釉 (一部海鼠軸状に発色)	80-7	
12	陶器	蓋	-	2.7	(4.6)	K	45	普通	灰白	SD17	上面施釉 胎土練り込み手 最大径 (6.2) cm	80-8	
13	土質土器	瓦榎	(9.0)	[3.1]	-	AHK	5	普通	にぶい橙	SD17	江戸在地系 胎土粉質		
14	陶器	瓦榎	-	[4.4]	-	AHK	5	普通	淡黄褐	SD17	京窯系 白色土器質 中間部分		
15	瓦質土器	焙烙	(37.9)	5.2	(35.0)	CHI	15	普通	灰白	SD17	底部シワ状痕 燻す		

は不明鮮である。1もやや赤味が強く、被熱の可能性がある。

3は軒桟瓦である。唐草文はかなり簡略化されている。4は薄い銅製品である。孔が四箇所認められる。5は寛永通寶である。

6～8は石製品である。6はホルンフェルス製で、破損した置き石である。表面に深い傷状の刃ならし痕を有する、あるいは切断・再加工を意図した痕跡の可能性もある。同質の置石は、鍛冶行為に関連する第141・145号土壌に再加工されたものが認められ、本資料も同様の製品であろう。

7・8は硯である。7は黄褐色で不規則な模様の入る流紋岩製のものである。8は粘板岩製である。表側の周囲を全て欠失しており、意図的な破損・再加工の可能性もある。

#### 第18号溝跡(第157・158図)

E 7-I 5・6、J 4・5グリッドに位置する。第4・5区画(区画W・X)の地境溝である。調査区を東西に横断し、検出長23.5mである。南壁側を中心に杭列が遺存しているが、やや散漫であり、その様子は第16号溝跡に似てい

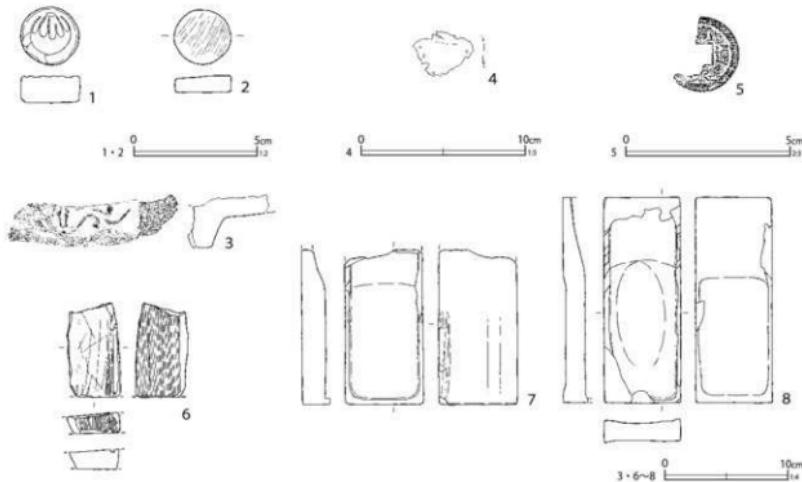
る。

調査区中央付近の南壁沿いに棒状の木材が壁に沿って遺存している。

第158図に出土した陶磁器を示した。

1は肥前系磁器の小丸碗で、外面に宝文、内底面に火焰宝珠文を染付する。2は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外面はしのぎ状に面取りされ、線描きで山水文を染付する。内面口縁部には角渦文を染付する。3は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿で、やや小型のものである。柿釉は光沢が少しにぶいが、全体に均等にかけられる。受けは上端の径5.3cmで、半円形の切り込みを有す。外面の底部下位には径5.5cmの重ね焼き痕を有す。底部は離し糸切痕と思われる痕跡が残る。

4は施釉土器質の土瓶である。厚手で内面のクロ口目が強い。釉葉は鉄釉だが、施釉が薄い部分はやや赤紫色味を帯びる。外面上位は横方向の指ナデ、下位はケズリで処理する。胎土は橙色で微細な雲母を一定量含む。5は常滑焼の甕で、中世の所産である。6は極小の紅杯で、肥前系磁器と思われる。陶磁器類の出土量は多くは無かった。図示した以外に銅版転写染付の磁器皿片が1片が



第156図 第17号溝跡出土遺物(2)

第85表 第17号溝跡出土遺物観察表(2)(第156図)

番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	重さ	胎土	焼成/色調	遺構	備考	図版
1	土製品	泥面子	径2.4	-	0.75	4.2	A HK	良好/棕	SD17	江戸戸在地系 一枚型成形 雲母付着	242-8
2	土製品	泥面子	径2.3	-	0.6	6.7	A K	良好/棕	SD17	一枚型成形 文様模識(両面) 被然・赤化・微細な付着物	242-7
3	瓦	軒桟瓦	[9.8]	[14.5]	-	-	AEHHK	良好	SD17		
番号	種別	器種	法量					遺構	備考	図版	
4	銅製品	不明	縦[2.8]	横[3.8]	厚さ0.05	重さ0.9		SD17	小孔4あり		
5	銅製品	錢貨	径23.1	厚さ1.0	重さ1.5			SD17	寛永通寶(新) 1/3欠損		
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版	
6	石製品	砥石	7.6	4.3	1.7	99.0	ホルンフェルス	SD17	側面ノコギリ痕 刀物痕 砥面1	280-4	
7	石製品	礎	[12.5]	6.4	-	305.0	流紋岩	SD17	器高2.2cm 裏面に線状痕あり	280-5	
8	石製品	礎	16.6	6.2	-	410.0	粘板岩	SD17	器高2.0cm	280-6	

含まれていた。

全体的には磁器の湯呑形碗や端反碗がやや多く、栗橋7・8期の様相を示している。

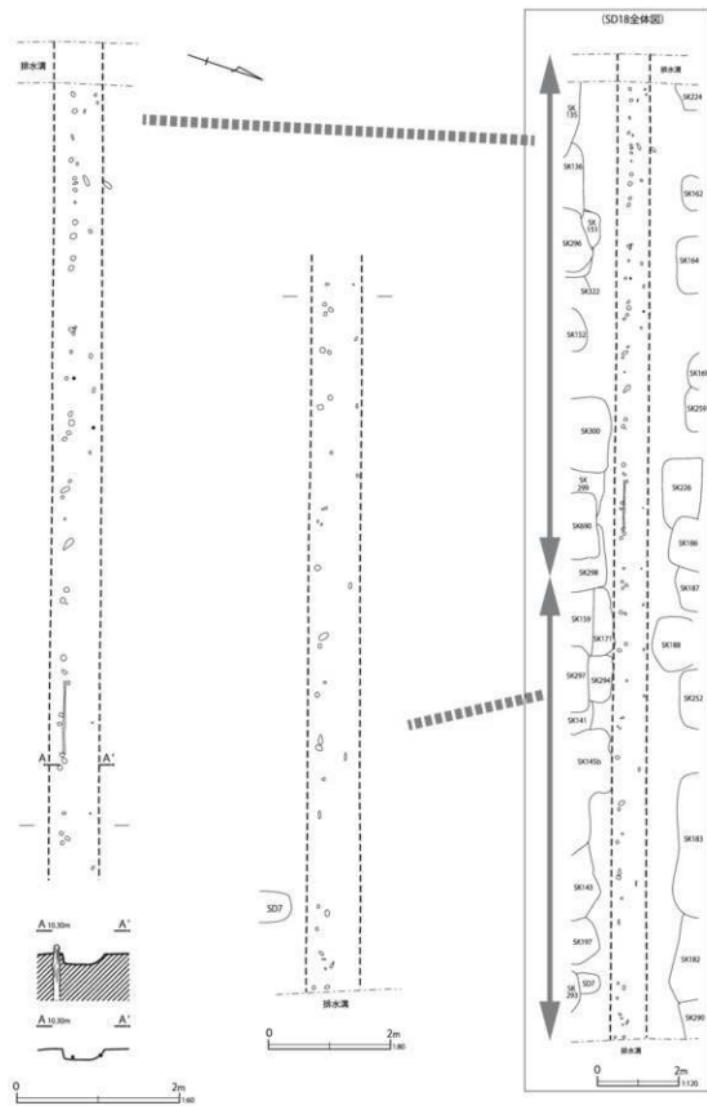
#### 第19号溝跡(第159~166図)

E 7-H 6、I 4・5グリッドに位置する。第5・6区画(区画V・W)の地境溝である。調査区を東西に横断し、検出長23.0mである。

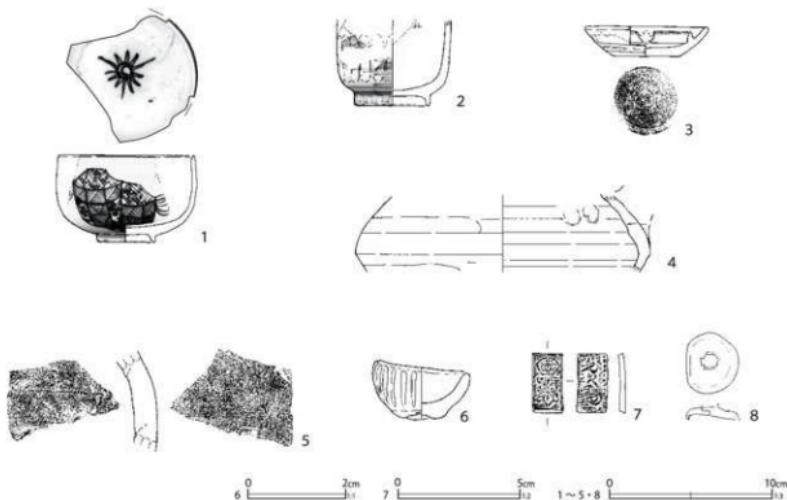
全体に杭が遺存する。また、西側を中心に側壁に沿ったしがらみ状の横棒や、幅の短い板状の木

材が遺存していた。杭や横棒・板材の遺存状況がもっとも良い地境溝である。

本跡では、多くの埋設桶が溝と重複して検出されている点が注意される。個々の埋設桶の概要は、埋設桶の項に記載したとおりであり、西から第21・11・23・22・12・47・20号埋設桶が溝の中に所在する。調査に際して、溝跡との有機的な関係を捉えるには至らなかったが、状況から溝跡に伴う蓋然性は高く、沈殿槽のような機能を有し



第157図 第18号溝跡



第158図 第18号溝跡出土遺物

第86表 第18号溝跡出土遺物観察表(第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	道構	備考	
1	磁器	碗	(8.2)	5.3	3.3	-	40	普通	白	SD18	肥前系 内外面施釉・染付 (小丸碗)	
2	磁器	碗	-	[5.2]	4.3	-	40	普通	白	SD18	南戸美濃系 内外面施釉・染付 (湯呑形碗)	
3	陶器	灯明皿	7.4	1.8	3.8	I	95	普通	灰	SD18	瀬戸美濃系 底部離系切痕か 内外面柿袖・外面下位拭き取り 直重ね焼き瓶	
4	陶器	土瓶	-	[4.7]	-	AII	5	普通	橙	SD18	施釉土器類 内外面鉄釉	
5	陶器	甕	-	[6.1]	-	DEI	5	良好	にぶい黄緑	SD18	常滑 内外面ヨコナダ 中世	
6	磁器	环	1.9	1.2	0.7	-	95	良好	白	SD18	紅环 肥前系 内外面施釉 外面しのぎ状施文	
7	土製品	鐵貨 模造品	縦2.4 横1.3	-	A	-	普通	橙	SD18	江戸在地系 型成形 両面陽刻 雲母光沢 あり 厚さ0.2 重さ1.2	242-9	
番号	種別	器種	法量					道構	備考		図版	
8	銅製品	釘頭	径3.8×3.3 厚さ0.05 重さ3.8					SD18	釘頭部分欠損			

た可能性が考えられる。その場合、第19号溝跡は排水の機能を有していた可能性が考慮される。

なお、東部では第2号井戸跡(栗橋9期)に大きく掘り込まれている。

第160~162図に出土した陶器を示した。

1は肥前系磁器の粗製丸碗で、サイズはやや大きい。外面に丸文等を染付する。2は肥前系磁器の筒形碗で、外面に青磁釉を施すものである。内

面口縁部に四方棒文、底部に五弁花文を染付するが、いずれも著しく崩れていて発色が悪い。厚手で粗製である。3も肥前系磁器の筒形碗だが、外面を柿袖に近い色調の鉄釉で単彩とする。内面口縁部に二重圓線、底体部間に圓線を染付する。4は肥前系磁器の筒形碗で、小型のものである。外面に草花文・蝶文等を染付する。外面に煤の付着が多く、被熱しているらしい。5は肥前系磁器の

広東碗で、外面に蝙蝠文等を、内面は底部の圓線内に壽文を染付する。焼き継ぎ痕がみられ、焼き継ぎ印は赤で「八四」とみられる。6は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、外面に花文などを色絵で描く。7も瀬戸美濃系磁器の端反碗で、やや厚手のものである。外面口縁部に沿って濃みで塗りつぶし、以下、二重線による鋸歯文内によろけ縞状の文を染付する。内面にも染付が見られる。8は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、木型打込による施文上から、草花文を染付する。9は瀬戸美濃系磁器の酒杯で、口縁部は薄手につくられる。外面に酸化コバルト染付で鋸歯文を染付する。内面は白盛絵付けで富士山を描き、その中に橋と思われる文様などを描く。金字などの上絵付けで「[ ]清酒品評會一等賞」「名酒」「日本橋」「㊣」などと書かれている。行田市の横田酒造（創業文化2年＝1805）の銘酒「日本橋」に関わる酒杯と考えられる。『埼玉県酒造組合史』によれば「創業当時の日本橋は橋の間が欄干に行燈の図柄だったが、明治・大正時代になると石橋となって欄干からガス灯に代わった」という。「㊣」は横田家の家名「横田庄右衛門」による。県酒造組合で開かれた清酒品評会の明治24年（第2回）から大正8年（第27回）までの記録を見ると、横田庄右衛門酒造が一等賞を受賞するのは、明治33年（1900）の第9回、明治38年（1905）の第13回、明治41年（1908）の第16回、明治42年（1909）の第17回の4回である。また、日本醸造協会の品評会の方では、明治40年（1907）の全国聯合清酒品評会で県内唯一の一等賞を受賞している。なお、本資料は後述するように、溝跡に直接伴う遺物では無く、後世の混在である可能性が高い。

10は肥前系磁器の壺で、外面に笹文を染付する。11は肥前系磁器の蓋で、広東碗の蓋である。外面に笹文、内面口縁部に二重圓線、つまみ内と内面中心に岩波文の染付である。

12は肥前系磁器の皿で、大きく腰が張るもの

である。内外面ともに染付が施され、内面は墨書きで文様が染付される。13は、やや平たい形状の瀬戸美濃系磁器蓮華である。内面は花文の周囲に唐草文を染付する。底部は僅み、その部分のみ露胎である。14は肥前系磁器の香炉で、青磁釉が施される。底部には墨書がある。二次穿孔されて植木鉢に転用されている。高台縁部にも二次的に打ち叩いた痕跡がある。

15は瀬戸美濃系陶器の丸碗で、口縁部は強く内湾する。高台はやや幅広く削り出しされる。16～19は灯火具類である。16は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、光沢のある淡い柿釉が施される。受部は低く、幅の広いU字の切り込みを有す。上端径は6.9cmを測る。内底面は、幅広く弱い回転ナデで調整する。外面は釉が拭き取られ、径7.0cmの重ね焼き痕がある。体部下位から底部は回転ケズリ痕だが、底部中心に強く短いナデが施される。17も瀬戸美濃系陶器の灯明皿だが、小型である。やや光沢のある柿釉が、薄く施される。底部の釉を拭き取らず、また、受上端の釉剥ぎも見られない。受部径は径4.3cm、切り込みは逆台形である。18は京都信楽系陶器の灯明皿で、内面に3つのピン痕がある。外面は下位がケズリ、上位が回転ナデ（ロクロナデか）で、両者の境で器面の色調が若干変化する。19は瀬戸美濃系陶器で、高い受けが付く灯火具である。口縁部は釉剥ぎされる。抉り状の高台内に重ね焼き痕（径4.1cm）がみられる。

20は瀬戸美濃系陶器の水滴で、上下の合わせ型成形である。全体に灰釉が掛かるが、上端孔部分に呉須、型押施文部分には鉄釉が施される。21は瀬戸美濃系陶器の香炉で外面に摺絵で崩れの少ない菊文が描かれる。体部下位・腰部はケズリ、高台はナデ調整する。22・23は瀬戸美濃系陶器の花生で、22は光沢の強い茶色味を帶びた鉄釉を全面施釉し、頸部に所々、長石釉を散らす。底部に墨書がある。23は通常の掛け分

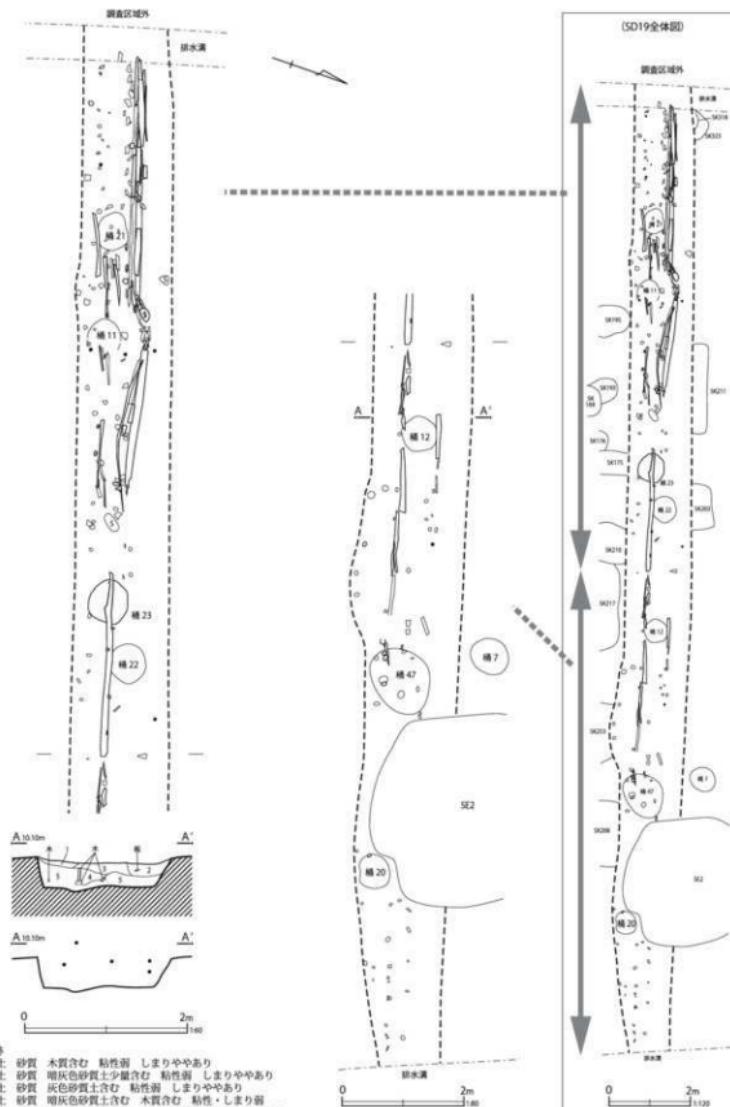
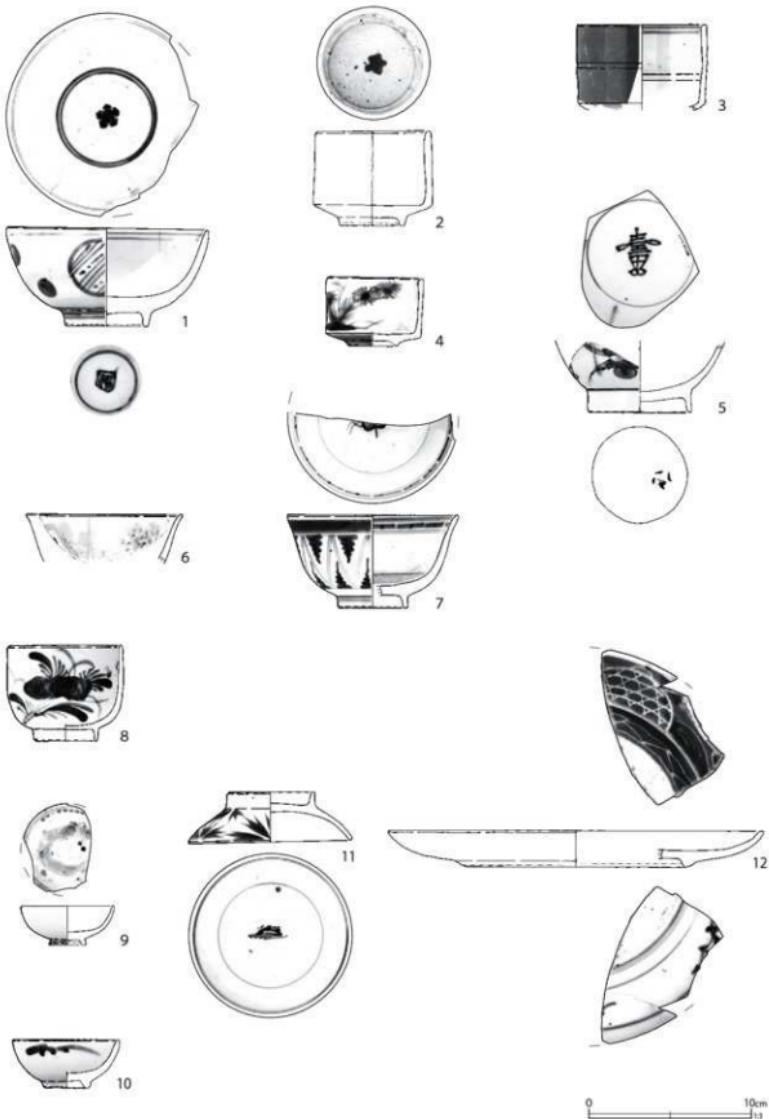


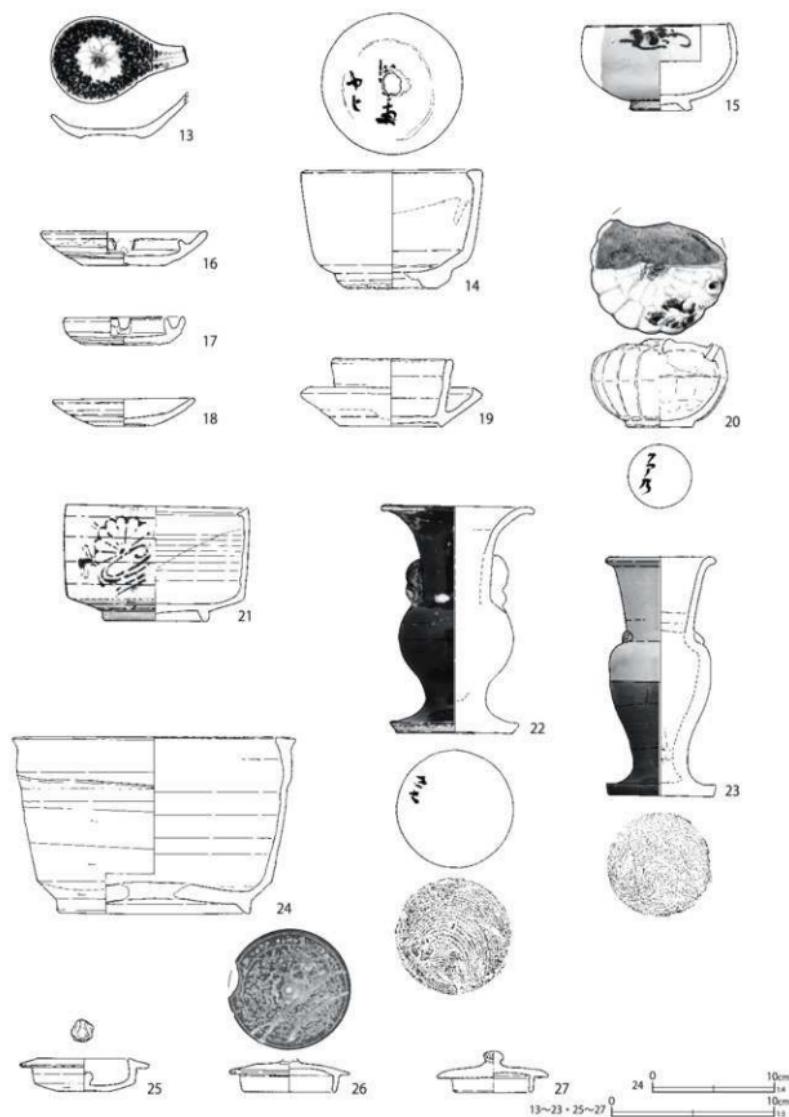
図 19 号溝跡

- 1 期灰色土 砂質 木質含む 黏性弱 しまりややあり
- 2 期灰色土 砂質 灰色砂質土少量含む 黏性強 しまりややあり
- 3 期灰色土 砂質 灰色砂質土多く含む 黏性強 しまりややあり
- 4 期灰色土 砂質 灰色砂質土含む 木質含む 黏性弱 しまりややあり
- 5 期灰色土 砂質 灰色砂質土多量に含む 黏性弱 しまりややあり

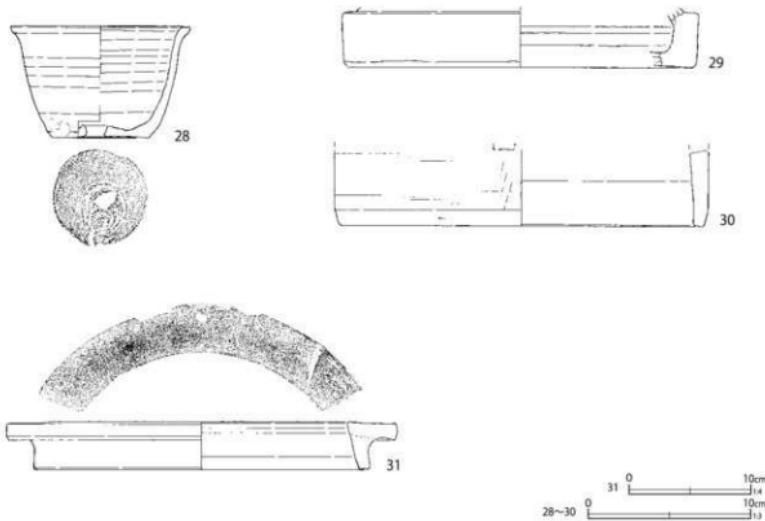
第 159 図 第 19 号溝跡



第160図 第19号溝跡出土遺物（1）



第 161 図 第 19 号溝跡出土遺物（2）

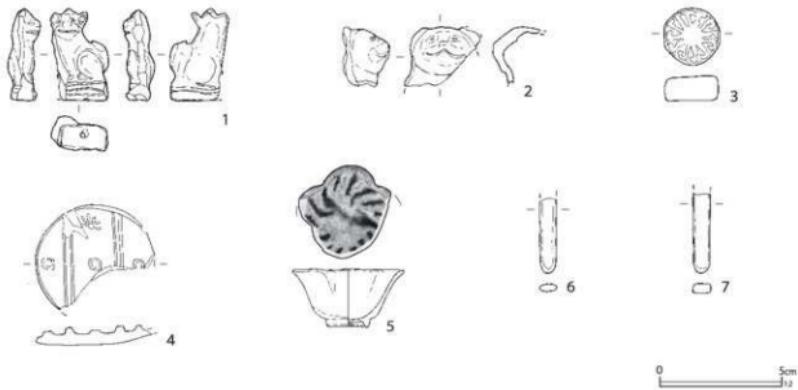


第162図 第19号溝跡出土遺物(3)

第87表 第19号溝跡出土遺物観察表(1)(第160~162図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(12.2)	6.1	4.8	-	70	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	6.7	5.8	2.8	-	100	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉(外面青磁輪) 内面 染付(簡形輪)	
3	磁器	碗	(7.6)	[5.3]	-	-	30	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉(外面鉄輪單彩) 内 面染付(簡形輪)	
4	磁器	碗	5.6	4.2	2.8	-	70	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉 外面染付 少量煤付 着(簡形輪)	
5	磁器	碗	-	[4.3]	6.2	-	25	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉・染付 焼き繕ぎ痕・ 焼き繕ぎ印(赤)(広東碗)	
6	磁器	碗	(9.4)	[2.9]	-	-	5	普通	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面赤絵(赤・ 茶・緑・桃)(端反碗)	80-9
7	磁器	碗	(10.2)	5.7	(4.0)	-	45	普通	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
8	磁器	碗	6.7	5.9	(3.7)	-	95	普通	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面木型打込施 文・染付(湯呑形碗)	
9	磁器	壺	(5.6)	2.4	2.2	-	60	良好	白	SD19	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絞付(赤・ 金・白盛) 外面酸化コバルト染付	
10	磁器	壺	6.4	3.0	2.6	-	100	普通	白	SD19	肥前系 内外面施釉 外面染付	
11	磁器	蓋	5.1	3.1	9.9	-	100	良好	白	SD19	肥前系 内外面施釉・染付(廣東輪の蓋)	
12	磁器	皿	(22.6)	2.2	(13.4)	-	5	良好	白	SD19	肥前系 内外面施釉・染付	
13	磁器	蓮華	-	[2.9]	-	-	85	良好	白	SD19	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面染 付 長さ[8.4]cm 幅[2.9]cm	81-1
14	磁器	香炉	(10.0)	7.3	5.5	-	85	普通	灰白	SD19	肥前系 内外面青磁輪 内底面重ね焼き 痕・墨書・二次穿孔(植木鉢転用) 高台 端部二次敲打痕	81-2
15	陶器	碗	8.5	5.2	3.1	IK	95	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面铁绘	
16	陶器	灯明皿	9.8	2.1	5.0	HI	100	良好	灰	SD19	瀬戸美濃系 内外面柿輪・外面下位拭き取 り 直重ね焼き痕	
17	陶器	灯明皿	7.2	1.7	4.6	IK	95	良好	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面柿輪	

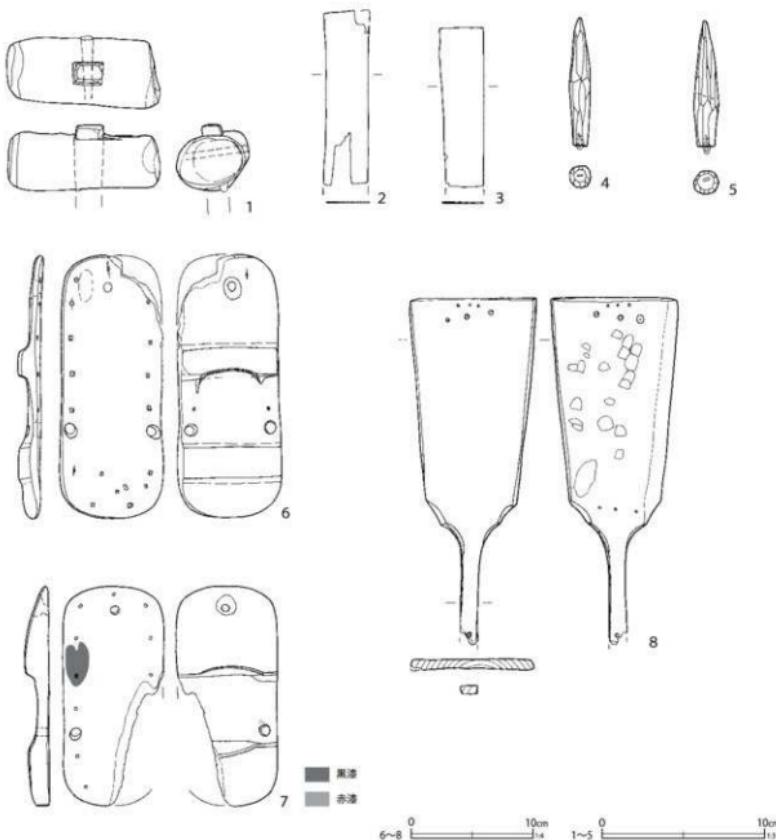
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
18	陶器	灯明皿	8.5	1.7	3.5	EI	100	普通	灰白	SD19	京都信楽系 内外面透明釉 内面ピンボ 3 外面部上位少量の煤付着	
19	陶器	灯火具	7.1	4.1	6.2	EK	70	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 口縁部釉剥ぎ 高台内底重ね焼き痕	
20	陶器	水滴	(1.0)	5.4	3.9	HK	70	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 型成形（上下合わせ）外面 灰釉・押抜施文、一部長縫・鉄袖加える 底部墨書き	81-3
21	陶器	香炉	11.1	7.1	6.2	I	90	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面模繪	
22	陶器	花生	8.5	14.0	7.1	EI	95	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 底部糸切痕（右）内外面鐵 釉・長石釉を散らす 底部墨書き	81-4
23	陶器	花生	(6.2)	14.7	6.5	EI	90	普通	灰白	SD19	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面下位鉄釉掛 け分け	
24	陶器	半卵甌	(15.5)	10.9	11.5	DGIE	60	普通	淡黄	SD19	瀬戸美濃系 内外面柿釉 口縁部上端に目 跡 底部二次穿孔（楕木鉢転用）	
25	陶器	蓋	8.0	2.0	3.2	IK	95	良好	灰白	SD19	上面灰釉	
26	陶器	蓋	-	[2.0]	5.6	I	90	良好	灰	SD19	上面精耕 イッキン繪付か 最大径 7.3 cm	81-5
27	陶器	蓋	-	2.5	(4.6)	K	90	普通	白	SD19	大型粗馬糞か 上面糠白釉（質入多い） 最大径 6.8 cm	81-6
28	土師質土器	楕木鉢	(10.9)	6.8	5.9	AH	30	普通	にぶい橙	SD19	江戸在地系 底部糸切痕（左）・穿孔 胎 土粉質	
29	土師質土器	瓦燈	-	[3.6]	(21.2)	AEH	5	普通	浅黄褐	SD19	江戸在地系 シワ状痕 胎土粉質	
30	土師質土器	瓦燈	-	[4.7]	(22.2)	AI	10	普通	にぶい橙	SD19	江戸在地系 胎土粉質	
31	瓦質土器	蓮瓣	(24.0)	3.9	27.4	CI	35	普通	灰白	SD19	煤付着 最大径 (32.1)	



第 163 図 第 19 号溝跡出土遺物 (4)

第 88 表 第 19 号溝跡出土遺物觀察表 (2) (第 163 図)

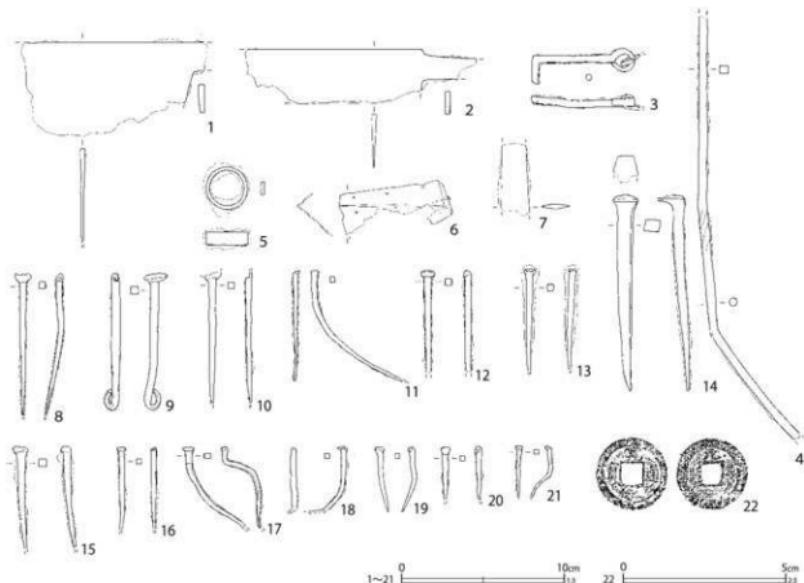
番号	種別	器種	幅	長さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	人形	2.4/-	3.8	1.4	7.3	A K	良好	にぶい橙	SD19	江戸在地系 狗大 左右合二枚型成形 中実 雲母付着	242-10
2	土製品	人形	3.2/2.5	-	2.0	4.9	A H K	良好	橙	SD19	猫 二枚型成形 中空	242-11
3	土製品	泥面子	2.3/2.2	-	1.0	6.5	A H K	良好	橙	SD19	江戸在地系 一枚型成形	242-12
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
4	土師質土器	ミニチュア	径 4.9	0.7	-	8.1	A H K	良好	橙	SD19	江戸在地系 蓋 型成形 胎土粉質	242-13
5	施釉土器	ミニチュア	(4.5)	2.4	1.5	9.8	I K	良好	灰白	SD19	京都市 脚 型成形 外面縦縞 内面 施釉・緑釉流し掛け	242-14
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版			
6	硝子製品	筈	[3.1]	-	0.7	0.4	2.2	SD19	透明 中実		284-6	
7	硝子製品	筈	[3.3]	-	0.7	0.4	3.3	SD19	透明 中実 被熱		284-6	



第164図 第19号溝跡出土遺物(5)

第89表 第19号溝跡出土遺物観察表(3)(第164図)

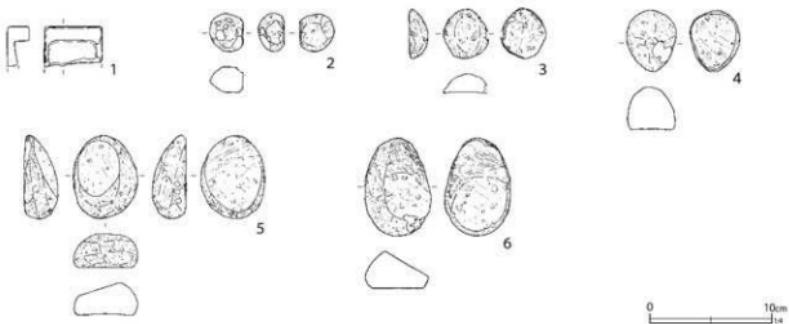
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	木柄	範打部3.6×9.3×4.1 柄部[4.1]×1.7×1.2						分割材	SD19	柄は鉄釘で固定	
2	木製品	絆木	[10.7]	2.8	0.05	-	-	-	柵目	SD19	墨書き 第241表7	296-2
3	木製品	絆木	[9.75]	2.7	0.05	-	-	-	柵目	SD19	墨書き 第241表8	296-3
4	木製品	浮子	8.0	1.3	1.3	-	-	-	削出し	SD19	赤色塗料 金属付 加工痕明瞭	
5	木製品	浮子	8.1	1.5	1.4	-	-	-	削出し	SD19	赤色塗料 金属付 加工痕明瞭	
6	木製品	下駄	21.5	8.6	-	-	1.8	-	板目	SD19	削り下駄 外周鉄釘14 木釘4	
7	木製品	下駄	17.9	8.3	-	-	1.9	-	板目	SD19	削り下駄 外周鉄釘(残4) 黒漆 赤	
8	木製品	羽子板	[28.5]	10.4	0.8	-	-	-	板目	SD19	身上下木釘孔 木釘残 柄孔1 裏面打痕か	



第165図 第19号溝跡出土遺物(6)

第90表 第19号溝跡出土遺物観察表(4)(第165図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	包丁か	長さ [11.4] 幅 [5.8] 厚さ 0.4 重さ 43.0	SD19		
2	鉄製品	包丁	長さ [14.3] 刃長 [10.8] 刃幅 3.3 背幅 0.3 重さ 34.0	SD19		
3	鉄製品	掛金	長さ [6.3] 厚さ 0.4 重さ 7.5	SD19		
4	鉄製品	火箸	長さ [25.7] 厚さ 0.5 重さ 39.9	SD19	著頭欠失 持ち代丸棒 捩り以下角棒	
5	鉄製品	環金具	径 2.6 幅 0.8 厚さ 0.2 重さ 6.4	SD19		
6	銅製品	飾金具	縦 [3.4] 横 [7.0] 厚さ 0.06 重さ 3.9	SD19	小孔(釘孔)あり 釘1枚 存 據か	
7	鉄製品	不明	長さ [4.4] 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 7.6	SD19		
8	鉄製品	釘	長さ [8.8] 幅 0.8 厚さ 0.4 重さ 4.8	SD19		
9	鉄製品	釘	長さ [8.4] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 10.7	SD19		
10	鉄製品	釘	長さ [8.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 4.5	SD19		
11	鉄製品	釘	長さ [6.8] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 4.3	SD19		
12	鉄製品	釘	長さ [6.3] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.2	SD19		
13	鉄製品	釘	長さ [6.2] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.8	SD19	E7-I4Gr	
14	鉄製品	釘	長さ 12.0 幅 0.9 厚さ 0.7 重さ 27.2	SD19		
15	鉄製品	釘	長さ [6.3] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 4.0	SD19		
16	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.2	SD19		
17	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 4.0	SD19		
18	鉄製品	釘	長さ [4.1] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.2	SD19		
19	鉄製品	釘	長さ 4.0 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.4	SD19		
20	鉄製品	釘	長さ [3.3] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.0	SD19		
21	鉄製品	釘	長さ [3.1] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 0.8	SD19		
22	銅製品	錢貨	径 22.7 厚さ 1.3 重さ 2.0	SD19	寛永通寶(新)背元	



第166図 第19号溝跡出土遺物(7)

第91表 第19号溝跡出土遺物観察表(5)(第166図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	礫	[3, 3]	4.7	-	31.0	凝灰岩	SD19	器高1.8cm 表裏面全体黒化	284-1
2	石製品	磨石	3.1	2.8	2.1	9.5	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面3	284-1
3	石製品	磨石	4.0	3.7	1.6	10.6	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面2 線状痕あり	284-1
4	石製品	磨石	5.0	4.1	3.5	36.5	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1
5	石製品	磨石	6.8	5.2	2.8	49.0	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面5	284-1
6	石製品	磨石	8.0	5.4	3.0	64.2	角閃石安山岩	SD19	多孔質 自然面遺存 使用面4 線状痕を磨り消し・煤付着	284-1

けの花生だが、鉄軸の色調が淡く黄色味を帯びる。24は瀬戸美濃系陶器の半胴甕で、やや背が低い。口縁部には目跡がある。底部を二次穿孔して植木鉢に転用する。25・26・27は陶器の土瓶蓋で、25は光沢の強い灰釉、つまみは歪ませて花の蕾状に加飾する。26は錆釉が施され、伊羅保釉のようにも見える。変色しているがイッテン絵付けであろうか。胎土は硬質・緻密で炻器質に近い。27は、上面に青みの強い糠白釉が施される。胎土は白味が強く緻密。大堀相馬系陶器ではないかと思われる。28は土師質土器の植木鉢、29・30は土師質土器の瓦盤で、いずれも微細な雲母を含む江戸在地系土器である。なお、29は下部・30は上部だが、胎土・色調の特徴から別個体と思われる。31は瓦質土器の竈擣で、全体はヨコナデで仕上げられる。上面は工具の痕跡がありヘラナデと思われる。胎土に角閃石を多く含

む。

出土した陶磁器類はかなり多く、しかも、時期的にまとまっている。磁器では瀬戸美濃系磁器の湯呑碗が多いが、第160図8に示したような木型打込施文がみられるものは他になかった。また、第160図9に示したような酸化コバルト染付の磁器もほとんど含まれず、後世の混在と判断される。陶器では青緑釉土瓶が多い傾向である。青緑釉土瓶と比較して、三彩土瓶や白土染付の土瓶、松岡系の海鼠釉土瓶などの数が少ないのも特徴である。

以上のような様相から第19号溝跡は、栗橋8期のある段階で、溝としては廃絶している可能性が高い。もっとも、敷地境の位置はその後も変化していない。上層に厚く盛土がされたものか、溝という形態ではなくなつた可能性はあるだろう。本跡の遺存状況が比較的良好なもの、こういった

廃絶時の条件によるものと推定される。

第163図1～5は土製品のミニチュア・人形類である。

第163図6・7は硝子製品の笄・簪類である。

第164図は木製品である。

第165図は金属製品である。3は掛金で、引き戸の掛金と思われる。環に差し込んで扉を固定する金具である。

第166図は石製品である。1は凝灰岩製硯の破片で、石材はやや緑色味を帯びた灰色を呈する。2～6までは角閃石安山岩製の磨石である。大小の差があるが、丸石の1～2側面を磨って使用している。

#### 第20号溝跡・第4号竹樋（第167～169図）

E 7-H4・5グリッドに位置する。第6・7区画（区画U・V）の地境溝である。調査区を東西に走るが、検出されたのは西側の長さ14.0mまでで、調査区東側では検出できなかった。

検出範囲の全体に杭列が遺存する。また本跡では竹樋（第4号竹樋）が検出されたのが特徴的である。

竹樋は、溝跡の西側調査区際から東へ4.5mほど確認されているが、遺存状態は不良である。調査区際壁面での断面観察では、少なくとも2回の改修痕跡を残す溝跡の上層から、竹樋掘方が掘り込まれている事が確認される（第167図A-A'セクション）。つまり第20号溝跡を壊して竹樋が設置されており、両者は重複関係にある別遺構と言える。しかし調査の進展上、竹樋の掘方を平面的に検出するに至らなかった。そのため両遺構を括して図示、記述することにした。

第20号溝跡自体は、検出位置や構造から地境溝とみられるが、前述のように東側は第338号土壙と重複したあたりで延長を追えなくなる。第338号土壙は、軸方向・幅ともに第20号溝と類似しており、溝跡と無関係に存在したものでは無いだろう。なお、この土壙上には建物基礎石を据え

たような径40～60cm台、深さ20～30cm程の円形土壙・ピットが、120cm程の間隔で並んで検出されている（第304・325・326号土壙、E 7-H5グリッドピット1）。さらに東側には、敷地境を一部跨ぐようにして第9号建物跡が検出されている。第6区画の敷地東側は、建物配置等がやや不自然であると言えるだろう。第20号溝跡の東側が検出されていない理由には、敷地裏手の空間利用の在り方が影響している可能性もある。

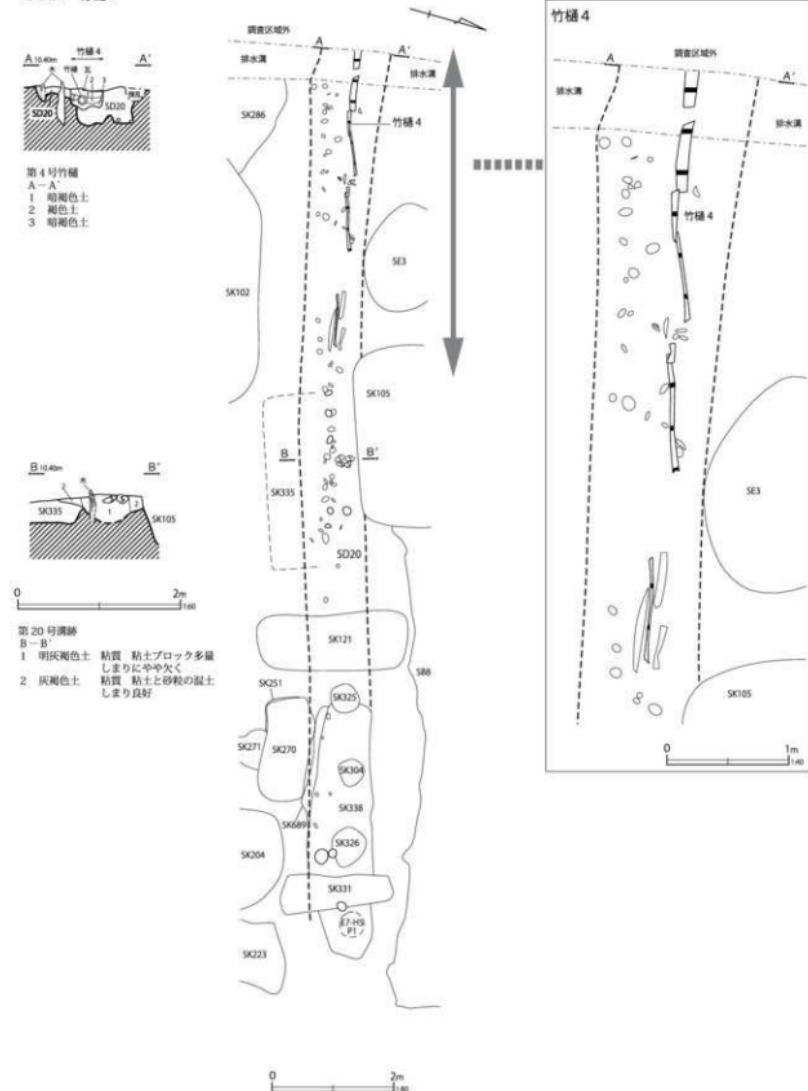
第168図には出土した陶磁器類を示す。

1は肥前系磁器の皿で、腰が大きく張るものである。釉薬は白味が強く不透明な印象で、質が悪い。内外面ともに山水文を染付する。2は松岡系陶器の土瓶蓋で、上面に海鼠釉が掛けられる。胎土の大部分は釉薬によって還元して灰色を呈するが、露胎部の断面や裏面はにぶい橙色を呈する。3は陶器の土瓶で、体部は薄い。外面にはにぶいウグイス色の灰釉に、やや太めのイッチン掛けで施文される。底部から体部露胎部は回転ケズリ、底部に墨書きがある。

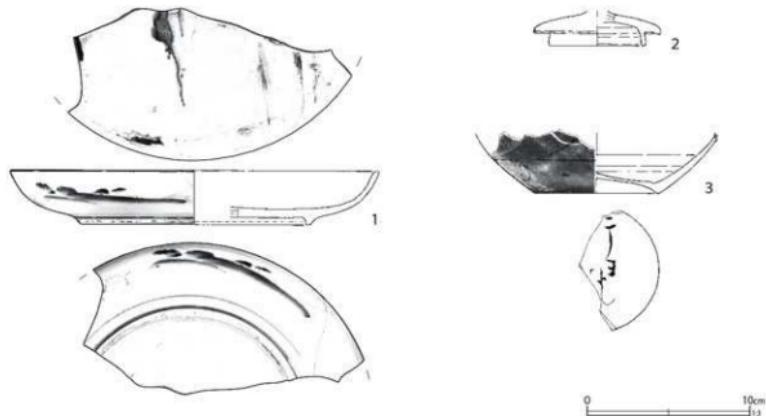
本跡から出土した陶磁器は多くは無かった。遺構の性格上、複数時期の遺物が混在しているものと考えられるが、図示した2・3の土瓶や、掲載に至らなかつた青緑釉土瓶が最新期の遺物である。また、重複して本跡より古い第335号土壙からの遺物は少ないが、18世紀代までの遺物しか出土していない。第20号溝跡が二回以上の改修後に第4号竹樋に掘り込まれていることを考慮すると、地境溝の機能時期は19世紀前葉（栗橋7期頃）と推定される。

第169図1は土製品のミニチュアで、灯籠を模す。2は石製品の磨石で、角閃石安山岩製である。角閃石安山岩製の磨石は、利根川周辺の中近世遺跡に多くみられるもので、栗橋宿跡からも多く出土している。本例はそのなかでも大きなサイズのもので、一般的に出土する小型の物とは用途が異なる可能性もある。対向する二面を磨って

S D20・竹樋4



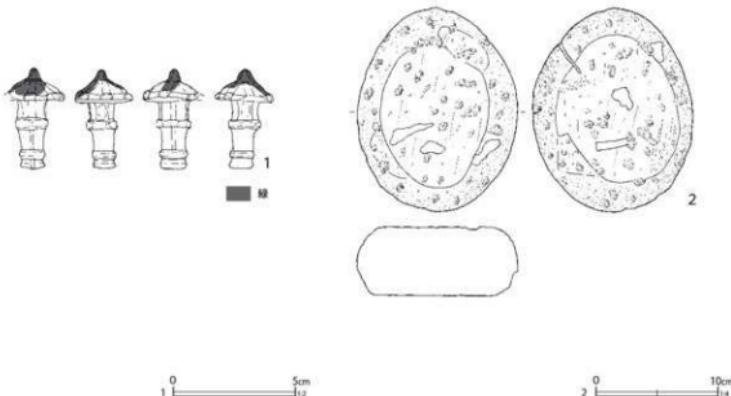
第 167 図 第 20 号溝跡・第 4 号竹樋



第168図 第20号溝跡出土遺物(1)

第92表 第20号溝跡出土遺物観察表(1)(第168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	(22.4)	3.3	(13.8)	-	25	普通	白	SD20 肥前系 内外面施釉・染付		
2	陶器	蓋	-	[2.1]	(5.8)	DK	40	普通	灰	SD20 松岡系 上面海鼠釉 最大径(7.8)		
3	陶器	土瓶	-	[3.7]	(7.6)	EI	20	普通	灰黄	SD20 外面灰釉・イッチン施文 底部墨書	81-7	



第169図 第20号溝跡出土遺物(2)

第93表 第20号溝跡出土遺物観察表(2)(第169図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	箱庭道具	2.3	4.1	2.3	8.0	-	普通	にぶい橙	SD20	江戸在地系 灯籠 二枚型成形 中実 施釉(一部緑釉) 被熱	242-15
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ				遺構	備考	図版
2	石製品	磨石	16.7	13.2	5.6	822.0	角閃石安山岩	SD20	多孔質 自然面遺存 両面研磨 裏面錐状 痕 被熱(一部赤色化) 白色物質付着	280-7		

平滑にしている。

#### 第21号溝跡(第170・177・178図)

E 8-G 4・5グリッドに位置する。第7区画(区画U)と往来道の地境溝で、往来道の南側側溝でもある。調査区を東西に横断し、検出長は17.0mである。遺構図は、道路跡とともに第177・178図に示す。

調査区西壁面で確認すると、かなり太い杭が打ち込まれており、底板状の板材が遺存する部分もある。さらに上位には現代の塗ビ管が同じ位置に敷設されており、往来道との関係から長期にわたって改修されていたことが窺われる(写真図版12の2~4参照)。

第170図に溝跡から出土した陶磁器を示す。1は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗であるが、小型で坏とするべきかもしれない。外面によろけ縞状、内面口縁部に角渦文を細い線で染付する。

図示した以外には、京都信楽系陶器の脚(油溜め)を有す灯火具等が出土している。溝としての機能時期は、概ね栗橋7~8期頃だったようである。

なお、調査区西壁際で、溝跡の南側に隣接して木樹状の木組み施設が検出されている。調査区埋め戻し間に存在が明らかになったもので、充分に記録が作成できなかつたが、溝と関連する施設と思われる(模式図第177図・写真図版12参照)。木組みの施設は、東西33cm、南北38cmのほぼ正方形の木組みに、東西35cm、南北32cmの

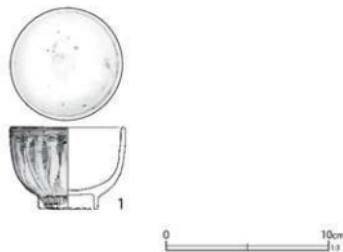
蓋を有す木桶状の木組みが取り付く。両者の内部空間は通じている。覆土は砂質土が主体で、少量の寛永通寶が出土している。

この遺構は、19世紀前葉(栗橋7期)の火災処理土壤(第107号土壤)に上面を壊されているようなので、栗橋7期以前に遡る可能性もある。おそらくは、第21号溝と関連する暗渠施設の導水あるいは排水部と想定されるが、詳細な検証は困難である。

#### 第22号溝跡(第177・178図)

E 8-G 4・5グリッドに位置する。往来道と第8区画(区画T)の地境溝で、往来道の北側側溝でもある。調査区を東西に横断し、検出長は18.0mである。遺構図は、道路跡とともに第177・178図に示す。

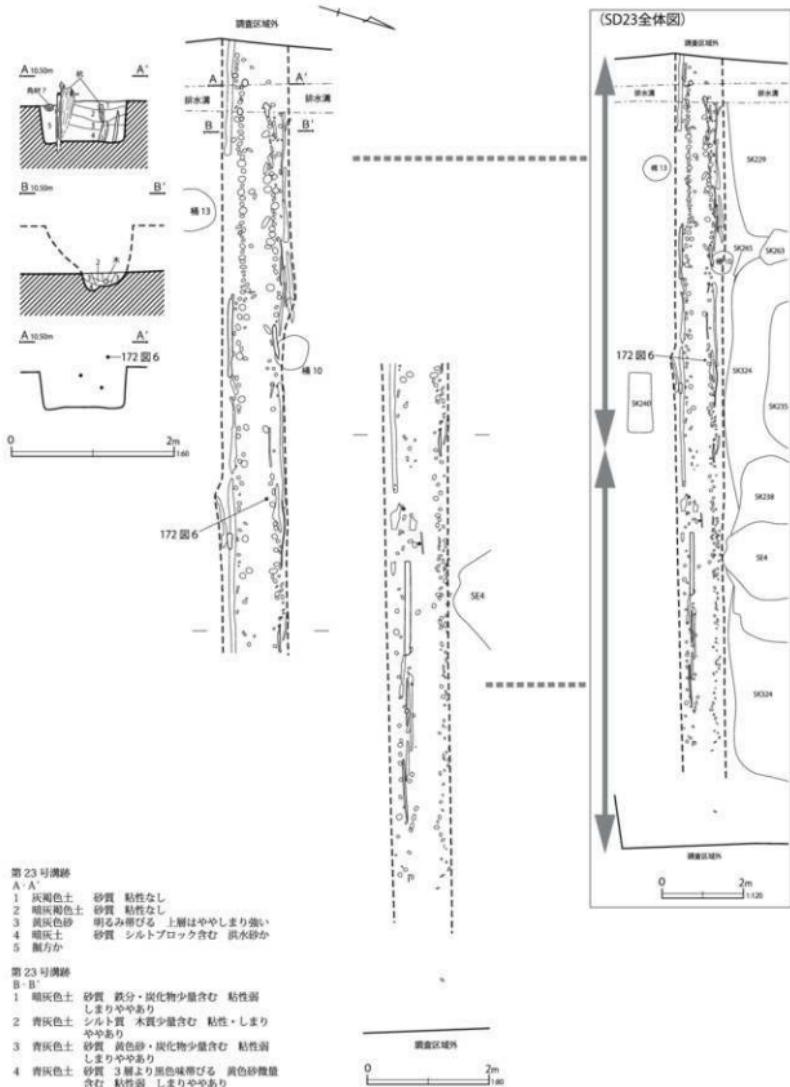
溝跡の中には、かなり太い杭が幅40~50cm程の間隔で東西に並んで検出されている。道路側(南側)の方が遺存状態が良く、杭の間隔は概ね



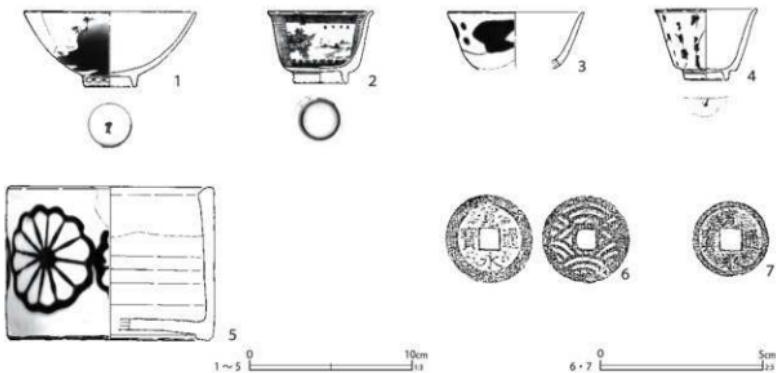
第170図 第21号溝跡出土遺物

第94表 第21号溝跡出土遺物観察表(第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	6.9	5.0	(3.4)	-	90	良好	白	SD21	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(湯呑形碗)	



第171図 第23号溝跡



第172図 第23号溝跡出土遺物

第95表 第23号溝跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.5)	4.6	3.1	-	55	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付・吹き墨（黒）	
2	磁器	壺	6.4	4.4	3.0	-	95	普通	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付	
3	磁器	碗	(8.3)	[3.5]	-	-	10	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面木型打込施文・染付（端反碗）	
4	磁器	壺	6.2	4.4	2.5	-	45	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
5	磁器	香炉	(12.2)	9.4	(12.2)	-	40	良好	白	SD23	瀬戸美濃系 内面上位～外面施文 外面染付	
番号	種別	器種	法量						遺構	備考		図版
6	銅製品	錢貨	径27.3	厚さ1.5	重さ5.0					SD23	寛永通寶（新）21波	
7	銅製品	錢貨	径23.7	厚さ1.0	重さ2.2					SD23	寛永通寶（新）	

60cmである（写真図版55～65）。調査区西壁際では、この杭の直上に土管の埋設が確認されるので、杭そのものは近代の構築物の可能性もある。

いずれにしても道路跡との関係で長期にわたって位置が踏襲されてきたものと考えられる。

### 第23号溝跡（第171・172図）

E 7-F 3～5グリッドに位置する。第8・9区画（区画T・S）の地境構である。調査区を東西に横断し、検出長19.1mである。

全体に杭列が顕著に遺存する。また、側壁に沿ったしがらみ状の横棒（角材）が溝上部に敷設

されている状態や、側壁材とみられる薄い板状の木材の遺存が確認された。杭や横棒・板材の遺存状況がもっとも良い地境溝である。

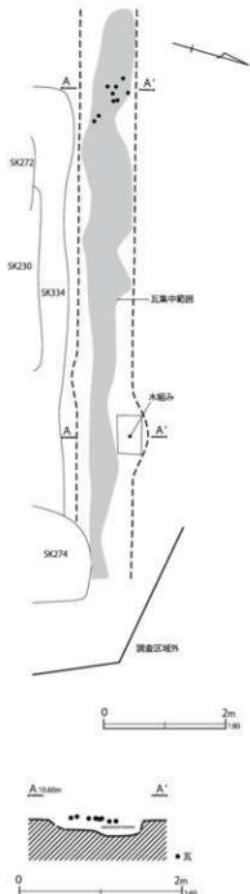
第172図には出土した陶磁器を示した。

1は瀬戸美濃系磁器の平碗で薄手である。外面に酸化コバルト染付と吹き墨で文様を描く。2は瀬戸美濃系磁器の壺で、銅版転写染付が施される。3は瀬戸美濃系磁器の小型の端反碗で、木型打込と染付が施されている。4は瀬戸美濃系磁器の壺で、酸化コバルト染付で漢詩が施される。5は瀬戸美濃系磁器の香炉で、外面に菊文が染付ら

れる。

陶磁器の様相から、栗橋9期に廃絶した遺構と考えられる。

SD24



第173図 第24号溝跡

#### 第24号溝跡 (第173~176図)

E 7-E 3・4 グリッドに位置する。第9区画と第3地点の区画(区画R・S)との地境溝と考えられる。調査区を東西に横断し、検出長10.5mである。

本跡は掘り込みがはつきりせず、瓦溜りのような状態で検出されたものである。ただし、瓦の分布が東西に連なることから、溝状の掘り込みがあつた可能性が高い。また、隣接して薄板による小型の木組み遺構が検出されているが、同様の遺構は、第6地点の溝跡(杭列)の中に敷設されている例がある。本例も溝跡の中に作られた、泥などの沈殿施設の可能性を考えられる。

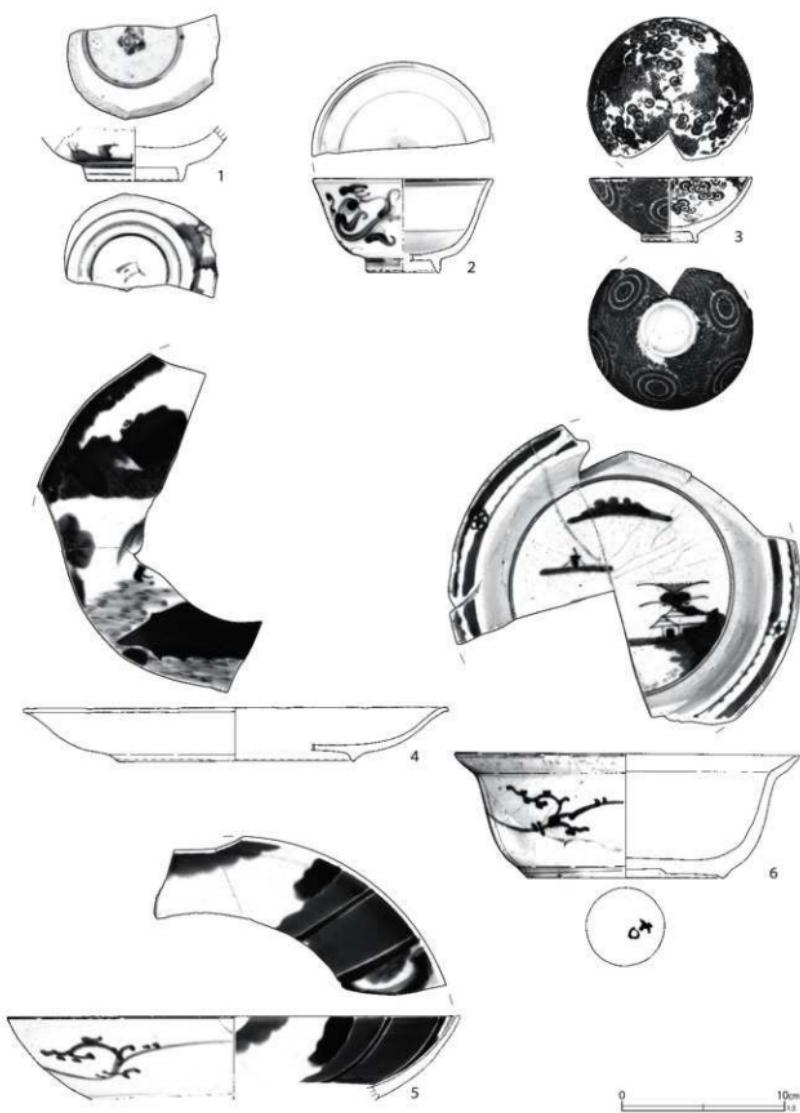
遺物は瓦が集中する部分から検出されたものである。第174~176図に示した。

第174図1は肥前系磁器の大碗で、外面に雪輪草花文、内面に五弁花文を染付する。2は瀬戸美濃系磁器の端反碗で、厚手や大振りである。外面に雲竜文、内面口縁部に二重圓線、底部際にも圓線を染付する。3は瀬戸美濃系磁器の平碗で、型紙摺絵染付である。4は肥前系磁器の皿で、口縁部は端反りになる。内面に山水文を染付する。焼き緋がみられる。5も肥前系磁器の皿で、大皿と思われる。外面に一重の唐草文、内面に山水文を染付するものらしい。6は肥前系磁器の鉢で、蛇の目凹形高台のものである。外面に一重の唐草文、内面に山水樓閣文を染付する。焼き緋があり、底部には赤の焼き緋印がみられる。

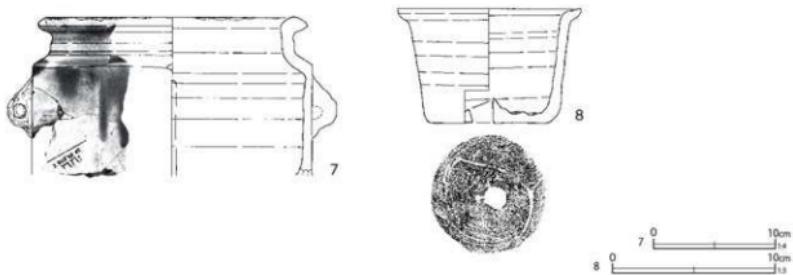
第175図7は瀬戸美濃系陶器の瓶掛で、体部が多角形に成形されるものである。灰釉を地に綠釉・瑠璃釉を流し掛けする。8は土師質土器の植木鉢で江戸在地系土器である。

本跡から出土した陶磁器には、木型打込施の瀬戸美濃系磁器端反碗や、酸化コバルト染付の磁器碗や平碗が認められる。従つて、栗橋9期前半の構築と考えられる。

第176図は出土した瓦である。本跡から出土し



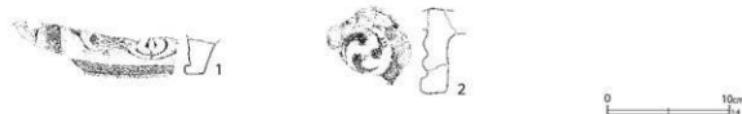
第174図 第24号溝跡出土遺物（1）



第175図 第24号溝跡出土遺物(2)

第96表 第24号溝跡出土遺物観察表(1)(第174・175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	-	[3.3]	5.5	-	15	普通	白	SD24 肥前系 内外面施釉・染付		
2	磁器	碗	(10.9)	5.7	(4.2)	-	50	普通	白	SD24 濱戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)		
3	磁器	碗	(9.8)	4.0	(3.2)	-	80	普通	白	SD24 濱戸美濃系 内外面施釉・型紙模倣染付		
4	磁器	皿	(25.8)	3.3	(14.4)	-	25	普通	白	SD24 肥前系 内外面施釉・内面染付 焼き織ぎ痕		
5	磁器	皿	(27.7)	[5.1]	-	-	15	普通	白	SD24 肥前系 内外面施釉・染付		
6	磁器	鉢	21.0	7.7	12.0	-	70	普通	白	SD24 肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目彫形高台 焼き織ぎ痕・焼き織ぎ印(赤)		
7	陶器	瓶掛	(20.0)	[12.9]	-	EI	15	普通	灰白	SD24 濱戸美濃系 内外面灰釉・絵釉、埋玻璃流し掛け 外面施文 口縁部二次敲打	81-8	
8	土師質土器	植木鉢	(11.2)	7.0	7.0	AHK	50	普通	灰白	SD24 江戸在地系 底部系切痕(左)・穿孔 胎土粉質		



第176図 第24号溝跡出土遺物(3)

第97表 第24号溝跡出土遺物観察表(2)(第176図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棟瓦	[3.0]	[14.0]	-	AEH	良好	灰	SD24 被熱・赤変		
2	瓦	軒棟瓦	[3.2]	[6.9]	-	AEK	普通	灰白	SD24 右巻き		

た瓦は761点(総重量約57kg)であった。そのうち軒棟瓦の軒部は、図示したものも含めて8点(うち軒棟瓦の軒丸部のみの破片4点、軒平部の

中心飾りが残るもの3点)であった。このほか、軒丸瓦の縁部のみの破片が出土している。

## 5 道路跡

道路跡は、調査区を東西に横断するものが1本検出された。調査前まで機能していた道路と同じ位置・方向で検出されたものであり、近世の『絵図』に「往来道」とみえる部分である。

### 第1号道路跡（第177～196図）

調査区中央部のやや北側、E 7-G 4・5グリッドから検出された。調査区を東西に横断し、検出長は18.25mである。主軸方位はN-71°-Eを示す。第21・22号溝跡を側溝として備えており、側溝部を含めた幅は約3.20mである。一方、調査区壁断面や、側溝の杭の位置を勘案して本来の道路幅を測ると、概ね180cmであり、一間幅の道路であったものと考えられる。なお、調査前の道路幅は2.0m、側溝を含めると2.9mであった。

現存していた道路下を掘り下げると、標高10.30m付近で硬化面が検出された。ほぼ同じ高さで平石が東西に並んで列状に検出されているが、敷石の直下には現代のケーブルが敷設されていた。従つて、石列はケーブルの保護のために敷かれたものであり、より上層から掘り込まれた掘削坑に伴うものである。

一方、検出された硬化面は、19世紀後半以降の路面と考えられた。以下、路面と洪水層・火山灰層の有無に注意しながら、さらに下層の掘削を行つた。なお、道路の中軸から南側の大部分に、水道管敷設に伴う擾乱が入つている。そのため、古い道路面の遺存は北側半分に留まつた。道路の長軸方向に掘り込まれていた擾乱土を除去して、断面確認用のトレンチとし、セクションを図化した（第179・180図）。

その後、断面の観察結果を元に、各期の整地面を検出することを繰り返した。その結果、路面と考えられる整地面を5枚（整地面①～⑤）検出し、その下に路面とは考え難いが、生活面と思われる整地面を2枚（整地面⑥・⑦）確認した。次

に、上層から各整地面（写真図版55～59）の様相を記述する。

整地面①は、ケーブルに伴う敷石が検出された面から10cm以下で検出された面である。上層は灰色砂（第179図4層）や、しまりの強い灰黑色土（5層）で、前述した19世紀後半以降の路面（敷石検出面と同じ高さの面）の構築土である。下層の6・7層は整地面①の構築土で、6層は固くしまる黒褐色シルト土層である。下層の7層は灰色砂である。

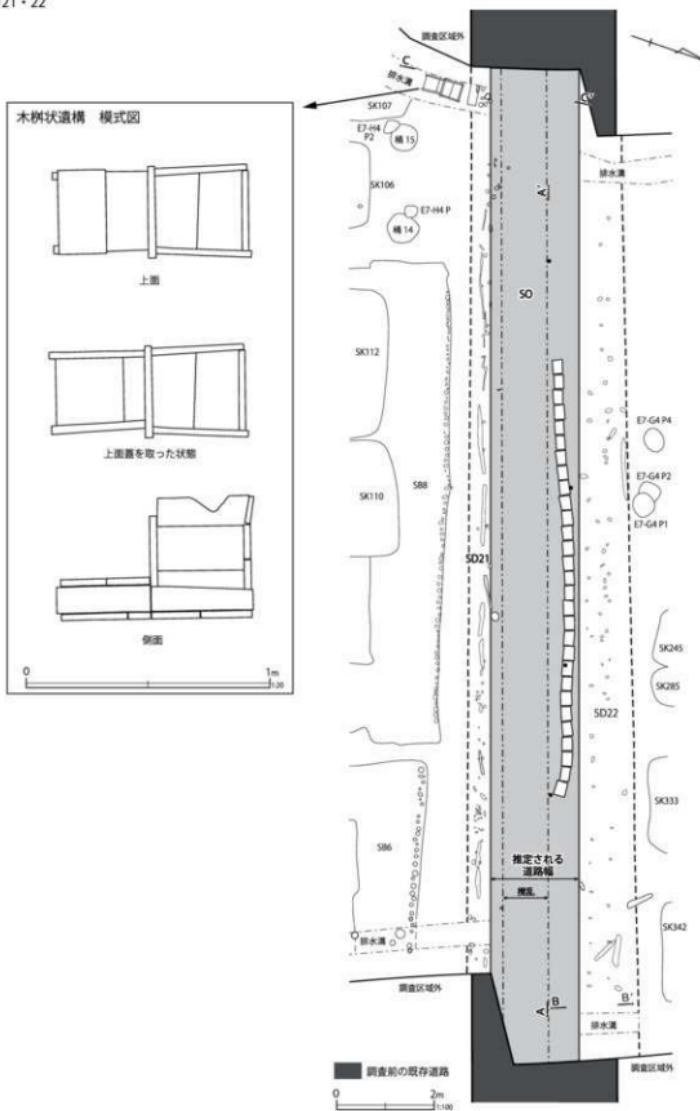
整地面②は、7層直下で検出されている。主に固くしまる黒褐色シルト土（8層）で整地する。構築土は上層の8・9層が黒褐色シルト、下層の10層が砂層である。砂層は現地の観察で洪水層の可能性が指摘されている。

整地面③は、10層直下で検出されている。主に固くしまる黒褐色シルト土（11層）で整地する。直下の12層は浅間A火山灰の二次堆積層である。二次堆積とは言え、比較的厚い層であり、天明三年（1783）の浅間山噴火からさほど時を経ずに形成された層と見て良い。

整地面④は、浅間A火山灰層である12層直下で検出した面である。部分的に固くしまるシルト層（13層）を路面とする。それに加えて砂層（14・15層）で路面を構成する部分があるなど、やや安定しない路面と言える。

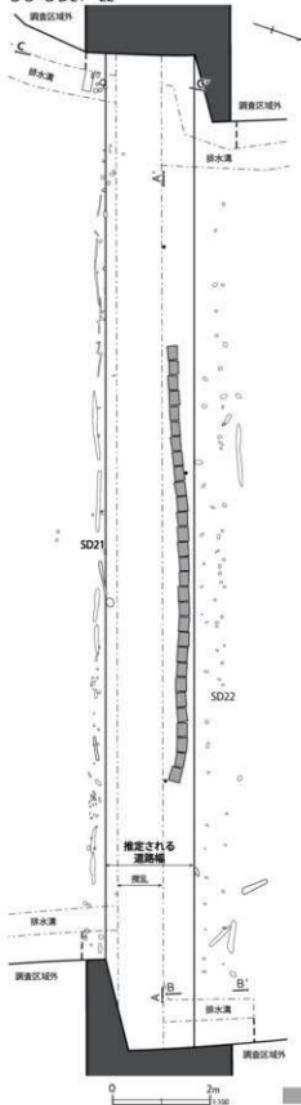
整地面⑤は、主として砂層（14～16層）の直下から検出されたものである。路面構築土の19層はシルト質の黒褐色土であり、整地面⑤の直下にも層状堆積が認められるので、近接した時期幅で何枚かの路面が形成されていたものと思われる。明確な道路面と思われるものは、この整地層⑤及び、その直下（19層中）の部分的な硬化面までである。以下は路面とは考え難い。

整地面⑥は、洪水砂層と考えられる24層下である。現地調査の時点では、この面も路面の可能



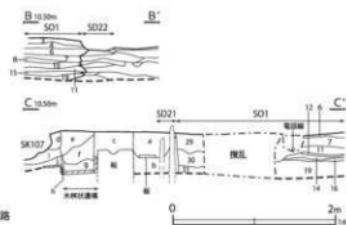
第177図 道路状造構（1）

SD・SD21・22

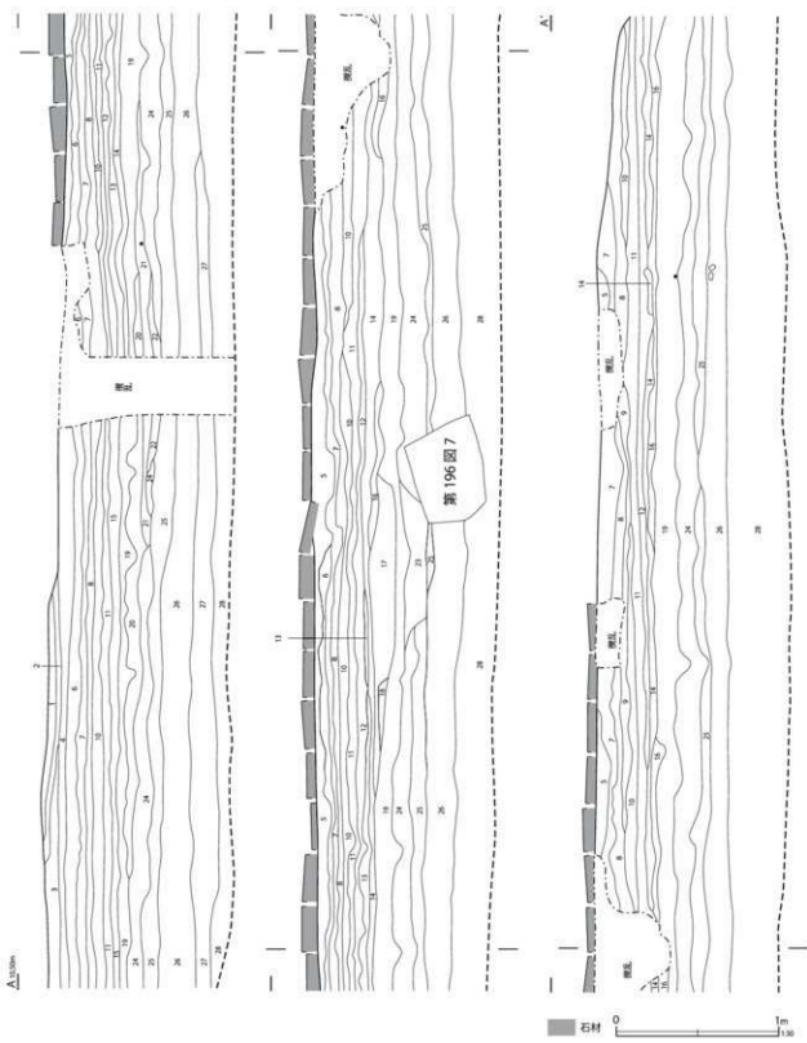


- 道路  
 1 黒褐色土  
 2 灰色土  
 3 黑褐色土  
 4 灰色土  
 5 灰黑色土  
 新しい 固くしまる  
 6 黑褐色土 シルト層 均一 5~50mmの円錐多孔計 道路のユニット  
 固くしまる→路面  
 7 灰色砂 砂→砂層 均一 固くしまる  
 8 黑褐色土 シルト層 均一 固くしまる 5~20mmの亜円錐~亜角錐  
 部分的に入る 道路のユニット←路面  
 9 黑褐色土  
 10 灰色砂 均一 砂層 5~20mmの亜円錐~亜角錐  
 少なく含む 道路のユニット(洪水冠か)  
 11 黑褐色土 シルト層 均一 固くしまる 5~20mmの亜円錐~亜角錐  
 ごく少量 部分的に入る←路面  
 12 白色軽石 As-A 軽石層 二次堆積  
 13 黑褐色土  
 14 灰色砂  
 15 底色砂  
 16 黑褐色土  
 17 灰色土  
 18 灰色砂  
 19 黑褐色土  
 15層に比してやや暗色  
 15層に同じ  
 黒褐色土 シルト層 均一 層状に剥離する(部分的・明瞭な硬化面の  
 累積層) 部分的に角錐(φ10~30mm)・貝(シジミ)を  
 含む 何面か路面(例判あるが不明)  
 20 淡色砂  
 21 黑褐色土 シルト層 均一 10層に同じ  
 22 黑褐色土  
 23 黑褐色土  
 24 淡色砂 砂層 均一 ラミナが発達する 淡色砂層 部分的に粘土や、  
 やや重い砂を含む 遺物は少ない  
 25 淡水層  
 26 淡水層  
 27 淡水層  
 28 淡水層  
 29 灰色土 木材等有機物多く含む  
 30 淡色土 少しミソボリした印象の土質  
 31 黑褐色土 上の層より均質  
 a 灰色土 ブロック状  
 b 灰色土 混入物  
 c 灰色土 砂白シルトブロック多い  
 d 灰黄色土 シルト層 しまり強  
 e 灰黄色土 シルト層 砂少し含む  
 f 灰色土  
 g 灰黄色土 シルト層  
 h 灰色土 板の雲母か  
 i 灰色土 シルト層 灰黄色ブロック含む  
 j 灰色土 シルト層 1より均質

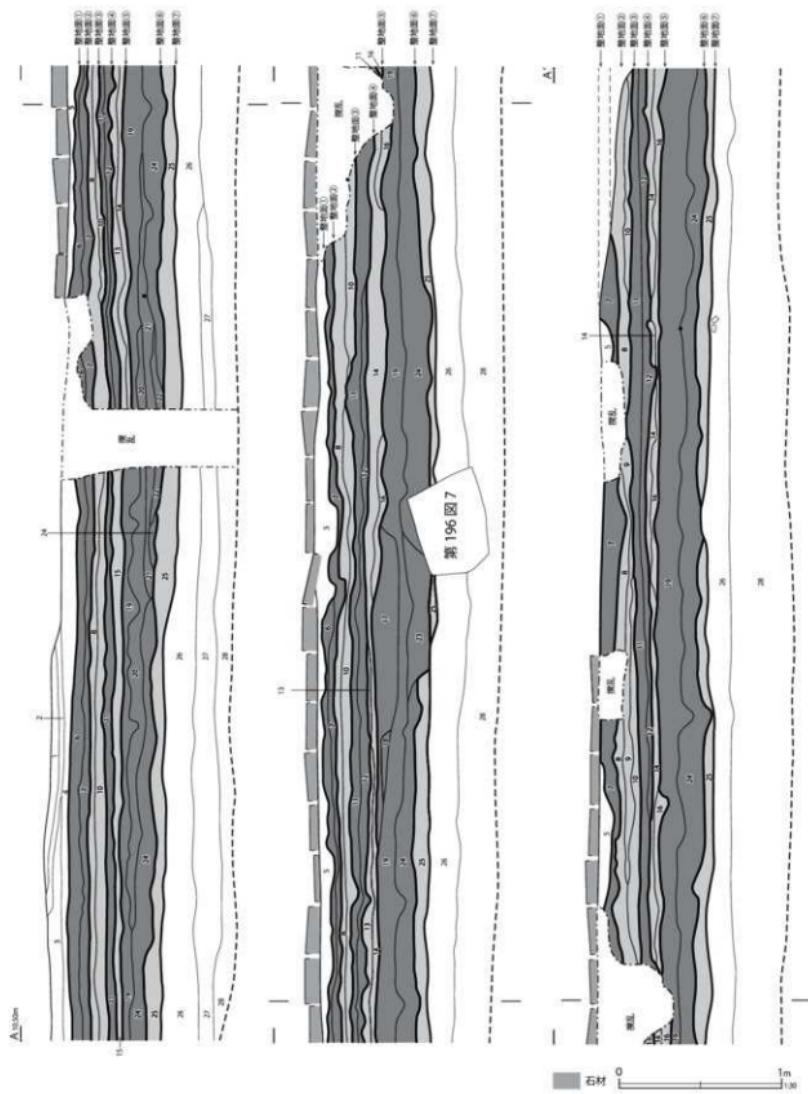
第196図 7



第178図 道路状構造（2）



第179図 道路状造構（3）



第180図 道路状遺構（4）

性があると考えていた。しかし、この面を路面だとすると、後述するように木臼との位置関係が不自然である。

整地面⑦は、やはり洪水砂層と思われる25層下である。樹木の枝などが広がった状態で検出されており、洪水による堆積状況が土砂で覆われて遺存したものと考えられる。粗糲を敷いた路面形成痕跡の可能性も考慮されたが、その広がりが不規則なので可能性は低い。

このように、整地面⑥・⑦は「整地面」と呼称したが、平面は凹凸があり、面として安定していない。ある一時期の地表面としては機能していたものだろうが、積極的な整地痕跡とは認めがたいものである。セクションの中央付近には、より下層で埋没した大型の木製臼が、頭を出した状態で除去されておらず、路面として機能したとは考え難い。

各路面の調査に際しては、可能な限り層位ごとに遺物を取りあげた。第181～189図には、層位ごとの遺物を示す。

5層では、1に示した瀬戸美濃系磁器の端反碗が出土している。厚手のものである。

6・7層（整地面①の構築土）では、瀬戸美濃系磁器の端反碗蓋（2）、陶器土瓶片（5）が認められる。

8・10層（整地面②の構築土）では、肥前系磁器の広東碗と蓋（10・11）が複数確認される。瀬戸美濃系磁器端反碗の細片（8）のみである。

11・12層（整地面③の構築土）では、肥前系磁器の筒形碗で、外面青磁釉のもの（16・17）が出土している。12層が浅間A火山灰を含む層である。

13・14層（整地面④の構築土）では、肥前系磁器の粗製丸碗（24・26）や粗製皿（27）が主体で、僅かに肥前系磁器の筒形碗（25）、外面青磁釉の丸碗、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿

（30）がみられる。

19層（整地面⑤の構築土）も、13・14層に類似の様相で、磁器碗では粗製丸碗（39～42）が主体で、わずかに肥前系磁器の筒形碗（43）、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿（51）が混じる。

24・25層（整地面⑥の前後）では、肥前系磁器の碗は粗製丸碗がほとんどである。

26層（整地面⑦より下層）でも、肥前系磁器の碗は粗製丸碗が主体である。筒形碗（79）は後世の混在と思われる。瀬戸美濃系陶器の繪絵皿や腰錆碗が複数含まれるが、多くは無い。瀬戸美濃系陶器と丹波系陶器の擂鉢が多い。80は中国景德鎮窯系の磁器であるが、15～16世紀の所産で、近世中期まで伝世したものとは考え難い。88も大窯末期の瀬戸美濃系陶器天目茶碗で、17世紀初頭に遡る。104・105は中世の常滑焼の甕と片口鉢である。

27層では、磁器類がやや少くなるが、肥前系磁器の雪輪草花文碗が僅かにみられ、18世紀には降ると思われる。ただし、陶器の腰錆碗や繪絵皿はみられない。瀬戸美濃系陶器と丹波系陶器の擂鉢が多いのは26層と共通する。

以上の遺物様相と火山灰層から、各路面の年代を想定すると、次のように整理される。

整地面①は、19世紀第Ⅱ四半期以降（栗橋7期）以降に機能した路面である。

整地面②は、19世紀第Ⅰ四半期以降（栗橋6期）以降に機能した路面である。

整地面③は、18世紀末（栗橋5期）、具体的には天明3年（1783）浅間A火山灰降下の後に機能した路面である。

整地面④は、18世紀第Ⅲ四半期以降、天明3年頃まで（栗橋4～5期）に機能した路面である。

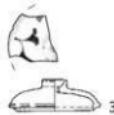
整地面⑤は、18世紀中葉（栗橋4期前半）以降に機能した路面である。

整地面⑥は、18世紀第Ⅰ～Ⅱ四半期（栗橋3

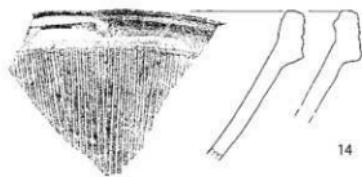
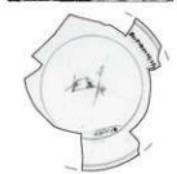
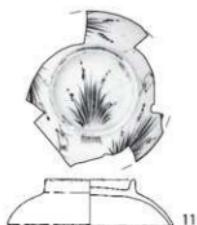
第5層



第6・7層



第8・10層

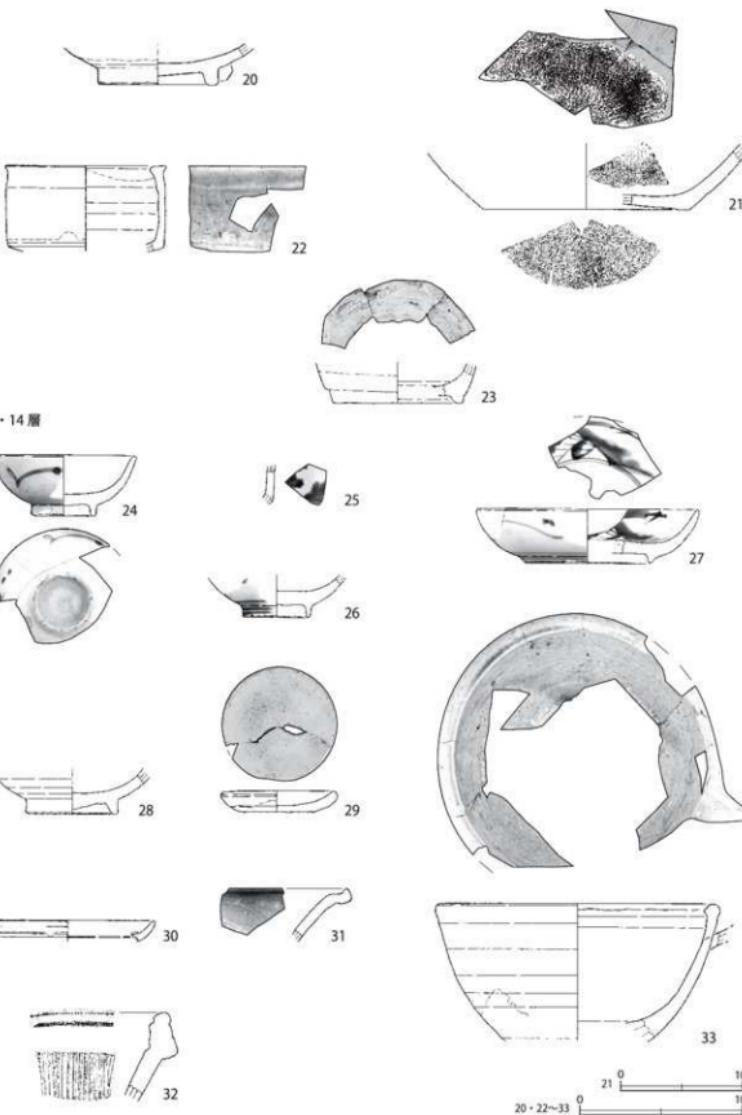


第11・12層

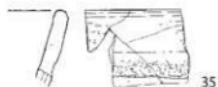


0 10cm

第181図 道路跡出土遺物（1）



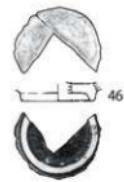
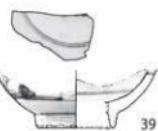
第182図 道路跡出土遺物（2）



第14・19層

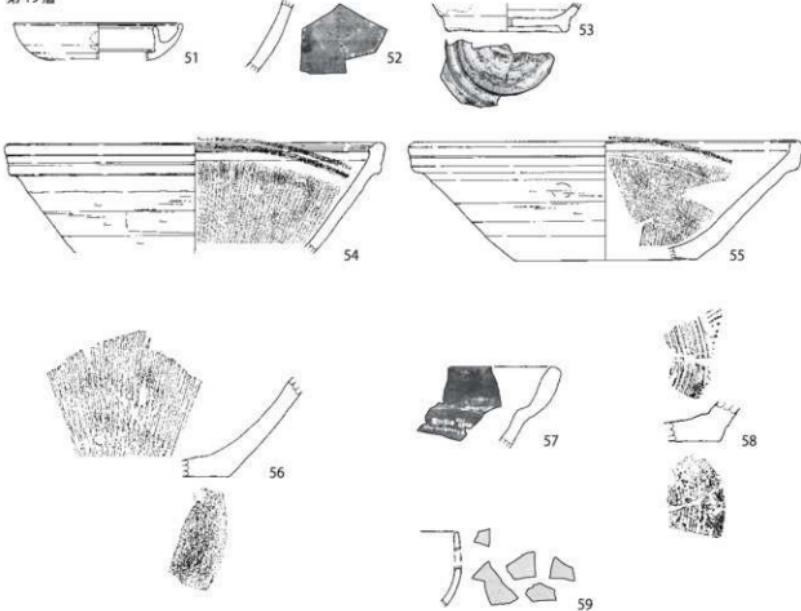


第19層

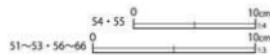
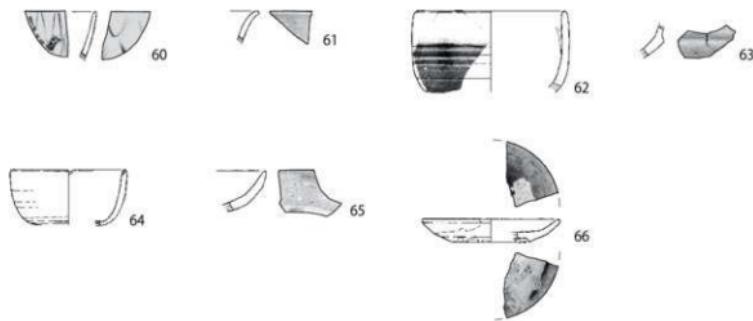


第183図 道路跡出土遺物（3）

第19層

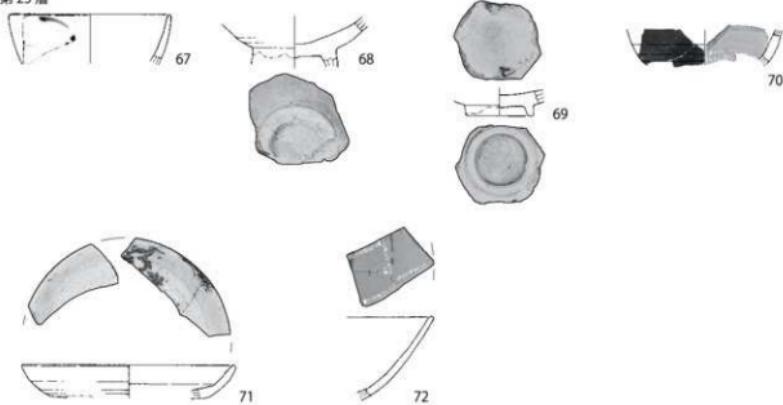


第24層

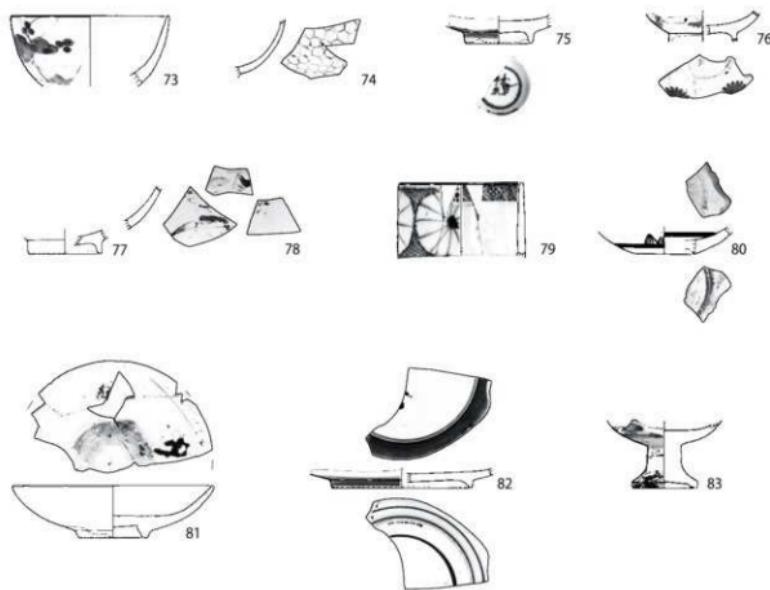


第184図 道路跡出土遺物（4）

第25層

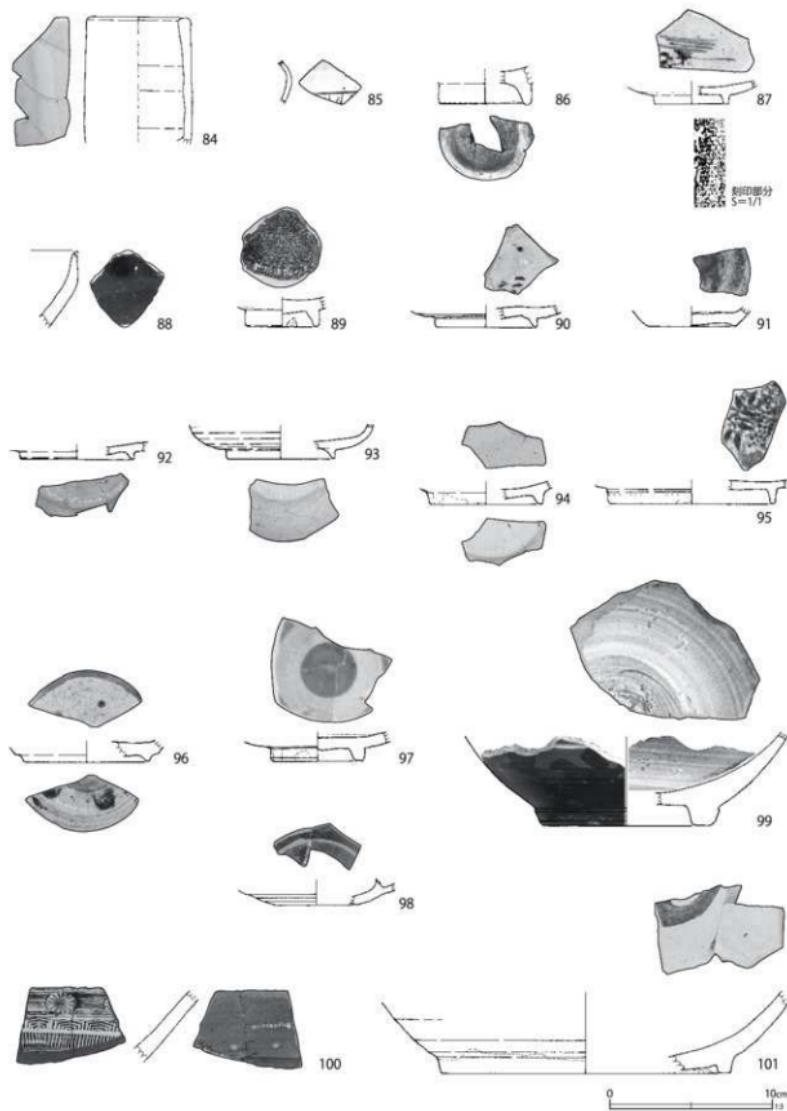


第26層

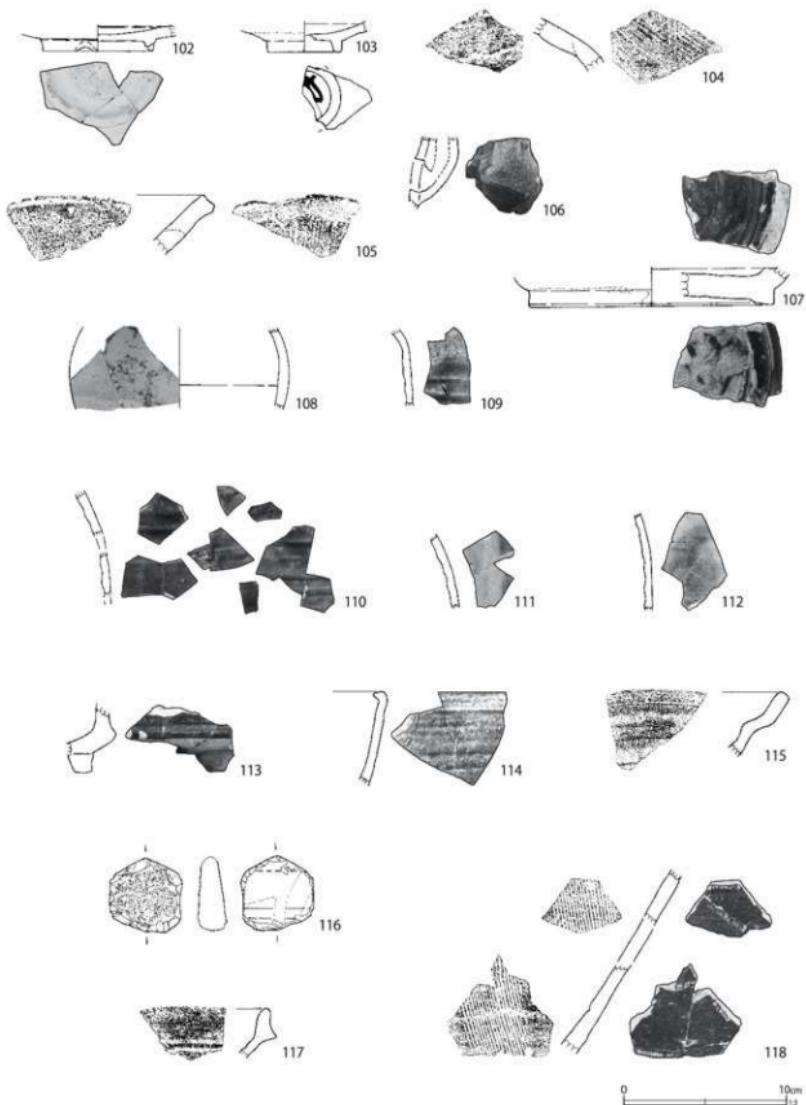


0 10cm

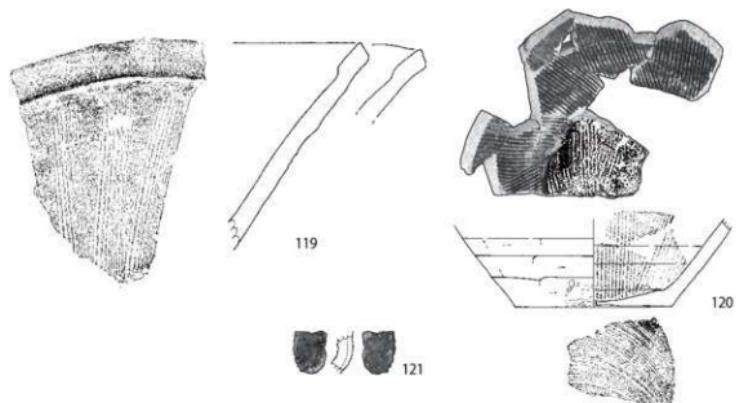
第185図 道路跡出土遺物（5）



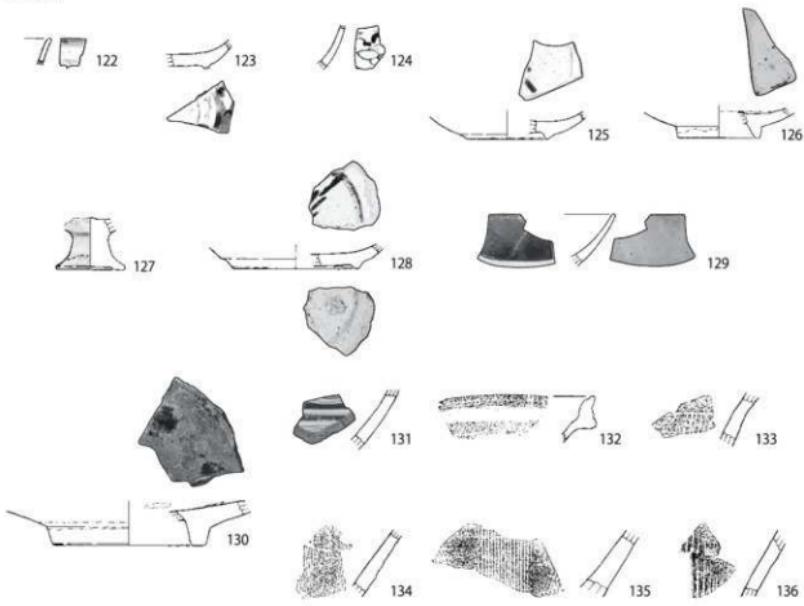
第186図 道路跡出土遺物（6）



第187図 道路跡出土遺物（7）

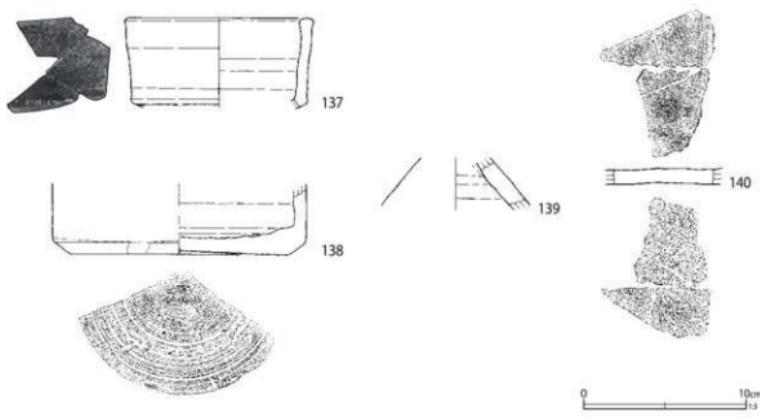


第27層



119~121~136 0 10cm  
120 0 10cm  
124 0 10cm  
128 0 10cm

第188図 道路跡出土遺物（8）



第189図 道路跡出土遺物(9)

第98表 道路跡出土遺物観察表(1)(第181~189図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	国版
1	磁器	碗	-	[1.9]	-	-	5	良好	白	S0	5層 濱戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (端反碗)	84-1
2	磁器	蓋	-	[0.7]	-	-	5	良好	白	S0	6,7層 濱戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗の蓋)	84-1
3	磁器	蓋	(1.4)	1.9	(4.7)	-	25	普通	白	S0	6,7層 肥前系 内外面施釉 外面染付 最大径(5.6)	84-1
4	陶器	瓶掛	-	[3.8]	-	EI	5	普通	灰白	S0	6,7層 濱戸美濃系 外面施文・縞釉	84-1
5	陶器	土瓶	-	-	-	I	5	普通	にぶい黄澄	S0	6,7層 白土染付 縦[2.0]cm 横[2.8] cm	84-1
6	磁器	碗	(7.2)	[2.7]	-	-	20	普通	白	S0	8層 肥前系 内外面施釉・染付 (小広鉢)	84-1
7	磁器	碗	9.8	5.0	(4.3)	-	60	普通	白	S0	8層 肥前系 内外面施釉 外面染付	83-1
8	磁器	碗	-	[1.7]	-	-	5	普通	白	S0	8,10層 濱戸美濃系 内外面施釉 外面 染付 (端反碗)	84-1
9	磁器	碗	-	[2.5]	-	-	5	普通	白	S0	8,10層 肥前系 内外面施釉 外面鉄釉 を横帶状に施す・条線文 (筒形碗)	84-1
10	磁器	蓋	5.7	2.7	(10.1)	-	45	普通	白	S0	8,10層 肥前系 内外面施釉・染付 (広葉碗の蓋)	83-2
11	磁器	蓋	5.4	2.8	(10.0)	-	60	普通	白	S0	8,10層 肥前系 内外面施釉・染付 (広葉碗の蓋)	83-3
12	磁器	御神酒 徳利	-	[4.7]	-	-	5	普通	白	S0	8,10層 肥前系 外面施釉・染付	84-1
13	陶器	徳利	-	[6.5]	-	I	5	普通	揭灰	S0	8,10層 濱戸美濃系 外面灰釉	84-1
14	陶器	擂鉢	-	[9.1]	-	DEG	10	良好	赤	S0	8,10層 堀明石系 内面擂目	84-1
15	瓦質土器	火鉢	-	[3.0]	-	ACK	5	普通	にぶい黄澄	S0	8,10層 江戸在地系 胎土粉質 燐十 (小丸鉢)	84-1
16	磁器	碗	-	[2.5]	-	-	5	普通	白	S0	11,12層 肥前系 内外面施釉・染付	84-1
17	磁器	碗	-	[3.4]	-	-	5	普通	白	S0	11,12層 肥前系 内外面施釉 (外面青磁 釉) 内面染付 (筒形碗)	84-1
18	磁器	御神酒 徳利 碗	-	[3.1]	2.9	-	30	良好	白	S0	11,12層 肥前系 内外面施釉・染付	83-4
19	陶器	鉢	-	[2.0]	3.3	IK	35	普通	灰白	S0	11,12層 濱戸美濃系 内外面灰釉 (せんじ鉢)	84-1
20	陶器	鉢	-	[2.5]	(7.2)	IK	10	普通	灰白	S0	11,12層 濱戸美濃系 内外面灰釉 高台 部にトチ付着	84-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考		図版
21	陶器	擂鉢	-	[5.4]	(17.0)	D651	15	普通	橙	S0	11,12層 堀明石系 内面擂目・使用による摩耗		84-1
22	陶器	香炉	(9.6)	[5.2]	-	I	20	普通	灰白	S0	6,7層・11,12層接合 漢戸美濃系 口縁		84-1
23	陶器	徳利	-	[2.5]	(7.8)	EHI	5	普通	灰白	S0	11,12層 漢戸美濃系 外面灰釉・底部ふきとり		84-1
24	磁器	碗	(8.8)	3.7	3.4	-	50	普通	灰白	S0	13,14層 肥前系 内外面施釉 外面染付		83-5
25	磁器	碗	-	[2.4]	-	-	5	普通	白	S0	13,14層 肥前系 内外面施釉 外面染付(筒形碗)		84-2
26	磁器	碗	-	[2.6]	(4.0)	-	10	普通	白	S0	13,14層 肥前系 内外面施釉 外面染付		84-2
27	磁器	皿	(13.6)	3.3	(7.6)	-	15	普通	白	S0	13,14層 肥前系 内外面施釉・染付		84-2
28	陶器	碗	-	[2.8]	(5.0)	DEIK	10	普通	灰白	S0	13,14層 漢戸美濃系 内外面施釉		84-2
29	陶器	皿	6,8	1.3	4.6	EI	95	普通	灰白	S0	13,14層 漢戸美濃系 内外面灰釉 口縁部込みあり		84-2
30	陶器	灯明皿	(10.4)	[1.3]	-	IK	10	普通	黄灰	S0	13,14層 漢戸美濃系 内外面柿輪		84-2
31	陶器	鉢	-	[3.3]	-	I	5	良好	灰白	S0	13,14層 漢戸美濃系 内外面灰釉 内面櫛目波状文		84-2
32	陶器	擂鉢	-	[5.5]	-	DE	5	普通	明赤褐	S0	13,14層 堀明石系 内面擂目		84-2
33	陶器	片口鉢	(16.9)	[8.4]	-	IK	60	普通	灰白	S0	13,14層 内外面灰釉		83-6
34	陶器	擂鉢	(34.0)	[10.6]	-	DEI	10	普通	赤褐	S0	13,14層・19層接合 堀明石系 内面擂目		84-2
35	瓦質土器	培落	-	[4.6]	-	CHI	5	普通	灰白	S0	13,14層		84-2
36	陶器	碗	-	[2.0]	-	I	5	良好	灰白	S0	14,19層 漢戸美濃系 内外面灰釉 被熱(せんじ碗)		84-2
37	陶器	皿	-	[1.8]	-	I	5	普通	灰白	S0	14,19層・10層接合 漢戸美濃系 内外面灰釉(銀绘皿)		84-2
38	陶器	碗	-	[1.7]	(3.2)	I	20	普通	灰白	S0	14,19層 漢戸美濃系 内外面灰釉		84-2
39	磁器	碗	-	[3.6]	(4.6)	-	10	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施釉・染付		84-3
40	磁器	碗	-	[2.4]	3.8	-	15	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施釉 外面染付		84-3
41	磁器	碗	-	[1.9]	(4.2)	-	10	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施釉 外面染付 少量焼付青		84-3
42	磁器	碗	-	[2.7]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施釉 外面染付(= 84-3 ンニャック印判)		84-3
43	磁器	碗	-	[2.7]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施釉 外面染付(筒形碗)		84-3
44	磁器	碗	-	[2.0]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤)		84-3
45	磁器	皿	-	[2.0]	-	-	5	普通	白	S0	19層 肥前系 内外面施釉(体部青磁地) 内面染付		84-3
46	陶器	碗	-	[1.1]	4.4	IK	10	普通	灰白	S0	19層 漢戸美濃系 内面灰釉 外面鉄釉(腰筋碗)		84-3
47	陶器	碗	-	[1.7]	(5.0)	EK	5	普通	灰白	S0	19層 漢戸美濃系 内面灰釉 外面鉄釉(腰筋碗)		84-3
48	陶器	碗	(9.1)	[4.5]	-	K	15	普通	灰白	S0	19層 漢戸美濃系 内外面施釉 外面呉須絵(太白手丸碗)		84-3
49	陶器	皿	-	[1.5]	(4.0)	IK	10	普通	にぶい黄橙	S0	19層 肥前系 外面透明釉 煙付青		84-3
50	陶器	皿	-	[1.2]	(5.4)	I	5	良好	灰白	S0	19層 漢戸美濃系 内外面灰釉 内外面		84-3
51	陶器	灯明皿	(10.1)	[2.3]	-	IK	10	普通	黄灰	S0	19層 漢戸美濃系 内外面柿輪・直重ね 烧付瓶		84-3
52	陶器	片口鉢	-	[4.5]	-	D	10	普通	灰白	S0	14,19層 漢戸美濃系 内外面灰釉		84-3
53	陶器	徳利	-	[1.8]	(7.2)	D	5	普通	灰白	S0	19層 漢戸美濃系 内外面灰釉、底部拭き取り 内面黒化(煤か)		84-3
54	陶器	擂鉢	(30.6)	[9.0]	-	DEI	15	良好	赤	S0	19層 堀明石系 内面擂目		84-3
55	陶器	擂鉢	(31.6)	9.7	(15.0)	DEI	15	良好	赤	S0	19層 堀明石系 内面擂目		84-3
56	陶器	擂鉢	-	[6.1]	-	DG	5	普通	赤褐	S0	19層 堀明石系 底部ナデ 内面擂目		84-3
57	陶器	擂鉢	-	[5.0]	-	EI	5	普通	灰白	S0	13,14層・19層接合 漢戸美濃系 内外面柿輪		84-3
58	陶器	擂鉢	-	[2.4]	-	DEH	5	普通	にぶい黄橙	S0	19層 漢戸美濃系 内外面柿輪 内面擂目		84-3
59	陶器	碗	-	[4.6]	-	E	10	普通	灰白	S0	19層 京都信楽系 内外面透明釉		84-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考		図版
60	磁器	碗	-	[3.0]	-	-	5	普通	白	S0	24層 肥前系 内外面施釉・染付	84-4	
61	磁器	杯	-	[2.0]	-	-	5	良好	白	S0	24層 肥前系 内外面施釉	84-4	
62	陶器	碗	(9.0)	[4.9]	-	I	10	普通	灰白	S0	24層 潤戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄 釉掛け分け (鑄錫碗)	84-4	
63	陶器	碗	-	[2.1]	-	EIK	5	普通	灰白	S0	24層 潤戸美濃系 内外面灰釉 (せんじ 碗)	84-4	
64	陶器	杯	(7.1)	[3.4]	-	DK	15	普通	灰白	S0	24層・25層接合 潤戸美濃系 内外面灰 釉 (指輪皿)	84-4	
65	陶器	皿	-	[2.5]	-	HDK	5	普通	灰白	S0	24層・25層接合 潤戸美濃系 内外面灰 釉 (指輪皿)	84-4	
66	陶器	灯明皿	(8.4)	1.4	(4.8)	DI	10	普通	淡黄	S0	24層 潤戸美濃系 内外面灰釉	84-4	
67	磁器	碗	(9.8)	[3.0]	-	-	5	良好	白	S0	25層 肥前系 内外面施釉 外面染付	84-4	
68	陶器	碗	-	[3.1]	-	EIK	20	普通	灰白	S0	25層 肥前系 内外面灰釉 (貝器手碗)	84-4	
69	陶器	碗	-	[1.7]	3.9	DI	20	普通	灰白	S0	25層 潤戸美濃系 内外面灰釉	84-4	
70	陶器	碗	-	[2.2]	-	I	5	普通	灰白	S0	25層 潤戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄釉 (櫻菊碗)	84-4	
71	陶器	皿	(13.0)	[2.0]	-	I	15	普通	灰白	S0	25層 潤戸美濃系 内外面灰釉 (櫻绘 皿) 65と同一の可能性あり	84-4	
72	陶器	钵	-	[5.2]	-	-	5	良好	灰黄	S0	25層 肥前系 内外面灰釉 内面鉄釉	84-4	
73	磁器	碗	(9.5)	[4.3]	-	-	15	普通	白	S0	26層 肥前系 内外面施釉 外面染付	84-5	
74	磁器	碗	-	[3.6]	-	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施釉 外面染付	84-5	
75	磁器	碗	-	[1.7]	(3.9)	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施釉 外面染付	84-5	
76	磁器	碗	-	[1.9]	-	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施釉 外面染付	84-5	
77	磁器	碗	-	[1.4]	(4.4)	-	5	良好	白	S0	27層 肥前系 内外面施釉	84-5	
78	磁器	碗	-	[2.7]	-	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施釉 外面色驗	84-5	
79	磁器	碗	(7.4)	[4.6]	-	-	30	普通	白	S0	8, 10層・11, 12層・26層で接合 肥前系内 外面施釉・染付 (筒形碗)	84-5	
80	磁器	皿	-	[1.8]	(3.6)	-	5	不良	白	S0	26層 中国景德鎮窯系 内外面施釉・染付 15c後～16c前	83-7	
81	磁器	皿	(12.2)	3.2	4.2	-	45	普通	白	S0	19層・26層接合 肥前系 内外面施釉 内面染付・蛇の目状釉剥落	84-5	
82	磁器	皿	-	[1.2]	(8.4)	-	10	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施釉・染付	84-5	
83	磁器	仏壇器	-	[4.1]	3.8	-	80	良好	白	S0	26層 肥前系 内外面施釉 外面染付	84-5	
84	磁器	灰落し	(5.6)	[7.7]	-	-	10	普通	白	S0	26層 肥前系 口縁部～背面青磁釉	84-5	
85	磁器	油壺	-	[2.7]	-	-	5	普通	白	S0	26層 肥前系 外面施釉・色變 (赤) 少 量煤付着	84-5	
86	陶器	碗	-	[2.3]	(5.5)	I	5	普通	灰白	S0	26層 肥前系 内外面灰釉 (貝器手碗)	84-5	
87	陶器	碗	-	[1.5]	(4.5)	I	5	良好	灰白	S0	26層 肥前系 内外面施釉 内面鉄釉 高台内刻印 (京燒風陶器平碗)	84-5	
88	陶器	天目茶碗	-	[4.7]	-	IK	5	普通	灰白	S0	26層 潤戸美濃系 内外面灰釉 大室第4 段階末	84-5	
89	陶器	碗	-	[1.8]	4.1	IK	10	普通	灰白	S0	26層 内外面鉄釉 (尾呂茶碗)	84-5	
90	陶器	皿	-	[1.4]	(6.0)	DI	10	普通	黄灰	S0	26層 潤戸美濃系 内外面灰釉・鉄釉	84-5	
91	陶器	内充皿	-	[1.2]	(5.3)	I	5	普通	灰白	S0	26層 潤戸美濃系 内外面灰釉 内面底 部抜き取り 大室第4段階 16c後～17c 初	84-5	
92	陶器	皿	-	[1.1]	(6.8)	I	5	良好	灰白	S0	19層・26層接合 潤戸美濃系 内外面灰 釉	84-5	
93	陶器	皿	-	[2.1]	(6.5)	IK	5	良好	灰白	S0	26層 潤戸美濃系 内外面灰釉	84-5	
94	陶器	皿	-	[1.4]	(6.8)	DHK	5	普通	灰白	S0	26層 潤戸美濃系 内外面灰釉	84-5	
95	陶器	皿	-	[1.5]	(10.0)	IK	5	普通	灰白	S0	26層 潤戸美濃系 内外面灰釉 内面摺 絵 (摺絵皿)	84-5	
96	陶器	皿	-	[1.3]	(7.6)	EI	5	良好	灰白	S0	26層 潤戸美濃系 内外面灰釉・目跡 煤付着	84-5	
97	陶器	皿	-	[1.8]	5.3	III	20	良好	灰白	S0	26層 肥前系 内面鋼緑釉・蛇の目状釉 釉剥落・外面透明釉	84-5	
98	陶器	灯明皿	-	[1.6]	(5.0)	EI	10	普通	にぶい橙	S0	26層 志呂系 内外面鉄釉	84-5	
99	陶器	片口鉢	-	[5.6]	(10.1)	EH	10	良好	にぶい橙	S0	26層 肥前系 内外面刷毛目釉	84-5	
100	陶器	鉢	-	[4.3]	-	DI	5	良好	赤褐	S0	26層 肥前系 内外面施釉 内面三島手 文	84-5	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考		図版
101	陶器	鉢	-	[5.0]	(17.6)	EI	10	普通	灰白	S0	26層 肥前系 内外面灰釉 内面鉄輪 (笠原跡)	84-5	
102	陶器	香炉	-	[1.5]	(6.7)	EI	10	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系	84-6	
103	陶器	香炉	-	[1.9]	(4.5)	EK	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 外面灰釉 黒墨	84-6	
104	陶器	甕	-	[3.2]	-	EK	5	普通	褐灰	S0	26層 常滑 内面ヨコナデ 外面降灰 12c 後～13c	84-6	
105	陶器	片口鉢	-	[3.6]	-	DE	5	良好	灰	S0	26層 常滑 内面ヨコナデ 外面磁位ヘ ラナデ 中世 14c 前	84-6	
106	陶器	水注	-	[4.5]	-	DE	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 内外面灰釉	84-6	
107	陶器	徳利か	-	[2.2]	(14.8)	D	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 内外面鉄輪・外面下 位試し取り	83-8	
108	陶器	瓶類	-	[5.0]	-	I	5	良好	灰白	S0	25層・26層接合 肥前系 外面灰釉	84-6	
109	陶器	徳利	-	[4.7]	-	DEI	5	普通	灰白	S0	25層・26層接合 濱戸美濃系 外面灰釉 上位の5輪 (尾呂徳利) 110と同一個体 か	84-6	
110	陶器	徳利	-	[7.1]	-	EIK	5	普通	灰白	S0	19層・24層・25層・26層 (19層と25層接 合, 25層と26層接合) 濱戸美濃系 外 面灰釉 (尾呂徳利)	84-6	
111	陶器	徳利	-	[4.6]	-	EI	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 外面灰釉・うのふ輪 (尾呂徳利) 110と同一個体か	84-6	
112	陶器	徳利	-	[6.0]	-	EHK	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 外面灰釉・うのふ輪 (尾呂徳利) 110と同一個体か	84-6	
113	陶器	香炉	-	[4.2]	-	EHK	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 内外面灰釉 外面の 一部煤付着	84-6	
114	陶器	片口鉢	-	[5.7]	-	IK	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 内外面灰釉	84-6	
115	陶器	擂鉢	-	[3.9]	-	EI	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 内外面鉄輪	84-6	
116	陶器	擂鉢	-	-	-	EHK	5	普通	灰白	S0	26層 縦4.6cm 横4.5cm 最大厚1.7cm 濱戸美濃系 内外面鉄輪・内面擂目 被 熱・煤付着 二次敲打 (円盤状製品転用)	84-6	
117	陶器	擂鉢	-	[3.0]	-	DEK	5	普通	にぶい黄橙	S0	26層 丹波系 内面擂目	84-6	
118	陶器	擂鉢	-	[11.3]	-	D	5	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 内外面鉄輪 内面擂 目	84-6	
119	陶器	擂鉢	-	[12.6]	-	DEG	10	普通	にぶい椎	S0	26層 丹波系 内面擂目	84-6	
120	陶器	擂鉢	-	[7.2]	(13.0)	EHK	15	普通	灰白	S0	26層 濱戸美濃系 底部糸切痕 内外面 鉄輪・目跡 内面擂目	84-6	
121	土製品	埴輪	-	[2.6]	-	I	5	普通	灰	S0	26層 外面施化		
122	磁器	碗	-	[1.7]	-	-	5	普通	白	S0	27層 中国景徳鎮系か 内外面施輪 外 面染付	84-7	
123	磁器	碗	-	[1.9]	-	-	5	普通	白	S0	27層 肥前系 内外面施輪 外面染付	84-7	
124	磁器	碗	-	[2.5]	-	-	5	普通	白	S0	26層・27層接合 肥前系 内外面施輪 外面染付	84-7	
125	磁器	皿	-	[1.7]	(4.9)	-	10	普通	白	S0	27層 肥前系 内外面施輪 内面染付 (初期伊万里様式)	84-7	
126	磁器	皿	-	[1.8]	(5.0)	-	10	良好	白	S0	27層 肥前系 内外面施輪 内面蛇の目 状釉剝	84-7	
127	磁器	仏飯器	-	[3.2]	(4.2)	-	30	普通	白	S0	27層 肥前系 外面施輪・染付	84-7	
128	陶器	皿	-	[1.5]	(7.6)	EHK	10	普通	灰白	S0	27層 濱戸美濃系 内外面長石釉 内面 鉄輪 (鉄繪志野里)	84-7	
129	陶器	皿	-	[3.2]	-	IK	5	普通	白	S0	26層・27層接合 肥前系 内面鋼緑釉 外面透明釉 被熱	84-7	
130	陶器	鉢	-	[2.8]	(9.1)	DEH	5	普通	にぶい椎	S0	27層 肥前系 内外面灰釉 外面鉄化粧 被熱・多く付着 (三馬手鉢)	84-7	
131	陶器	鉢	-	[3.7]	-	EI	5	良好	赤	S0	26層・27層接合 肥前系 内面刷毛目釉	84-7	
132	陶器	擂鉢	-	[2.8]	-	DEK	5	良好	灰	S0	27層 丹波系 内面擂目	84-7	
133	陶器	擂鉢	-	[3.3]	-	DEK	5	良好	灰白	S0	27層 丹波系 内面擂目	84-7	
134	陶器	擂鉢	-	[4.1]	-	DEK	5	普通	明褐色	S0	27層 丹波系 内面擂目	84-7	
135	陶器	擂鉢	-	[4.0]	-	EHK	5	良好	灰白	S0	27層 濱戸美濃系 内外面柿輪	84-7	
136	陶器	擂鉢	-	[4.1]	-	EHI	5	普通	灰白	S0	27層 濱戸美濃系 内外面柿輪	84-7	
137	陶器	香炉	(11.0)	[5.5]	-	I	10	良好	灰白	S0	27層 濱戸美濃系 内外面鉄輪 外面下 位煤付着 (使用による)	84-7	
138	陶器	徳利	-	[4.3]	(13.4)	HI	10	普通	灰白	S0	27層 濱戸美濃系 外面柿輪・底部ふき とり・室道具瓶	84-7	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
139	陶器	瓶類	-	[3.2]	-	I	5	良好	灰白	S0	26層・27層接合 肥前系か 外面灰釉	84-7
140	瓦質土器	火鉢	-	[1.0]	-	CHI	5	普通	にぶい橙	S0	27層 砂目底 やや酸化炎焼成	84-7

期)の整地面と思われる。

整地面⑦は、18世紀第Ⅰ四半期(栗橋2期後半)の整地面と思われる。

なお、現地調査の段階では整地面⑦以下の層(26層)を寛保の洪水(1748)のものと推定したが、陶磁器の年代観からみれば、整地面⑥上層の24層が寛保の洪水層に比定されよう。26層以下はそれ以前の18世紀前葉の洪水に関わる層と推定される。

第190~192図には、道路跡掘削中に一括で取り上げられた遺物を示した。

1は肥前系磁器の粗製丸碗である。外面に染付が施される。2は肥前系磁器の小丸碗で、外面に紅葉、内面底部に五弁花文を染付している。3は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。口縁部の反りは大きくやや薄手である。外面ともに染付が施される。4は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。外面に鶴文を染付する。5は肥前系磁器の紅皿で、外面に貝殻状の筋を有する。6は肥前系磁器の小型の皿で、内面に草花文を染付する。

7~9は肥前系磁器の皿で、7は口縁部が端反になる輪花状のものである。見込みに一枚絵で松の葉の文様などを染付するものらしい。8・9は同文の皿で、腰が張り高台は断面三角形で小さい。外面には一重の唐草文、内面には底部に文字を染付ける。最初の一文字は崩されるが、素直に読めば「行田屋」であろう。屋号文を染付する皿は、栗橋宿跡では「とら屋」「板屋」「吉田屋」が認められているが、「行田屋」は初見である。栗橋宿以外の屋号かもしれない。

10は肥前系磁器の鉢で、大振りの楕形を呈する。粗製の波佐見系のものである。外面に崩れた梅樹文、内面は蕪文を染付する。高台内は「渦福」文である。11は肥前系磁器の筒形を呈する

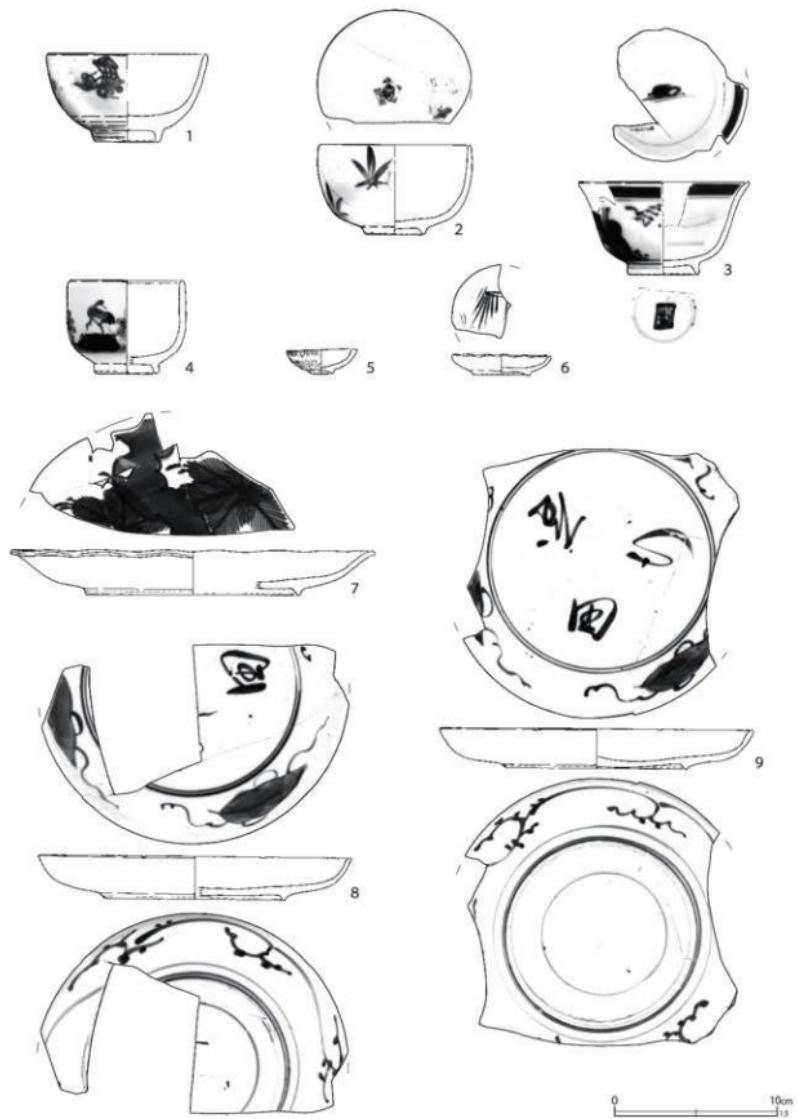
香炉ないし火入れの類である。内外面ともに雲文が染付される。12は肥前系磁器の段重である。13は色絵が施された油壺の破片である。14は肥前系磁器の皿の口縁部破片である。15は肥前系磁器の蓋物の蓋である。外面を染付で上下に区画してその中に、斜格子・亀甲文を充填するように染付ける。16も肥前系磁器の蓋で、外面に色絵が施されている。

17は肥前系陶器の京焼風碗で、高台内に「森」かと思われる刻印の一部が残る。18・19は瀬戸美濃系磁器のせんじ碗である。20は京都信楽系陶器のせんじ碗で、鉄絵が施されている。21は大堀相馬系陶器と考えられる灰釉端反碗である。22は瀬戸美濃系陶器の坏で、灰釉が施されている。23は京都信楽系陶器の坏で、「浅紅」銘を有すものと思われる。浅草紅粉屋諫藏に関わる紅猪口とみられる資料(岩浪2021・村山2021・2022)である。

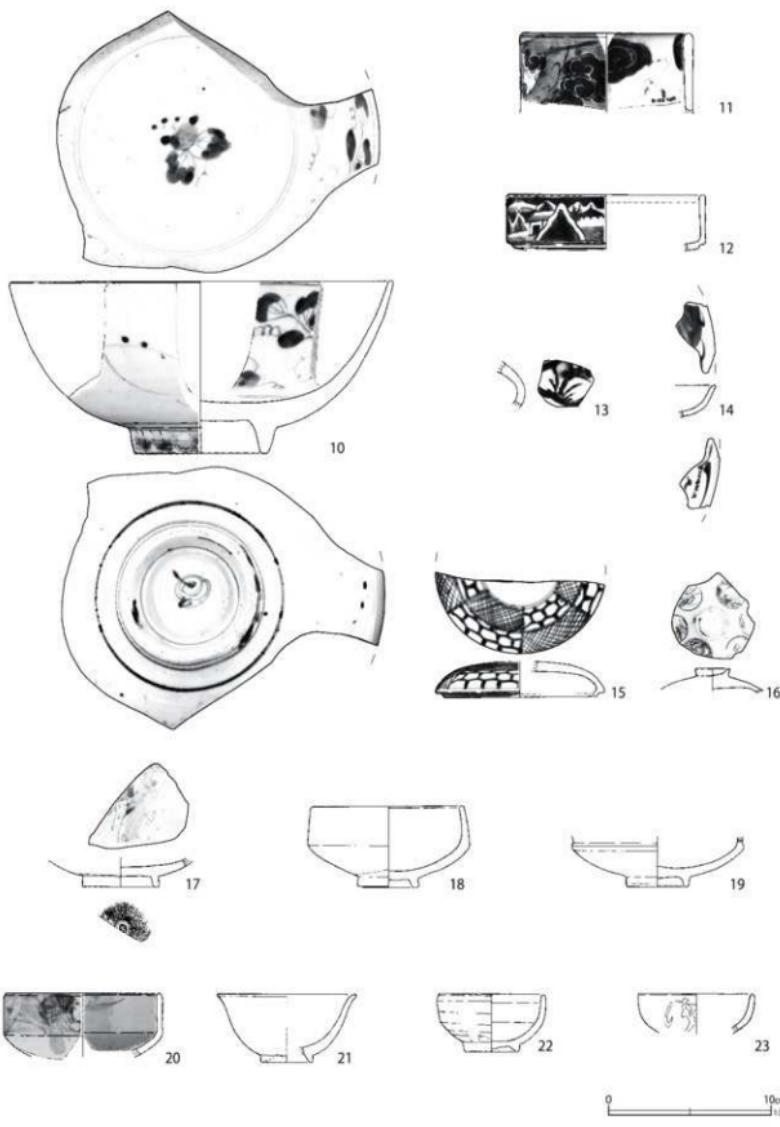
24は陶器の秉燭である。底部は右回転の糸切痕、中心に貫通しない孔を有す。25は柿釉を施す鉢で、胎土は灰色・炻器質である。瀬戸美濃系陶器と考えられる。26は陶器の転用品(円盤状製品)である。27は瀬戸美濃系陶器の片口鉢、28・29は瀬戸美濃系陶器の徳利である。30は陶器の合子蓋である。31は陶器の蓋で、水注の蓋と思われる。32は土師質土器で、焼塩壺の蓋である。33は瓦質土器の火鉢で、平面形が正方形になるものである。

第193図は瓦類で、軒瓦を中心図示したが、6は円盤状の転用品である。

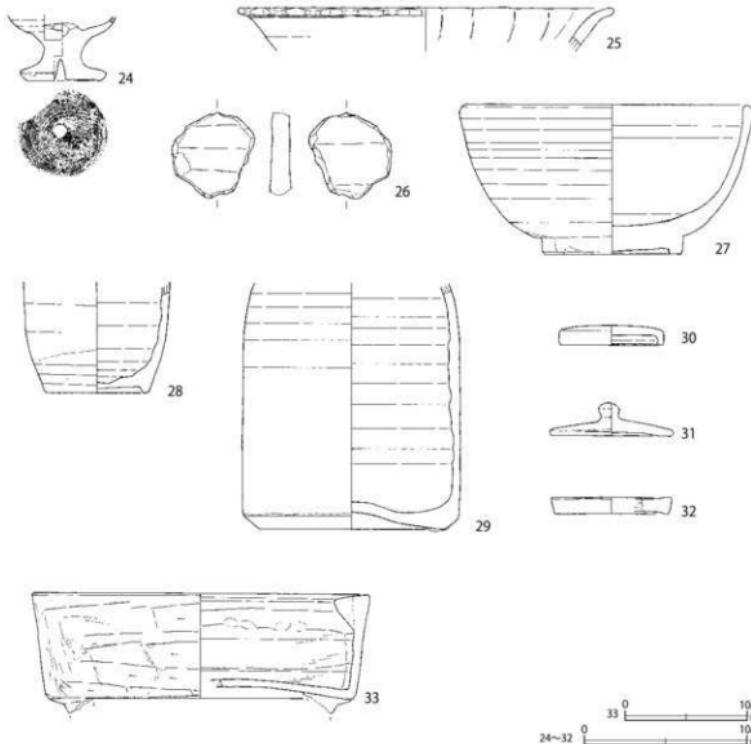
第194図は金属製品、第195図は石製品である。第196図は木製品で、7が道路下層で検出された白である。層位的な所見から、18世紀前葉以前のものと思われる。



第190図 道路跡出土遺物（10）



第191図 道路跡出土遺物 (11)

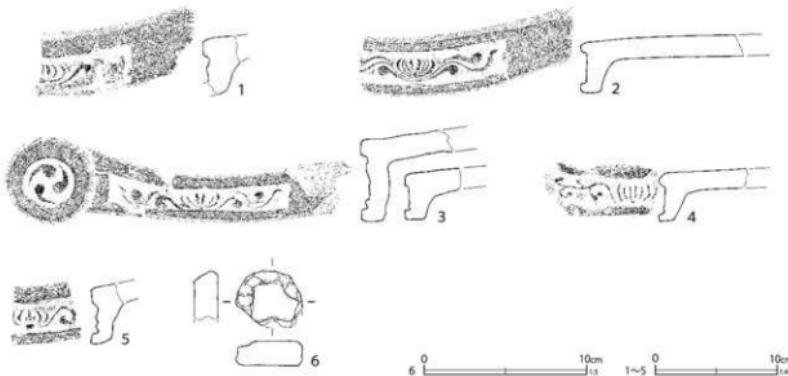


第192図 道路跡出土遺物 (12)

第99表 道路跡出土遺物観察表 (2) (第190~192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	始土	残存	焼成	色調	遺構	備考			図版
											内面施釉	外面染付	内面染付	
1	磁器	碗	9.6	5.4	3.7	-	70	普通	白	S0	肥前系	内面施釉	外面染付	
2	磁器	碗	(9.1)	5.5	3.5	-	50	普通	白	S0	肥前系	内面施釉・染付	「小丸碗」	
3	磁器	碗	(10.3)	5.7	4.1	-	45	良好	白	S0	漸戸美濃系	内面施釉	染付 (端反碗)	
4	磁器	碗	(6.8)	5.7	(3.7)	-	45	普通	白	S0	漸戸美濃系	内面施釉	外面染付 (湯呑形碗)	
5	磁器	紅皿	4.4	1.5	1.2	-	100	普通	白	S0	肥前系	型成形	内面施釉 外面型押施文	
6	磁器	皿	(5.8)	1.2	(3.4)	-	20	普通	白	S0	肥前系	内面施釉	内面染付 小型	
7	磁器	皿	(22.0)	2.7	(13.0)	-	20	普通	白	S0	肥前系	内面施釉	内面染付 烧き織ぎ痕	
8	磁器	皿	(19.0)	2.6	(11.0)	-	35	普通	白	S0	肥前系	内面施釉・染付 「行」田屋		82-1
9	磁器	皿	(19.0)	2.4	11.0	-	60	普通	白	S0	肥前系	内面施釉・染付 「行」田屋		82-1
10	磁器	鉢	(23.2)	10.5	7.9	-	40	普通	白	S0	肥前系	内面施釉・染付		
11	磁器	香炉	(10.0)	[4.9]	-	-	10	良好	白	S0	肥前系	内面施釉・染付		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
12	磁器	段重	(12.0)	[3.4]	-	-	20	良好	白	S0	肥前系 内外面施釉 外面染付	
13	磁器	油壺	-	[2.8]	-	-	5	良好	白	S0	肥前系 外面施釉・染付・色絵 被熱	82-2
14	磁器	皿	-	[2.0]	-	-	5	普通	白	S0	肥前系 内外面施釉・染付	
15	磁器	蓋	-	[2.2]	[9.2]	-	45	普通	白	S0	肥前系 内外面施釉 外面染付 漆縫痕	
16	磁器	蓋	2.0	[1.4]	-	-	50	良好	白	S0	肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤・緑)	82-3
17	陶器	碗	-	[1.9]	(4.6)	H	10	普通	灰白	S0	肥前系 内外面灰釉 高台内側印「森」	
18	陶器	碗	9.2	5.0	3.0	I	85	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 内外面灰釉 (せんじ碗)	
19	陶器	碗	-	[3.1]	3.6	-	40	良好	灰白	S0	瀬戸美濃系 内外面灰釉 (せんじ碗)	
20	陶器	碗	(9.4)	[3.9]	-	I	10	普通	灰白	S0	京都信楽系 内外面透明釉 外面鉄輪・上給付(緑)(せんじ碗)	82-4
21	陶器	碗	(8.3)	4.2	(3.2)	HII	25	良好	灰白	S0	大堀相馬系 内外面難白釉 (貫入多い)	
22	陶器	环	6.4	3.6	3.1	I	95	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 内外面灰釉 高台部煤付着	
23	陶器	环	(7.0)	[2.4]	-	-	15	良好	灰白	S0	京都信楽系 内外面透明釉 上外面給付(文様)「浅」	82-5
24	陶器	秉燭	-	[4.0]	4.4	IK	70	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 底部系切痕(右) 内外面鉄釉	
25	陶器	鉢	(22.8)	[2.6]	-	I	5	良好	明紫灰	S0	瀬戸美濃系 内外面袖釉 (一部灰釉状に変色) 内面施文 胎土伝器質	82-6
26	陶器	鉢	-	-	-	EGI	5	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 内外面灰釉 二次利用 (円盤状製品) 径5.2cm 横5.1cm	
27	陶器	片口鉢	(17.2)	(9.2)	8.4	I	60	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3	
28	陶器	傳利	-	[6.8]	5.7	I	30	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 内外面灰釉 下位拭き取り	
29	陶器	傳利	-	[15.1]	11.4	DII	15	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 外面袖釉・底部拭き取り・目跡3 上下接点ない2級片から図上復元	
30	陶器	蓋	6.5	1.2	6.4	EK	100	良好	灰白	S0	瀬戸美濃系 上面灰釉 被熱・黒化	
31	陶器	蓋	-	2.0	(7.4)	I	80	普通	灰白	S0	瀬戸美濃系 上面灰釉 被熱・下面煤付着	82-7
32	土師質土器	蓋	(7.3)	[1.0]	(7.0)	AHII	20	普通	にぶい概	S0	上面掌状压痕 弱く被熱・赤変	
33	瓦質土器	火鉢	(27.4)	[9.8]	(25.0)	CHII	30	普通	灰白	S0		

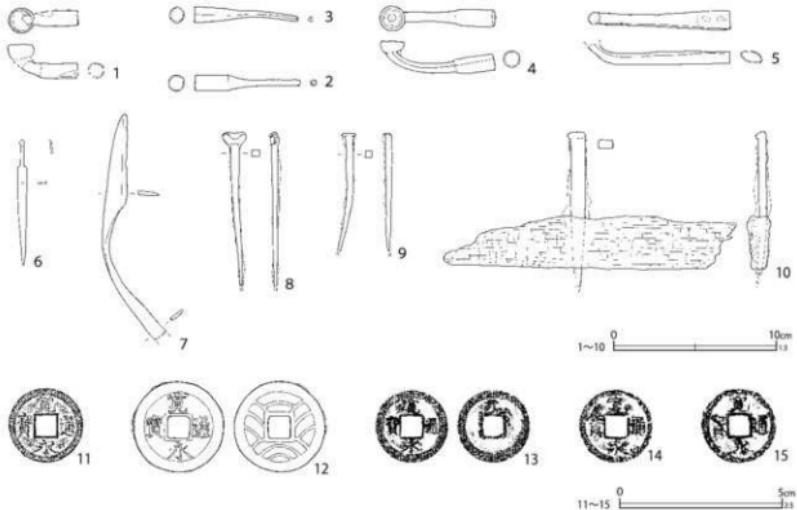


第193図 道路跡出土遺物(13)

第100表 道路跡出土遺物観察表(3)(第193図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棟瓦	[3.5]	[13.6]	-	CEK	普通	灰白	S0	8・5層	
2	瓦	軒棟瓦	[13.3]	[18.0]	-	ACEI	良好	灰白	S0		249-5

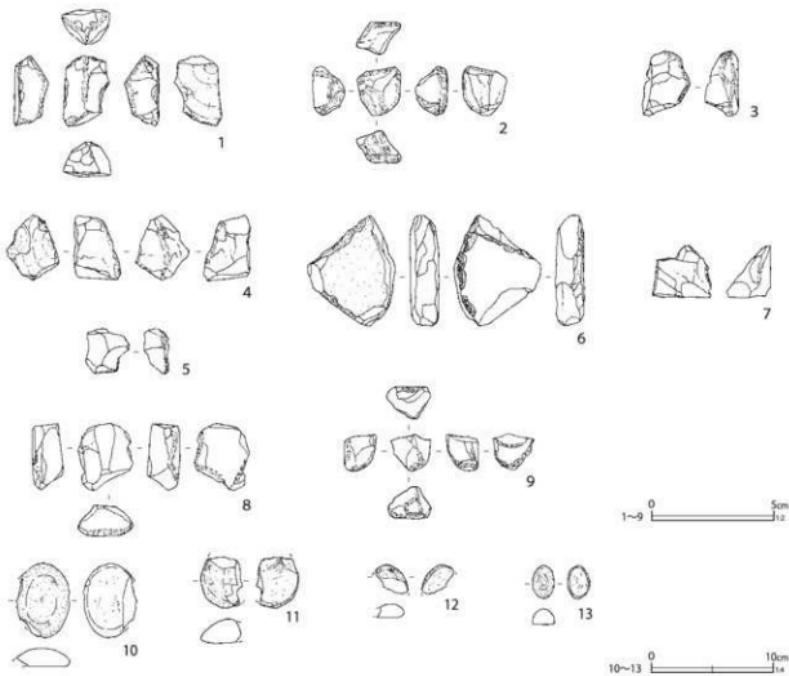
番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	造構	備考	図版
3	瓦	軒棟瓦	[7.5]	28.1	6.3	AEIK	良好	灰白	S0	右巻き	
4	瓦	軒棟瓦	[7.8]	[10.1]	-	EIJ	不良	灰白	S0	胎土や竿粉失	
5	瓦	軒棟瓦	[2.7]	[5.9]	-	EIJ	普通	灰白	S0		
6	瓦	軒用瓦	-	-	-	AEIK	良好	灰白	S0	19層 円盤状に加工 直径5.4cm	



第194図 道路跡出土遺物 (14)

第101表 道路跡出土遺物観察表 (4) (第194図)

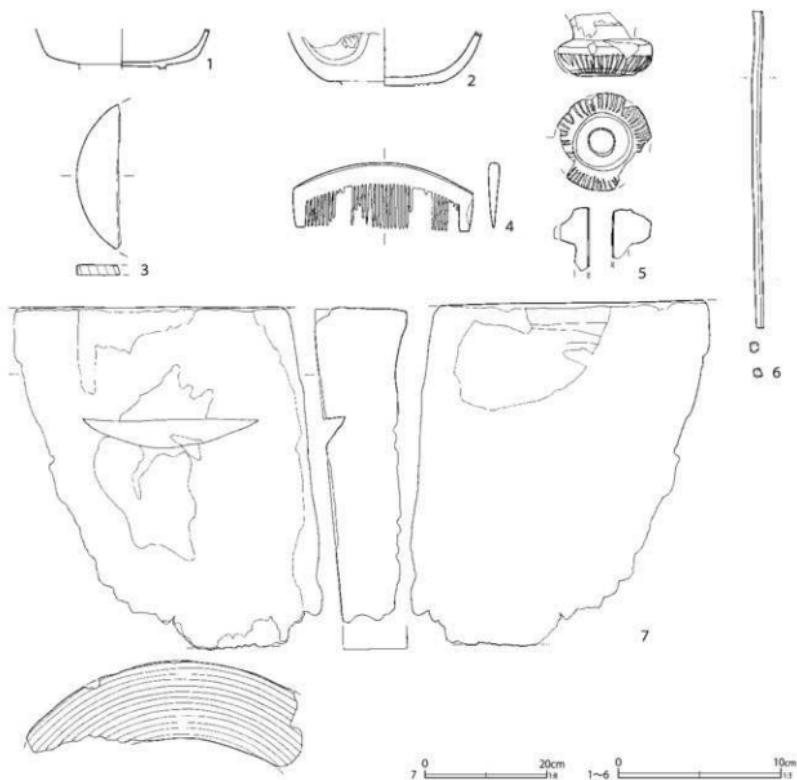
番号	種別	器種	法量	造構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ(4.3) 火皿径1.6×1.5 小口径1.0 重さ4.0	S0	25層 烟首一部欠損	
2	銅製品	煙管	長さ6.5 小口径1.0 口付径0.4 重さ4.3	S0	25層 吸口	273-1
3	銅製品	煙管	長さ6.4 小口径0.9 口付径0.3 重さ4.6	S0	14・19層 吸口	273-1
4	銅製品	煙管	長さ7.1 火皿径1.5 小口径1.0 重さ9.1	S0	27層 烟首	273-1
5	銅製品	煙管	長さ[8.8] 小口径1.3×0.7 重さ10.7	S0	26層 烟首 火皿欠失し倒れる	
6	銅製品	簪	長さ7.7 幅0.5 厚さ0.1 重さ2.7	S0	19層 耳かき部分(別造り)	274-1
7	鉄製品	握鉗	長さ[13.9] 刃幅1.3 背幅0.3 重さ13.8	S0	片刃のみ 大きく変形	
8	鉄製品	釘	長さ[9.5] 幅0.5 厚さ0.4 重さ6.7	S0		
9	鉄製品	釘	長さ[7.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.1	S0		
10	鉄製品	釘	長さ[9.6] 幅0.9 厚さ0.5 重さ29.0	S0	木に打ち込まれる	
11	銅製品	錢貨	径23.2 厚さ1.1 重さ3.1	S0	26層 寛永通寶(古)	
12	銅製品	錢貨	径28.4 厚さ1.2 重さ4.9	S0	寛永通寶(新) 11波	
13	銅製品	錢貨	径22.6 厚さ1.0 重さ1.8	S0	19層 寛永通寶(新) 背元	
14	銅製品	錢貨	径22.8 厚さ1.0 重さ2.1	S0	6層 寛永通寶(新)	
15	銅製品	錢貨	径23.1 厚さ1.1 重さ2.7	S0	14・19層 寛永通寶(新)	



第195図 道路跡出土遺物 (15)

第102表 道路跡出土遺物観察表 (5) (第195図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	2.9	1.9	1.4	7.7	玉髓	S0	6, 7層 横の慣れ著しい 打削痕遺存	284-3
2	石製品	火打石	2.0	1.8	1.3	5.1	石英	S0	11, 12層 横の慣れ著しい	284-3
3	石製品	火打石	2.6	1.9	1.4	6.5	玉髓	S0	24層 横の慣れ著しい	284-3
4	石製品	火打石	2.7	2.2	1.9	9.3	チャート	S0	26層 横の慣れあり 打削痕1あり	284-3
5	石製品	火打石	1.9	1.8	1.0	2.9	チャート	S0	26層 使用痕あり	284-3
6	石製品	火打石	4.5	3.6	1.2	24.6	チャート	S0	27層 横の慣れあり	284-3
7	石製品	火打石	2.1	2.4	1.8	8.6	チャート	S0	27層 使用痕あり	284-3
8	石製品	火打石	2.7	2.3	1.3	9.4	石英	S0	27層 横の慣れあり	284-3
9	石製品	火打石	1.5	1.6	1.3	3.3	玉髓	S0	27層 横の慣れ著しい	284-3
10	石製品	磨石	6.1	[4.4]	1.5	17.4	角閃石安山岩	S0	多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1
11	石製品	磨石	[4.2]	[3.4]	2.0	15.5	角閃石安山岩	S0	19層 多孔質 自然面遺存 使用面2 線状痕あり	284-1
12	石製品	磨石	[2.4]	[2.6]	[1.1]	2.6	角閃石安山岩	S0	24層 多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1
13	石製品	磨石	2.7	1.8	1.3	3.3	角閃石安山岩	S0	27層 多孔質 自然面遺存 使用面1	284-1



第196図 道路跡出土遺物 (16)

第103表 道路跡出土遺物観察表 (6) (第196図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考		図版
											18	13	
1	木製品	漆桶	-	-	-	-	[2.5]	-	横木取り	SO	26層 内外面赤漆		
2	木製品	漆桶	-	-	-	-	[3.2]	-	横木取り	SO	25層 外面黒漆に朱で紋3箇所 内面赤漆		
3	木製品	曲物	8.9	[2.6]	0.6	-	-	-	極目	SO	26層		
4	木製品	櫛	11.0	4.0	0.6	-	-	-	極目	SO	8・10層		
5	木製品	傘	-	-	-	6.0	[3.9]	-	削出	SO	26層 ろくろ		
6	木製品	箸	19.3	0.5	0.6	-	-	-	削出	SO	8・10層		
7	木製品	白	56.4	[46.3]	15.0	-	-	-	芯持材	SO	24～28層 炭化		

## 6 土壌

第一面では、土壌311基が検出された。位置、規模等の基本的な情報は第104表に示す。

以下、検出された区画ごとに土壌の様相をみていきたい。区画名称は、現地調査時に設定した南からの仮の区画名「第1～9区画」を冠するが、栗橋宿跡全体での区画の通し番号「区画S～

AA」も( )内に付した。各区画の土壌のうち、特徴的な土壌について、最初に個別に記載する。その他の土壌については区画ごとに遺構図・遺物図をまとめて提示した。なお、本書では第1～7区画の土壌を報告し、第8・9区画の土壌については、次年度以降に報告予定である。

第104表 第一面土壌一覧表 単位：m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種図
1	2	F7-A6/7	長方形	3.30	1.20	0.50	N-72°-E	SK40/56/57 重複	227
2	2	F7-A6	不整形	1.10	0.75	0.15	N-50°-E	SK3より新	227
3	2	F7-A6	圓丸長方形	1.60	0.80	0.15	N-78°-E	SK2より古 SK19/56 重複	227
4	2	F7-A6	圓丸長方形	1.75	1.00	0.35	N-73°-E	SK37・F7-A6 P2 重複	213
5	2	F7-A6	圓丸長方形	1.30	0.85	0.25	N-68°-E		227
6	2	F7-A6	圓丸長方形	0.90	(0.30)	0.10	N-78°-E	SK23より古	227
7	2	F7-A6	不整形	(1.00)	0.45	0.05	N-60°-E	SK23 重複	227
8	2	F7-A6	圓丸長方形	1.00	0.60	0.15	N-70°-E		227
9	2	F7-A6	不整形	0.75	0.20	0.05	N-77°-E	SD15a 重複	227
10	2	F7-A5	圓丸長方形	1.25	0.55	0.15	N-70°-E		227
11	2	F7-A5	圓丸長方形	0.90	0.60	0.10	N-70°-E	SD15a 重複	228
12	2	F7-A5	圓丸長方形	1.80	1.35	0.30	N-80°-E	桶有り	228
14	2	F7-A5	不整形	1.00	0.55	0.20	N-15°-E		228
16	2	F7-A6	円形	0.45	0.40	0.10	N-12°-E	F7-A6 P3 重複	228
17	2	F7-A6	不整形	1.60	1.15	0.15	N-13°-E	SD1・SK18より古	228
18	2	F7-A6	圓丸長方形	1.25	0.85	0.15	N-13°-E	SD1より古 SK17より新	228
19	2	F7-A6	圓丸長方形	0.50	0.50	0.30	N-62°-E	SK3 重複	228
20	2	F7-A5	圓丸方形	0.57	0.52	0.20	N-70°-E		228
21	2	F7-A6	圓丸長方形	5.35	1.60	0.50	N-72°-E	桶4・SK45より古 SK44/49/192より新	229
22	2	F7-A5	圓丸長方形	1.00	0.60	0.20	N-70°-E		228
23	2	F7-A6	梢円形	0.90	0.40	0.15	N-78°-E	SK6より新 SK7 重複	227
24	2	F7-A5	圓丸長方形	0.75	0.60	0.10	N-22°-E	SD15a 重複	228
25	2	F7-A6	圓丸長方形	0.96	0.62	0.15	N-65°-E		228
26	2	F7-A6	圓丸長方形	1.80	0.75	0.13	N-67°-E	SK27/64より新	228
27	2	F7-A6	梢円形か	0.45	0.10	0.10	N-67°-E	SK26より古	228
28	3	E7-J6	梢円形	0.90	0.50	0.10	N-85°-E	SB4より新	37-39
31	2	F7-A6	不整梢円形	1.00	0.70	0.50	N-72°-E	SD15a 重複	228
32	3	E7-J6	梢円形	0.60	0.50	0.10	N-10°-E	SB4・SK35より新	282
33	3	E7-J6	円形	0.33	0.31	0.10	-		282
34	3	E7-J6	不整形	0.40	0.30	0.05	N-53°-E		282
35	3	E7-J6	圓丸長方形	2.95	1.32	0.15	N-72°-E	SK32/54より古 SB4より新	282
36	2	F7-A6	不整形	0.45	0.45	0.10	N-82°-E	SK99 重複	229
37	2	F7-A6	梢円形	0.75	0.40	0.10	N-72°-E	SK4 重複	229
38	3	E7-J6	圓丸長方形	1.05	0.60	0.20	N-71°-E		282
39	3	F7-A6	梢円形	0.90	0.75	0.20	N-72°-E		282
40	2	F7-A7	梢円形	2.40	1.55	0.42	N-70°-E	SK1 重複	229
41	2	F7-A5/6	圓丸長方形	3.10	0.60	0.10	N-70°-E	SK52より新 SK295 重複	229
42	3	F7-A5	梢円形	0.75	0.60	0.30	N-85°-E	SK50 重複	282
43	3	F7-A5	不整形	0.50	0.45	0.10	N-18°-E		282
44	2	F7-A6	圓丸長方形	2.20	1.95	0.50	N-15°-E	SD1・SK21/45より古	229
45	2	F7-A6	圓丸長方形	1.10	0.90	0.40	N-20°-E	SD1より古 SK21/44より新	229
46	3	E7-J5	円形	0.90	0.90	0.10	-	SK48/305より新	282
47	3	E7-J5	圓丸方形	0.75	0.65	0.20	N-50°-E	SK48 重複	282
48	3	E7-J5	圓丸方形	1.70	1.70	0.10	N-15°-E	SK46より古 SK305より新 SK47 重複	282

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
49	2	F7-A6	囲丸長方形	0.85	(0.65)	0.23	N-20°-W	SD1・SK21 より古 SK192 より新	229
50	3	E7-J5 F7-A5	囲丸長方形	3.45	1.70	0.35	N-70°-E	SK42/75・F7-A5 P1 重複	270
51	2	F7-A5	囲丸方形	0.55	0.50	0.10	N-75°-E	SD1 より新	230
52	2	F7-A5/6	不整形	1.60	1.20	0.45	N-70°-E	SK41 より古	229
53	2	F7-A6	囲丸方形	0.80	0.80	0.20	N-70°-E	SK64 より新	230
54	3	E7-J6	不整形	0.93	0.80	0.15	N-72°-E	SB4・SK35 より新 SE1 重複	282
55	2	F7-A5	囲丸方形	0.85	0.85	0.35	N-25°-W	SD1 より古	230
56	2	F7-A6	囲丸長方形	(0.85)	0.70	0.40	N-55°-E	SK1/3 重複	230
57	2	F7-A6	楕円形	(0.40)	0.35	0.20	N-74°-E	SK1 重複	230
58	2	F7-A6	囲丸長方形か	1.05	(0.30)	0.20	N-72°-E	SD1 より古	230
62	3	E7-J5/6	不整形	1.40	0.57	0.20	N-70°-E	SB4 より新	37-39
63	3	E7-J5	円形	0.80	0.75	0.40	-		283
64	2	F7-A6	囲丸長方形	1.95	0.45	0.13	N-72°-E	SK26/53 より古	230
65	1	F7-A7	囲丸長方形	2.45	0.65	0.15	N-18°-W		207
66	1	F7-A7	楕円形	1.75	1.00	0.30	N-17°-W	SK134 重複	197
68	3	E7-J6	長楕円形	1.75	0.55	0.20	N-70°-E		283
69	2	F7-A6	不整形	0.80	0.70	0.20	N-77°-E		230
70	3	E7-J6	円形	[0.30]	0.28	0.20	-	SB4 より新 SB4 の基礎石の抜き取り穴か	37-39
71	3	E7-J5	不整形	1.30	0.60	0.05	N-26°-W	SD2 より古	283
72	3	F7-A5	不整形	1.00	0.75	0.30	N-25°-W	SK125 重複	283
73	3	F7-A5	囲丸長方形	0.60	0.45	0.10	N-72°-E	SD4 重複	283
74	2	F7-A5	囲丸長方形	0.95	0.60	0.15	N-12°-W	SD16 重複	230
75	3	F7-A5	楕円形	(0.40)	0.40	0.15	N-10°-W	SD1・SK50 重複	283
77	3	E7-J6	囲丸長方形	1.50	0.85	0.05	N-72°-E	SK80/81 より新 E7-J6 P1 重複 SD16 重複	283
78	3	E7-J6/7	不整形	0.80	0.55	0.05	N-60°-E	SK268 重複	274
79	3	E7-J7	楕円形	0.70	0.60	0.20	N-80°-W		274
80	3	E7-J6	楕円形	0.57	0.35	0.07	N-72°-E	SK77 より古	283
81	3	E7-J6	楕円形	0.55	0.35	0.07	N-72°-E	SK77 より古	283
82	3	E7-J6	囲丸長方形	1.50	0.85	0.40	N-32°-W	SK119 重複	283
83	2	F7-A6	楕円形	0.73	0.46	0.05	N-78°-E		230
84	2	F7-A7	囲丸長方形	0.75	0.50	0.03	N-18°-W		230
85	3	F7-A5	楕円形	0.95	0.35	0.10	N-25°-W		276
86	3	F7-A5	楕円形	1.00	0.70	0.20	N-75°-E	SK87 より新 SD4 重複	283
87	3	F7-A5	囲丸方形	1.15	(1.05)	0.25	N-70°-E	SK86 より古 SD4 重複	283
88	2	F7-A7	囲丸方形	0.70	0.70	0.15	N-5°-W		230
90	2	F7-A7	囲丸長方形	0.45	0.35	0.25	N-28°-W		230
91	2	F7-A7	囲丸方形	0.60	0.60	0.15	N-45°-E		230
92	2	F7-A7	円形	0.40	0.40	0.20	N-65°-E		230
93	3	E7-J5	楕円形	0.60	0.30	0.10	N-40°-E		283
94	3	E7-J7	円形	1.25	1.22	0.20	-		283
95	2	F7-A5	楕円形	0.90	(0.65)	0.10	N-80°-W	SD1・SK117 より新	231
96	3	E7-J7	楕円形	0.75	0.68	0.10	N-32°-E		283
97	3	E7-J7	囲丸長方形	1.35	1.20	0.65	N-70°-E	SK98 より古	284
98	3	E7-J7	不整形	(0.70)	(0.70)	0.20	N-70°-E	SK97 より新 SD4 重複	284
99	2	E7-J6 F7-A6	囲丸長方形	(1.60)	1.45	0.60	N-76°-E	SK122 より古 SK36 重複	217
100	3	E7-J6	不整形	(0.55)	0.33	0.10	N-20°-W	SD4 重複	284
101	6	E7-I4	囲丸長方形	6.05	1.45	0.65	N-76°-E		477
102	6	E7-H4, 14	長楕円形	4.65	2.20	0.60	N-55°-E	SK286 より新	483
105	7	E7-H4	囲丸長方形	2.99	1.77	0.75	N-73°-E	SB8 より新	509
106	7	E7-H4	囲丸長方形	2.42	1.92	0.60	N-15°-W	SK264 より新	559
107	7	E7-H4	囲丸方形	3.10	(2.00)	0.58	N-6°-W		559
108	8	E7-G4/5	不整長方形	3.96	1.45	0.87	N-66°-E		589
109	6	E7-H4/5	囲丸長方形	0.85	0.70	0.10	N-20°-W	SK281 重複	490
110	7	E7-G5, H4	囲丸長方形	2.38	1.49	0.80	N-71°-E	SB8 より新	559
111	7	E7-H4/5	囲丸方形	1.84	1.70	0.30	N-19°-W	SB8・SK112 より新	559
112	7	E7-H4/5	不整形	3.09	2.62	0.52	N-71°-E	SK111 より古 SB8 より新	559

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
114	3	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	0.70	0.45	0.10	N-70°-E	SD4 より新	284
116	3	E7-J6	楕円形	0.50	0.47	0.10	N-72°-E	SB4 より新 SB4 の基礎石の抜き取り穴か	37-39
117	2	F7-A5	隅丸長方形	1.60	1.10	0.30	N-20°-E	SD1・SK95 より古	231
118	2	F7-A6	隅丸方形	0.70	0.65	0.15	N-80°-E	SK280 重複	231
119	3	E7-J6	隅丸方形	1.10	1.00	0.13	N-10°-E	SK82 重複	284
120	4	E7-J5	隅丸長方形	1.76	(1.00)	0.27	N-73°-E	SD2・SK194/306 重複	299
121	7	E7-H5	隅丸長方形	2.45	0.98	1.10	N-15°-E		556
122	2	E7-J6/7 F7-A6/7	不整形	4.00	4.00	(1.00)	-	SK99 より新 SD1/4/16 重複	222
124	3	F7-A5	楕円形	(0.50)	0.50	0.25	N-10°-E	SD4 重複	283
125	3	F7-A5	楕円形	0.50	0.43	0.30	N-52°-E	SK72 重複	284
126	3	F7-A5	隅丸長方形	1.20	0.62	0.05	N-80°-E		284
127	3	E7-J5	隅丸長方形	1.00	0.80	0.05	N-42°-E		284
128	3	F7-A5	楕円形	0.60	0.45	0.25	N-46°-E		284
129	3	E7-J6	不整形	1.20	(1.00)	0.30	N-42°-E	SB4 より古	284
130	3	F7-A5	隅丸長方形	0.40	0.30	0.15	N-73°-E		284
131	1	F7-A6/7	隅丸長方形	(2.96)	1.10	0.40	N-73°-E	SB2 より新 SB1 重複	202
132	1	F7-A7	隅丸長方形	1.65	1.00	0.30	N-20°-E	SB2 重複	207
134	1	F7-A7	不整形	(1.65)	1.00	0.20	N-17°-E	SK66 重複	207
135	4	E7-J4	隅丸方形	2.65	(1.95)	0.55	N-18°-E	SK136/137/149 重複	343
136	4	E7-J4/5	不整形	2.01	1.40	0.38	N-50°-E	SK160/296/322 より新 SK135/151 重複	343
137	4	E7-J4/5	隅丸方形	0.94	1.28	0.38	N-20°-E	SK135/149 重複	343
138	4	E7- I5/6, J5/6	隅丸方形	1.17	1.02	0.25	N-73°-E	SB7 整地層重複	343
139	4	E7-J5	長方形	2.73	1.59	0.73	N-71°-E	SB7・SK146/194/299/302 重複	343
140	4	E7-J5	隅丸長方形	2.05	1.28	0.36	N-80°-E		343
141	4	E7-16	不整形	1.60	(0.80)	0.18	N-23°-E	SK142/145a/145b/294/297・SB7 整地層重複	303
142	4	E7-16	隅丸長方形	2.30	0.69	0.65	N-17°-E	SK141/145a/145b/297・SB7 整地層重複	343
143	4	E7-16	不整形	(1.85)	1.57	0.25	N-64°-E	SK144/145Bb/197/199 重複	343
144	4	E7-16	不整楕円形	2.48	(0.89)	0.25	N-23°-E	SK145a/145b より新 SK143/200 重複	343
145n	4	E7-16, J6	不整形	3.51	3.35	0.61	N-15°-E	SK144 より古 SK146b より新 梯8・SB7・SK141/142 重複	311
145b	4	E7-16	不整形	3.22	(1.10)	0.19	N-88°-E	SK144/145a より古 SB7・SK141/142/143 重複	311
146	4	E7-J5	隅丸長方形	1.55	(1.11)	0.22	N-68°-E	SK139/302・E7-J5 P5・SB7 重複	344
147	4	E7-J6	隅丸長方形	0.92	0.64	0.10	N-15°-E	SB7 重複	344
148	4	E7-J5	不整楕円形	0.87	0.48	0.20	N-82°-E		344
149	4	E7-J4	隅丸長方形	1.16	0.89	0.65	N-71°-E	SK135/137・梯48 より新	344
150	4	E7-J5	隅丸長方形	1.68	0.44	0.08	N-73°-E	SB7・SK301 重複	324
151	4	E7-J5	楕円形	0.94	0.70	0.24	N-72°-E	SK136/296/322 重複	343
152	4	E7-J5	隅丸方形	1.06	1.00	0.10	N-68°-E	SK153 より新 SK154 重複	328
153	4	E7-J5	隅丸長方形	(1.33)	1.03	0.48	N-15°-E	SK302 より新 SK152/154 より古	328
154	4	E7-J5	楕円形	0.85	0.70	0.13	N-6°-E	SK153 より新 SK152/320 重複	344
155	4	E7-J4	円形	0.55	0.52	0.17	N-70°-E		344
156	4	E7-J4/5	隅丸長方形	1.07	0.82	0.25	N-66°-E	梯48 より古	344
157	4	E7-J5	楕円形	1.10	0.62	0.15	N-89°-E	SK313 重複	344
158	4	E7-J5	隅丸長方形	1.36	0.51	0.25	N-73°-E		344
159	4	E7-I5/6	隅丸長方形	3.88	0.76	0.20	N-76°-E	SK171/294/297/298/690 より新 SB7 重複	331
160	4	E7-J5	不整形	0.92	(0.39)	0.32	N-4°-E	SK136 より古 SK296/322 より新	343
161	5	E7-15	円形	0.70	0.65	0.15	N-88°-E		415
162	5	E7-14	楕円形	0.90	0.70	0.10	N-50°-E		415
163	5	E7-14	長楕円形	2.20	0.65	0.10	N-71°-E	SK177 重複	415
164	5	E7-14/5	隅丸方形	1.40	1.20	0.30	N-68°-E		415
165	5	E7-15	楕円形	1.25	1.10	0.20	N-21°-E	SK166 重複	415
166	5	E7-15	楕円形	(0.65)	0.60	0.15	N-34°-E	SK165 重複	415
167	5	E7-14	隅丸長方形	1.20	0.75	0.30	N-17°-E	SK168 重複	415
168	5	E7-14	円形	0.70	0.60	0.10	N-6°	SK167 重複	415
169	5	E7-15	隅丸長方形	4.10	0.95	0.20	N-18°-E	SK259 より新 SK193 重複	415

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
170	4	E7-15/6	楕丸長方形	1.57	0.82	0.32	N-77°-E	SK297 より新 SB7 重複	345
171	4	E7-15/6	楕丸長方形	1.70	(0.50)	0.21	N-73°-E	SK159 より古 SK294/298・SB7 整地層重複	345
172	4	E7-15	楕丸長方形	1.01	0.58	0.14	N-82°-E	SK298/690・SB7 整地層重複	344
173	5	E7-15	長椭円形	1.15	0.70	0.15	N-49°-W	SK196 より新 SK181 重複	415
174	5	E7-15	椭円形	0.85	0.70	0.05	N-90°	SK314 重複	415
175	5	E7-15	不整楕丸方形	2.70	0.60	0.15	N-17°-W	桶23・SK191・SK176/201/314 重複	415
176	5	E7-14	椭円形	0.95	(0.50)	0.10	N-49°-W	SK175/314 重複	415
177	5	E7-14	楕丸長方形	1.80	1.30	0.15	N-77°-E	SK163 重複	415
178	5	E7-14	椭円形	0.75	0.55	0.15	N-16°-W		415
179	5	E7-14	椭円形	1.00	0.65	0.10	N-68°-E		415
181	5	E7-15	長椭円形	2.15	1.30	0.25	N-20°-W	SK196 より古 SK201 より新 SK173/259/314 重複	415
182	5	E7-16	不明	(2.20)	1.90	0.20	N-72°-E	SK184/337 より新 SK183/290 重複	416
183	5	E7-H6, 16	不整形	4.00	3.80	0.45	N-74°-E	SK182/184/208/212 重複	416
184	5	E7-H6, 16	不明	(2.75)	1.25	0.40	N-15°-W	SK182/212/218 より古 SK337 重複	379
185	4	E7-J5	楕丸方形	0.35	0.35	0.20	N-30°-W	SK306 より新	345
186	5	E7-15	不整形	1.35	(1.25)	0.25	N-4°-W	SK187/226/227 重複	416
187	5	E7-15	椭円形	(1.00)	0.70	0.25	N-62°-E	SK186 重複	416
188	5	E7-15/6	椭円形	1.30	(0.95)	0.20	N-70°-E	SK188 重複	416
189	5	E7-15	不整椭円形	1.45	1.40	0.30	N-30°-E	SK188/190/221/260 重複	416
190	5	E7-15	不整長方形	(1.60)	1.10	0.30	N-21°-E	SK189/209/221/260 重複	416
192	2	F7-A6	楕丸長方形	1.43	(1.00)	(0.30)	N-20°-W	SD1・SK21/49 上り古	229
193	5	E7-15	椭円形	(0.60)	0.60	0.20	N-48°-W	SK169 重複	416
194	4	E7-J5	長方形	2.31	1.37	0.31	N-73°-E	SK302 より新 SK120/139/306・SB7 整地層重複	345
195	5	E7-14/5	椭円形	1.10	0.80	0.45	N-35°-W		416
196	5	E7-15	楕丸長方形	2.30	1.10	0.25	N-10°-E	SK173 より古 SK181/201 より新 SK314 重複	415
197	4	E7-16	椭円形	1.40	1.12	0.30	N-34°-E	SK143 重複	345
198	4	E7-16	楕丸方形	1.84	1.32	0.33	N-12°-W	SD7・SK199/200 重複	345
199	4	E7-16	楕丸長方形	(1.57)	(1.50)	0.19	N-11°-W	SK143/198/200/293 重複	345
200	4	E7-16	楕丸長方形	2.51	1.09	0.31	N-12°-W	SK144/198/199 重複	345
201	5	E7-15	不明	1.10	(0.75)	-	-	SK181/196 より古 SK175/314 重複	415
202	5	E7-15	不整形	1.55	1.35	0.35	N-21°-E	SK209/308 重複	416
203	6	E7-15	楕丸長方形	1.10	0.90	0.15	N-70°-E		490
204	6	E7-H5	不整形	1.70	1.55	0.20	N-90°	SB9 重複	490
205	6	E7-H5	不整形	1.30	1.20	0.20	N-90°		490
206	6	E7-15	椭円形	1.30	1.00	0.25	N-90°	SB19 重複	490
207	6	E7-H5	椭円形	0.90	0.80	0.05	N-90°		490
208	5	E7-H6, 16	楕丸方形	1.60	(1.15)	0.35	N-87°-E	SK183 重複	416
209	5	E7-15	椭円形	(0.80)	0.70	0.10	N-56°-E	SK190/202/260 重複	417
210	5	E7-15	椭円形	1.20	0.95	0.20	N-4°-E	SK217 重複	417
211	6	E7-14/5	楕丸長方形	2.20	0.55	0.25	N-71°-E		490
212	5	E7-H6, 16	不明	1.35	(0.40)	0.55	N-72°-E	SK184 より新 SK183 重複	417
213	6	E7-H5, 15	椭円形	0.65	0.45	0.03	N-79°-E		490
214	6	E7-H5, 15	楕丸長方形	1.30	0.80	0.25	N-78°-E	SD19 重複	490
216	6	E7-H6	楕丸長方形か	3.00	(2.20)	0.15	N-20°-W		491
217	5	E7-15	楕丸長方形	2.30	1.35	0.45	N-63°-E	SK210 重複	417
218	5	E7-H6, 16	楕丸長方形	0.70	0.70	0.45	N-71°-E	SK184 より新	417
219	5	E7-15	椭円形	0.70	0.40	0.25	N-10°-W	SD19 重複	491
220	5	E7-15	不整形方	0.60	0.50	0.15	N-9°-W	SD19 重複	491
221	5	E7-15	楕丸長方形	1.10	(0.75)	0.25	N-75°-E	SK308 より新 SK189/190/260 重複	417
222	6	E7-H5	楕丸方形	0.60	0.55	0.10	N-68°-E	SB9 重複	491
223	6	E7-H5	不整形	1.40	1.15	0.20	N-12°-W	SB9・SK267 重複	491
224	5	E7-14, J4	不整形	3.25	(0.60)	0.40	N-19°-W		417
226	5	E7-15	楕丸長方形	1.70	1.00	0.70	N-72°-E	SK186/227 重複	388
227	5	E7-15	不明	1.05	(0.80)	0.10	N-63°-E	SK186/226 重複	417
229a	9	E7-F3/4	楕丸長方形か	[4.00]	(3.35)	0.45	N-70°-E	SK316 より新 SK263 重複	次回報告
229b	9	E7-E3/4	楕丸長方形か	(2.50)	(1.10)	0.45	N-70°-E	SK316 より古	次回報告

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
230	9	E7-E4, F4	囲丸長方形	7.50	3.20	0.45	N-15°-E	SK235/247/272/273/316/334/339 より新 SD8 より古	次回報告
231	9	E7-E3/4	囲丸長方形	1.50	1.10	0.30	N-20°-E	SK232/341 重複	次回報告
232	9	E7-E3	不整形	0.90	(0.80)	0.30	N-71°-E	SK231/341 重複	次回報告
233	9	E7-E3/4	囲丸長方形	3.45	1.37	0.16	N-17°-E	SK341 より新 SK231/232/334・SX3 重複	次回報告
235	9	E7-F4	囲丸方形	4.25	3.50	-	N-68°-E	SK230 より古	次回報告
238	9	E7-F4/5	不整形	4.55	2.55	0.90	N-75°-E	SE4 より古 SK324 より新	次回報告
239	9	E7-E3	囲丸長方形	1.00	0.70	0.25	N-18°-E	SX3 重複	次回報告
240	8	E7-F4	長方形	1.47	0.58	0.17	N-73°-E		次回報告
243	8	E7-G4	円形	0.55	0.52	0.21	N-59°-E		次回報告
244	8	E7-G5	囲丸長方形	2.04	1.15	0.65	N-70°-E	SK245 より新 SK284/285 重複	次回報告
245	8	E7-G5	囲丸長方形	1.24	0.95	0.55	N-85°-E	SK244 より古 SK285 重複	次回報告
246	8	E7-G4	不整形	1.60	0.88	0.30	N-72°-E		次回報告
247	9	E7-E4	囲丸長方形	2.85	1.08	0.70	N-72°-E	SK230/248 より古 SK334 より新	次回報告
248	9	E7-E4	囲丸長方形	2.95	1.50	0.75	N-75°-E	SK247/274/334 より新	次回報告
249	9	E7-E5	不明	3.35	(1.80)	0.25	N-70°-E		次回報告
250	9	E7-F4	不明	[0.37]	[0.25]	0.10	-	SK255 より新	次回報告
251	6	E7-H5	囲丸方形	0.75	0.75	0.25	N-72°-E	SK270 より新	491
252	5	E7-I5/6	囲丸長方形	2.25	1.70	0.50	N-20°-E		417
253	5	E7-I5/6	不整形	1.35	1.20	0.40	N-60°-E		417
255	9	E7-F4	梢円形	1.35	1.20	0.35	N-64°-E	SK250 より古	次回報告
257	9	E7-F4	円形か	0.95	(0.60)	0.15	N-21°-E	SK235 より古 SK324/340 より新	次回報告
259	5	E7-I5	不整形	2.00	1.10	0.10	N-30°-E	SK169 より古 SK181 重複	417
260	5	E7-I5	不整形	3.50	1.55	0.40	N-24°-E	SK189/190/209/221 重複	400
261	8	E7-F4, G4	長方形	4.00	2.00	0.68	N-73°-E	桶9 より古	次回報告
262	8	E7-F4/5, G4/5	方形	2.04	1.97	0.95	N-71°-E		次回報告
263	9	E7-F4	不整形	1.00	0.75	0.20	N-57°-E	SK324 より新 SK229a 重複	次回報告
264	7	E7-H4	囲丸長方形	1.15	(0.55)	0.40	N-22°-E	SK106 より古	559
265	9	E7-F4	囲丸方形か	1.50	1.25	0.18	N-14°-E	SK235 より古 SK324 より新	次回報告
267	6	E7-H5	長楕円形か	(0.90)	0.50	0.20	N-73°-E	SK223 重複	491
268	3	E7-J7	囲丸長方形	1.15	0.85	0.40	N-65°-E	SK78 重複	284
269	3	E7-J7	囲丸方形	0.60	0.55	0.35	N-7°-E		284
270	6	E7-H5	囲丸長方形	1.70	0.80	0.30	N-80°-E	SK251 より古 SK271 より新	491
271	6	E7-H5	不整形	0.65	(0.55)	0.07	N-90°-E	SK270 より古	491
272	9	E7-E4	囲丸方形	2.20	1.90	0.70	N-18°-E	SK230 より古 SK334 より新	次回報告
273	9	E7-E4	不整形	2.05	1.55	0.65	N-65°-E	SK230 より古 SK334 より新	次回報告
274	9	E7-E4	囲丸長方形か	(2.65)	1.65	0.30	N-20°-E	SK248 より古 SK334 より新 SD24 重複	次回報告
275	4	E7-I6/7	梢円形か	1.11	(0.30)	0.25	N-19°-E		345
276	3	E7-J4	不整形	0.57	(0.45)	0.35	N-40°-E	SK277 より古	285
277	3	E7-J4/5, F7-A4/5	不整形	1.25	(0.70)	0.40	N-47°-E	SK278/312 より古 SK276 より新	285
278	3	E7-J4/5, F7-A4/5	梢円形	(0.60)	0.50	0.15	N-70°-E	SK277 より新	285
279	3	F7-A5	不整形	(0.80)	0.65	0.35	N-63°-E		284
280	2	F7-A6	囲丸長方形	1.00	0.75	0.20	N-77°-E	SK118 重複	231
281	6	E7-H4	囲丸長方形	0.80	0.65	0.10	N-72°-E	SK109 重複	491
282	1	F7-A7	不整形	1.10	(0.25)	0.20	N-72°-E	SB2 重複	207
284	8	E7-G5	不明	(2.20)	1.02	0.29	N-68°-E	SK244/285/333/336 重複	次回報告
285	8	E7-G5	不明	0.84	(0.60)	0.20	N-57°-E	SK244/245/284 重複	次回報告
286	6	E7-H4, 14	不整形	(1.80)	2.00	0.60	N-90°-E	SK102 より古	491
287	4	E7-J5	囲丸長方形	1.65	0.92	0.40	N-72°-E	SD6 より古	345
289	4	E7-I6/7	円形か	1.93	(1.30)	0.23	N-16°-E	SD7 より古	346
290	5	E7-H6, 16	不明	2.60	(1.00)	0.35	N-21°-E	SK182/337 重複	413
291	3	F7-A5	梢円形	0.50	0.40	0.15	N-72°-E		284
292	2	F7-A5	不整形	0.40	0.35	0.25	N-80°-E		231
293	4	E7-I6	円形	1.70	1.50	0.37	N-65°-E	SD7 より古 SK199 重複	345

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図	
294	4	E7-16	隅丸長方形	1.16 (0.55)	0.42	N-74°-E	SK159 より古 SK141/171/297・SB7 整地層重複	346		
295	2	F7-A5	楕円形	1.10	0.70	0.10	N-78°-E	SK41 重複	231	
296	4	E7-J5	不整形	1.56	1.15	0.45	N-69°-E	SK136/169 より古 SK322 より新 SK151 重複	346	
297	4	E7-16	方形	1.70	1.57	1.00	N-71°-E	SK159/170 より古 SB7・SK141/142/294 重複	338	
298	4	E7-15	隅丸長方形	1.53	0.95	0.57	N-69°-E	SK159 より古 SK690 より新 SB7・SK171/172 重複	346	
299	4	E7-15, J5	隅丸方形	1.66	1.64	0.35	N-18°-W	SK690 より新 SB7・SK139/300/303 重複	346	
300	4	E7-15, J5	隅丸長方形	1.72	1.14	0.58	N-75°-E	SB7・SK299 重複	346	
301	4	E7-J5/6	隅丸長方形	2.65	1.51	0.36	N-72°-E	SB7 より古 SK150 重複	347	
302	4	E7-J5	隅丸長方形	2.85 (0.89)	0.30	N-77°-E	SK153/194 より古 SK139/146・SB7 整地層重複	347		
303	4	E7-J5	方形	[0.75]	0.72	0.35	N-72°-E	SK299・SB7 整地層重複	346	
304	6	E7-H5	円形	0.45	-	0.35	-	SK338 より新	492	
305	3	E7-J5	不整形	0.75	0.75	0.30	N-60°-W	SK46/48 より古	278	
306	4	E7-J5	方形	0.96 (0.45)	0.35	N-70°-E	SK185 より古 SK120/194・SB7 整地層重複	347		
308	5	E7-15	不明	(0.50)	0.50	0.20	N-33°-W	SK221 より古 SK202 重複	418	
309	3	E7-J6	隅丸長方形	1.85 (0.55)	0.45	N-74°-E	SB4 より古	285		
312	3	E7-J5 F7-A5	不整形	1.55	1.00	0.30	N-20°-W	SK277 より新	285	
313	4	E7-J5	不整形	1.20	1.04	0.25	N-70°-E	SB5・SD17・SK157 重複	347	
314	5	E7-15	不整形	2.25	2.05	0.30	N-28°-W	SK174/175/176/181/196/201 重複	418	
316	9	E7-F3/4	隅丸長方形	(7.70)	1.35	0.55	N-65°-E	SK229a/230/235 より古 SK229b/339/340 より新	次回報告	
317	8	E7-F5	長方形	2.05	1.76	0.62	N-70°-E	SK320 より古	次回報告	
318	6	E7-14	不整形	(0.55)	0.50	0.40	N-55°-E	SK323 より古	492	
319	9	E7-E4, F4	隅丸長方形	3.85	1.55	0.75	N-73°-E	SK235/324 より古	次回報告	
320	4	E7-J5	隅丸長方形	1.40	0.80	1.00	N-15°-W	SK321 より新 SK154/322 重複	347	
321	4	E7-J5	隅丸長方形	0.91	0.66	0.17	N-5°-W	SK320 より古	347	
322	4	E7-J5	隅丸長方形	1.72	1.31	0.75	N-77°-E	SK136/160/296 より古 SK151/320 重複	346	
323	6	E7-14	不整円形	0.65 (0.65)	0.27	N-60°-E	SK318 より新	492		
324	9	E7- E4/5, F4/5	不整形	13.00	4.75	0.60	N-72°-E	SE4・SK235/238/257/263/265 より古 SK319/340 より新	次回報告	
325	6	E7-H5	円形	0.50	-	0.35	-	SK338 より新	492	
326	6	E7-H5	不整形	0.65	0.55	0.20	N-86°-E	SK338 より新 SB9 重複	492	
331	6	E7-H5	隅丸長方形	1.85	0.65	0.45	N-22°-W	SK338 より新 SB9 重複	492	
332	4	E7-J6	楕円形	2.00	0.94	0.30	N-71°-E	-	347	
333	8	E7-G5	隅丸長方形	0.96	1.98	0.40	N-71°-E	SK284 重複	次回報告	
334	9	E7- E3/4, F4	隅丸長方形	(8.50)	5.55	0.70	N-74°-E	SD8・SK230/247/248/272/273/274 より古 SX3・SK341 より新	次回報告	
335	6	E7-H4/5	長方形か	2.85	(0.55)	0.25	N-72°-E	SD20 より古	492	
336	8	E7-G5	不整形	2.12	1.13	0.29	N-68°-E	SK342 重複	次回報告	
337	5	E7-H6, I6	不整形	3.70	1.70	0.35	N-11°-W	SK183 より古 SK184/290・E7-16 P2 重複	418	
338	6	E7-H5	隅丸長方形	4.20	1.00	0.15	N-72°-E	SK304/325/326/331・E7-H5 P1 より古 SD8・SD20・SK689 重複	492	
339	9	E7-F4	不整形	1.90	1.20	0.30	N-68°-E	SD8・SK230/316 より古	次回報告	
340	9	E7-F4	隅丸長方形	4.50	1.15	0.20	N-60°-E	SK235/257/316/319/324 より古	次回報告	
341	9	E7-E3/4	隅丸長方形か	4.00 (1.15)	0.25	N-18°-W	SX3・SK334 より古 SK231/232 重複	次回報告		
342	8	E7-F5, G5	方形	2.03	1.82	0.60	N-74°-E	SK336 重複	次回報告	
343	8	E7-F5	不整椭円形	1.70	1.10	0.23	N-79°-E	-	次回報告	
344	9	E7-E4/5	不明	(5.50)	-	-	N-73°-E	SK346 重複	次回報告	
345	9	E7-E5	不明	1.20	1.05	-	N-70°-W	桶 16 より古	次回報告	
346	9	E7-E4/5	不整形	2.80	1.00	-	N-68°-E	桶 16 より古 SK344 重複	次回報告	
688	2	F7-A5	隅丸長方形	1.45 (1.00)	0.42	N-20°-W	SD2 より古 (旧 SK97)	230		
689	6	E7-H5	不明	2.00 (0.15)	0.10	N-83°-E	SK338 重複	492		
690	4	E7-15	隅丸長方形	1.65	0.75	0.45	N-73°-E	SB7・SK159/298/299 より古 SK172 重複	346	

### (1) 第1区画(区画AA)

第9地点の調査区で最も南側に位置し、さらに南側は第8地点として調査したエリアである(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2022『栗橋宿跡VI』)。

『絵図』では「荒物屋 忠助」、明治35年(1902)の『埼玉県営業便覧』では「米穀・肥料商 吉岡善六」の区画にあたる可能性が高い。

遺構としては第1~3号建物跡が検出された区画である。区画内の全体に3棟の建物跡が広がっていて、土壌は全体的に少ない。19世紀前半以降にあっては、長期にわたって建造物が建っていたためか、計6基の土壌が確認されたのみである(第105表)。

以下には、第2号建物跡の範囲と重複する第66号土壌と、第131号土壌について取り上げる。

#### 第66号土壌(第197~201図)

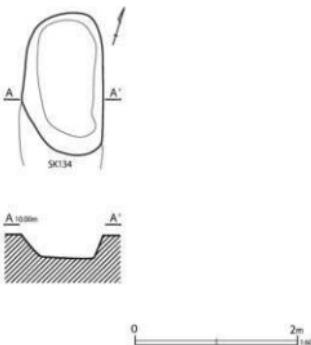
F7-A7グリッドから検出された。長軸1.75m、短軸1.0mの楕円形を呈する土壌である。第134号土壌と重複するが、新旧関係は明らかではない。

第198・199図は出土した陶磁器類である。

1~8は瀬戸美濃系磁器の碗である。1は酸化コバルト染付で、緑の呂須を併用する。楓の葉を描く。2は平碗で型紙摺絵染付である。3~8は小型の丸碗で、赤絵を主体に緑・青で上絵付けされる。ほぼ同形・同文であり、組み物の可能性が高い。9は瀬戸美濃系磁器蓋で、薄手である。型紙摺絵染付を施し、つまみ内に「中平製」銘を有す。

10は内面に木型打込の陰刻状施文を行った後

S K66



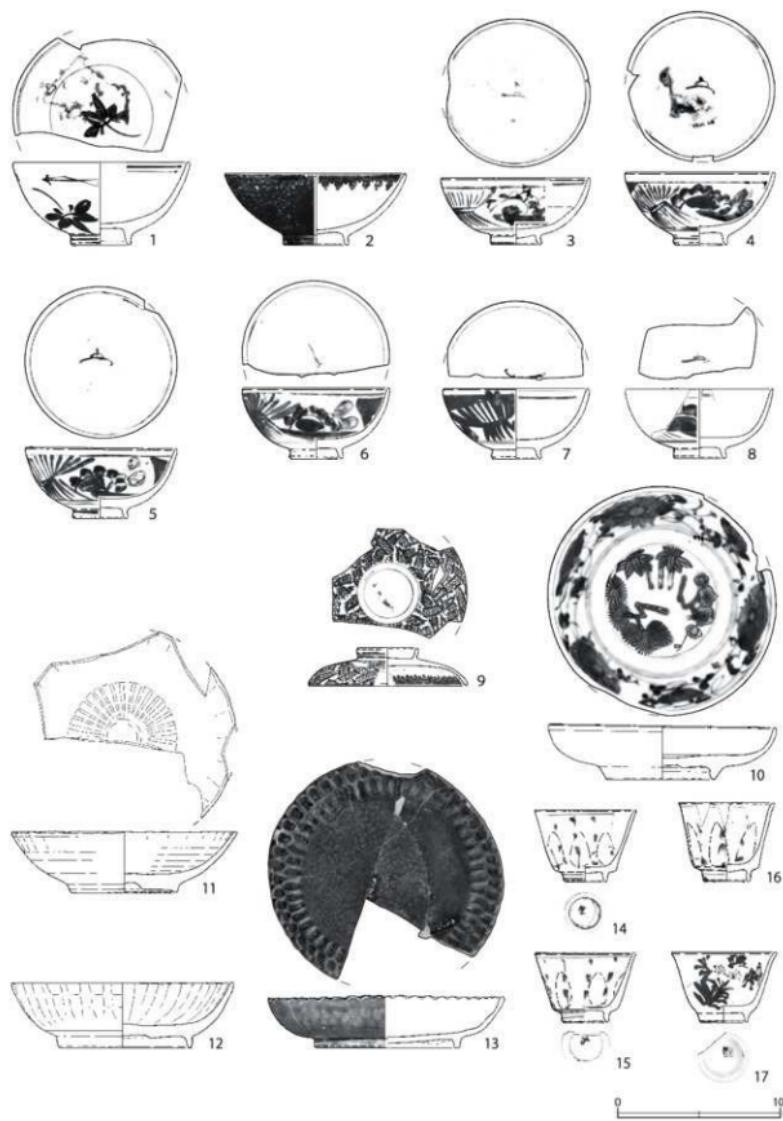
第197図 第66号土壌

に施釉・染付する皿である。高台疊付部のみ露胎で、蛇の目状の高台内は施釉する。11は内底面を木型打込で菊花状に成形する皿である。染付はみられないが、口紅が施される。高台は蛇の目状に露胎とする。12も同様の皿だが、肥前系磁器である。釉薬が僅かに青みを帯びる。11よりも深く陰刻状に成形される。高台部は蛇の目状で、内側は中心部を除き露胎とする。13は瀬戸美濃系磁器の皿で、内面は型押し施文、内外面に深緑色の釉薬が施される。高台内も施釉される。疊付部のみ露胎とする。14~17までは瀬戸美濃系磁器の端反形の坏である。14・15・16は外面に酸化コバルト染付で漢詩文を書くもので、同じ模様のものである。同文のものがもう1個体、非抽出遺物に含まれる。17は外面を酸化クロム青磁釉とし緑・黒・白盛で絵付けを加える坏である。

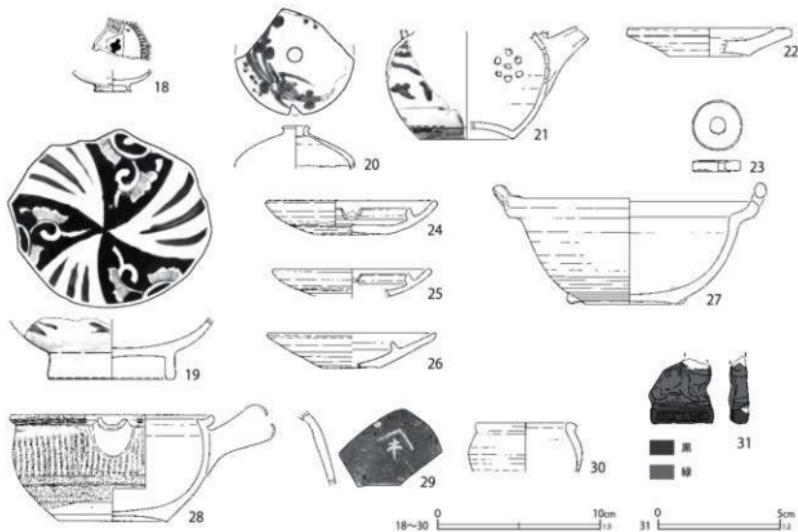
第105表 第1区画土壌一覧表

単位:m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
65	1	F7-A7	満丸長方形	2.45	0.65	0.15	N-18°-W		207
66	1	F7-A7	楕円形	1.75	1.00	0.30	N-17°-W	SK134 重複	197
131	1	F7-A6/7	満丸長方形	(2.96)	1.10	0.40	N-73°-E	SB2 より新 SB1 重複	202
132	1	F7-A7	満丸長方形	1.65	1.00	0.30	N-20°-W	SB2 重複	207
134	1	F7-A7	不整形	(1.65)	1.00	0.20	N-17°-W	SK66 重複	207
282	1	F7-A7	不整形	1.10	(0.25)	0.20	N-72°-E	SB2 重複	207



第198図 第66号土壤出土遺物(1)

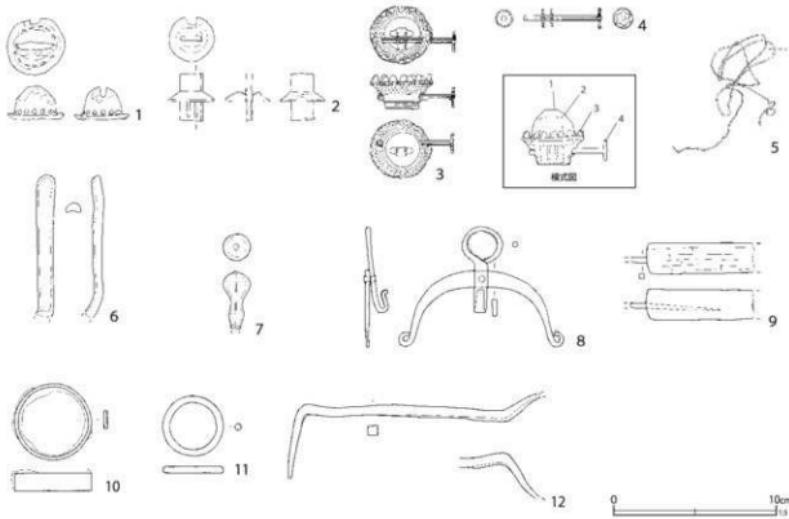


第199図 第66号土壤出土遺物(2)

第106表 第66号土壤出土遺物観察表(1)(第198・199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(10.7)	5.1	3.5	-	40	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付(青・緑)	102-3	
2	磁器	碗	(11.0)	4.4	3.8	-	50	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉 型紙模様染付		
3	磁器	碗	9.0	4.6	2.9	-	90	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・緑・青)	102-4	
4	磁器	碗	9.1	4.4	3.1	-	95	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・緑・青)	102-4	
5	磁器	碗	9.2	4.3	3.1	-	95	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・緑・青)	102-4	
6	磁器	碗	9.0	4.3	3.0	-	55	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・緑・青)	102-4	
7	磁器	碗	(8.8)	4.3	(2.9)	-	45	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤)	102-4	
8	磁器	碗	(9.0)	4.3	3.0	-	25	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・緑・青)	102-4	
9	磁器	蓋	3.6	2.3	(9.6)	-	60	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・型紙模様染付		
10	磁器	皿	13.8	3.4	6.7	-	90	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・染付 内面木型打込文 口紅・蛇の目状高台		
11	磁器	皿	(13.7)	3.7	6.3	-	35	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉 口紅		
12	磁器	皿	13.5	4.0	7.9	-	95	良好	白	SK66 肥前系 内外面施釉 口紅		
13	磁器	皿	14.3	3.2	8.4	-	80	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面緑色の釉 内面型押施文 被然 焼き繕ぎ底	102-5	
14	磁器	环	6.1	4.4	2.5	-	60	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付		
15	磁器	环	(6.0)	4.2	2.7	-	55	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付		
16	磁器	环	(5.8)	4.8	(2.6)	-	40	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付		
17	磁器	环	6.4	4.3	2.8	-	70	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉 (外面酸化クロム青磁釉)・給付(緑・黒・白盛)		
18	磁器	环	-	[1.3]	(2.2)	-	25	良好	白	SK66 潤戸美濃系 内外面施釉・白面上給付(黒・金) 外面酸化コバルト染付		
19	磁器	鉢	-	[3.7]	7.6	-	20	良好	白	SK66 肥前系 内外面施釉・染付 少量の煤付有	102-6	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
20	磁器	油壺	1.3	[2.6]	-	-	30	良好	白	SK66	肥前系 内外面施釉・染付	103-1
21	磁器	土瓶	-	(6.8)	(5.7)	-	20	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼き 緋ぎ痕	103-2
22	磁器	不明	(9.9)	1.7	(5.0)	-	20	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 全面露胎	103-2
23	磁器	戸車	2.9	0.7	3.0	-	100	良好	白	SK66	肥前系 外面施釉	
24	陶器	灯明皿	(10.2)	2.1	(4.4)	IK	50	良好	灰白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面底部拭き取 り・重ね焼き痕	
25	陶器	灯明皿	(9.5)	[1.7]	-	IK	20	良好	灰黄	SK66	肥前系 内外面灰釉 外面下位拭き取 り・重ね焼き痕	
26	陶器	灯明皿	(10.1)	2.1	(3.6)	IK	20	良好	灰黄	SK66	京都信楽系 内面透明釉	
27	陶器	鏡	14.6	7.3	5.6	IK	95	良好	淡黄	SK66	内外面施釉 内面ピン痕3 外面下位煤付 着	103-3
28	陶器	行平	12.1	7.2	6.6	I	75	良好	淡黄	SK66	内外面施釉 外面トビガンナ状施釉 底部 煤付着	103-4
29	陶器	徳利	-	[4.5]	-	IK	5	良好	灰白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施釉 打書き「金」	103-5
30	陶器	豆甕	(5.9)	[3.0]	-	K	25	良好	褐灰	SK66	内外面施釉	
番号	種別	器種	幅 / 長	高さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
31	土製品	人形	2.6 / [2.6]	-	0.8	5.6	A D	良好	にぶい燈	SK66	京都系 猪大 一枚型成形 中実 施釉 (緑・黒)	242-18



第 200 図 第 66 号土壤出土遺物 (3)

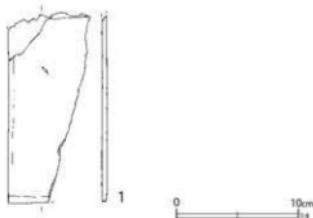
第 107 表 第 66 号土壤出土遺物観察表 (2) (第 200 図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	オイルランプ	縦 3.5 横 3.6 高さ 2.0 重さ 2.3	SK66	口金 (上部)	277-2
2	銅製品	オイルランプ	縦 2.7 横 2.8 高さ 2.9 重さ 4.0	SK66	口金 (内部)	277-2
3	銅製品	オイルランプ	縦 3.6 横 5.3 高さ 2.2 重さ 9.0	SK66	口金 (外側)	277-2

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
4	銅製品	オイルランプ	縦1.3 横4.8 径1.2 重さ5.0	SK66	口金（芯調整用歯車）	277-2
5	銅製品	針金	縦7.3 横6.5 厚さ0.08 重さ2.2	SK66		
6	鉛製品	不明	長さ[8.8] 幅1.0 厚さ0.6 重さ44.3	SK66		
7	鉛製品	不明	縦[3.5] 横1.7 重さ36.4	SK66		
8	鉄製品	把手	長さ10.2 高さ7.4 厚さ0.3 重さ19.3	SK66		274-2
9	鉄製品	錐	長さ[7.6] 錐先[1.0] 厚さ0.3 重さ7.7	SK66	木柄付き	
10	鉄製品	鍍金具	径4.7 幅1.1 厚さ0.2 重さ21.5	SK66		
11	鉄製品	鍍金具	径3.7 幅0.4 厚さ0.4 重さ9.9	SK66		
12	鉄製品	鍵	長さ[15.5] 幅0.6 厚さ0.6 重さ38.2	SK66		

18は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒壺である。内面は上絵付け、高台外面に酸化コバルト染付で櫛齒波状文を描く。「上撰」・「ジガミサ（扇の「地紙」に「サ」）」と上絵付けで書かれている。ジガミサは銭子の広屋右衛門（古田家）の使用した商標である。創業年代は宝暦三年（1753）以前だが詳細は不明である。明治二十七年（1894）に廃業しているが、明治三十九年（1906）～大正三年（1914）までは濱口家が一時的にその商標を使用し、その後はヒゲタ醤油に合流している。本例と同じように、内面に扇形と十字・網目を描く壺は、調査区一括遺物にもあり、それには、内面に「銭子 廣庄改」、外面体部に「[ ] 中嘉肴第一功」の銘がある。

19は肥前系磁器の鉢で、僅かに煤けているが、被熱したものではないであろう。20は肥前系磁器の油壺で、外面に草花文を描く。内面中位



第201図 第66号土壤出土遺物（4）

に上下接合痕がみられ、型成形と思われる。21は瀬戸美濃系磁器の土瓶で、全体的に華奢な作りである。22は器種不詳の瀬戸美濃系磁器で、全体が露胎である。23は肥前系磁器の戸車である。

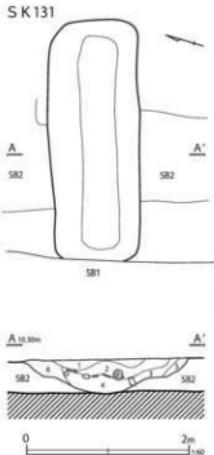
24は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、光沢のある柿釉が施される。体部下位は回転ケズリで整形される。体部下位の重ね焼き痕は径7.0cm、受部上端も径7.0cmである。受部の切り込みはU字形である。25は产地不詳の陶器灯明皿で、灰釉が施される。体部外面下位がケズリ整形され、重ね焼き痕があるなど、製作技法は瀬戸美濃系陶器の灯明皿に準ずる。26は京都信楽系陶器の灯明皿である。器壁は厚手で、受部径が小さい。透明釉は光沢が強い。体部外面には口縁部を除き回転ケズリ痕がみられる。27は柿釉の両手鍋で、体部外面下位の露胎部には幅の狭い回転ケズリ痕が明瞭である。28は陶器行平で、外面上位はトピガンナ状の施文、柿釉を施釉後に拭き取っている。ただし、把手部と注口部は柿釉が明瞭に掛けられ拭き取られていない。

29は瀬戸美濃系陶器の柿釉徳利で、ペコかん徳利と思われる。釘書き「全」がみられる。30は柿釉が施された陶器の豆甕である。

第198図2・9などの磁器が最新期で、栗橋9期の帰属である。本跡は第2号建物跡の基礎に囲

第108表 第66号土壤出土遺物観察表(3)(第201図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	石板	[15.7]	[6.8]	0.4	81.1	粘板岩	SK66	側面工具痕	113-1



第202図 第131号土壌

まれた中に所在しており、建物跡との併存は考え難い。出土した遺物の様相から第2号建物跡の廃絶後に構築されたものと考えられ、次に示す第131号土壌とともに、建物跡の時期を把握する上で有効な情報を示す土壌である。

第200図1～12は出土した金属製品である。1～4はオイルランプの口金で、平紐の芯を調整する部分である。2に芯を挿入し、4の歯車を回転させて長さを調整する。5は銅製品の針金である。6・7は用途不明の鉛製品である。8～12はいずれも鉄製品で、8は把手金具、9は錐で、木質の柄の一部も遺存する。10・11は環金具、12は鍵である。

第201図1は石製品の石板で、粘板岩製である。二側面が遺存するもので、側縁端部には細かな並行する筋状の工具痕がみられる。同様の工具痕は粘板岩製石板にはよく観察される工具痕で、鋸切痕の可能性がある。表裏面は整形時の研磨による細かい削痕が観察されるのみで、翼線などはみられない。スレート瓦の可能性もあるが、研

磨の整形が丁寧であり全体の出土量も少なく、別の用途と思われる。

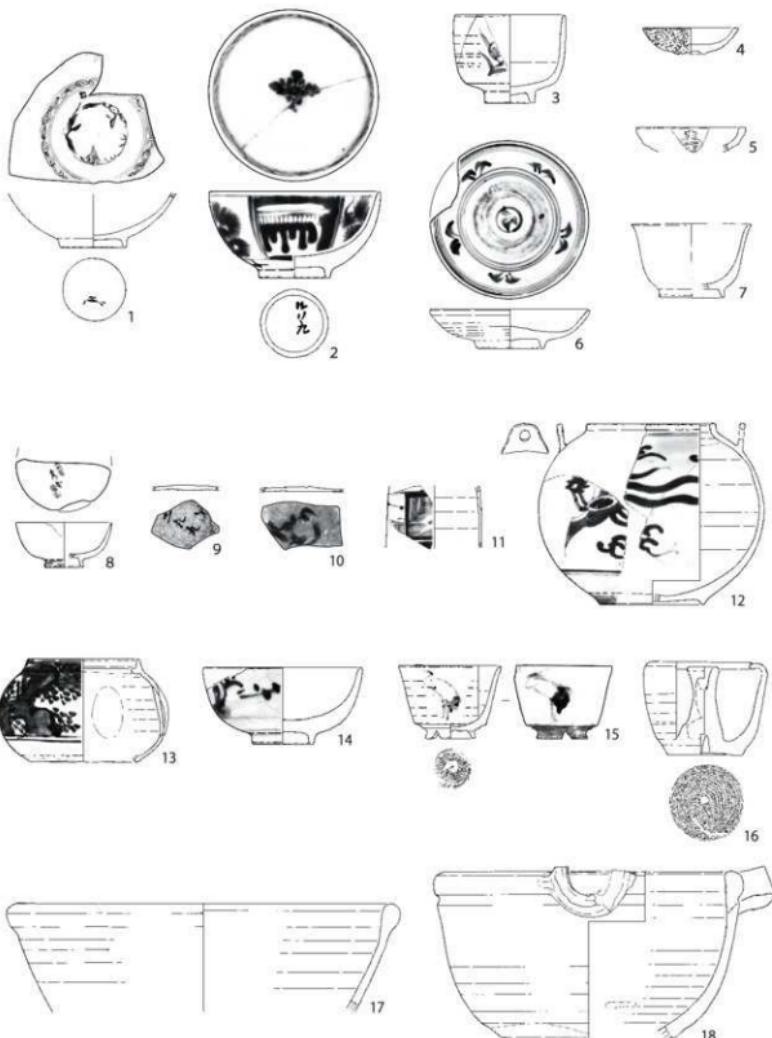
#### 第131号土壌（第202～206図）

F7-A6・7グリッドから検出された土壌で、長軸2.96m、短軸1.1mの隅丸長方形を呈する土壌である。第2号建物跡の西側基礎と重複し、断面観察によって本跡のほうが新しいことが把握されている。覆土は一見レンズ状堆積にみえるもので、下層に木材等が多く投棄された状態であるが、最上位では堆積の最終段階に腐食物が溜まった状況もみられる。短期間であろうが、一定の開口期間があったものと思われる。

第203・204図には出土した陶磁器類を示す。

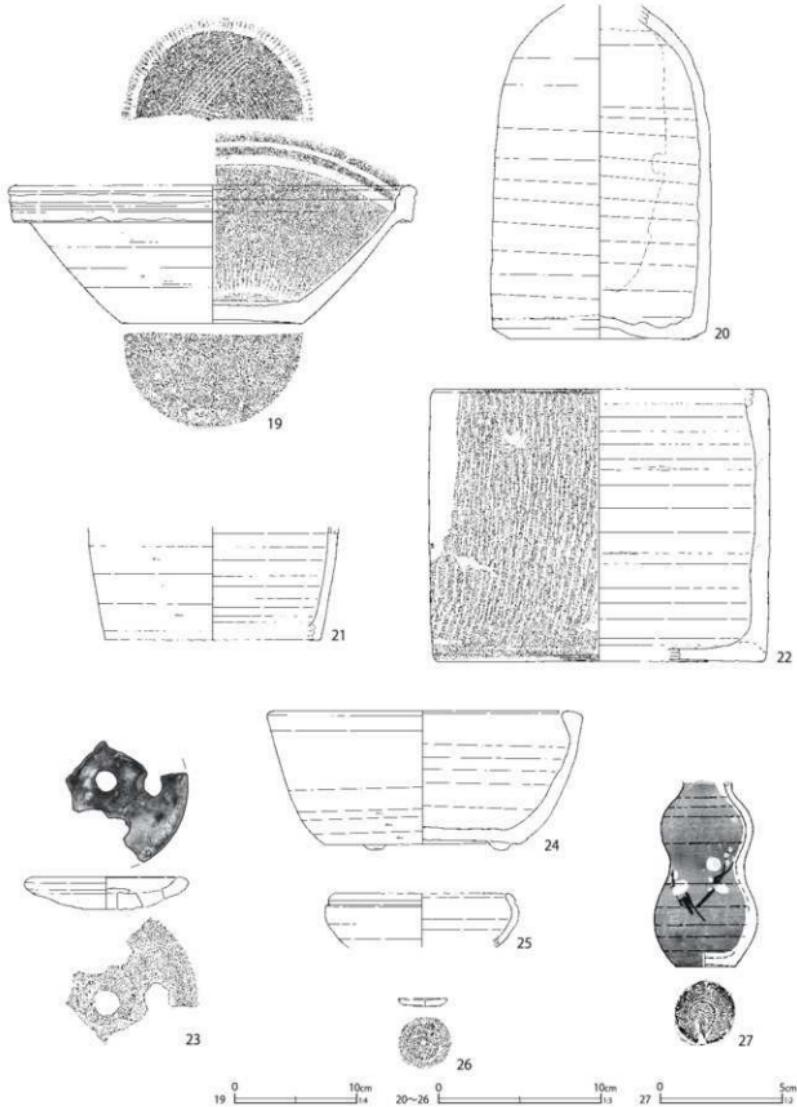
1は肥前系磁器の碗で、底部に焼き継ぎ痕がみられる。半球形の碗と思われる。2は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、厚手である。非掲載遺物に同文・別個体が1点あり、いずれも焼き継ぎされる。3は肥前系磁器の湯呑形碗である。

4は瀬戸美濃系磁器の紅皿で、外面は陰刻状の蛸唐草文を型押し施文する。5は外面に陽刻状に「壽」文を表す。胎土の特徴から肥前系磁器と考えられる。第112号土壌に同様の紅皿がある。6は肥前系磁器の小型の皿である。内底面は蛇の目状釉刺される。呉須の発色はやや悪い。7は口縁部が端反になる杯で、染付は施されないが、口紅を施す。8は瀬戸美濃系磁器の杯である。卵殻手酒杯としては厚手だが、口縁部は細く尖る。高台部の外面に酸化コバルト染付で櫛齒状文を描く。内面は「東京芝／〔秀カ〕屋／健三」の文字が上絵付けされる。9・10は瀬戸美濃系磁器の底部である。9は同心円・沈線状の稜線が巡る露胎部に、焼き継ぎ印がある。10は露胎部に墨書きがある。各々、急須ないし土瓶と燭徳利である。11は瀬戸美濃系磁器で、赤絵を施す燭徳利である。12は瀬戸美濃系磁器の土瓶である。焼き継ぎ痕がみられる。底部・口縁部・耳部は各々接点が無いが、図上復元して示した。13は磁器の急



17 0 10cm 1~16・18 0 10cm

第203図 第131号土壤出土遺物（1）



第204図 第131号土壤出土遺物（2）

第109表 第131号土壤出土遺物観察表(1)(第203・204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	国版
1	磁器	碗	-	[3.4]	3.9	-	35	良好	白	SK131	肥前系 内外面施釉・染付 焼き繕ぎ底・ 焼き繕ぎ印(赤)	126-8
2	磁器	碗	10.4	5.3	4.1	-	100	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き繕ぎ 底・焼き繕ぎ印(赤) 同文別個体1あり	126-9
3	磁器	碗	(6.6)	5.4	(3.1)	-	40	良好	白	SK131	肥前系 内外面施釉 外面染付(湯呑形 碗)	
4	磁器	紅皿	5.9	1.6	1.7	-	85	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 型成形 内面~外面上位施釉 外面型押捺文	127-1
5	磁器	紅皿	(6.8)	[1.5]	-	-	10	良好	白	SK131	肥前系 型成形 内外面施釉型押捺文	127-2
6	磁器	皿	9.6	2.4	4.0	-	95	良好	白	SK131	肥前系 内外面施釉 内面染付・蛇の目状 輪刻	127-3
7	磁器	环	(7.2)	4.5	(4.0)	-	45	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施釉 口紅	
8	磁器	环	(5.8)	2.7	(2.3)	-	40	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上付(赤) 外面酸化コバルト染付	127-4
9	磁器	急須	-	-	-	-	5	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施釉 焼き繕ぎ底・焼き 繕ぎ印(赤) 高さ [0.3] cm	127-5
10	磁器	燭台	-	-	-	-	5	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 外面墨書き 高さ [0.3] cm 第242表6	127-6
11	磁器	燭台	-	[3.8]	-	-	5	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 外面施釉・色絵(赤)	127-7
12	磁器	土瓶	(7.8)	11.1	(6.2)	-	30	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼き 繕ぎ接点ない数枚破片から図上復元	
13	磁器	急須	(6.8)	6.3	(6.6)	-	25	良好	白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	
14	陶器	碗	9.6	4.7	3.5	-	70	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面須彌	127-8
15	陶器	环	6.1	4.5	2.7	-	85	良好	灰白	SK131	大堀相馬系か 内外面施釉 外面鉄絵	127-9
16	陶器	秉燭	6.3	5.7	4.6	HIIK	100	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 内外面柿 軸、鉄絵を散らす	
17	陶器	こね鉢	(31.0)	[8.9]	-	IK	15	良好	灰白	SK131	益子系か 内外面灰釉	
18	陶器	片口鉢	(17.5)	[10.3]	-	IK	20	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡	
19	陶器	擂鉢	(32.4)	11.3	(15.0)	DEIK	40	良好	明赤褐色	SK131	明石系砂目底 内面擂目	
20	陶器	德利	-	[20.4]	11.0	HIIK	70	良好	灰白	SK131	瀬戸美濃系 内外面柿軸 底部鉄化粧・目 跡4	128-1
21	陶器	涼炉	-	[6.9]	(13.2)	ADII	10	普通	浅黄褐	SK131	京都系 白色土器質	
22	瓦質土器	焜炉	(20.2)	16.7	(20.0)	CEIK	20	普通	外:灰白 内:黒褐 にぶい橙	SK131	砂目底 外面ミガキ後トビガンナ状施文 燒す 内面下位煤付着	128-2
23	瓦質土器	日皿	(9.0)	2.0	3.4	CIK	30	普通	SK131	下面糸切痕 被熟・赤化	128-3	
24	瓦質土器	火鉢	18.8	8.5	12.0	CHIK	50	普通	黄灰	SK131	角閃石を多く含む	
25	土質土器	把手付鍋	(10.4)	[3.3]	-	CIHK	15	普通	灰黄褐	SK131	内面~口縁部煤付着	
26	かわらけ	小皿	2.9	0.5	2.2	AHK	100	普通	根	SK131	江戸在地系 底部糸切痕(左) 焼成崩穿 孔	128-4
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	国版
27	施釉土器	ミニチュア	-	[7.7]	2.5	40.4	H K	良好	根	SK131	江戸在地系 底部糸切痕(右) 外面施釉 彩色(黒・白・緑) 胎土粉質 德利	243-9

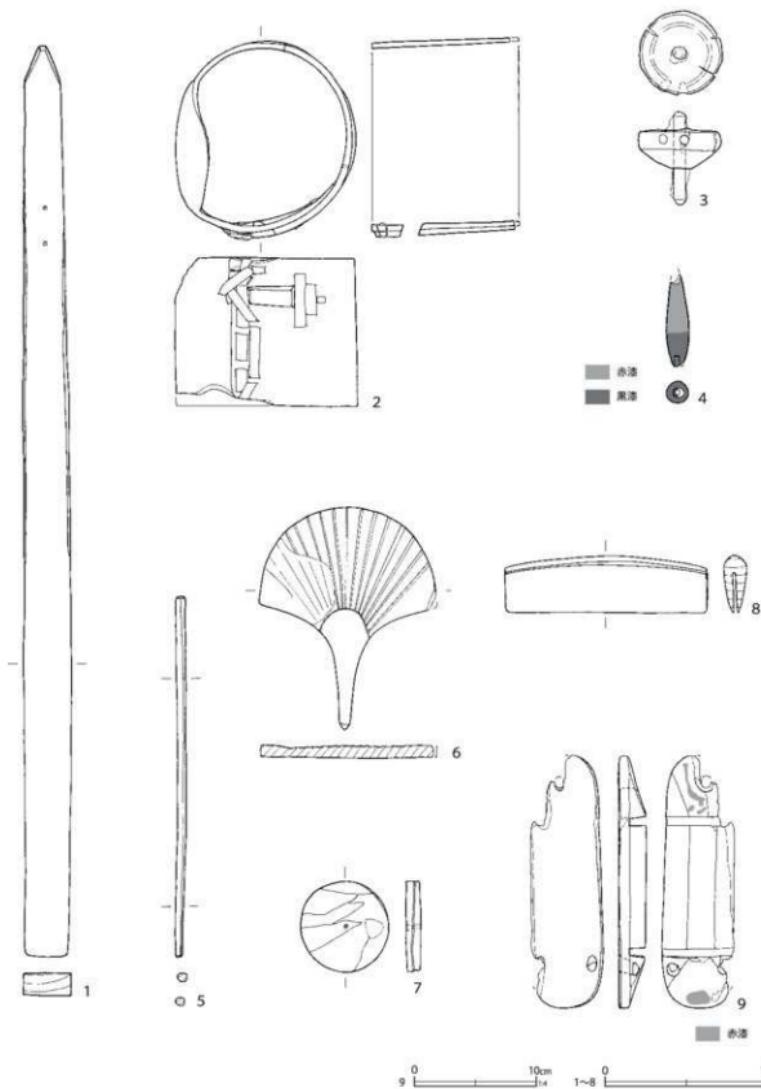
須で酸化コバルト染付が施される。

14は瀬戸美濃系陶器で、太白手の丸碗である。15は陶器壺で、灰軸の厚い部分は青味を帯び糠白釉に近い。鉄絵で崩れた鶴を二箇所に描いている。高台端部に逆V字状の切れ込みを三箇所に入る。高台内には渦巻き状の窪みがある。大堀相馬系陶器の可能性がある。第99号土壤に同形の壺がある。16は陶器の秉燭で、柿軸に黒色の鉄絵を散らす。胎土の特徴より瀬戸美濃系陶器と考えられる。17は地方窯産の陶器こね鉢で、益

子系陶器の可能性がある。灰軸は光沢が強い。

18は瀬戸美濃系陶器の片口鉢で灰軸が掛かる。

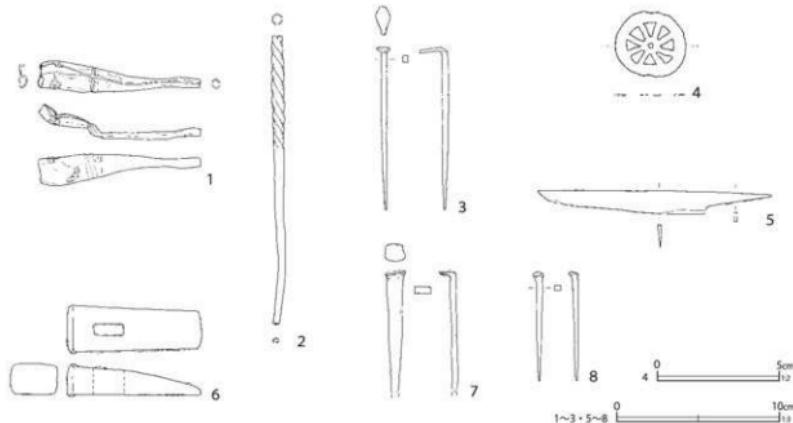
19は堺明石系陶器の擂鉢で、体部外表面はケズリ後ヨコナデ、内面は一単位9本の擂目を有し、内底面は三角形に擂目をつける。20は瀬戸美濃系陶器の德利で、外面に柿軸、内面にも柿軸が流れ込む。底面は回転ケズリで仕上げており、砂目跡が四箇所ある。露胎部は鉄化粧される。21は京都系の陶器涼炉で白色土器質である。遺存部分が少なく、復元径には若干誤差があるかもしだ



第205図 第131号土壤出土遺物(3)

第110表 第131号土壤出土遺物観察表(2)(第205図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版	
1	木製品	柄円の柄	55.5	2.9	1.3	-	-	-	板目	SK131	孔2		
2	木製品	柄円	11.9	11.1	0.3~0.4	-	-	9.0	-	板目	SK131	歪み大 柄孔 樹皮縫残 底板をとめた孔3 内木釘残1	
3	木製品	獨楽	-	-	-	5.0	5.7	-	分割材	SK131	鉄軸側面に鉛打1 釘孔1	263-3	
4	木製品	浮子	[5.6]	-	-	1.4	-	-	分割材	SK131	上部赤漆 下部黒漆 下面に孔	263-4	
5	木製品	箸	22.1	0.6	0.5	-	-	-	削出し	SK131			
6	木製品	神酒口	13.6	[10.8]	0.7	-	-	-	板目	SK131		263-5	
7	木製品	円板	-	-	0.9	5.5	-	-	板目	SK131	側面に段		
8	木製品	櫛鞘	12.5	3.5	1.4	-	-	-	板目	SK131			
9	木製品	下駄	[20.7]	[6.0]	[2.3]	-	-	-	板目	SK131	陰卯下駄 丸形 裏面赤漆		



第206図 第131号土壤出土遺物(4)

第111表 第131号土壤出土遺物観察表(3)(第206図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ10.0 小口径1.4×0.5 口付径0.6×0.5 重さ16.2	SK131	壊れる花文打出し	
2	銅製品	笄か	長さ17.7 径0.6 重さ12.2	SK131	中空 銀金あり	274-1
3	銅製品	釘	長さ10.0 幅0.3 厚さ0.4 重さ8.0	SK131		
4	鉛製品	玩具か	綫2.7 幅2.8 厚さ0.1 重さ2.8	SK131	車輪	279-3
5	鉄製品	刀子	長さ14.4 刃長8.5 刃幅1.4 青幅0.2 重さ13.4	SK131		
6	鉄製品	金鎌	長さ8.3 幅1.9 重さ17.1	SK131		275-2
7	鉄製品	釘	長さ[7.4] 幅1.0 厚さ0.4 重さ12.2	SK131		
8	鉄製品	釘	長さ6.7 幅0.4 厚さ0.3 重さ3.5	SK131		

い。外面は横位のケズリ後にヨコナデされているようである。下端部の狭い範囲は明瞭にヨコナデされる。底面もナデ調整される。

22は瓦質土器の焜炉で、中筒部分が完全に欠

損するものである。外面全面を横位のミガキで処理した後に、体部の大部分にトビガンナ状の施文を行う。底面は外周のみナデ、他は砂目を残す。胎土には少量の角閃石が含まれるが、特に砂目底

部に付着する。23は瓦質土器の目皿である。被熱して上面は黒化、他は赤化している。底面は糸切痕を残す。孔は中心1・周囲5の計六箇所に復元される。胎土に角閃石を含む。24は瓦質土器の丸火鉢である。体部下位は回転ケズリが施される。胎土はやや粉っぽく暗色を呈し、角閃石が多量に含まれている。底面の脚は小型で華奢なものであり、貼り付けた周囲には、幅広く弱い回転ナデが施される。底面の最終調整は、明瞭ではないが、ヘラナデのようである。

25は土師質土器の把手付鍋と考えられるが、通常のものより小型で体部の丸みも強い。外面下端はヨコケズリをナデで消している。胎土には角閃石が含まれる。26はかわらけ小皿としたが、用途は不確実である。底部は左回転の糸切痕、中央に内面側からの焼成前穿孔（径0.3cm）が穿たれる。胎土に微細な雲母を含む。江戸在地系土器と考えられる。

第205図には木製品を示した。

1は柄杓の柄である。曲物を留めた痕跡が残る。2は柄杓の曲物部分である。1と2は別個体である。3は独楽で、鉄軸である。側面に鉛釘が一箇所、釘穴が一箇所みられる。釘により重心がずれるため、釘の意図は不明である。

4は浮子である。下面に金具取付の穴がある。6は神酒口である。上部は扇状の形を呈し、放射状の段が作られる。8は櫛の鞘で、12.5cmと幅広である。9は陰卯下駄で、裏面に赤漆が残る。第206図は金属製品である。

1の銅製品は煙管の吸い口で、羅宇側を中心になされている。僅かに花文の打ち出しが確認される。2は一部に捩りをもつ中空の銅製品である。鍍金されていることから笄と推定される。3は銅製品の釘である。4は鉛製品と考えられる。車輪を模した玩具の一部の可能性がある。5は全長15cm弱の鉄製品刀子である。6は金鎖で、木製の柄を差し込む孔は長方形である。7・8は鉄釘

である。

#### 第1区画のその他の土壌（第207～212図）

第207図に造構図、第208～212図に出土遺物を示す。これらのほとんどは、区画東部の第2号建物跡の範囲内、あるいは周辺から検出されたものである。その点を踏まえて、以下に第2号建物跡との関係を考慮しながら、各土壌の内容を確認してみたい。

第65号土壌は、長軸2.45mの南北に細長い隅丸長方形の土壌である。第66号土壌の東側に平行して検出された。覆土は木片を含む暗褐色粘質土であった。

第208図1は瀬戸美濃系磁器の坏で、内面に「くりはし」「鯉こく」「稻荷屋」銘を有すものである。船渡町にあった鯉料理屋の稻荷樓（稻荷屋）に関わる遺物であり、これまで各地点の調査で同文の坏が出土している。本跡から出土した陶磁器には、酸化コバルト染付・銅版転写染付の磁器が含まれている。

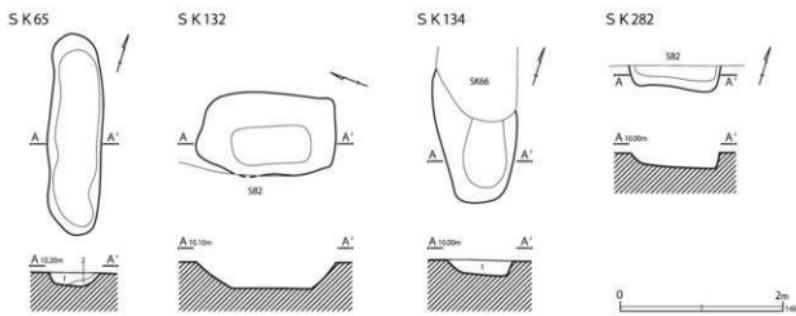
第211図1に示したのは、金属製品の環金具である。銅製でやや楕円形になっている。

このほか、瀬戸美濃系陶器の柿釉甕に強く被熱したものが認められた。

第132号は、第2号建物跡の南側基礎に接して検出されたもので、第2号建物跡を掘り込んでいる。南北に長い隅丸長方形の土壌で、長軸1.65mである。遺物は少ないが、瀬戸美濃系磁器には酸化コバルト染付の端反坏や赤絵を上絵付けした磁器丸碗が認められる。栗橋9期でも比較的早い段階の土壌と考えられる。第134号土壌と接合関係がある陶磁器も認められた。

第210図には、第132号土壌出土の木製品を示した。

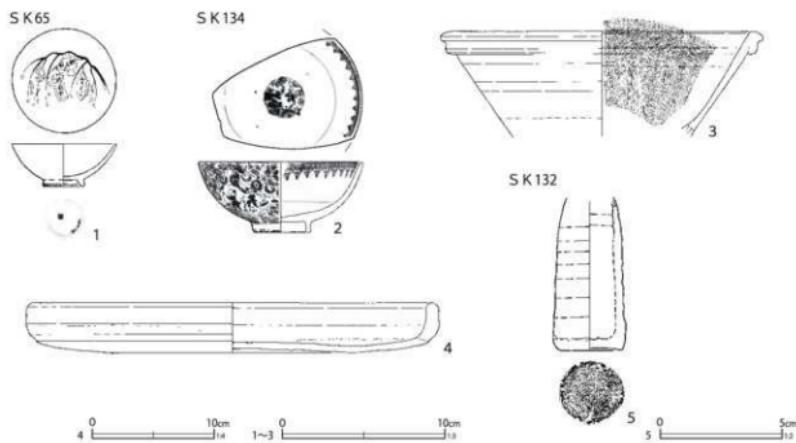
1は漆椀である。内面赤漆塗り、外表面黒漆塗りである。2は漆椀蓋で、肩が張る器形である。口縁端部に面が作られる。内外面黒漆塗りである。つまり内は擂鉢状にならない。3～7は木札であ



第 65 号土壤  
1. 噴褐色粘土質 白色粒子多量 炭化物粒子少量 小木片含む 黏性弱  
しまりあり  
2. 噴褐色粘土質 1層より多い 白色・褐色粒子・炭化物粒子少量 木片  
含む 黏性・しまりあり

第 134 号土壤  
1. にふい噴褐色土 オリーブ灰色土中プロック少量 瓦片を多量に含む

第 207 図 第 1 区画の土壤

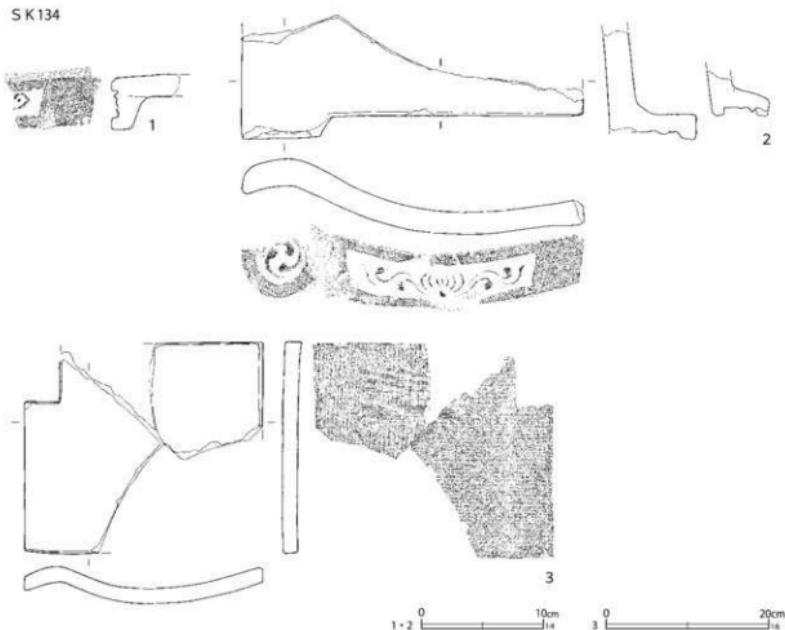


第 208 図 第 1 区画の土壤出土遺物 (1)

第 112 表 第 1 区画の土壤出土遺物観察表 (1) (第 208 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	壺	6.4	2.6	2.4	-	95	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上繪付(金・青) 外面酸化コバルト染付	102-2
2	磁器	碗	(10.0)	4.3	3.3	-	55	良好	白	SK134	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙捺絵染付	
3	陶器	擂鉢	(18.2)	[6.4]	-	IK	10	良好	灰白	SK134	益子系 内外面柿釉 内面繪付	
4	土師質土器	焙烙	(32.8)	4.1	(32.2)	CHHK	25	普通	明褐灰	SK134	底部シワ状痕 外面煤付着	128-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
5	施釉土器	ミニチュア	-	[6.1]	2.7	30.8	A K	良好	黄緑	SK132	江戸在地系 底部系切瓶(右) 胎土粉質 外面綠釉 底部白化粧	243-10



第209図 第1区画の土壤出土遺物（2）

第113表 第1区画の土壤出土遺物観察表（2）（第209図）

番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒桟瓦	[6.3]	[8.1]	-	-	AHK	良好	灰白	SK134	胎土硬質	
2	瓦	軒桟瓦	[10.2]	28.1	(7.0)	AIK	普通		灰白	SK134	右巻き	254-1
3	瓦	棟瓦	26.3	[29.7]	-	AIK	良好		灰	SK134	下面に集合的な条線 胎土硬質	

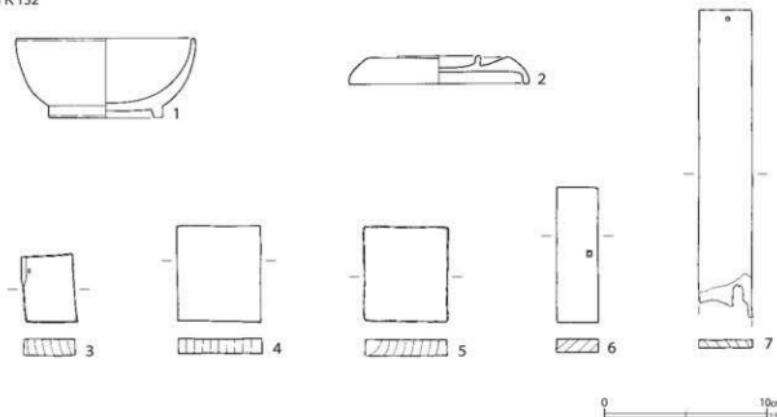
る。3・6・7に目釘痕が認められる。3には「矢野坂／吉岡」、4には「三郎／芳」の墨書が残る。

第211図2には金属製品を示した。銅製の燭台の一部である。第212図1に示したのは石製品で、角閃石安山岩製の磨石である。上下面が使用されている。

第134号土壤は、第66号土壤と重複する土壤である。不整形で長軸1.65m以上の土壤である。覆土は、にぶい黄褐色土の単層で、瓦が多量に含まれている。

第208図2～4には出土した陶磁器を示した。2は、型紙描绘染付を施す瀬戸美濃系磁器の丸碗である。3は益子系陶器の小型擂鉢で、柿釉が施

SK132



第210図 第1区画の土壤出土遺物（3）

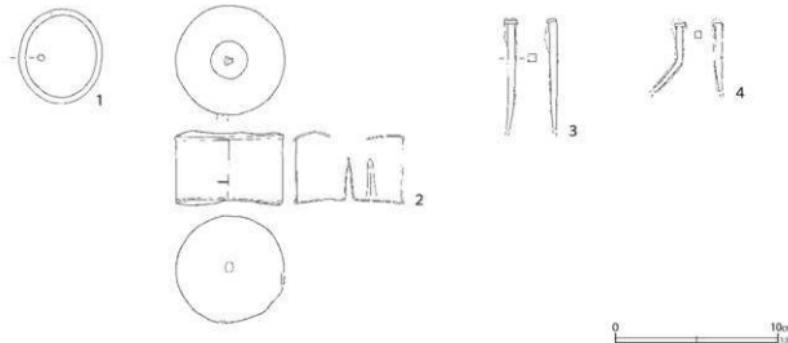
第114表 第1区画の土壤出土遺物観察表（3）（第210図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遭構	備考	図版
1	木製品	漆椀	-	-	-	10.8	4.8	7.0	横木 取り	SK132 内面赤漆 外面・口径縁黒漆	263-6	
2	木製品	漆椀蓋	つまみ径 4.4	-	-	11.0	1.8	-	横木 取り	SK132 内外面黒漆	263-7	
3	木製品	木札	4.2	3.3	1.0	-	-	-	板目	SK132 表裏面墨書 第241表20	297-3	
4	木製品	木札	5.9	5.2	0.9	-	-	-	板目	SK132 表裏面墨書 第241表18	297-1	
5	木製品	木札	5.9	5.2	1.0	-	-	-	板目	SK132 黒書 第241表21	297-4	
6	木製品	木札	8.2	2.5	0.8	-	-	-	板目	SK132 表裏面墨書 第241表19	297-2	
7	木製品	木札	[18.8]	3.2	0.5	-	-	-	板目	SK132 両側面・裏面炭化 表面墨書 孔1 本釘残 第241表17	296-12	

SK65

SK132

SK282



第211図 第1区画の土壤出土遺物（4）

第115表 第1区画の土壌出土遺物観察表(4)(第211図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	環金具	径5.7×5.1 厚さ0.4 重さ15.3	SK65		
2	銅製品	燐台	径6.7 高さ2.9 厚さ0.1 重さ42.0	SK132		
3	鉄製品	釘	長さ[6.9] 幅0.5 厚さ0.5 重さ6.8	SK282		
4	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.8	SK282		278-4

される。播目は密である。4は土師質土器の丸底の焰烙である。内面は全体的に弱く回転ナデが施され、中央付近のみヨコナデが施される。外面下位のヘラケズリは、ヨコナデによって一部消される。外面に煤が付着する。

第209図1～3には瓦類を示した。1の軒棟瓦は唐草の側縁がいぼ状に波打つもので、子葉は無く、最外の唐草文の内側に珠文状の点が見える。中心飾りの遺存は無いが、唐草の構成から東海式の瓦とみられる。2も軒棟瓦の破片である。中心飾りの蓮華文が片側3枚のもので、そこから左右に延びる唐草は線が細い。3は棟瓦で、下面側に瓦の反りの方向に沿って、集合的な条線が認められるものである。本跡の出土瓦には、図示したものと含めて軒棟瓦片5点（このうち軒丸部分のみの破片2点、軒平部の中心飾り部分の破片2点）が含まれている。

第282号土壌は第2号建物跡北側基礎と重複し

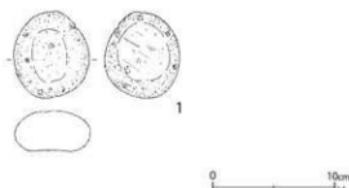
て検出されたものだが、新旧関係は不明である。東西に長い形態で、長軸1.1mが検出された。遺物数が少なく、陶磁器は、磁器8点、陶器・土器各1点に留まった。型紙摺絵染付の磁器蓋が出土している。

以上、第1区画の土壌についてみてきた。

第1区画（区画AA）で最も古い遺物の様相を示すのは第132号土壌である。本跡は第2号建物跡を掘り込むものと観察されているが、建物跡基礎との重複部分はかなり狭い。遺物も建物基礎から出土した陶磁器との時期差があまりなく、重複関係の認定に疑問が生じる。遺物様相からみれば第132号土壌は、第2号建物建築の直前に廃棄された土壌の可能性が高い。

一方で、第132号土壌以外の土壌は、より新しい遺物様相である。以上から、第1区画の土壌は、第132号土壌を除いて、第2号建物跡の解体後に構築されたものではないかと考えられる。

SK132



第212図 第1区画の土壌出土遺物(5)

第116表 第1区画の土壌出土遺物観察表(5)(第212図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	磨石	7.1	6.2	3.3	77.0	角閃石鞍山岩	SK132	多孔質 自然面遺存	284-1

## (2) 第2区画(区画Z)

調査区の南側に位置する。『絵図』では「糸屋伊惣次」、『営業便覧』では「林平治」の区画にあたる可能性が高い。

敷地内を東西に第1号竹樋が縱断し、途中のジョイントから北へ向かう第2号竹樋が派生する。これらは暗渠構造の竹樋と考えられるので、必ずしも敷地の境とは限らない。ただし、敷地東側では第1号竹樋の南北で土壤の様相に若干の差がみられる。竹樋より北側では隅丸方形のやや大

型の土壤(第21・44・45・99号土壤)が集中しており、南側は相対的に楕円形や不整形の小型土壤が多い様相である。竹樋が、敷地内の空間利用が異なる、境界付近に設置された可能性が示唆される。なお、明確な建物跡は検出されていない。

第2区画では、遺物の様相に特徴がある第4号土壤、第1号竹樋北側の大型土壤である第99号土壤、井戸跡の可能性がある第122号土壤を取り上げる。

第117表 第2区画土壤一覧表

単位: m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	博図
1	2	F7-A6/7	長方形	3.30	1.20	0.50	N-72°-E	SK40/56/57 重複	227
2	2	F7-A6	不整形	1.10	0.75	0.15	N-50°-E	SK3 より新	227
3	2	F7-A6	隅丸長方形	1.60	0.80	0.15	N-78°-E	SK2 より古 SK19/56 重複	227
4	2	F7-A6	隅丸長方形	1.75	1.00	0.35	N-73°-E	SK37・F7-A6 P2 重複	213
5	2	F7-A6	隅丸方形	1.30	0.85	0.25	N-68°-E		227
6	2	F7-A6	隅丸長方形	0.90	(0.30)	0.10	N-78°-E	SK23 より古	227
7	2	F7-A6	不整形	(1.00)	0.45	0.05	N-60°-E	SK23 重複	227
8	2	F7-A6	隅丸長方形	1.00	0.60	0.15	N-70°-E		227
9	2	F7-A6	不整形	0.75	0.20	0.05	N-77°-E	SD15a 重複	227
10	2	F7-A5	隅丸長方形	1.25	0.55	0.15	N-70°-E		227
11	2	F7-A5	隅丸長方形	0.90	0.60	0.10	N-70°-E	SD15a 重複	228
12	2	F7-A5	隅丸方形	1.80	1.35	0.30	N-80°-E	桶有り	228
14	2	F7-A5	不整形	1.00	0.55	0.20	N-15°-W		228
16	2	F7-A6	円形	0.45	0.40	0.10	N-12°-W	F7-A6 P3 重複	228
17	2	F7-A6	不整形	1.60	1.15	0.15	N-13°-W	SD1・SK18 より古	228
18	2	F7-A6	隅丸長方形	1.25	0.85	0.15	N-13°-W	SD1 より古 SK17 より新	228
19	2	F7-A6	隅丸方形	0.50	0.50	0.30	N-62°-E	SK3 重複	228
20	2	F7-A5	隅丸方形	0.57	0.52	0.20	N-70°-E		228
21	2	F7-A6	隅丸長方形	3.35	1.60	0.50	N-72°-E	桶4・SK45 より古 SK44/49/192 より新	229
22	2	F7-A5	隅丸長方形	1.00	0.60	0.20	N-70°-E		228
23	2	F7-A6	楕円形	0.90	0.40	0.15	N-78°-E	SK6 より新 SK7 重複	227
24	2	F7-A5	隅丸長方形	0.75	0.60	0.10	N-22°-W	SD15a 重複	228
25	2	F7-A6	隅丸長方形	0.96	0.62	0.15	N-65°-E		228
26	2	F7-A6	隅丸長方形	1.80	0.75	0.13	N-67°-E	SK27/64 より新	228
27	2	F7-A6	楕円形	0.45	0.10	0.10	N-72°-E	SK26 より古	228
31	2	F7-A6	不整楕円形	1.00	0.70	0.50	N-72°-E	SD15a 重複	228
36	2	F7-A6	不整形	0.45	0.45	0.10	N-82°-W	SK99 重複	229
37	2	F7-A6	楕円形	0.75	0.40	0.10	N-72°-E	SK4 重複	229
40	2	F7-A7	楕円形	2.40	1.55	0.42	N-70°-E	SK1 重複	229
41	2	F7-A5/6	隅丸長方形	3.10	0.60	0.10	N-70°-E	SK52 より新 SK295 重複	229
44	2	F7-A6	隅丸長方形	2.20	1.95	0.50	N-15°-W	SD1・SK21/45 より古	229
45	2	F7-A6	隅丸長方形	1.10	0.90	0.40	N-20°-W	SD1 より古 SK21/44 より新	229
49	2	F7-A6	隅丸長方形	0.85	(0.65)	0.23	N-20°-W	SD1・SK21 より古 SK192 より新	229
51	2	F7-A5	隅丸方形	0.55	0.50	0.10	N-75°-E	SD1 より新	230
52	2	F7-A5/6	不整形	1.60	1.20	0.45	N-70°-E	SK41 より古	229
53	2	F7-A6	隅丸方形	0.80	0.80	0.20	N-70°-E	SK64 より新	230
55	2	F7-A5	隅丸方形	0.85	0.85	0.35	N-25°-W	SD1 より古	230
56	2	F7-A6	隅丸長方形	(0.85)	0.70	0.40	N-55°-E	SK1/3 重複	230
57	2	F7-A6	楕円形	(0.40)	0.35	0.20	N-74°-E	SK1 重複	230

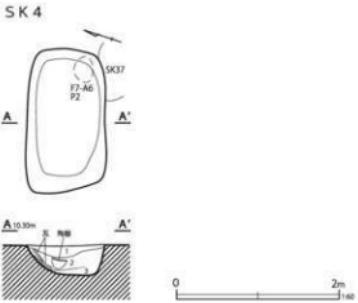
番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
58	2	F7-A6	隅丸長方形か	1.05 (0.30)	0.20	N-72°-E	SD1より古		230
64	2	F7-A6	隅丸長方形	1.95	0.45	0.13	N-72°-E	SK26/53より古	230
69	2	F7-A6	不整形	0.80	0.70	0.20	N-77°-E		230
74	2	F7-A5	隅丸長方形	0.95	0.60	0.15	N-12°-W	SD16重複	230
83	2	F7-A6	楕円形	0.73	0.46	0.05	N-78°-E		230
84	2	F7-A7	隅丸長方形	0.75	0.50	0.03	N-18°-W		230
88	2	F7-A7	隅丸方形	0.70	0.70	0.15	N-5°-W		230
90	2	F7-A7	隅丸長方形	0.45	0.35	0.25	N-28°-W		230
91	2	F7-A7	隅丸方形	0.60	0.60	0.15	N-45°-E		230
92	2	F7-A7	円形	0.40	0.40	0.20	N-65°-E		230
95	2	F7-A5	楕円形	0.90 (0.65)	0.10	N-80°-W	SD1・SK117より新		231
99	2	F7-J6 F7-A6	隅丸長方形 (1.60)	1.45	0.60	N-76°-E	SK122より古 SK36重複		217
117	2	F7-A5	隅丸長方形	1.60	1.10	0.30	N-20°-W	SD1・SK95より古	231
118	2	F7-A6	隅丸方形	0.70	0.65	0.15	N-80°-W	SK280重複	231
122	2	E7-J6/7 F7-A6/7	不整形	4.00	4.00 (1.00)	-		SK99より新 SD1/4重複	222
192	2	F7-A6	隅丸長方形	1.43 (1.00)	(0.30)	N-20°-W	SD1・SK21/49より古		229
280	2	F7-A6	隅丸長方形	1.00	0.75	0.20	N-77°-E	SK118重複	231
292	2	F7-A5	不整形	0.40	0.35	0.25	N-80°-E		231
295	2	F7-A5	楕円形	1.10	0.70	0.10	N-78°-E	SK41重複	231
688	2	F7-A5	隅丸長方形	1.45 (1.00)	0.42	N-20°-W	SD2より古		230

#### 第4号土壌 (第213~216図)

F7-A6グリッドで検出された隅丸長方形の土壌で、長軸1.75m、短軸1.0mである。覆土は3層に分けられるが、いずれも粘性のある暗灰色土で変化に乏しい。以下に示すように底面付近から笠間系陶器の糠白釉青流掛壺が出土し、ほぼ完全形に復元された。

第214・215図に出土した陶磁器を示した。

1~4は瀬戸美濃系磁器の碗である。1は厚手の丸碗、2は端反碗である。2の内面には木型打込に染付を施している。3は湯呑形碗で、遺存部分に染付はみられない。4は型紙摺絵染付の平碗である。5は酸化コバルト染付で鹿の子模様を描く湯呑形碗で、第5号土壌のもの（第233図12）と同形同文であるが別個体である。6~8は瀬戸美濃系磁器の壺である。6は端反形壺で、腰が張る。外面は連続的に面取りされ、雁と思われる鳥と漢詩文を酸化コバルトで染付する。7も端反形の壺で、外面は酸化クロム青磁釉の上に絵付けされる。8は背の低い端反形壺で、外面は涙滴形に面取りされる。絵付けはみられない。高台は蛇の

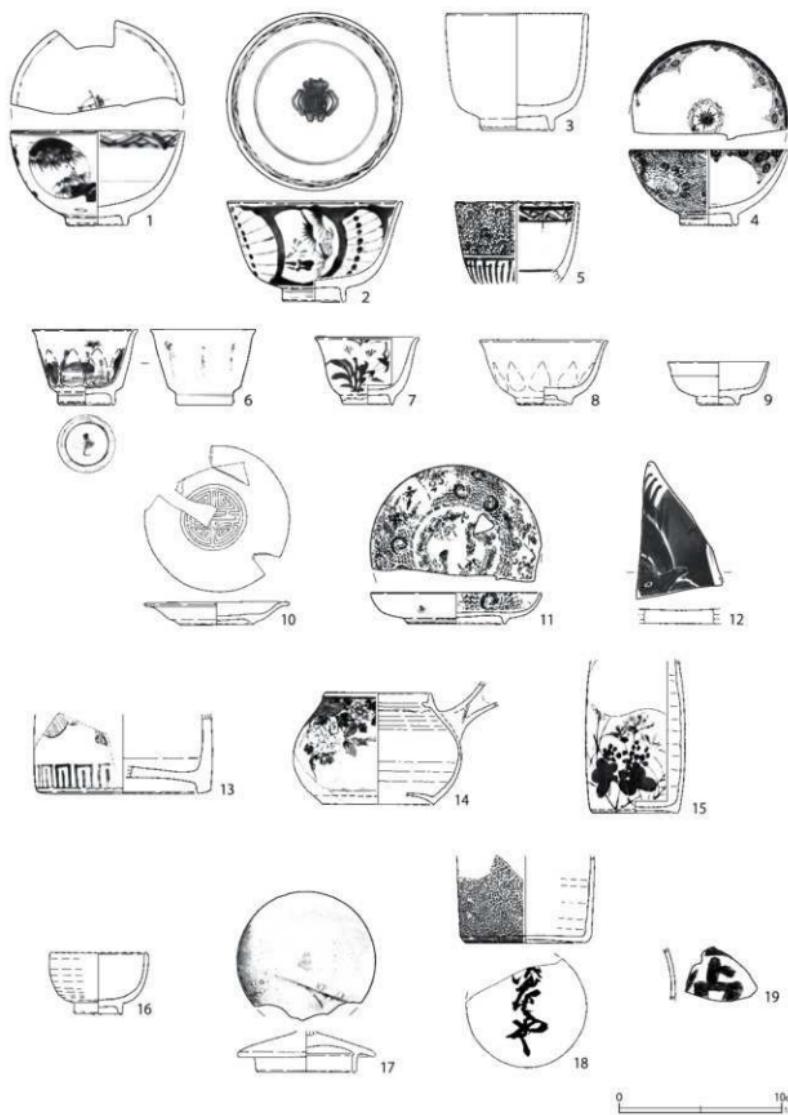


第4号土壌  
1 暗灰色土 粘質 褐色粒子多量 粘性弱 しまり強  
2 暗灰色土 1層より暗い 褐色粒子多量 族化物粒子少量 粘性あり しまり弱  
3 暗灰色土 1層より暗い 褐色粒子・族化物粒子少量 粘性・しまりあり

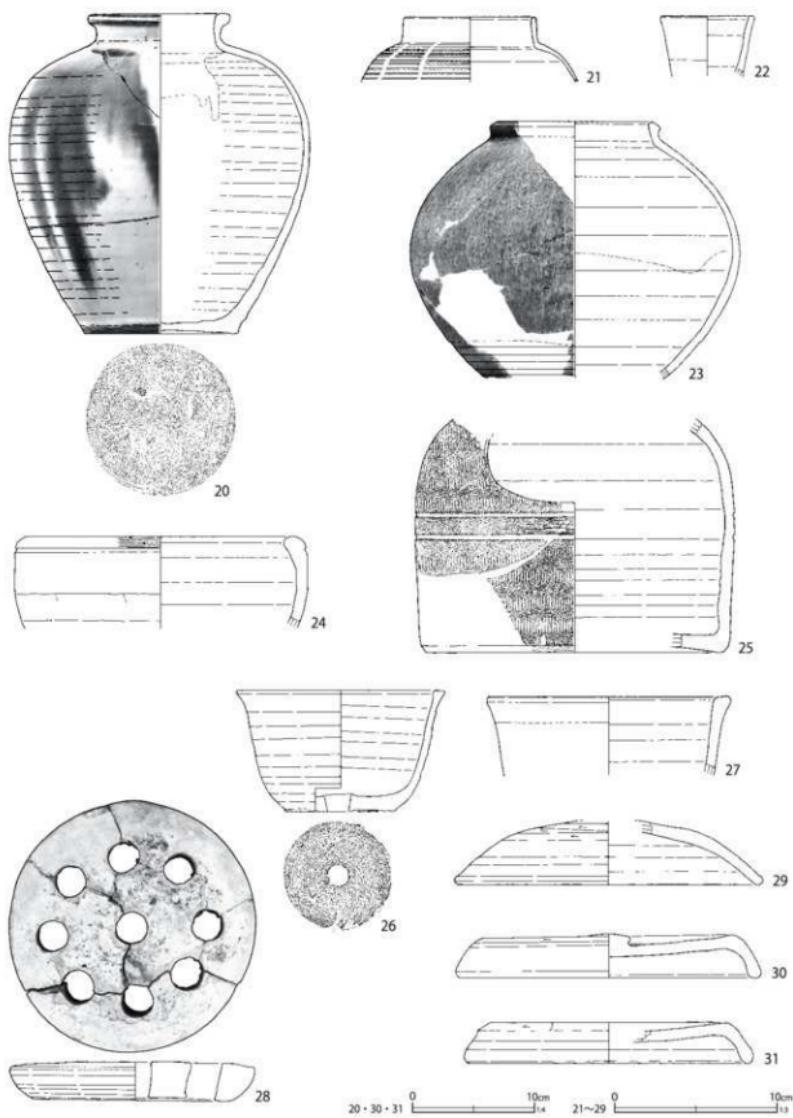
第213図 第4号土壌

目状に成形され露胎とする。9は白磁の壺で、外面中位に弱い突帯を巡らせる。

10~11は瀬戸美濃系磁器の皿で、10は型押壽文皿である。11は型紙摺絵染付の皿だが、外面にも崩れた文字を染付する。12は肥前系磁器の大皿の底部とみられ、酸化コバルト染付で絵付けされる。13は肥前系磁器の香炉で、外面に蓮弁



第214図 第4号土壤出土遺物（1）



第215図 第4号土壤出土遺物（2）

第118表 第4号土壤出土遺物観察表(1)(第214・215図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	
											内面	外側
1	磁器	碗	(10.5)	5.7	(3.6)	-	45	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	10.6	6.1	3.7	-	100	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	85-4
3	磁器	碗	(8.5)	7.1	4.4	-	50	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉(湯呑形碗)	
4	磁器	碗	(9.6)	4.6	3.5	-	55	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙模倣染付	
5	磁器	碗	(7.3)	[5.0]	-	-	25	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付(湯呑形碗)	
6	磁器	杯	6.3	4.6	3.3	-	95	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
7	磁器	杯	6.4	4.1	3.0	-	65	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面酸化クロム青磁釉) 外面染付(茶・緑・白盛)	
8	磁器	杯	7.7	3.9	3.4	-	95	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉 高台内露胎 蛇の目状高台	
9	磁器	杯	6.1	2.6	2.3	-	95	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉	
10	磁器	皿	8.5	1.3	4.5	-	70	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文(型押浮文)	85-5
11	磁器	皿	10.4	1.9	6.0	-	60	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型紙模倣染付 外面染付	
12	磁器	皿	-	[0.9]	-	-	5	良好	白	SK4	肥前系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
13	磁器	香炉	-	[4.9]	(9.2)	-	25	良好	白	SK4	肥前系 外面施釉・染付 高台内露胎 内面砂付着	
14	磁器	急須	6.4	[7.7]	(6.9)	-	35	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
15	磁器	燭台	-	[9.4]	5.2	-	35	良好	白	SK4	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面酸化クロム青磁釉) 外面染付(緑・茶・白盛)	
16	陶器	杯	(5.8)	3.7	2.6	IK	55	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内底面に赤色付着物微量あり	
17	陶器	蓋	-	[2.5]	5.8	HIK	90	良好	灰白	SK4	上面灰釉・鉄絵・白盛 一部被熱・黒化 最大径8.5cm(土瓶蓋)	85-6
18	陶器	水注	-	[5.3]	7.4	K	20	良好	にぶい根	SK4	外面較肌釉 内面薄く鉄絵 底部墨書き	85-7
19	陶器	徳利	-	[3.2]	-	IK	5	良好	灰黄	SK4	内面鉄絵 外面灰釉・須頭繪で文字「店」	
20	陶器	壺	10.5	26.2	12.6	EIK	95	良好	褐灰	SK4	笠間系 底部糸切痕(右)・白化粧 外面糠白釉に緑釉流し掛け	86-1
21	陶器	土瓶	(7.8)	[4.0]	-	-	5	良好	赤	SK4	胎土伝器質	
22	土師質土器	燒塗壺	(5.6)	[3.7]	-	AIK	10	普通	根	SK4	胎土粉質 被熱・赤化	
23	陶器	土瓶	(9.4)	[16.7]	-	IK	25	良好	にぶい根	SK4	松原系 外面海鼠釉・下位煤付着	86-2
24	瓦質土器	火鉢	(16.4)	[5.6]	-	CIK	10	普通	灰白	SK4	口縁部ミガキ 繊寸	
25	瓦質土器	手培り	-	[14.3]	(18.2)	CEIK	10	普通	黒・灰	SK4	外面トビガシナ状施文 沈線区画内ミガキ繊寸 繊部に二次窓打痕	
26	瓦質土器	植木鉢	(12.6)	7.4	6.6	CHIK	60	普通	外:灰白 内:灰	SK4	底部糸切板(右)・穿孔	
27	瓦質土器	植木鉢	(14.5)	[4.8]	-	AEIK	10	普通	灰白	SK4	胎土粉質	
28	瓦質土器	日皿	14.9	2.3	11.9	CHIK	100	普通	にぶい根	SK4	下部シワ状痕 上面被熱・白化	86-3
29	瓦質土器	蓋	-	[3.9]	(18.6)	CEPHI	15	普通	にぶい根	SK4	やや酸化炎焼成 口縁部縦少付着	86-4
30	瓦質土器	蓋	20.7	3.6	24.5	BCI	85	普通	黒	SK4	上面砂目 内面(下面)に円弧状の压痕あり(火消蓋)	86-5
31	瓦質土器	蓋	(19.5)	[3.3]	(22.9)	CEPHI	40	普通	灰褐・黒	SK4	上面砂目(火消蓋)	

文や丸文と思われる染付をくすんだ色調で施す。高台疊付部まで施釉し、高台内は露胎とする。14は瀬戸美濃系磁器の急須で、酸化コバルト染付で花文を描く。15は瀬戸美濃系磁器の燭台で、酸化クロム青磁釉を施す。外面の絵付けには白盛で花が描かれ、その上に桃色を加えている。

16は瀬戸美濃系陶器の杯である。内面と外面

の一部に、僅かながら赤色の色素が沈着している。17は、上面に灰釉を厚く施釉した土瓶蓋である。鉄絵と白盛で梅樹文を描く。胎土は均質でやや軟質な印象である。18は較肌釉を施す薄手の陶器で、水注であろうか。19は陶器徳利で、胴部には呉須で「店」の文字を書く。20は笠間系陶器の壺で、糠白釉に緑釉を流し掛けする。底

部は、一見、離し糸切りのような右回転糸切痕を残す。底部の露胎部に白化粧が施される。内面は透明釉が掛けられ、ロクロ目が強い。胎土は緻密で施釉部分は還元しているが、露胎部の一部では黄橙色を呈する。所謂「糠白釉青流掛」の壺で、二彩釉の流し掛けとともに笠間焼を特徴づける釉薬である（茨城県陶芸美術館2010）。

21は薄手の陶器土瓶である。胎土は炻器質で、備前系陶器に類似する。22は土師質土器の焼塩壺で、口縁部は平坦になる。胎土に微細な白雲母が含まれるが量は多くはない。被熱によって赤化する。23は松岡系陶器で、大振りの土瓶である。外面に海鼠釉をかける。外面体部下位の露胎部には、幅の狭いケズリが施される。底部下位に使用による煤の付着がみられる。24は丸火鉢で、口縁部にミガキが施される。体部はヨコナデで仕上げられるが、下位には先行してヨコケズリがみられ、これをナデ消している。断面の中心部は黒く、周囲は灰白色、表裏面は黒く焼される。胎土には角閃石を多く含む。

25は瓦質土器の手焼きで、外面にはトビガンナ状施文がある。中位には横沈線による区画を作り、その中をミガキ処理する。断面中心は黒色だが、周囲は灰色を呈する。表裏面は焼されて黒

い。胎土には角閃石と白色微粒子が多く含まれる。窓は一部しか残っていないが、下位に外側からの二次敲打痕がみられる。

26、27は瓦質土器の植木鉢で、胎土は類似するが、26の方がより硬質で角閃石を一定量含む。一方で27は胎土が粉っぽいもので、雲母を多く含む。26は全体に造りが華奢で薄手のものである。底部には右方向の回転糸切痕が残る。断面中心は黒みの強い灰色で周囲と表裏面は灰白色である。27も同様に断面中心は灰色、周囲と表裏面はやや黄色味を帯びた灰白色である。後者は江戸戸地系の可能性が高い。

28は瓦質土器の目皿である。色調は被熱により橙色を帯びる。下面には成型時のシワ状痕跡が無調整で残る。外面は下位にケズリを施した後、全体がヨコナデされケズリは消されている。上面を回転ナデ後に穿孔（九箇所）したものとみられる。使用時の被熱により白色化し、若干の付着物がある。

29は瓦質土器の蓋としたが、全体的に酸化炎焼成ぎみのものである。胎土には軽石粒と思われる白色粒子が含まれる。上部は回転ケズリで処理している。内面へ口縁部に少量の煤が付着している。30・31は瓦質土器の火消壺の蓋である。30

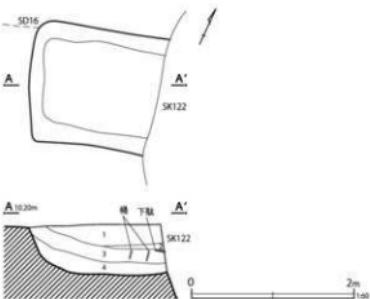


第216図 第4号土壤出土遺物(3)

第119表 第4号土壤出土遺物観察表(2)(第216図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	石製品	石筆	長[3.9] 径0.6 重さ2.8	SK4	滑石 茶色味帯びる	284-2
2	石製品	石筆	長[3.7] 径0.6 重さ1.7	SK4	滑石 白色不透明	284-2
3	鉄製品	錫	口径[23.4] 高[3.9] 厚さ0.2 重さ99.9	SK4		284-2

SK99



第217図 第99号土壌

は中心が大きく窪む蓋で、つまみの上面と周間に回転ナデ痕が顕著に残る。上面は砂目状痕跡、体部上位はケズリが施される。内面（下面）の中央部に円弧状の圧痕があるが、何の痕跡かは不明である。内面を中心に黒化しているが、使用痕と考えられる。厚手で胎質は悪い。31もほぼ同形態と思われる。断面中心は黒く、周囲及び表裏面はやや黄色味を帯びた灰白～灰褐色である。体部上部は明瞭なケズリが巡る。外面下位～内面にかけて黒化している。

遺物から、本跡は栗橋9期の帰属とみられる。第214図4・11に示したように型紙模様染付の磁器が認められ、笠間系陶器の流通時期を考える上でも興味深い一括遺物である。

第216図1・2は石製品の石筆である。1は白色不透明、端部の一方を使用する。反対側は欠損する。2はやや黄褐色味を帯びて僅かに透明感がある石材である。両端とも使用面とするが、下端側を特に良く使用している。

第216図3は鉄製品の鍋である。口縁部が大きく横方向に広がり、水平な口唇部を形成する。

### 第99号土壌（第217～221図）

E 7-J 6、F 7-A 6 グリッドに位置する隅丸長方形プランの土壌である。東側を第122号土壌に掘り込まれており、本跡のほうが古い。遺存長1.6m、幅1.45mである。覆土は暗灰色系のシルト質土で4層に分層されており、下層に腐食物が層状に堆積する状況が認められた。一定期間、廃棄土壌として開口した後に、上部を埋め戻した可能性が考えられる。

第218図に出土した陶磁器類を示した。

1は瀬戸美濃系磁器の杯で、筒形・湯呑形のものである。酸化コバルト染付が施される。同文の個体が他に2個体ある。2・3は瀬戸美濃系磁器の杯で、端反形である。2は外面に酸化コバルト染付で、草文と漢詩の一節が描かれる。同文が他に1個体ある。3は酸化コバルト染付で草花文を描く。4は瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯である。5～8は瀬戸美濃系磁器の燭台である。5の外面には酸化コバルト染付が施される。底部に「紀州屋」の墨書がある。6の遺存範囲に染付はみられない。底部には「紀印」の墨書がある。7も「紀州屋」の墨書がある底部破片である。僅かに残る体部下端に圓線が染付されている。8は「平」の墨書がある。底部が厚手である。

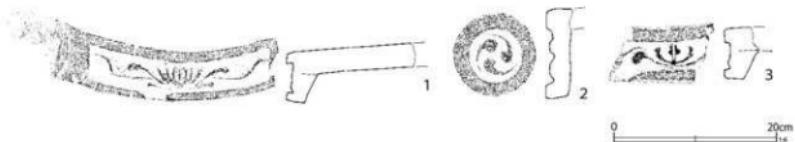
9・10は同形の陶器杯で、灰釉の厚い部分は様白釉に近い。鉄絵で崩れた鶴を二箇所に描いている。高台端部に逆V字状の切れ込みを三箇所入れる。高台内には渦巻き状の羅みがある。11は灰釉を施す陶器灯明皿で、底部・体部は回転ケズリが施される。釉薬はやや厚く僅かに緑色味を帯びた灰色、胎土は灰色で硬質・緻密である。地方窯系の製品と考えられる。12は柿釉が施された薄手の陶器灯明皿である。釉薬は瀬戸美濃系の灯明皿に類似するが、胎土はザックリした印象で、細かな白色粒子・黒色粒子を多く含む橙色系の色調である。体部は口縁部を除き回転ケズリ、底部も回転ケズリが施される。重ね焼き痕はみら



第218図 第99号土壤出土遺物(1)

第120表 第99号土壤出土遺物観察表(1)(第218図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	杯	5.1	6.1	3.9	-	95	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体2あり	
2	磁器	杯	6.6	4.6	2.8	-	100	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体1あり	
3	磁器	杯	6.8	4.6	2.6	-	100	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
4	磁器	杯	6.0	2.8	2.2	-	95	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付(青・茶) (羽般手酒杯)	108-3
5	磁器	燭台利	-	[9.1]	5.6	-	20	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書「紀州屋」	108-6
6	磁器	燭台利	-	[12.0]	5.8	-	60	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 外面施釉 底部墨書「紀印」	108-7
7	磁器	燭台利	-	[0.5]	(5.6)	-	5	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 底部墨書「紀州屋」	108-4
8	磁器	燭台利	-	[1.2]	(5.6)	-	5	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 外面施釉 底部墨書「平」	108-5
9	陶器	杯	6.0	4.3	2.4	IK	100	良好	灰白	SK99	大堀相馬系か 内外面灰釉(舞白軸に近い) 高台切込3箇所	108-8
10	陶器	杯	5.9	4.2	2.2	IK	70	良好	灰白	SK99	大堀相馬系か 内外面灰釉 高台切込3箇所	108-9
11	陶器	灯明皿	7.7	1.3	3.0	IK	55	良好	灰	SK99	内面～外面上位灰釉	109-1
12	陶器	灯明皿	10.8	2.3	(4.8)	IK	50	良好	にぶい橙	SK99	内面～外面上位灰釉	109-2
13	陶器	皿	8.6	1.4	5.5	C	100	良好	浅黄橙	SK99	萬古系 内外面施釉 内面鉄軸流しがけ 小型	109-3
14	陶器	甕	(9.6)	9.3	5.6	IK	70	良好	灰白	SK99	内外面柿輪 外面鉄軸流しがけ 小型	
15	陶器	甕	17.7	16.5	10.4	IK	90	良好	灰白	SK99	内外面柿輪 外面鉄軸流しがけ 内底面目跡 5 蛇の目状高台	
16	陶器	蓋	-	1.9	6.4	K	90	良好	にぶい橙・にぶい赤褐	SK99	胎土二色練込み 上面しのぎ状施文 空孔 1	109-4
17	陶器	植木鉢	(20.2)	(14.4)	14.8	I	50	良好	にぶい黄緑・にぶい赤褐	SK99	胎土二色練込み 体部しのぎ状施文 底部草孔・墨書「○太イ」 上下接点ない破片から國上復元	109-5
18	瓦質土器	植木鉢	17.4	12.0	13.2	AIK	85	普通	灰白	SK99	底部系切痕をナダ消し・穿孔 細粉質燒土	



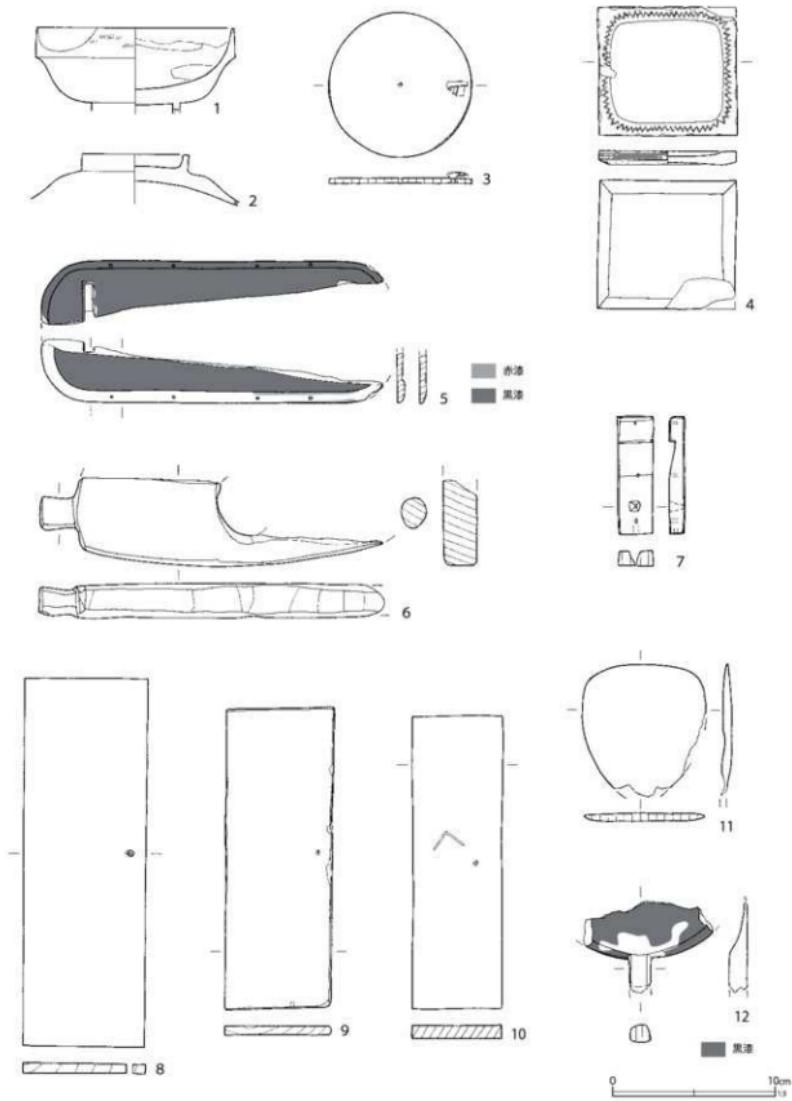
第219図 第99号土壤出土遺物(2)

第121表 第99号土壤出土遺物観察表(2)(第219図)

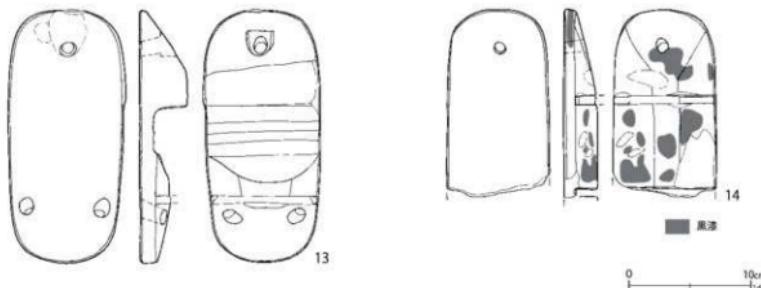
番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒桟瓦	[11.9]	[21.8]	-	AIK	普通	灰白	SK99		250-9
2	瓦	軒桟瓦	[3.4]	[8.6]	6.7	ACIK	普通	灰	SK99	右巻き 胎土軟質	
3	瓦	軒桟瓦	[3.0]	[9.1]	-	AIK	普通	灰白	SK99		

れない。地方窯系の製品である。13は型成形の陶器皿で、平面形は隅丸方形を呈する。軟質施釉土器質である。底面に布压痕と「萬古」の刻印があり、萬古焼とみられる。内面の釉薬は鉛釉と思われ、黄白色を基調に一部縞釉とするものらしいが、剥落・変色している。鉄絵で文様を描く。

14・15は陶器の柿輪甕である。いずれも胎土は緻密で長石とみられる白色粒子を含む。外面露体部は、にぶい黄橙色を帯びる。同一産地のものであろう。14は小型で高台は輪高台状、15の高台は低い蛇の目状になる。16は練り込み手土瓶蓋で、つまみはキノコを模す。17は練り込み手



第220図 第99号土壤出土遺物(3)



第221図 第99号土壤出土遺物(4)

第122表 第99号土壤出土遺物観察表(3)(第220・221図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀	-	-	-	12.2	[5.2]	-	横木取り	SK99 内面赤漆 朱で文様 外面黒漆 金で文様 一部赤漆 口縁金	259-5	
2	木製品	漆椀蓋	つまみ径(6.5)		-	[3.0]	-	-	-	SK99 内面赤漆 外面黒漆		
3	木製品	曲物	-	-	0.3	8.8	-	-	柾目	SK99 蓋 横皮紐 木釘残 孔1	259-6	
4	木製品	漆小皿	7.3	8.5	-	-	0.8	-	横木取り	SK99 内外面黒漆 角型 口縁部文様 外面・底部細かい筋		
5	木製品	膳	[4.0]	[28.1]	0.6	-	-	-	板目	SK99 表面黒漆 線に赤漆残 裏面・側面黒漆 木釘残存 脚の一部残存		
6	木製品	井戸桶部材	5.2	[21.1]	2.2	-	-	-	板目	SK99		
7	木製品	柄杓	7.2	2.2	0.9	-	-	-	柾目	SK99 小猿 柄孔1 木釘4	296-6	
8	木製品	木札	22.6	7.6	0.6	-	0.6	-	板目	SK99 表裏面墨書き 第241表11		
9	木製品	木札	18.7	6.7	0.5	-	0.5	-	板目	SK99 墨書き 第241表12	296-7	
10	木製品	木札	18.0	5.5	0.8	-	-	-	板目	SK99 表面焼き印(ヤマ) 孔(未貫通)1箇所		
11	木製品	杓子	[8.1]	7.6	0.5	-	-	-	柾目	SK99 裏面赤漆		
12	木製品	杓子	[5.6]	受鉢幅[7.9] × 1.0 桟幅1.3 × 1.1		-	-	-	柾目	SK99 全面黒漆	259-7	
13	木製品	下駄	20.6	9.7	-	-	[3.9]	-	板目	SK99 後衛下駄	259-8	
14	木製品	下駄	[15.4]	8.5	-	-	[2.8]	-	板目	SK99 陰卯下駄 側面・裏面黒漆		

の植木鉢で、体部外面にしのぎ状の施文を行う。脚側面に装飾を伴う。18は瓦質土器植木鉢である。微細な雲母粒を少量含む軟質な胎土で、江戸在地系と考えられる。胎土はほぼ還元炎焼成である。底面は糸切痕をナデ消している。外面下位にヘラの当たる見られるが、底部下端の外周を削った際の痕跡と思われる。陶磁器の様相から、本跡の廃絶は9期でも比較的早い段階と思われる。

第219図は出土した瓦で、全て軒棧瓦である。1は中心飾りが片側3弁の蓮華文、左右に延びる

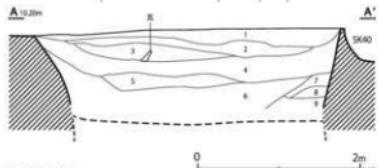
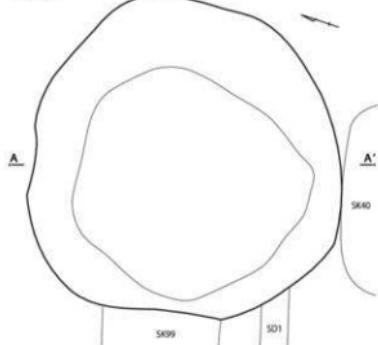
唐草の巻きがほとんど認められない。2は軒丸部分で珠文の無い三つ巴文である。本跡からはもう一点、軒棧瓦の破片(軒平部分、中心飾りの遺存無し)が出土している。

第220・221図は木製品である。1は漆椀で、口縁近くに稜をもつ器形である。内面赤漆、外面黒漆、口縁は金である。内面には朱で、外面上には金で文様が描かれる。4は全面黒漆塗りの皿である。口縁部に鋸歯状の文様、外面上には線状の刻みが施される。5は膳である。全面黒漆塗りで側面の一部に赤漆が残存する。8は木札で、表面に

「武州栗橋□□入基□／春木屋〔 〕」、裏面に「〔 〕四／荷物安□」の墨書が見られる。9は木札で、「紀州」の墨書が残る。11は杓子で、裏面に赤漆が残存する。受部に窪みがなく平坦である。12は杓子で、全面黒漆塗りである。13は割り下駄で、後歯を差し込む形である。前壺周辺には窪みが作られる。14は陰卯下駄で、側面と裏面に黒漆が残存する。

本跡では、「紀州屋」等の墨書がある磁器の爛徳利がたくさん出土し、木製品の墨書にも認められる。後述の「第2区画の土壙」の中で扱う第40・44・192号土壙からも「紀州屋」「紀印」関連の墨書資料が出土しているが、時期的に栗橋9期の古い段階の遺構に集中しており、本跡の時期

SK122



第122号土壙				
1	暗灰褐色土	シルト質	炭化物多量	燒土粒子少量
2	暗黄褐色土	砂質	炭化物少量	
3	暗灰褐色土	シルト質	暗黄色・黄土質少量	炭化物多量
4	暗灰褐色土	シルト質	炭化物・暗灰色土含む	しまり・粘性あり
5	暗灰褐色土	シルト質	炭化物含む	白色粒子少量
6	暗灰褐色土	シルト質	炭化物・燒土粒子少量	しまり・粘性あり
7	暗灰褐色土	シルト質	暗灰色土含む	炭化物少量
8	暗灰褐色土	粘質	炭化物・白色粒子少量	しまりあり・粘性強
9	暗灰褐色土	粘質	炭化物少量	

第222図 第122号土壙

と一致する。紀州屋関連の墨書は、第15号溝跡の陶磁器に若干みられるほか、第4区画の第140号土壙の植木鉢に墨書がみられる。木製品では、やはり第4区画の第159号土壙から「紀州屋殿行」と書かれた木札が、第3区画の第309号土壙から「紀州屋喜右衛門様行」と書かれた木札が出土している。

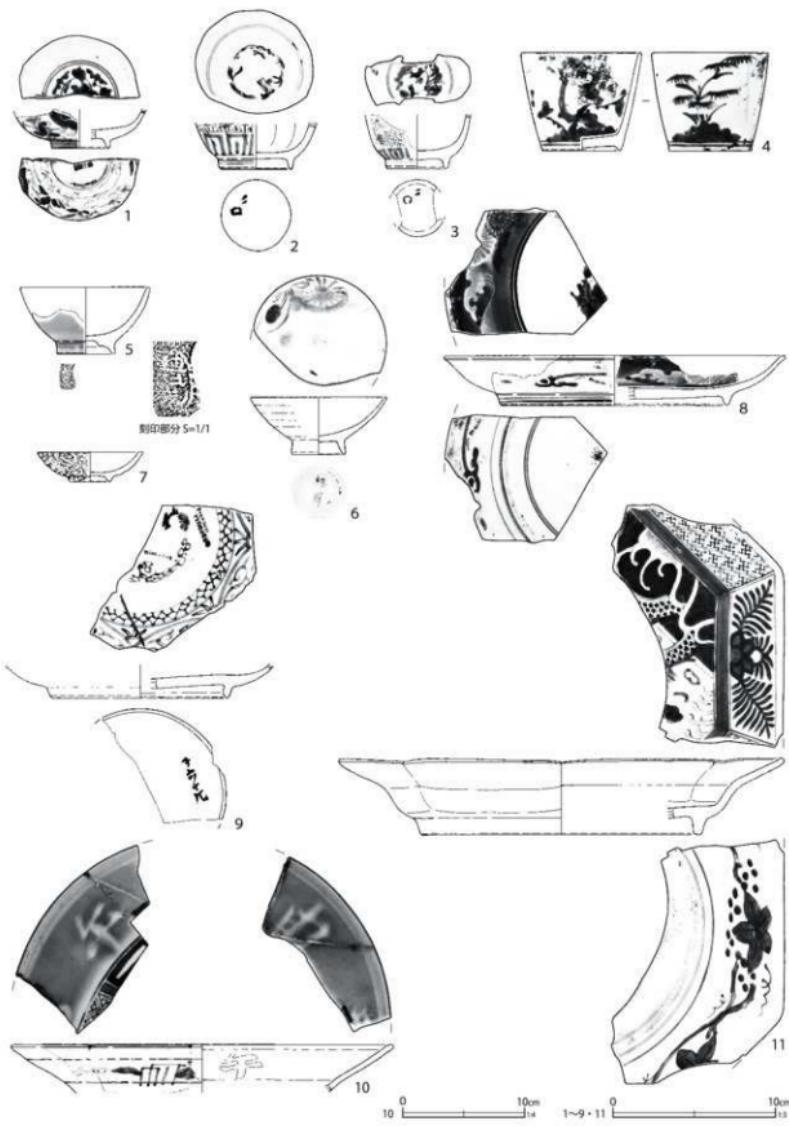
「紀州屋」は『営業便覧』の「荒物商 紀州屋坂庭重蔵」の記載から、第3区画(区画Y)に相当するものと考えられる。しかし、関連文字資料の出土傾向は、前述のとおり、南隣の第2区画から多く出土している。第3区画の土壙数が少ないことが一因であろう。ただし、第3区画を横断する竹柵が、第2区画から導水されていること、明治6年の栗橋宿を記録した『深光寺所蔵絵図』に、2つの区画の所有者が同じ「坂庭」姓であることなど、第2・3区画には、他の敷地以上に強い関連性を窺わせるものがある。

#### 第122号土壙(第222~226図)

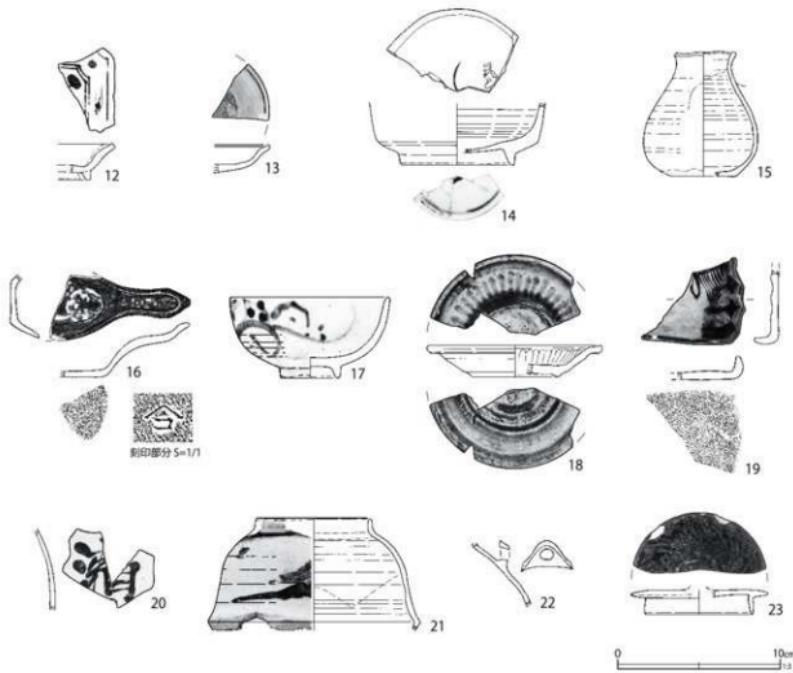
E 7-J 6・7、F 7-A 6・7グリッドに位置する土壙で、平面形は不整な円形である。径は4.0mとかなり大規模である。安全上の問題から底面まで掘削し得なかったので、井戸跡であった可能性もある。第99号土壙を掘り込んでおり、より新しい。

出土した遺物量は多かったが、陶磁器の時代幅は広く、17世紀の古手のものから19世紀末以降のものまで出土している。ここでは、古手の遺物や文字資料など、特徴的なものに限定して図示した。

第223・224図には陶磁器を示した。1は肥前系磁器の小丸碗で、染付後に金彩を主体に赤・緑・紫で色絵が施される。焼き維痕が顕著である。2・3は肥前系磁器の碗で、口縁部が輪花状に成形されるものと思われる。内底面に環状松竹梅文、外面下位に綵格子文、上位に微塵唐草文が染付されるのは2点とも共通するが、2の模様が



第223図 第122号土壤出土遺物(1)

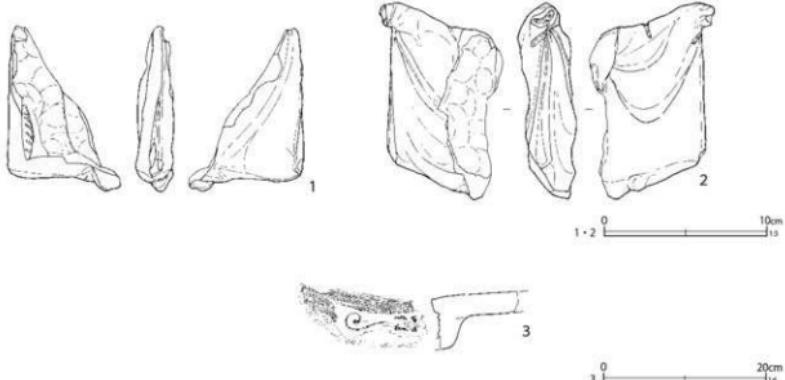


第224図 第122号土壤出土遺物(2)

第123表 第122号土壤出土遺物観察表(1)(第223・224図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	-	[2.4]	3.5	-	30	良好	白	SK122 肥前系 内外面施釉・染付・色繪(金・赤・緑・紫) 焼き繕ぎ痕 弱く被熱(小丸碗)	123-5	
2	磁器	碗	-	[2.8]	4.3	-	40	良好	白	SK122 肥前系 内外面施釉・染付 烧き繕ぎ印(赤)	123-4	
3	磁器	碗	-	[3.3]	3.5	-	25	良好	白	SK122 肥前系 内外面施釉・染付 烧き繕ぎ痕・焼き繕ぎ印(赤)	123-6	
4	磁器	猪口	7.3	6.0	4.7	-	95	良好	白	SK122 肥前系 内外面施釉 外面染付 弱く被熱して全体的に煤付着	123-7	
5	磁器	环	(7.8)	(4.1)	(3.4)	-	30	良好	白	SK122 瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁釉 面ヨバルト染付 口紅・蛇の目状高台部に刻印「豐口(山カ)」上下接点ない2破片から図上復元	123-7	
6	磁器	坏	8.3	3.5	3.1	-	65	良好	白	SK122 瀬戸美濃系 内外面施釉・上繪付(赤・金)	124-1	
7	磁器	紅皿	(6.2)	1.8	(2.4)	-	45	良好	白	SK122 肥前系 型成形 内外面施釉 外面型押施文(陽刻状)	124-1	
8	磁器	皿	(20.8)	3.0	(13.9)	-	30	良好	白	SK122 肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱して煤付着	124-2	
9	磁器	皿	-	[2.0]	(10.6)	-	10	良好	白	SK122 瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 烧き繕ぎ痕・焼き繕ぎ印(赤)	124-3	

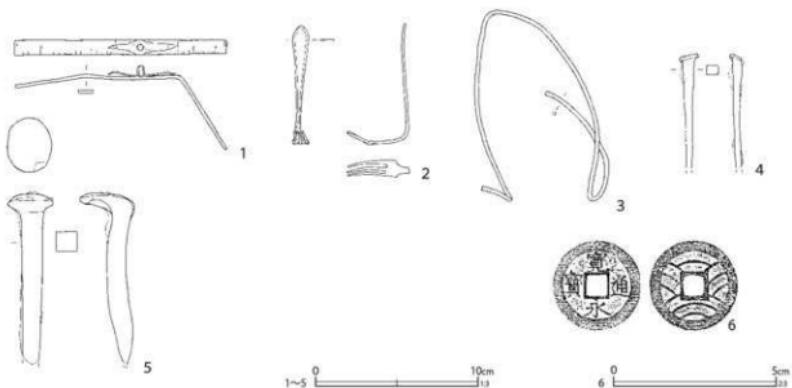
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
10	磁器	皿	(31.2)	[3.9]	-	-	10	良好	灰白	SK122 SK141接合 肥前系 内外面施釉(口縁部青磁釉)・染付 陽刻状施文 漆黒緋・燒き織ぎ痕	124-5	
11	磁器	皿	(27.1)	4.6	(17.2)	-	25	良好	白	SK122 潮戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面赤絵(赤・緑) 異く被熱	124-4	
12	磁器	皿	-	2.2	-	-	10	良好	白	SK122 潮戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面赤絵(赤・緑) 異く被熱	124-4	
13	磁器	皿	-	[1.7]	-	-	5	良好	白	SK122 江戸平型成形 内面型押施文(陽刻状) 内外面黄色釉	124-6	
14	磁器	香炉	-	[3.8]	6.8	-	20	良好	白	SK122 潮戸美濃系 外面施釉 高台内施釉・染付 焼き織ぎ痕(赤)・黒墨	125-1	
15	磁器	水注か	3.5	7.6	(4.0)	-	45	良好	白	SK122 肥前系 内面上位～外面施釉 上位は青の單色釉掛け分け 把手剥落痕跡 底部墨書き	124-7	
16	磁器	蓮華	-	3.3	-	-	60	良好	白	SK122 潮戸美濃系 内外面施釉 内面網版模写染付 底部刻印「△」	125-2	
17	陶器	碗	(9.5)	4.9	3.4	IK	50	良好	灰白	SK122 潮戸美濃系 内外面施釉 外面真須絵 被熱(太白手丸綴)		
18	陶器	皿	(10.6)	1.9	5.4	DIK	30	良好	灰白	SK122 潮戸美濃系 内外面灰釉、内底面・高台内拭き取り 高台内輪トナギ 内面体部菊花状しき 大窯第4段階(内充皿)	125-4	
19	陶器	皿	-	1.4	-	HIK	30	良好	灰白	SK122 型成形 底部布压痕 内面～外面体部施釉・緑釉流し掛け 鉄鉢 口銷	125-3	
20	陶器	德利	-	[5.0]	-	IK	5	良好	灰白	SK122 外面灰釉 吳須繪(文字「酒」)	125-5	
21	陶器	土瓶	(7.0)	[6.9]	-	EIK	5	良好	灰白	SK122 大堀相馬系 外面難白釉・上給付(茶・赤・緑) 22と同一個体	125-6	
22	陶器	土瓶	-	[4.0]	-	IK	5	良好	灰白	SK122 大堀相馬系 内面上位白釉 外面鐵釉 被熱 21と同一個体		
23	陶器	蓋	-	[1.5]	(6.5)	K	40	良好	褐灰	SK122 外面鐵釉 最大径(8.4)cm	126-1	



第225図 第122号土壤出土遺物(3)

第124表 第122号土壤出土遺物観察表(2)(第225図)

番号	種別	器種	幅/長	高さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	人形	[7.0] / [10.0]	-	2.4	56.7	A1	良好	に深い模	SK122	京都系 前後合二枚型成形 中空	243-7
2	陶器	人形	[7.6] / [12.3]	-	3.2	11.7	A1	良好	浅黄緑	SK122	雲母付着 2と同一個体	243-8
番号	種別	器種	長さ	幅	高さ	径	胎土	色調	遺構		備考	図版
3	瓦	軒棟瓦	[7.1]	[10.5]	-	ACIK	普通	灰白		SK122		253-7



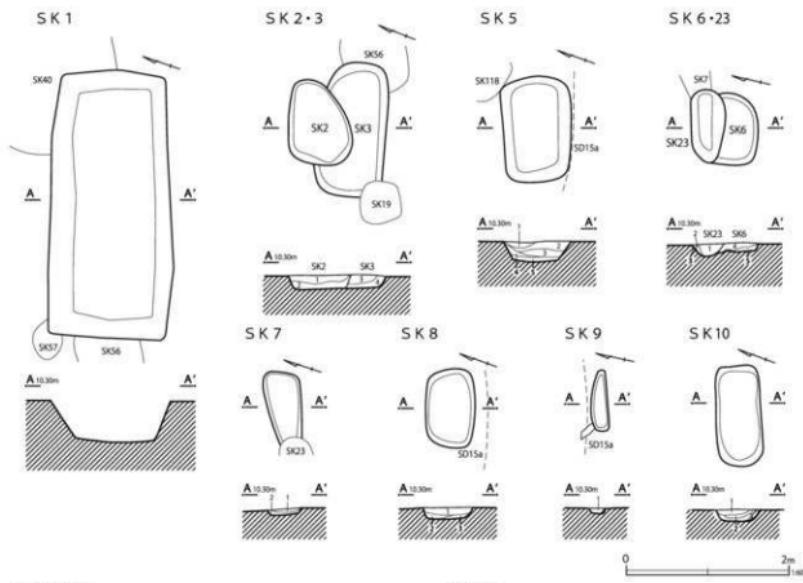
第226図 第122号土壤出土遺物(4)

第125表 第122号土壤出土遺物観察表(3)(第226図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	文鏡	長さ13.0 幅0.9 厚さ0.2 重さ27.2	SK122	折れ曲がる 目盛刻み (一目盛1分)	
2	金属製品	突き棒	長さ7.3 幅1.0 厚さ0.1 重さ5.8	SK122	フォーク 材質不明	
3	銅製品	不明	縦11.7 橫8.2 厚さ0.2 重さ17.5	SK122		
4	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.7 厚さ0.6 重さ6.9	SK122		
5	鉄製品	釘	長さ[10.5] 幅1.3 厚さ1.2 重さ115.8	SK122		
6	銅製品	錢鋗	径27.9 厚さ1.1 重さ3.8	SK122	寛永通寶(新) 11波	

崩れているのに対し、3の模様はより丁寧である。焼き継ぎ痕・焼き継ぎ印がみられ、焼き継ぎ印は2つとも同じ文である。4は肥前系磁器の猪口で、外面に梅樹文などを染付する。弱く被熱しておらず、全体に煤が多く付着している。5は瀬戸美濃系磁器の坏で、全体を酸化クロム青磁釉で施釉し、圈線と口縁部の半円形の文を酸化コバルトで染付する。底部～体部中位までと口縁部は接点が無いが、同一個体の破片から図上復元して示した。高台内に刻印があり「豊□(山カ)」と読める。6は瀬戸美濃系磁器の坏で、金彩を主体とした上絵付けが施される。高台内には金彩で「根岸」と銘がある。内面にも文字が書かれていたようだが、ほとんど消えて判読し難い。わずかに「念」の字が見える。7は肥前系磁器の紅皿である。口唇部は露胎、外面は陽刻状の丁寧な蛸唐草

文を型押施文する。高台内に刻印はみられない。8は肥前系磁器の皿である。高台はU字状、外周面に染付が施されるが、外線を描いて中をダミ塗りする丁寧な絵付けである。内面の外周には墨書きを用いて波や菊文が染付される。弱く被熱しているようで断面を含めて煤の付着がみられる。9は瀬戸美濃系磁器の皿で、内面には環状松竹梅文を染付する。焼き継ぎ印は「ヲ六十九」であろうか。10は肥前系磁器の大皿で、鍔状に広がる口縁部には「午」「申」などの文字が陽刻状に施文して上から青磁釉を施す。干支を周囲に表す皿と考えられる。漆継ぎと焼き継ぎが両方みられ、長期にわたり使用されていたものと推測される。11は肥前系磁器の皿で、平面形は八角形に復元される。焼き継ぎ痕が顕著に見られる。12は型成形の瀬戸美濃系磁器皿で、平面形は多角形、内



第2・3号土壙

- 1 帽灰色土 粘質 塗化物・焼土ブロック多量 白色粒子少量 陶磁器出土  
粘性あり しまり弱 (SK2)
- 2 帽灰色土 粘質 塗化物・焼土ブロック・白色粒子多量 粘性・しまりあり  
(SK2)
- 3 帽暗褐色土 粘質 塗化物・白色粒子多量 粘性・しまり弱 (SK3)
- 4 帽灰褐色土 粘質 塗化物・有機物(木片)多量 白色粒子少量 粘性あり  
しまり弱 (SK3)

第5号土壙

- 1 帽褐色土 粘質 塗化物粒子・褐色粒子多量 粘性弱 しまりあり
- 2 帽灰色土 粘質 塗化物・焼土ブロック多量 粘性弱 しまり強
- 3 黒褐色土 粘質 塗化物多量 褐色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 4 黑褐色土 3層より弱い 粘土質 塗化物多量 褐色粒子少量 粘性・  
しまり弱 木片混入
- 5 帽褐色土 塗化物粒子・褐色粒子少量 粘性・しまりあり 本机が出土

第6・23号土壙

- 1 灰色土 粘土質 焼土ブロック・塗化物粒子 粘性弱 しまりあり  
木片あり (SK23)
- 2 帽褐色土 粘土質 木片が腐食したものと考えられる 粘性・しまり弱  
SK23)
- 3 灰色粘土質 塗化物少量 粘性弱 しまりあり (SK23)
- 4 灰色土 粘質 塗化物少量 粘性弱 しまり弱 (SK6)
- 5 帽灰褐色土 粘質 塗化物・有機物(木片)多量 白色粒子少量 粘性あり  
しまり弱 (SK6)

第7号土壙

- 1 黒色土 粘土質 塗化物粒子多量 焼土ブロック少量 粘性弱  
しまりあり
- 2 帽褐色土 粘土質 白色粒子少量 粘性あり しまり強 瓦出土

第8号土壙

- 1 帽褐色土 粘土質 烧土ブロック・塗化物粒子多量 多量の木片出土  
粘性弱 しまりあり
- 2 帽褐色土 1層より弱い 粘土質 塗化物粒子多量 褐色粒子少量  
粘性・しまりあり
- 3 帽褐色土 2層より弱い 塗化物粒子少量 褐色粒子多量 粘性弱  
しまりあり

第9号土壙

- 1 帽褐色土 粘土質 塗化物粒子少量 腐食した有機物 粘性あり  
しまり弱

第10号土壙

- 1 帽褐色土 粘質 塗化物粒子多量 粘性・しまり弱
- 2 帽褐色土 粘質 塗化物粒子少量 褐色粒子多量 粘性あり しまり強  
木机・板出土
- 3 帽褐色土 2層より弱い 粘土質 塗化物粒子・褐色粒子少量 粘性・  
しまりあり 陶磁器・木机・板出土

第227図 第2区画の土壙(1)

面に赤・緑の色絵がみられる。付け高台の接合痕が明瞭である。13は淡路銀平系磁器の皿で、内面に陽刻状の型押し施文がある。14は瀬戸美濃系磁器の香炉で、体部外面は青磁釉、高台内には團線と銘款が染付される。内面は露胎で、焼き

継ぎ印と墨書の一部が残る。15は一見、器高の低い瓶類に見えるが、把手の剥落痕跡がみられ、水注の可能性が高い。胎土から肥前系磁器と考えられる。器壁は薄手で爛徳利に近い。口縁部は波状に歪まっている。底部に僅かに墨書の痕跡が残

る。16は瀬戸美濃系磁器の蓮華で、内面に銅版転写染付が施される。下面露胎部に細い陽刻状の刻印「今」が見られる。

17は瀬戸美濃系陶器の太白手丸碗で、弱く被熱し断面にも焦げが及ぶ。18は瀬戸美濃系陶器の内充皿で、大窯第4段階の所産である。内底面は釉を完全に拭き取っている。高台内も釉を拭き取りするが、不完全である。19は产地不詳の陶器皿で、型成形のため底部の内外面に布压痕が残る。底部内面には、意図的に波打つような凹凸をつけている。灰釉とみられる釉薬を基調に、緑釉を流し掛け、更に鉄絵を施す。織部向付を意識した製品である。20も产地不明の陶器で、細首の徳利の体部破片と考えられる。器壁は薄手である。呉須絵で文字「瀬」を書くので、文字（高瀬屋）を絵付けした徳利であろう。

21・22は陶器の土瓶で、釉調や胎土から大堀相馬系陶器と判断される。21は外面に糠白釉を掛けしており、口縁部～頸部付近はうのふ釉状に発色する。外面に茶・緑・赤で山水文と思われる上絵付けが施される。22は鉄釉土瓶の耳部分である。外面に明るい褐色の鉄釉、内面に糠白釉を施す。被熱して変色がみられる。23は陶器の土瓶蓋である。上面に鉄釉を施すが、赤褐色の釉薬がより暗色を呈する鉄釉の上に墨流し状に広がり、文様のようになっている。

第225図1・2は土製品の人形で、同一個体とみられる。3は出土した瓦で、軒棟瓦の軒平部分と思われる。中心飾りから、瓦当面の端まで一本の唐草が伸びて端部で渦を巻く。本跡から出土した軒棟瓦は、図示したものを含めて7点（うち軒丸部分のみの破片3点、軒平部分の中心飾りが残る破片2点）であった。

第226図は金属製品である。このうち1は文鎮である。復元すると15.6cm（約5寸）になる。およそ一分单位で目盛が刻まれる。不揃いのため、既製品に後で目盛を刻んだものと考えられ

る。

## 第2区画のその他の土壌（第227～269図）

ここまで取上げた以外の第2区画の土壌について、遺構の図面を示し、主な出土遺物や年代を記載する。

第1号土壌は、区画東側に位置する。隅部は鋭角に掘りこまれる。長軸3.3m、短軸1.2mの長方形を呈する。第232・233図1～10に特徴的な資料と文字資料を掲載した。8は鉄絵徳利で、「屋」の一部が確認される。非掲載の資料には磁器の平碗類が多く、その中には、高台内に「白玉園製」・「工陶園製」の裏銘を有するものがある。磁器坏の中にはゴム印版の資料がみられる。

第265図1～3は金属製品で、1は用途不明の銅製品、2は銅製品の針金、3は鉛製品の可能性のあるものだが、用途は不明である。第268図1は、緑色味を帯びる凝灰岩で作られた石製人形と思われる。製作中に破損したようで、未完成と思われる。

第5号土壌は、地境溝（第15号溝跡）に隣接する隅丸長方形プランの土壌で、長軸1.3m程度である。出土した陶磁器の一部を第233・234図12～20に示した。型紙摺絵染付の磁器皿を含む組成である。17は軟質施釉陶器で、かなり径が大きいことから皿としたが、鉢の可能性もある。外表面は緑釉、内面は黄色味の強い釉薬で、緑釉散らし・鉄絵が描かれる。胎土は白色味が強く、京都産の白色土器質のものに類似する。

第265図4は金属製品で鉄製の鉤金具であろうか。第268図3は雲母片岩製と思われる砥石である。雲母片岩の砥石は栗橋宿跡では珍しく、产地は筑波山周辺の可能性がある。主な使用面は3側面と1端面で、加えて裏面側も使用している。裏面側に深さ5mmほどの孔を有するが、用途は判然としない。また端面にはノコギリ状工具痕が残るが、使用時の研磨で消されている。4は石製品の硯で、石材は緑色味を帯びる凝灰岩である。表面

は墨の付着によって黒化している。表面・裏面に深さ5mm内外の孔が数箇所認められ、先端の尖った道具による二次的な加工痕とみられる。あるいは破損を意図した痕跡であろうか。

第6号土壙は、区画中央やや西よりで検出された。平面形が隅丸長方形の土壙で、長軸0.9m程、覆土下層には木質などの有機物が多く含まれる。第23号土壙と重複する。第6号土壙の遺物は極めて少ない。第234図21は炻器質の備前系陶器で、板作成形の瓶類である。外面にヘラ彫りで草花文を描くらしい。内面側に微細な雲母とみられる鉱物が多く認められる。他に陶器土瓶や地方窯系とみられる陶器甕が含まれる。重複関係の観察から第23号土壙のほうが新しい。遺物の様相から第6号土壙が栗橋8期～9期のはじめ、第23号土壙が栗橋9期に帰属する。

第265図5には第6号土壙から出土した銅製品の把手を図示した。

第10号土壙は、区画西部に位置する長軸1.25mほどの隅丸長方形の土壙である。覆土下層には木片、板材などが含まれる。遺物の出土量は多かった。第234図24～30には出土した陶磁器を示した。遺物の様相から栗橋9期に帰属する。

第268図5は石製品で、角閃石安山岩の磨石である。6は石筆で、やや赤みを帯びる石材である。一方の端面は欠損するが丸まり始めており、使用面の直近で破損しているものらしい。反対側は平坦で僅かに二次的な傷を認めるところから成形当初の遺存面と判断したが、面の形成が雑な印象を受ける。

第11号土壙は、第15号溝跡と重複する隅丸長方形の土壙で、長軸0.9mほどである。出土した陶磁器を第234図31～35に示した。33はかわらけの皿で、大皿である。胎土は硬質で粉っぽくは無いが、微細な雲母粒を一定量含む。内底面と体部の境に腰折れ状の痕跡があり、江戸在地系と思われる。口縁部には傷状の二次使用痕が見られる

が、口縁部や断面を掠った痕跡はみられない。35は瓦質土器の竈鍔である。上面にはキャタピラ状に弱く波打つ痕跡がみられ、成形時の痕跡とみられる。第268図7は砂岩製の大型の砥石である。遺存する五面全てが使用されている。口縁部に溝状の大きな刻みを有す。

第12号土壙は、区画西部に位置する比較的大型の土壙で、長軸1.8m程の隅丸方形である。覆土に小型の桶が投棄されており、他にも木材が多く混在する腐食土層であった。出土した陶磁器を第235～237図36～54に示した。36・37は瀬戸美濃系磁器の平碗で、36は銅版転写染付で古今和歌集などを出典とする和歌・人物を描く。44は体部が屈曲する大堀相馬系陶器の碗で、内面には糠白釉、外面には褐色の釉薬が掛けられる。45は産地不詳の陶器で鶴首の徳利である。外面に灰釉が掛けられ、「弓」、「口場」の文字を呉須で書く。52～54は土製品の土管である。52に「冂」の刻印がみられる。調整は外側がヘラナデ後にナデ、内面はナデと指頭圧による調整である。53の内面に顯著に煤が付着する。本跡は土管の出土が多かったが、内面に煤が付着するものが多い。

第261図1～3は出土した瓦で、軒桟瓦を示した。1の丸瓦部分は梅鉢文である。

第268図8は石製品の砥石である。石材は淡く緑色味を帯びる凝灰岩と思われるが、径2～3mmの石英・長石と、雲母のような黒色の有色鉱物をまばらに含んでいるのが特徴的である。使用面は遺存する端面を含んで五面、側縁部には使用に先立つ工具痕が認められる。製作時の刃幅の広い工具（手斧状工具）によるものとみられるが、平ノミ状工具の可能性も否定し得ない。なお、裏面側には刃ならし痕らしい微細な傷が多くみられる。

第16号土壙は、区画中央部のやや北寄りから検出された径0.4m内外の円形土壙である。遺物は極めて少ないが、陶磁器には酸化コバルト染付の磁器碗や、笠間系かと思われる地方窯系陶器の

擂鉢が認められた。栗橋9期の帰属である。

第17・18号土壙は区画東部にあり、いずれも長軸1mを超える。重複しており、第18号土壙の方が新しい。また上面を第1号竹櫛に掘り込まれている。第237図55~62は、第17号土壙出土の陶磁器である。57は瀬戸美濃系磁器の紅皿である。外面の型押し蛸唐草文は陰刻状で、釉薬は上部のみに掛かる。小破片のため、復元口径に若干の誤差も想定される。59は瀬戸美濃系磁器の燭台で、外面にややくすんだ酸化コバルト染付で墨流し文が描かれる。同文が1個体以上存在する。また第21号土壙と接合関係が確認された。62は陶器の土瓶で灰釉に白盛・呉須で絵付けさ

れる。第21号土壙から出土しているもの（第241図108）と同文である。第261図4には軒桟瓦を示した。第268図10は玉韁の火打石のようだが、使用痕を認めない剥片である。同様の剥片が複数出土しており、図示したもの以外の大きさ・重量を第126表に示した。後述するように第18号土壙でも多く出土したので、そこからの混在とみられる。

第238図63~68は、第18号土壙出土の陶磁器である。63は瀬戸美濃系磁器の平碗で、型紙模様染付が施される。64は瀬戸美濃系磁器の皿で、酸化コバルト染付が施される。同文のものがもう1個体ある。65は酸化コバルト染付の皿で、内

第126表 第17・18号土壙出土玉韁剥片一覧表

番号	遺構	縦	横	厚さ	重量	備考	写真図版番号
1	SK17	26.0	12.6	5.0	1.7		284-4-1
2	SK17	32.4	16.0	2.7	2.0		284-4-2
3	SK17	31.5	16.3	9.2	3.5		284-4-3
4	SK17	24.1	16.7	8.0	2.8		284-4-4
5	SK17	2.0	20.2	10.6	2.5		284-4-5
6	SK17	25.8	20.0	10.3	2.5		284-4-6
7	SK17	15.6	13.2	3.4	0.6		284-4-7
8	SK17	25.4	1.2	6.8	1.1		284-4-8
9	SK17	16.4	11.1	3.5	0.4		284-4-9
10	SK17	8.2	6.7	2.4	0.2		284-4
11	SK17	38.0	24.0	9.0	4.7	第268図10	284-3
12	SK18	35.7	29.4	12.3	14.4		284-5-1
13	SK18	36.5	31.4	17.1	12.4		284-5-2
14	SK18	37.2	22.1	5.7	4.9		284-5-3
15	SK18	28.5	25.4	8.2	7.6		284-5-4
16	SK18	26.3	22.0	7.7	4.6		284-5-5
17	SK18	22.0	22.6	15.0	3.8		284-5-6
18	SK18	33.4	17.3	14.1	5.8		284-5-7
19	SK18	27.6	21.2	12.6	5.9		284-5-8
20	SK18	26.5	15.2	7.0	3.1		284-5-9
21	SK18	28.6	14.1	6.4	1.9		284-5-10
22	SK18	26.5	13.1	5.6	2.2		284-5-11
23	SK18	29.3	12.4	7.9	1.8		284-5-12
24	SK18	33.3	20.0	7.8	4.7		284-5-13
25	SK18	21.0	11.2	7.5	3.3		284-5-14
26	SK18	23.9	15.3	10.4	3.0		284-5-15
27	SK18	20.9	12.6	5.4	1.1		284-5-16
28	SK18	22.5	11.3	4.1	0.8		284-5-17
29	SK18	17.9	10.2	6.8	0.9		284-5-18
30	SK18	32.0	35.0	12.0	8.6	第268図11	284-3
31	SK18	31.0	26.0	10.0	4.0	第268図12	284-3
32	SK18	29.0	39.0	11.0	7.2	第268図13	284-3
33	SK18	21.0	41.0	7.0	4.7	第268図14	284-3

面に鶴文を描く。同文のものが第21号土壙にある（第239図84）。66は大堀相馬系陶器で、湯呑碗形の碗とみられる。内面には灰釉が施され、外面には走り馬が鉄絵で描かれる。68は鶴首形の徳利とみられる。胎土に微細な黒粒が含まれて、釉薬の上からも確認されることから、大堀相馬系陶器の可能性がある。外面は光沢のある灰釉が施され、高台疊付部は露胎とする。底部が梢円形に破損しており、二次穿孔の可能性もある。

第268図11～14は、白色で透明感を有す玉髓の剥片である。敲打痕があるもの4点を示したが、図示した以外にも同様の剥片が18点認められた（写真図版284-4・5）。これらは大きさと重量を第126表に示した。石材から火打石である可能性が高いものであるが、いずれも使用痕は認められず、また再生剥片とするにはサイズが大きい。数も多すぎることから、火打石の製作に関わる可能性が考慮される。同様の事例は、栗橋宿跡第2地点第12・24号土壙等に認められた。非掲載資料の詳細なデータが報告書に掲載されていないが、相当数の剥片が出土したようである。第4区画の事例は『絵図』との対比から附木屋に間わる区画で、火打石を生産していた可能性があると指摘される（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019）。

以上、2基の土壙は重複関係があるが、遺物の様相に明確な時期差は読み取り難い。

第21号土壙はこの区画でも大きな土壙の一つで、区画の東北側に寄って位置する。覆土は炭化物を多く含む粘質土で、長軸5.35m、短軸1.6mである。第238～242図70～122には出土した陶磁器を示した。71は肥前系磁器の紅皿である。器高が低く扁平な印象である。72～80までは瀬戸美濃系磁器の坏類である。本跡からは組み物と思われる坏が多く見られた。72は、高台部に柳歛文を酸化コバルト染付で描く薄手の坏で、口縁部の欠け口や断面の一部に鮮やかな紅色の赤色物質

が残っている。73は体部に突帯を巡らす無文の坏で、同形態のものが他に2個体（計3個体）ある。74は内面に青の江戸絵付けが施された卵殻手酒杯で、同文・同形態のものがもう1点ある。75～77は端反の坏で、酸化コバルト染付が施される。75は外面に草文を描くもので、同文別個体が1個体以上ある。76・77は外面に同じ漢詩文を書いたもので、宋の人・蘇軾による「後赤壁賦」の一文と思われる。高台内には「求八」の銘款が染付される。78～80は瀬戸美濃系磁器の筒形の坏である。78は高台が幅広い。外面に酸化コバルト染付でよろけ縞文を染付し、扇型の窓を描いて中に草花文を表す。同文の個体が他に2個体ある。79は外面に酸化コバルト染付が施され、緑色の絵付けで漢詩「漁父」の一文を書く。高台は幅広いが、疊付部分は細かく面取りされる。80は他のものよりもやや外方への開きが大きく、体部下位の器厚が厚い。酸化コバルト染付で草花文を描く。他に同文が2個体ある。

81～86は磁器の皿である。83は内面に山水文が染付される蛇の目凹形高台のもので、同文の個体が他に1個体みられる。86は肥前系磁器の皿で、内面には環状松竹梅文・微塵唐草文を染付する。焼き継ぎ痕・赤の焼き継ぎ印がある。同文の別個体が1点あり、そちらにも焼き継ぎ痕が確認される。90・91は同一個体の瀬戸美濃系磁器爛徳利で、外面には緑色の釉薬が掛けられ、さらに緑・黄・鮮紅色の色絵が施される。

92・93は瀬戸美濃系磁器の爛徳利で、92は焼き継ぎがみられる。95は瀬戸美濃系磁器の土瓶で、外面に樓閣山水文を染付する。全体に焼き継ぎ痕がみられる。底部は高台状になり、底面露胎部に赤で焼き継ぎ印と墨書「くり」が認められる。96も瀬戸美濃系磁器の土瓶で、酸化コバルト染付が施される。底面に焼き継ぎ印が複数あり、一箇所は消えかかっている。複数回焼き継ぎを行ったものであろう。97は口縁部が受け口状

に大きく広がる急須で、酸化コバルト染付が施される。底部に渦巻き状の沈線があり、「くり」の墨書がある。焼き継ぎ痕が認められる。

99・100は、底部に布庄痕を残す型成形の方形皿である。胎土はやや軟質で、微細な石英粒が少量含まれる。鉄絵・緑釉で絵付けされる。101は地方窯系の灰釉鉢ないし片口鉢で、小型の物である。口縁部上端に僅かに糠白釉を散らすように施す。高台は幅広で、疊付部には径7.1cmの円形に窯道具痕が残る。おそらく、王冠状の窯道具を用いた痕跡であろう。高台内には墨書がある。

102は水鉢あるいは植木鉢と思われる陶器である。内面上位から外面に糠白釉が掛けられ、さらに緑釉が流し掛けされる。内面の施釉範囲外に白化粧痕跡がみられる。胎土は橙色系で緻密、混入鉱物はほとんど見られない。笠間系陶器の可能性がある。

108・109は陶器土瓶である。108は体部に灰釉を掛ける土瓶で、白盛と呉須で絵付けされる。107の蓋とセットの可能性もある。111は小型の陶器急須で、外面は火拂状に施釉がみられる。胎土は炻器質で常滑産の可能性がある。112は合子状の蓋物である。白色土器質で施釉されていないが、陶器として扱った。胎土には僅かに微細な雲母がみられる。内面は回転ナデによる筋状の痕跡が残る。外面は幅の狭い回転ケズリ、底面も回転ケズリで仕上げる。京都系の可能性がある。

113は江戸在地系土器の鉢である。胎土に微細な雲母を多量に含む。114は還元炎焼成された植木鉢である。底部中心に焼成前穿孔がみられる。胎土中に雲母粒はあまり見られないが、胎土が粉っぽく、左回転の糸切痕を残すことから江戸在地系土器と考えられる。115は土師質土器の香炉である。外面全体にミガキを入れた後、赤色塗布物を施す。赤色塗布物は、上位半分までが濃く塗られ、下位は薄く塗られている。口縁部に叩き打ちなどはみられない。胎土は硬質で緻密である。

微細な雲母および輝石状の有色鉱物を一定量含んでいる。底部は回転ケズリで処理される。116は江戸在地系土器の丸火鉢で、外面は施文される。117は脚台付の火鉢である。瓦質土器としたが、酸化炎焼成ぎみで表裏面は橙色を呈する。脚上端は体部との接合面で剥離している。118は瓦質土器の壺、119は瓦質土器の蓋である。火消壺の蓋と考えられる。

120は瓦質土器の壺、121・122は瓦質土器の火消壺で、いずれも胎土に角閃石を多く含む。このうち121の底部は細かい砂目底である。遺物の様相から、栗橋9期でも比較的早い段階に帰属する。

第261図5～9は瓦類で、5～8は軒桟瓦である。5は軒丸部分で、珠文のみられない三つ巴文のものである。6は中心飾りの簡略化が著しい。他に軒桟瓦の破片2片が出土したが、中心飾りが遺存するものは図示した2点のみである。9は完形に近い丸瓦である。

第262図1・2は円盤状の木製品で、曲げ物底である。第268図15は玉飾製の火打石である。部分的に褐色色を帯びる白色でやや透明感を有す。図の下端側に敲打による打点を有し、右側面は使用による摩耗が認められる。16は石製玉で、簪の飾りであろう。石材は玉飾の可能性があるが、白色で透明感はあまりない。

第265図6～9は金属製品で、6は銅製品の簪、7～9は鉄製品である。7は鉤金具の可能性があるもの、8は鍔、9は釘である。

第23号土壙は、区画中央のやや西よりに位置し、第6号土壙を掘り込んでいる。不整な楕円形で長軸0.9mである。遺物は極めて少ないが、型紙摺絵染付の磁器皿口縁部破片などが出土している。第242図123はかわらけの皿で、大皿である。胎土に微細な雲母を多く含み、僅かに角閃石ないし輝石が含まれる。江戸在地系土器と判断される。大皿サイズのかわらけは第11号土壙（第

234図33)、第295号土壙(第258図325)でも出土している。本跡は栗橋9期に帰属する。

第24号土壙は、第22号土壙に近接して検出されたもので、長軸0.75mの隅丸長方形である。第15号構跡と重複する。第243図134は陶器の豆甕である。外面に柿袖を掛けるものだが、強く被熱して赤変している。内面に銅の付着があり、埴塗に転用された可能性が高い。

135は土師質土器の香炉である。外面全体にミガキを入れた後、赤色塗布物を施す。胎土は硬質で、雲母を多く含む。第21号土壙から同様の香炉が出土している。出土した陶磁器の様相から、栗橋9期でも比較的早い段階に帰属する。第265図10は金属製品で用途は不明である。銅板を筒状に丸めたものである。

第26・27・53・64号土壙は、区画中央部付近から検出され、重複している土壙群である。第26・27号土壙は浅く、覆土も特徴に乏しい。第26号土壙は最も西側に位置する。隅丸長方形土壙で、長軸1.8mと大型である。第27・64号土壙より新しい。

第26号土壙の出土遺物は少ないが、第243図139には、藁灰釉を施釉した萩焼開口碗を示した。他に、酸化コバルト染付や酸化クロム青磁釉の磁器爛徳利・坏が出土している。栗橋9期の帰属と考えられる。

第265図11・12は金属製品で、用途不明の銅製品と、鉄製の火打ち金である。

第27号土壙は、第26号土壙の北東隅に重複する小規模な円形の土壙とみられる。出土遺物は極めて少なかつたが、第243図140・141に陶磁器を示した。140は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外側は瑠璃釉の単彩である。141は瀬戸美濃系陶器の柿袖甕で、高台内に墨書が認められる。他に瀬戸美濃系磁器の丸碗が出土しており、栗橋7期以降に帰属する。重複関係の観察通り、第26号土壙に先行するものでああろう。

第40号土壙は、区画の東部に位置し、第1号土壙と重複する。後述する遺物内容から、本跡の方が古いものとみられる。長軸2.4mと大型の楕円形の土壙である。覆土には多量の木材・木製品が含まれていた。出土遺物が多く、このうち第243～246図145～181に陶磁器を示した。146～148は瀬戸美濃系磁器の平碗で、口唇部上端から外面に酸化コバルト染付が施される。146は富士山と思われる文様を描く。148は内面にもワンポイントで花文を描くもので、同文のものが他に2個体ある。152は瀬戸美濃系磁器で、小型の湯呑形碗である。体部がやや外方に開く形態である。高台疊付きは幅広い。外側は瑠璃釉が単彩で施され、口紅がみられる。

154～157は瀬戸美濃系磁器の坏である。いずれも酸化コバルト染付が施される。157は外面を緑色の釉で単彩に染めるが、その上から酸化コバルト染付が施される。155と同文のものが1個体、156と同文のものが3個体以上みられる。

159・160は瀬戸美濃系磁器の皿である。159は酸化コバルト染付が施され、同文のものが1個体以上ある。

163～166までは瀬戸美濃系磁器の爛徳利で、163～165には酸化コバルト染付が施される。164・165は同文である。165には二重四角枠線内に「善」と染付される。163の底部には「き〔志うやカ〕」の墨書がみられる。また、164には「紀口〔 〕」、165には「紀口屋」の墨書があり、いずれも紀州屋に関わる遺物と思われる。166には染付はみられず、頸部に突帯が巡る。

169は灰釉を施釉した端反形の坏で、高台に三箇所の切り込みが入る。鉄絵で鷺ないし鶴と思われる水鳥を描く。高台内に渦巻き状の抉りがある。174は瀬戸美濃系陶器の水鉢とした。内外面とも灰釉が施釉されるが、外側は緑釉・白色釉を流し掛けする。外側露胎部は鉄泥刷毛塗りで化粧する。高台疊付部に剥落が多く、二次的な敲打痕

とみられるが、使用による破損の可能性もある。また、底部に穿孔を意図した可能性がある敲打痕がある。植木鉢への転用を意図したようだが、途中で破損したものらしい。175は陶器の青緑釉土瓶だが、胎土に鉄斑状の黒色微粒子が多く含まれており、大堀相馬系と考えられる。口縁部の形状や体部上位に稜が出る点は、通常の青緑釉土瓶と異なる。177は灰釉土瓶である。外面の灰釉は透明感があり貫入が多い。鉄絵で右から「柿／沼／園」の文字と、屋号文らしい文「舎」を書く。178は陶器の練り込み手の急須である。

180・181は土師質土器の焰烙で、いずれも在地系のものである。180の内底面には炭化物痕があり、3cm強×4cm強の楕円形の炭化物痕もみられる。

本跡は陶磁器の様相から、栗橋9期でも比較的古い段階の様相である。

第261図12は軒桟瓦で、東海式の文様を有するものである。第262図3・4は木製品である。3は曲物の蓋で、側板が一部残存する。4は浮子で、中央が膨らむ形である。下面に金具取付けの穴があけられている。

第265図13・14、第267図1～3には金属製品を示す。第265図13は鉄製品の火格子で、径19cmである。14は鉄製品だが用途不明である。第267図1～3は寛永通寶で、1のみ古寛永、他は新寛永である。

第44・45号土壙は、区画北東部の第21号土壙と重複する大型の土壙である。いずれも隅丸長方形の土壙で、第44号土壙は長軸2.2m、短軸1.95m、第45号土壙は長軸1.1m、短軸0.9mである。形態は類似するが、3基の重複関係の観察によれば、第44号土壙→第21号土壙→第45号土壙の順に新しい。また、第1号竹桶は、さらに新しい段階に掘り込まれている。ただし、出土した陶磁器類には、ほとんど時期差がみられず、いずれも栗橋9期でも古い段階に帰属するものであつ

た。以下にその様相を示す。

第44号土壙の出土遺物のうち、陶磁器を第247図184～198に示した。なお、重複する第21号土壙と接合関係にある陶磁器は、第44号土壙のものとして扱った。184は瀬戸美濃系磁器の丸碗、185は瀬戸美濃系磁器の卵殻手薄手酒杯である。186は瀬戸美濃系磁器の燭台で酸化コバルト染付が施される。底面に「三合カ/紀州屋」の墨書がある。187は瀬戸美濃系磁器の急須、188は瀬戸美濃系磁器の土瓶である。190は松岡系陶器で鮫肌釉の土瓶である。外面上位に灰釉とみられる別の釉薬が流し掛けされる。197・198は土師質土器の焼塗壺である。いずれも橙色味が強く被熱しているようであり、198のほうがより表裏面の荒れが激しい。

第261図13・14は出土した軒桟瓦である。13は全体の文様がよく分からぬが、唐草の巻きは緩い。14は中心飾りの蓮華が片側3枚で、唐草・子葉の巻きが強いものである。図示した以外に、軒丸瓦の側縁部の破片が1点、軒桟瓦の軒丸部分の破片（三つ巴・珠文無し）が1点認められた。

第263・264図5～18は木製品で、5～7は漆器の椀蓋である。5は口縁近くに稜を持つ器形である。7は器高3.2cmと低い器形である。内面赤漆塗り、外表面黒漆塗りである。

9は木栓と呑口である。木栓上部に瓢箪と文字の焼印がある。11は全面黒漆塗りの盆である。裏面中央が一段窪んでおり、多数の工具痕が残る。12は削り下駄である。齒部が丸駆のような工具で加工され、稜線は直線的ではない。前壺周辺にくぼみが作られる。15は陰卯下駄で、全面黒漆塗りである。裏面の前壺周辺と中央部に窪みが作られる。17は包丁の柄で、側面に柄穴が穿たれる。18は櫛で、櫛背に膨らみがない。

なお、16の木札に「栗橋…/菊田…/同中町紀州屋」の墨書が認められる。本書報告の第9地点第3区画の「紀州屋」とともに、第6地点

(『栗橋宿跡III』報告)の菊田屋に関わる史料と思われる。

第266図15~18は金属製品で、このうち15~17は銅製品のこはぜ(小鉤)である。足袋などの金具の可能性がある。図示した3点ともほぼ同形同大である。18は鉄製の額受金具である。第267図4は寛永通寶の新寛永である。

268図18・19は石製品である。18は火打石で、白色・透明の玉髓製である。使用による摩耗・潰れは僅かである。あまり使用されていないか、再生後間もなく投棄されたものであろう。19は石筆で、白色不透明の石材に不規則な紺色の斑が入る。一方の端部は使用により尖頭形を呈する。もう一方の端部は平坦に切断しているが、周囲を僅かに使用している。切断面は雑で、工具痕などの無い割れ口なので、使用中の破損面の可能性もある。

第45号土壙の遺物のうち、陶磁器を第247図199に示した。瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、外側は瑠璃釉が単彩で施される。

第49号土壙は、後述する第192号土壙を掘り込んで構築された土壙である。長軸0.85mの隅丸長方形を呈する。第247図200は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗だが、端反形になるものである。焼き緋ぎ痕が明瞭で、焼き緋ぎ印は赤で「モ六九」とある。201は瀬戸美濃系磁器の皿で、内面に木型打込の施文がみられ、その後に染付が施される。高台内を露胎とする。なお、図示し得なかった磁器類には、酸化コバルト染付の筒形坏が認められた。202はかわらけ小皿としたが、底部・体部に3箇所の焼成前穿孔がみられる。孔の径は0.2cm、内面から外面に向かって穿たれる。胎土は硬質・精良で少量の雲母細粒が含まれる。

第52号土壙は、区画中央よりやや西側、第41号土壙と重複して位置する。新旧関係の観察では、第41号土壙より古い。長軸1.6mほどの不整形土壙で、覆土下層に木材杭・木板等を含んでい

る。第248図204~214に出土した陶磁器を示す。204は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、外面は木型打込による陰刻状施文後に染付される。205は瀬戸美濃系磁器の蓋、206はその身である。いずれも酸化コバルト染付と思われるが、発色はややくすんでいる。206は各所が焼き緋ぎされていて、焼き緋ぎ印も四箇所以上ある。207は柘器質の薄手の陶器急須、208は柿釉が施された陶器秉乗である。209は瀬戸美濃系陶器の一升徳利である。肩部に径6.7cm程で付着物痕が巡り、窯道具痕とみられる。

210は瓦質土器の蓋である。内面には煤が付着する。胎土に角閃石を多く含む。上面から体部に至る部分には幅の狭いケズリが3・4段ほど施される。ヘラナデに近いものである。211はやや小型の焰燈で、厚手のものである。胎土には角閃石が多く含まれる。212も焰燈で、内耳が付くものである。胎土には角閃石が多く含まれる。213は焰燈の底部で、内面に墨書が認められる。214は江戸在地系土器の火鉢、ないし香炉を転用した磁具である。本跡は陶磁器の様相より、栗橋9期はじめ頃の帰属と考えられる。第266図23~26は金属製品で、23は用途不明の銅製品、24~26は銅製品の針金である。

第53号土壙は、第26号土壙の東側に接する。一辺80cmほどの隅丸方形の土壙で、覆土には焼土ブロックが一定量含まれている。南側の第64号土壙と重複しており、本跡のほうが新しい。第248~250図215~231に出土した陶磁器を示した。215は磁器の坏で、胎質は粗雑である。釉は貫入が多く灰白色を呈する。体部は八角形に成形される。216は瀬戸美濃系磁器の蓋で、型紙模絵染付で鹿の子模様を表す。217~219は瀬戸美濃系磁器の皿である。217・218は内面に型紙模絵染付を施す。220は瀬戸美濃系磁器で、酸化コバルト染付の土瓶である。221は産地不詳の灯明皿で、光沢が強い灰釉が施される。外面上には重

ね焼き痕がみられ、径6.8cmである。受部上端径も6.8cmである。受部の切れ込みは逆三角形である。222は瀬戸美濃系陶器の一升徳利である。223は陶器の燭徳利で産地不詳である。外面には僅かに黄色味を帯びる灰釉が施され、呉須で「原勢屋」「固」と絵付けされる。底部と外面下位は、回転ケズリで整形される。224は陶器の植木鉢で、瀬戸美濃系陶器と思われる。ほぼ白色の灰釉が施釉され、呉須・鉄絵で模様が描かれる。

225は施釉土器の両手鍋で、遺存部分は底面を含めて全面が施釉される。把手は全体が口縁部に接着しているが、捩りの加飾を加えた凝ったものである。外面体部に粗くトビガンナ状の施文がみられる。胎土は橙色、精良で混入鉱物は見られない。226は陶器行平の蓋、227はその身と考えられる。

228は白色土器質の蓋である。上面は回転ケズリ痕が残る。胎土には極めて細かな雲母が含まれる。229は土師質土器の鉢である。底面の穿孔は無いが植木鉢であろうか。胎土には雲母が多く、少量の角閃石も入る。江戸在地系土器である。230は瓦質土器の方形火鉢。平面形はほぼ正方形である。231は焼塩壺の蓋で被熱して赤化する。

第269図20は石製品で粘板岩製の石板である。内外面に算線が書きされる。一辺1.5cm程を意識しているようだが、線は不安定で一定しない。端面は一箇所が残り、工具痕が認められる。第266図27は金属製品の鉄鍋である。第4号土壙出土のものと形態が類似する。

第55号土壙は区画北西部に位置する隅円方形の土壙で、径80cm程である。東側に近接して第5号埋設桶が検出されている。覆土上層には草本状の有機物が多く含まれている。

第250・251図232～242は出土遺物のうち陶磁器類を示した。232は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で鹿の子模様を型紙摺絵で染付する。233は瀬戸美濃系磁器の杯で、酸化クロム青磁釉が施され

る。蛇の目状の高台内は露胎、体部は面取りされる。234・235は肥前系磁器の皿で内面に墨弾きを用いた染付がみられる。237は瓦質土器の火消壺である。胎土には少量の角閃石が含まれ、石英細粒が目立つ。238・239は焼塩壺の蓋である。240～242は焼塩壺である。ロクロ成形で器高は高い。蓋・身のいずれの胎土にも微細な雲母が含まれる。陶磁器の様相から本跡は栗橋9期の帰属である。第261図15は出土した軒棧瓦である。顎下面を二次的に削っている。

第266図28・29は金属製品で、28は銅製品の針金である。29は鉄製品の吊り金具である。

第56号土壙は、区画の東部、第1号土壙と第3号土壙の間で検出された小型の土壙である。覆土は下層が何枚もの有機物の薄層に分層されるが、上層は暗灰色粘質土であり、廃棄土壙がある段階で埋め戻されたものと考えられる。第251図243・244に出土した陶磁器を示した。243は陶器の火鉢で、内外面に白化粧後、糠白釉を施釉、外面には綠釉が流し掛けされる。胎土は緻密であり、外側では鈍い褐色を呈するが、中心部は還元して灰色を呈する。混入鉱物はほとんど観察できない。244は土師質土器の焼塩壺で、被熱して赤変する。このほか、型紙摺絵染付の磁器皿が出土している。栗橋9期の帰属である。

第57号土壙は、第56号土壙の北側から検出された小型の土壙で、径40cm内外の円形ないし梢円形を呈するものらしい。第1号土壙と重複している。第251図245は産地不詳の陶器で灯明皿（油皿）である。内外面に柿釉が施される。胎土は硬質で鈍い赤褐色を呈し、微細な黒色粒子が多量に含まれる。地方窯系の製品とみられる。

第58号土壙は、区画中央部のやや東側に検出された隅丸長方形の土壙で、長軸1m強である。第1号溝跡と重複しており、新旧関係の観察では本跡のほうが古い。遺物はほとんど出土しなかつた。

第64号土壙は、第26・53号土壙と重複しいずれよりも古い。長軸2m弱の東西に長い隅丸長方形の土壙である。出土遺物は少なく、陶磁器は磁器5片、陶器2片のみに留まる。瀬戸美濃系磁器の水滴、肥前系磁器の湯呑形碗が含まれているので、栗橋7期以降である。第266図30は金属製品で、銅製品の簪で飾り部分は欠失する。草花文が施されている。

第69号土壙は区画のほぼ中央に位置するもので、径70~80cmの不整形土壙である。第251図246・247に出土した陶磁器を示す。246は陶器の柿釉甕で、胎土は硬質・緻密である。地方窯産とみられる。247は瀬戸美濃系陶器の一升徳利で、高台は痕跡的で目立たない。また、頸部の沈線も確認できない。このほか、萩焼ビラ掛け碗の細片が出土している。磁器には銅版転写染付の蓋も出土しているが、遺物の量が少なく、詳細な時期は絞り込めない。

第74号土壙は区画の北西部に位置し、第2号竹樋と軸方向を揃えるように検出されている。長軸0.95mほどの隅丸長方形の土壙である。陶磁器の破片数が少なく、詳細な時期を絞りこめないが、外面を瑠璃釉単彩とする瀬戸美濃系磁器湯呑形碗が出土しているので、栗橋7期以降である。第266図31は金属製品で用途不明の銅製品である。径1mm程の銅線を格子状に組んでいるが、全体の形状は円筒形に近い。

第83号土壙は区画の東側、第1号土壙の北西側に接して検出された。小型の楕円形土壙で、長径0.73m程度である。規模は小さいが多くの遺物が出土している。第251・252図248~266に陶磁器を示す。250は瀬戸美濃系磁器の小型の碗蓋で、赤を主体に青、緑の上絵付けがみられる。251・252は外面に酸化コバルト染付が施される瀬戸美濃系磁器の坏である。251は端反になる坏、252は小型の筒形坏で、いずれも同形・同文の個体が非掲載遺物に1点ずつある。258~260

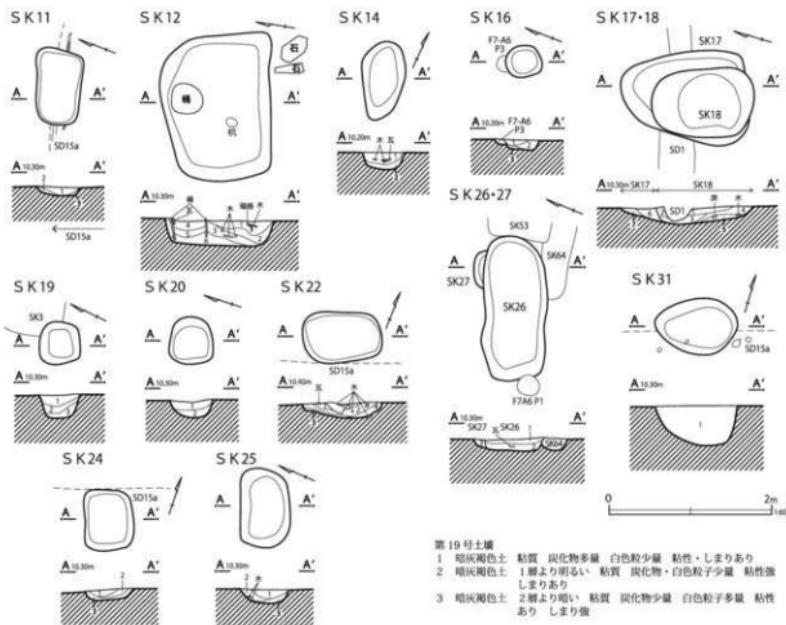
は瀬戸美濃系磁器の型押壽文皿である。非掲載遺物にもう1個体あり計4個体である。262は瀬戸美濃系磁器の徳利で壇徳利のようだが、大型である。全体に焼き継ぎ痕が多くみられる。

第90~92号土壙は区画の東側、調査区際に近い場所から検出された小型の土壙であり、各々の規模も比較的類似する。

第90号土壙は、長軸0.45mの隅丸長方形を呈する。第253図269~276に出土した陶磁器を示す。269は肥前系磁器の御神酒徳利である。270・271は瀬戸美濃系磁器の壇徳利と急須で、いずれも酸化コバルト染付が施される。急須は焼き継ぎ痕が顕著で、被熱している。274は陶器の両手鍋で柿釉が施される。底部外周を細かく打ち欠いているのは、生産地での調整痕であろうか。275は大振りの火鉢で外面に亀甲文状の施文がみられる。角閃石が極めて多く含まれる。276は土師質土器の焙焼で内耳が1つ遺存する。胎土に角閃石が多く含まれる。このほか、在地系土器の大甕とみられる破片が多く含まれており、あまり接合しなかつたが、ほぼ一個体分が投棄されていた可能性もある。同一個体と思われる大甕の破片が第92号土壙から出土している。栗橋9期でも比較的古い段階の様相である。

第92号土壙は径0.4m程度の円形の土壙である。出土した陶磁器は少なく、磁器1片、陶器2片、土器2片のみであった。このうち土器は、第90号土壙出土の大甕と同一個体と思われる。白土染付の陶器土瓶・磁器の壇徳利が出土しており、第90号土壙とほぼ同時期と考えられる。

第95号土壙は区画の西側から検出された浅い土壙で、第1号竹樋、第117号土壙と重複する。新旧関係については、両者より新しいと観察されている。第253図277・278は出土した軟質釉土器質の陶器で、内外面とも施釉されるが、外面の釉が薄く拭き取られている可能性が高い。内面に茶・緑の絵付けがみられる。このほか、銅版転写



第 11 号土壤

- 1 暗褐色土 粘質 塗化物粒子・白色粒子少量・粘性弱・しまりあり
- 2 暗灰色土 1層より高い 黏質 白色粒子少量・粘性弱・しまり強
- 3 暗褐色土 粘質 白色・褐色粒子少量・粘性弱・しまり強

第 12 号土壤

- 1 暗褐色土 粘質 塗化物粒子多量・鐵土粒子少量・粘性・しまり弱
- 2 暗褐色土 1層より高い 黏質 塗化物粒子多量・腐殖土少量・粘性・しまりあり
- 3 暗褐色土 2層より高い 黏質 塗化物粒子少量・腐殖土・粘性・しまりあり
- 4 暗褐色土 粘質 塗化物粒子少量・粘性・しまりあり
- 5 暗灰色土 粘質 塗化物粒子少量・粘性・しまりあり
- 6 暗褐色土 5層より高い 黏質 塗化物粒子少量・腐殖土多量・粘性あり・しまり弱

第 14 号土壤

- 1 暗褐色土 褐色粒子多量・粘性あり・しまり強
- 2 暗灰色土 粘質 褐色粒子・塗化物粒子少量・粘性・しまりあり

第 16 号土壤

- 1 暗褐色土 粘質 塗化物粒子少量・褐色粒子多量・粘性弱・しまりあり
- 2 暗褐色土 1層より高い 黏質 塗化物粒子多量・褐色粒子少量・粘性・しまりあり
- 3 暗褐色土 3層より高い・褐色粒子少量・粘性弱・しまりあり

第 17・18 号土壤

- 1 暗褐色土 粘質 塗化物・褐色粒子多量・粘性あり・しまり強 (SK18)
- 2 暗灰色土 粘質 塗化物粒子・白色粒子少量・粘性・しまりあり
- 3 暗褐色土 2層より高い 黏質 塗化物多量・褐色粒子少量・粘性・しまりあり (SK18)
- 4 暗褐色土 4層より高い 黏質 塗化物粒子・褐色粒子少量・粘性あり・しまり弱 (SK18)
- 5 暗灰色土 4層より高い 黏質 塗化物粒子多量・褐色粒子少量・粘性・しまりあり (SK18)
- 6 暗褐色土 粘質 塗化物・褐色粒子多量・鐵土粒子少量・粘性あり・しまり弱 (SK17)
- 7 暗褐色土 粘質 塗化物・褐色粒子多量・鐵土粒子少量・粘性弱・しまりあり

第 19 号土壤

- 1 暗灰褐色土 粘質 塗化物多量・白色粒子少量・粘性・しまりあり
- 2 暗灰褐色土 1層より明るい 黏質 塗化物・白色粒子少量・粘性強・しまりあり
- 3 暗灰褐色土 2層より暗い 黏質 塗化物少量・白色粒子多量・粘性あり・しまり強

第 20 号土壤

- 1 暗灰褐色土 粘質 塗化物・鐵土ブロック多量・粘性あり・しまり強
- 2 暗灰褐色土 粘質 塗化物・鐵土ブロック多量・有機物(木片)・粘性・しまりあり

第 22 号土壤

- 1 暗灰褐色土 粘質 褐色粒子少量・木材や板・陶磁器・瓦出土地・粘性弱・しまり強
- 2 暗灰褐色土 1層より明るい 黏質 褐色粒子少量・木片・木杭出土 (1層より少ない)・粘性・しまりあり
- 3 暗灰褐色土 粘質 白色粒子少量・粘性あり・しまり強
- 4 暗灰褐色土 粘質 褐色粒子少量・木片出土・粘性・しまりあり

第 24 号土壤

- 1 暗灰褐色土 粘質 塗化物粒子・褐色粒子少量・粘性・しまりあり
- 2 暗灰褐色土 1層より暗い 黏質 塗化物粒子・褐色粒子微量・粘性あり・しまり強
- 3 暗灰褐色土 粘質 白色・褐色粒子少量

第 25 号土壤

- 1 暗灰褐色土 粘質 塗化物・有機物(木片)多量・褐色粒子少量・粘性・しまりあり
- 2 暗灰褐色土 1層より明るい 黏質 塗化物多量・有機物(木片)・褐色粒子少量・粘性・しまりあり
- 3 暗灰褐色土 2層より暗い 黏質 塗化物・有機物(木片)・褐色粒子少量・陶器出土・粘性・しまりあり

第 26 号土壤

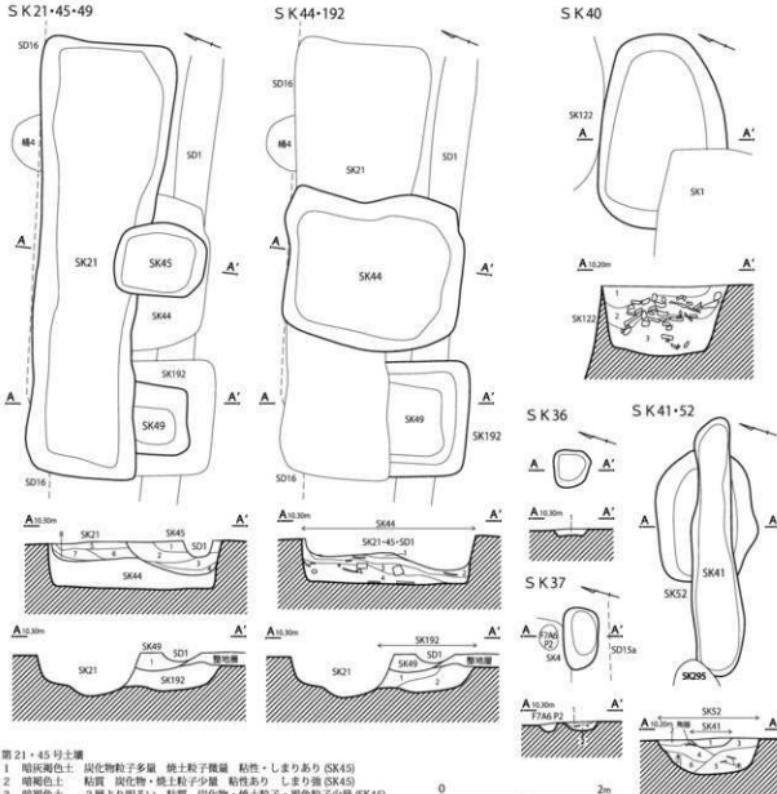
- 1 暗灰褐色土 粘質 塗化物粒子・白色粒子少量・粘性弱・しまり強
- 2 暗灰褐色土 1層より明るい 黏土質 塗化物粒子・白色粒子少量・瓦・陶器出土・粘性弱・しまり強

第 27 号土壤

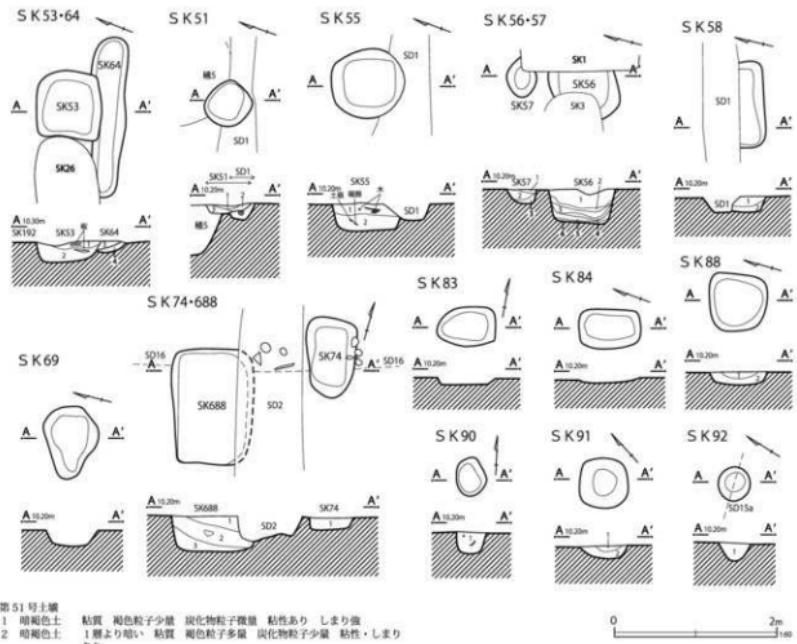
- 1 暗褐色土 粘質 明るい 塗化物・白色粒子少量・粘性あり・しまり強

第 31 号土壤

- 1 暗褐色土



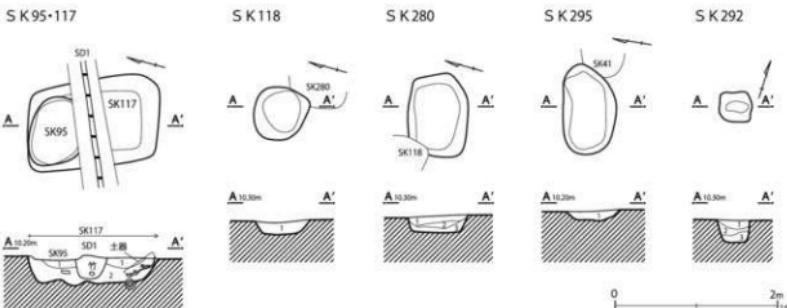
第 229 図 第 2 区画の土壠 (3)



0 2m

第 51 号土壠	粘質 暗色粒子少量 炭化物粒子多量 黏性あり しまり強
1 明褐色土	1 層より暗い 黏質 暗色粒子多量 炭化物粒子少量 黏性・しまりあり
2 明褐色土	1 層より暗い 黏質 暗色粒子多量 炭化物粒子少量 黏性・しまりあり
3 明褐色土	1 層より暗い 黏質 暗色粒子・炭化物粒子少量 黏性あり しまり強
第 53・64 号土壠	粘質 固化物・土壤ブロック多量 暗色粒子少量 黏性あり しまり弱 (SK53)
1 暗灰褐色土	1 層より明るい 黏質 固化物粒子・土壤ブロック・暗色粒子多量 黏性・しまりあり 多くの陶器出土 (SK53)
2 暗灰褐色土	1 層より明るい 黏質 固化物粒子・土壤ブロック・暗色粒子多量 黏性・しまりあり 多くの陶器出土 (SK53)
3 暗灰褐色土	1 層より明るい 黏質 固化物粒子・土壤ブロック・暗色粒子多量 黏性・しまりあり 多くの陶器出土 (SK53)
4 暗灰褐色土	1 層より明るい 黏質 固化物粒子・土壤ブロック・暗色粒子多量 黏性・しまり強 (SK54)
第 55 号土壠	粘質 暗色粒子少量 有機物(草など)多量 黏性極弱 しまり弱
1 暗灰褐色土	粘質 固化物粒子・白色粒子少量 黏性・しまりあり
2 暗灰褐色土	粘質 固化物粒子・白色粒子少量 黏性・しまりあり
第 56 号土壠	粘質 固化物粒子・土粒子多量 白色粒子少量 黏性・しまりあり 固化物(木片や蘆のようない物)極多量 黏性・しまり弱
1 暗灰褐色土	粘質 土粒子少量 碳食した有機物を多く含む 黏性・しまり弱
2 黒色土	3 層より暗い 粘質 固化物粒子・土壤粒子少量 碳食した有機物を多く含む 黏性・しまり弱
3 暗灰褐色土	3 層より暗い 極多量の炭化物(藻などの有機物) 黏性・しまり弱
4 増暗灰褐色土	3 層より暗い 粘質 固化物粒子・土壤粒子少量 蘑などの有機物含む 黏性・しまり弱
5 黒色土	3 層より暗い 極多量の炭化物(藻などの有機物) 黏性・しまり弱
6 暗灰褐色土	3 層より暗い 炭化物粒子・土壤粒子少量 蘑などの有機物含む 黏性・しまり弱
第 57 号土壠	粘質 固化物粒子多量 黏性・しまりあり 木片多く含む
1 暗灰褐色土	粘質 固化物粒子・白色粒子少量 黏性あり しまり強
2 暗灰褐色土	3 層より明るい 粘質 固化物粒子多量 白色粒子多量 黏性・しまりあり 陶磁器含む
第 58 号土壠	粘質 酸化鉄粒子多量 炭化物粒子少量 黏性弱 しまりあり
1 暗灰褐色土	1 層より暗い 黏質 炭化物粒子少量 黏性・しまりあり
2 暗灰褐色土	1 層より暗い 黏質 有機物(木片)・褐色粒子少量 黏性・しまり弱
第 68 号土壠	粘質 褐色粒子多量 炭化物粒子少量 黏性・しまりあり
1 暗灰褐色土	粘質 褐色粒子・炭化物粒子少量 黏性・しまり強
第 90 号土壠	粘質 暗色粒子少量 有機物(木片)・褐色粒子少量 黏性・しまり弱
1 暗灰褐色土	1 層より暗い 黏質 暗色粒子少量 黏性・しまり弱
第 91 号土壠	粘質 暗色粒子・炭化物粒子 黏性・しまりあり
1 暗灰褐色土	1 層より暗い 黏質 暗色粒子少量 炭化物粒子多量 黏性弱 しまり弱
第 92 号土壠	粘質 暗色粒子多量 炭化物粒子少量 黏性弱 しまり強
1 暗灰褐色土	1 層より暗い 黏質 暗色粒子少量 黏性弱 しまり強
第 93 号土壠	粘質 暗色粒子・炭化物粒子 黏性・しまりあり
1 暗灰褐色土	1 層より暗い 黏質 暗色粒子少量 炭化物粒子多量 黏性弱 しまり弱 健瓦など出土
第 94 号土壠	粘質 暗色粒子少量 黏性・しまりあり
1 暗灰褐色土	2 層より暗い 黏質 暗色粒子少量 黏性・しまりあり

第 230 図 第 2 区画の土壤 (4)



第 117 号土壠  
1 灰黄褐色土 細砂少 硬化物・木片など細かいものが多い  
2 黒褐色土 樹皮・炭化物・木製品・瓦質土器多量

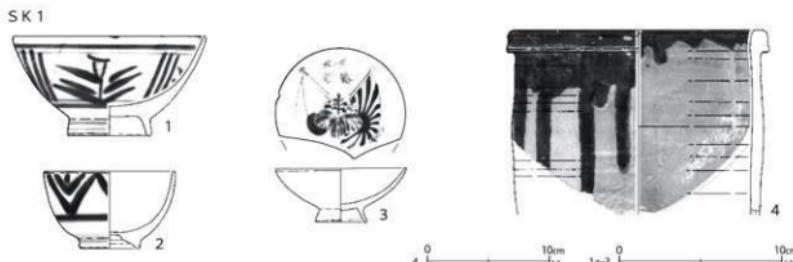
第 118 号土壠  
1 黑色土 粘質・有機物(木片)・炭化物多量 粘性弱 しまりあり

第 280 号土壠  
1 雜灰褐色土 砂質 炭化物・鉄分少量 しまり・粘性弱  
2 雜灰褐色土 砂質 炭化物・鉄分含む しまりあり 粘性弱  
3 雜灰褐色土 砂質 炭化物・鉄分・粗灰褐色シルト少量 しまりあり 粘性弱

第 292 号土壠  
1 噴灰褐色土 砂質 炭化物・鉄分少量 しまりあり 粘性なし  
2 噴灰褐色土 砂質 炭化物・鉄分微量 しまり・粘性弱  
3 噴灰褐色土 1層より黄色味帯びる 炭化物含む しまりあり 粘性弱

第 295 号土壠  
1 噴灰褐色土 砂質 粘性・しまりあり

第 231 図 第 2 区画の土壠(5)



第 232 図 第 2 区画の土壠出土遺物(1)

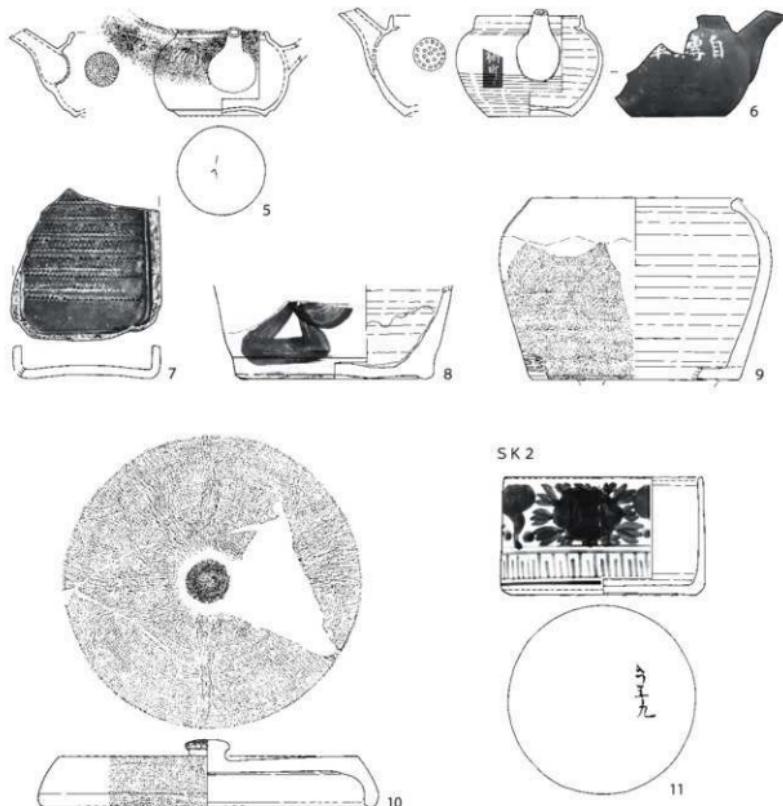
染付の磁器が複数出土しており、高台内に「清陶園製」銘を有する端反の壺も認められた。栗橋 9期に帰属する。

本製品では、漆塗りの箸が 1 点出土したが、遺存状態が悪く、炭化しなかった。

第 261 図 16 は熨斗瓦の破片と思われるが、紐状の桟部が発達しているものである(金子 2018)。第 269 図 21 と 22 は石製品の石筆であ

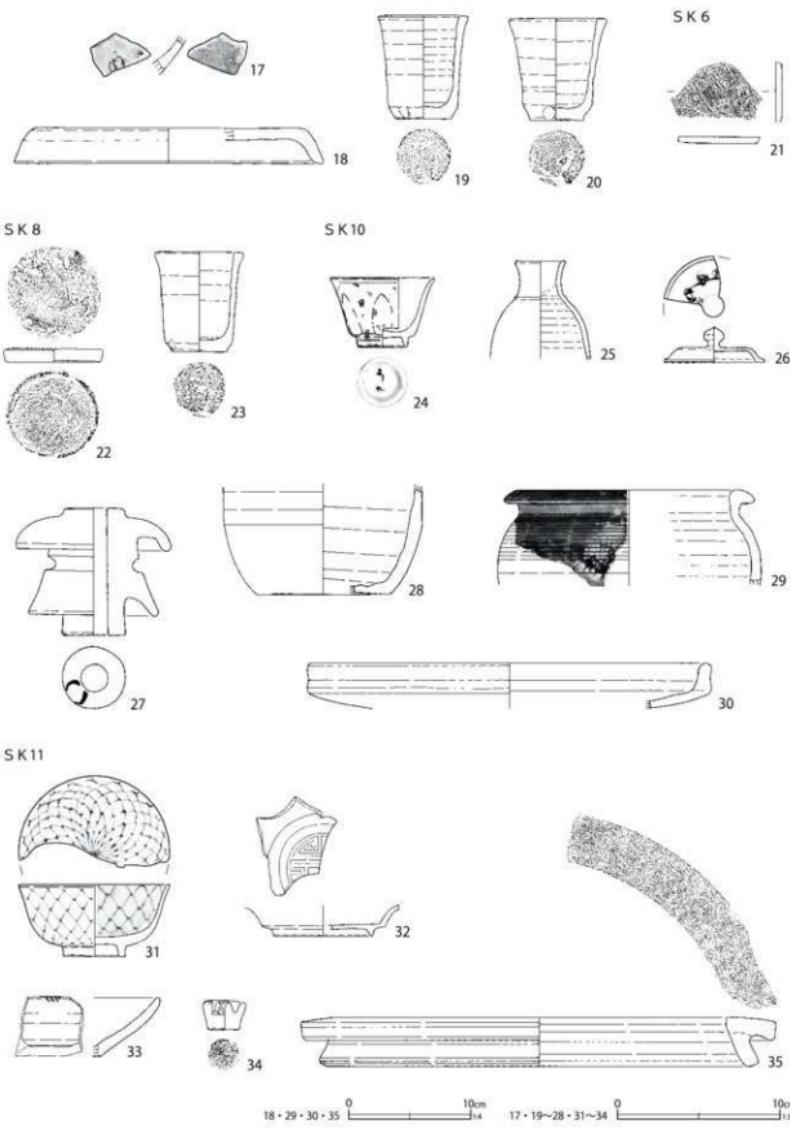
る。いずれも白色不透明の材質で、両端とも欠損する。1 は外面の面取りがやや粗く断面形が多角形に近い。

第 117 号土壠は、第 95 号土壠と重複する土壠であり、長軸 1.6m 程の隅丸長方形を呈する。覆土下層に樹皮・炭化物・木製品などが多く含まれる。第 253~255 図 279~293 は出土した陶磁器類である。

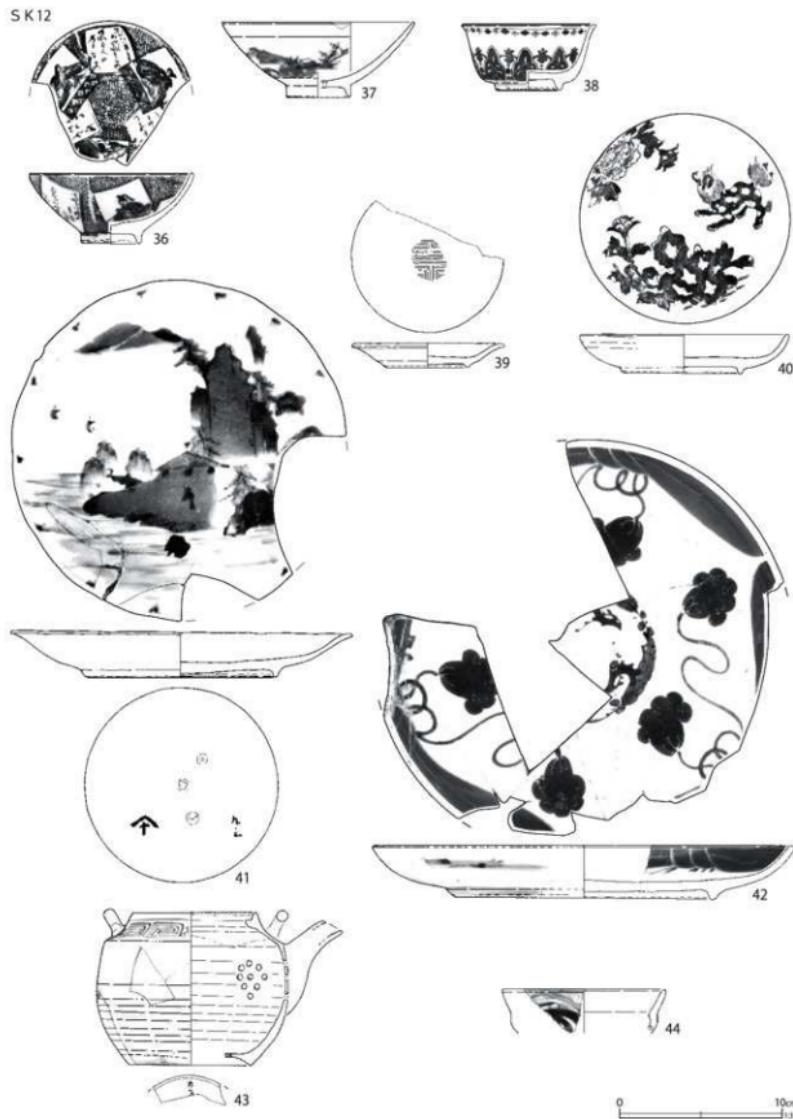


9~10 0 10cm 5~8・11~16 0 10cm

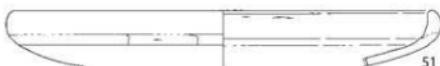
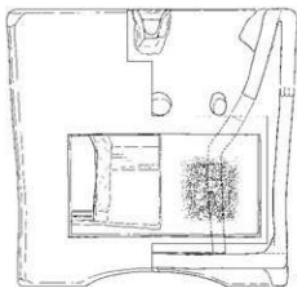
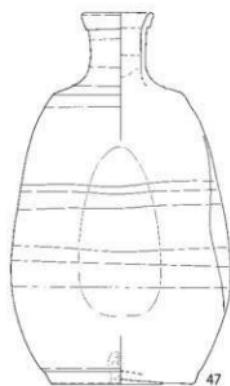
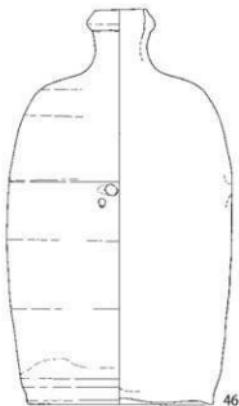
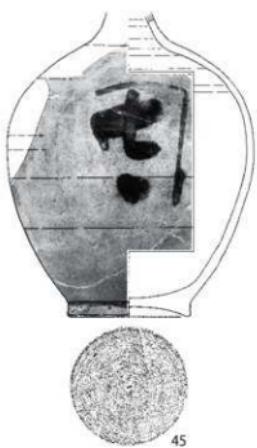
第233図 第2区画の土壤出土遺物（2）



第234図 第2区画の土壤出土遺物（3）

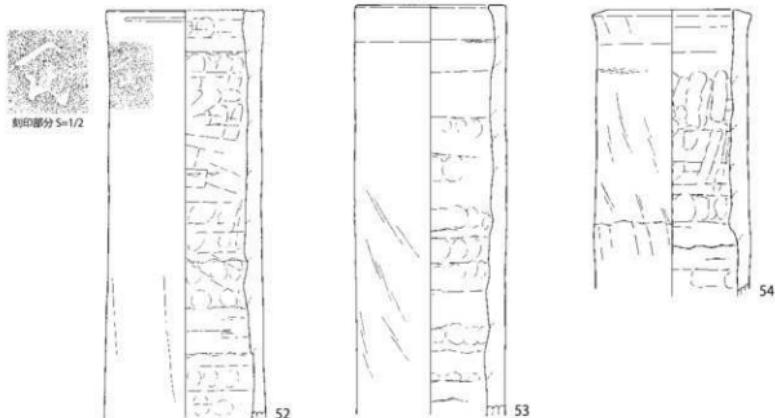


第235図 第2区画の土壤出土遺物（4）

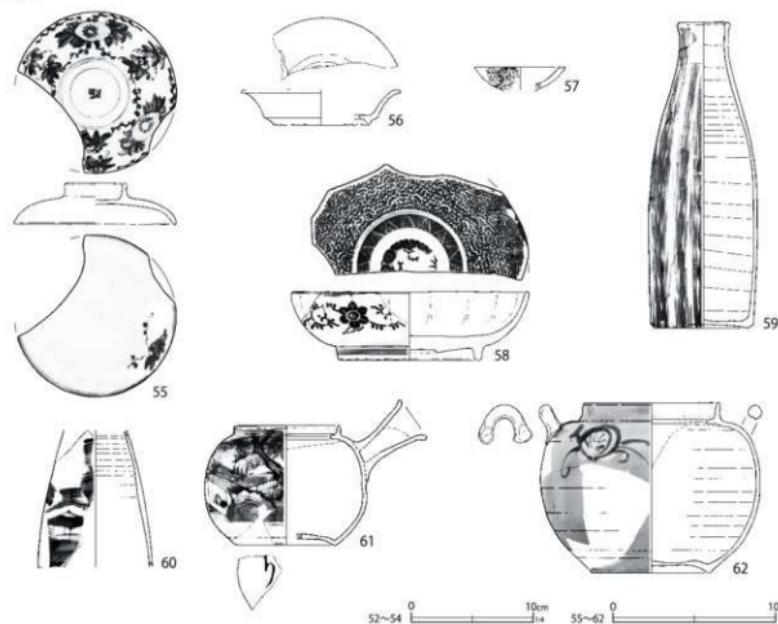


49 0 10cm 45~48・50・51 0 10cm

第236図 第2区画の土壤出土遺物(5)

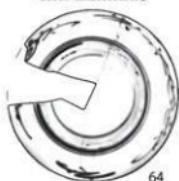
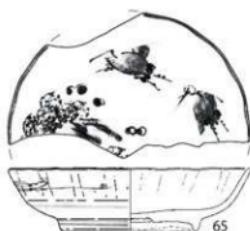
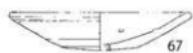


SK 17

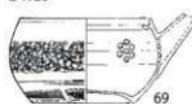


第237図 第2区画の土壤出土遺物（6）

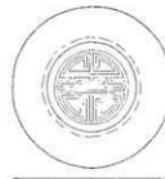
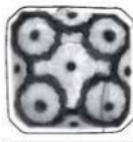
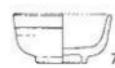
SK18



SK20



SK21

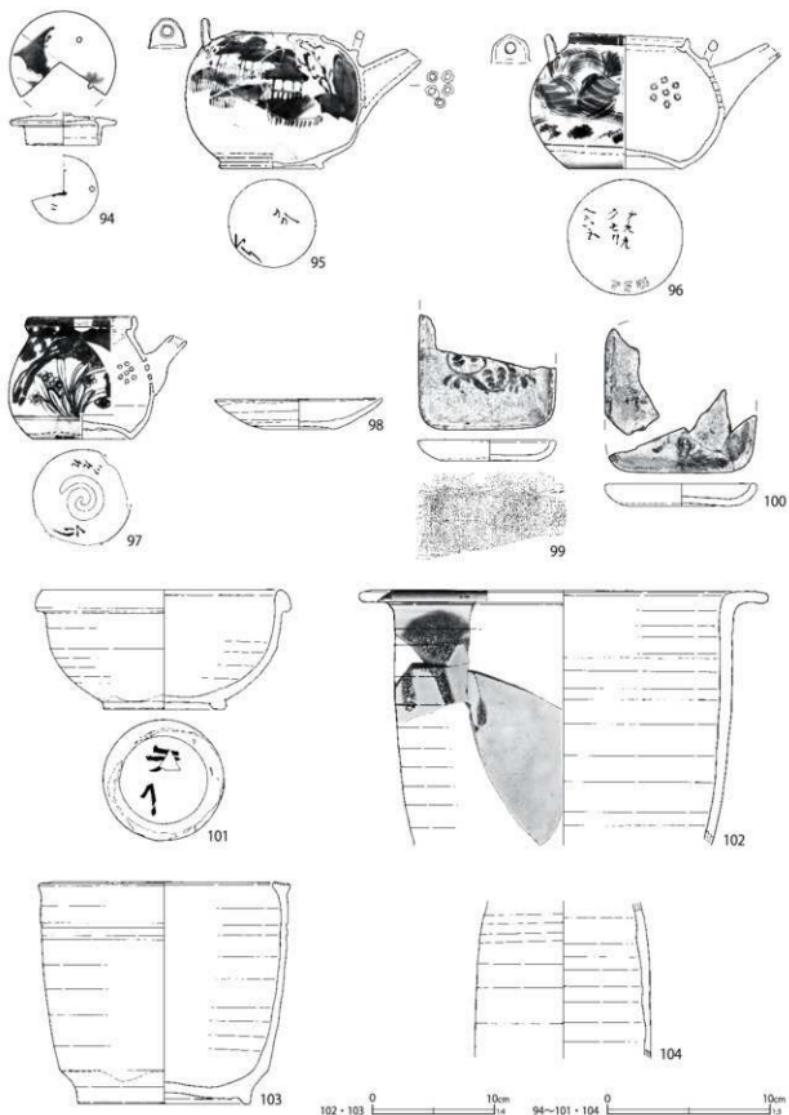


0 10cm

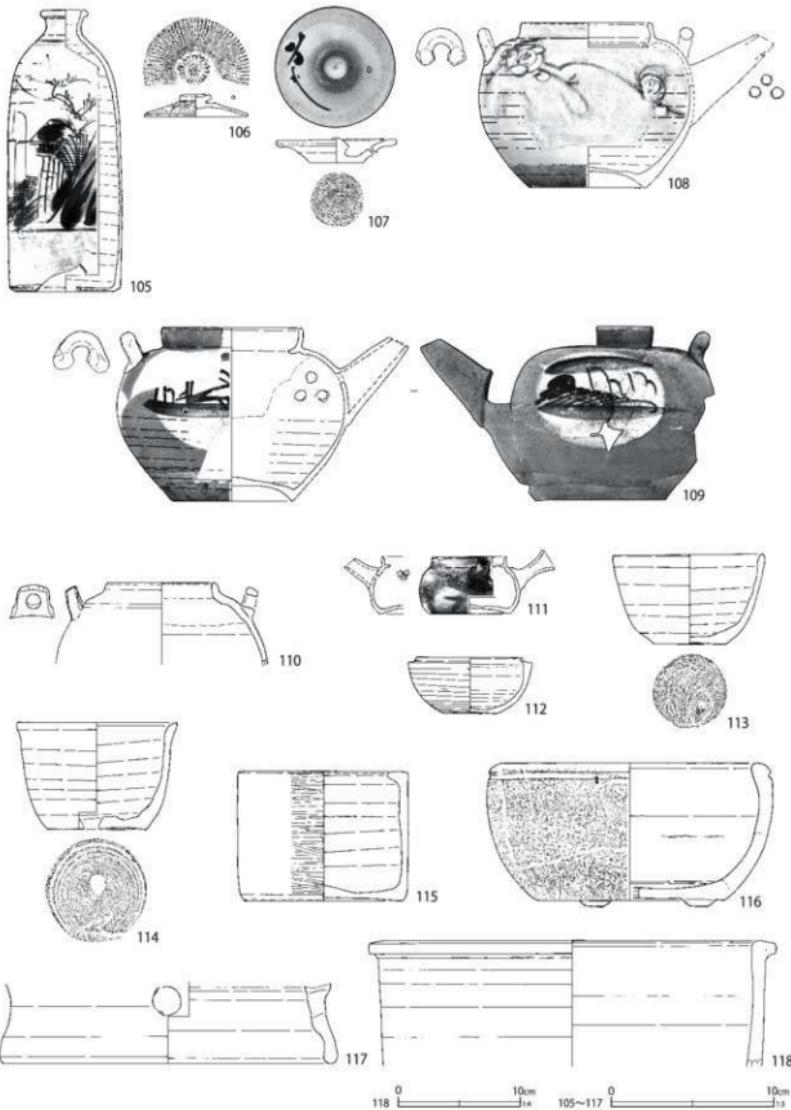
第238図 第2区画の土壤出土遺物（7）



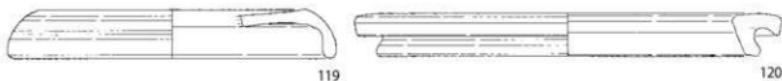
第239図 第2区画の土壤出土遺物（8）



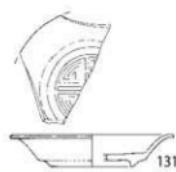
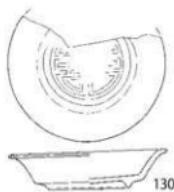
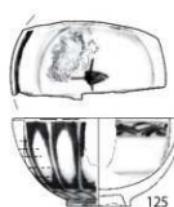
第240図 第2区画の土壤出土遺物（9）



第241図 第2区画の土壤出土遺物 (10)



SK 24



119~122      0      10cm  
123~131      0      10cm

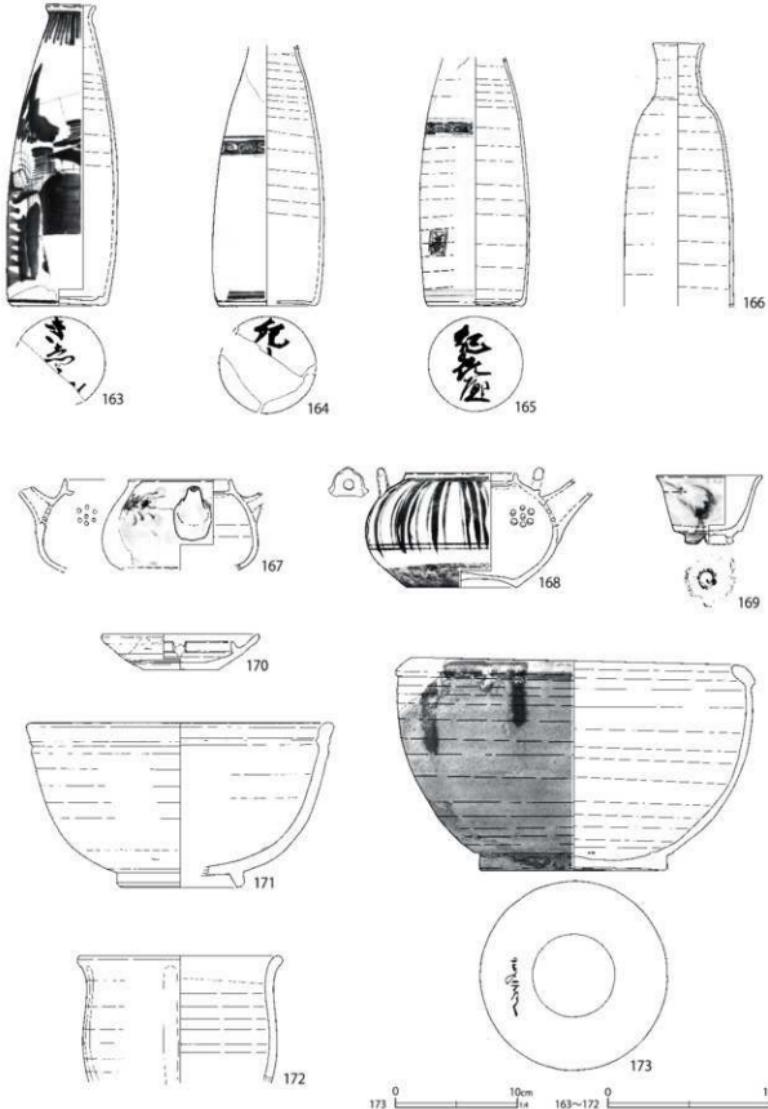
第242図 第2区画の土壤出土遺物(11)



第243図 第2区画の土壤出土遺物 (12)



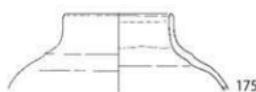
第244図 第2区画の土壤出土遺物 (13)



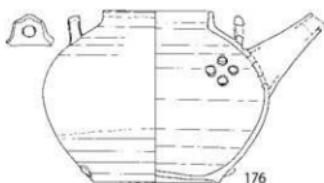
第245図 第2区画の土壤出土遺物 (14)



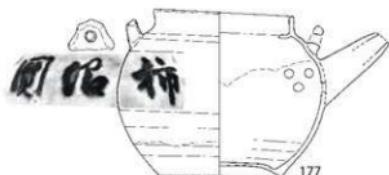
174



175



176

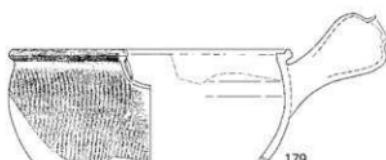


177

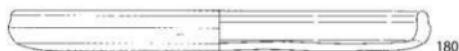


178

SK41



179



180



182



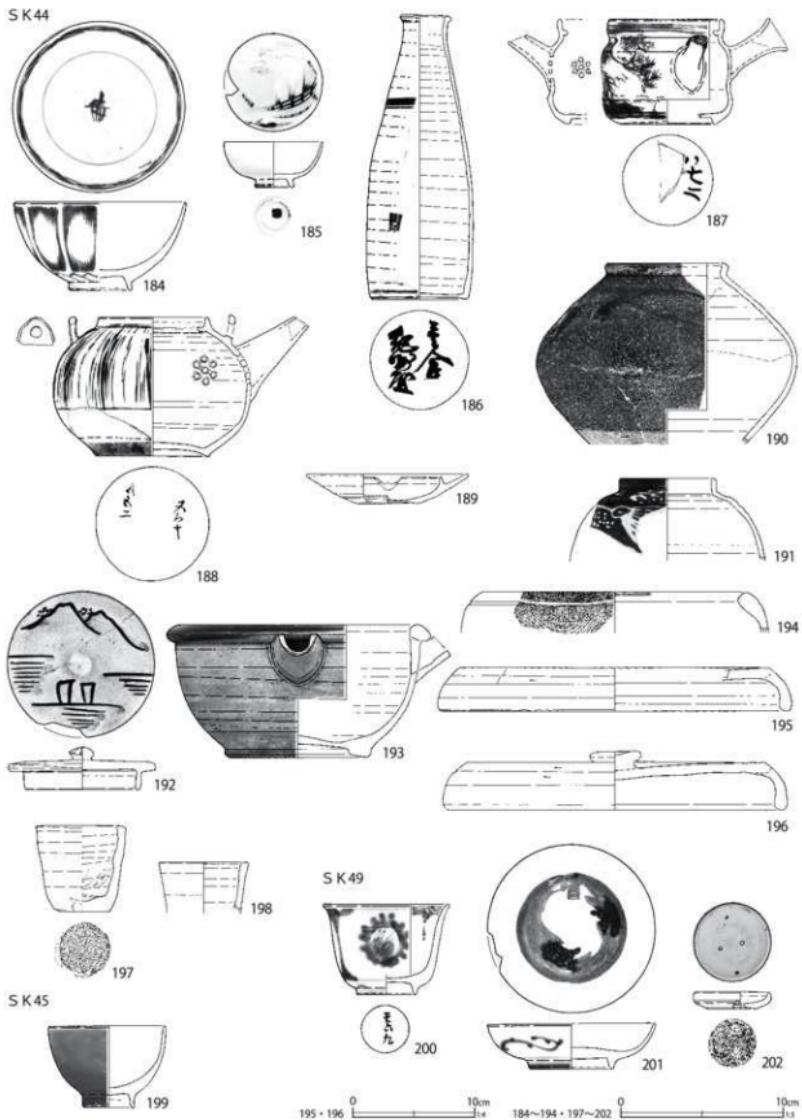
183



181

174・180・181 0 10cm 175～179・182・183 0 10cm

第246図 第2区画の土壤出土遺物(15)

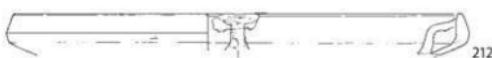
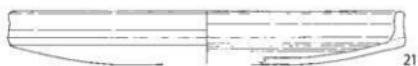
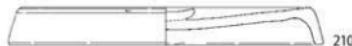
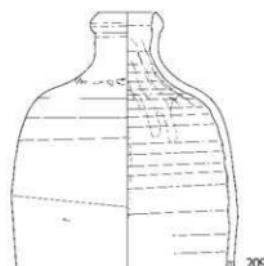
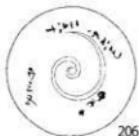
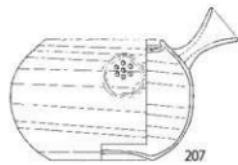
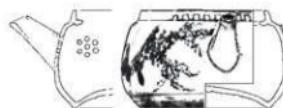
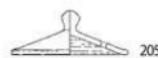


第247図 第2区画の土壤出土遺物（16）

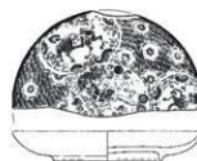
SK51



SK52



SK53

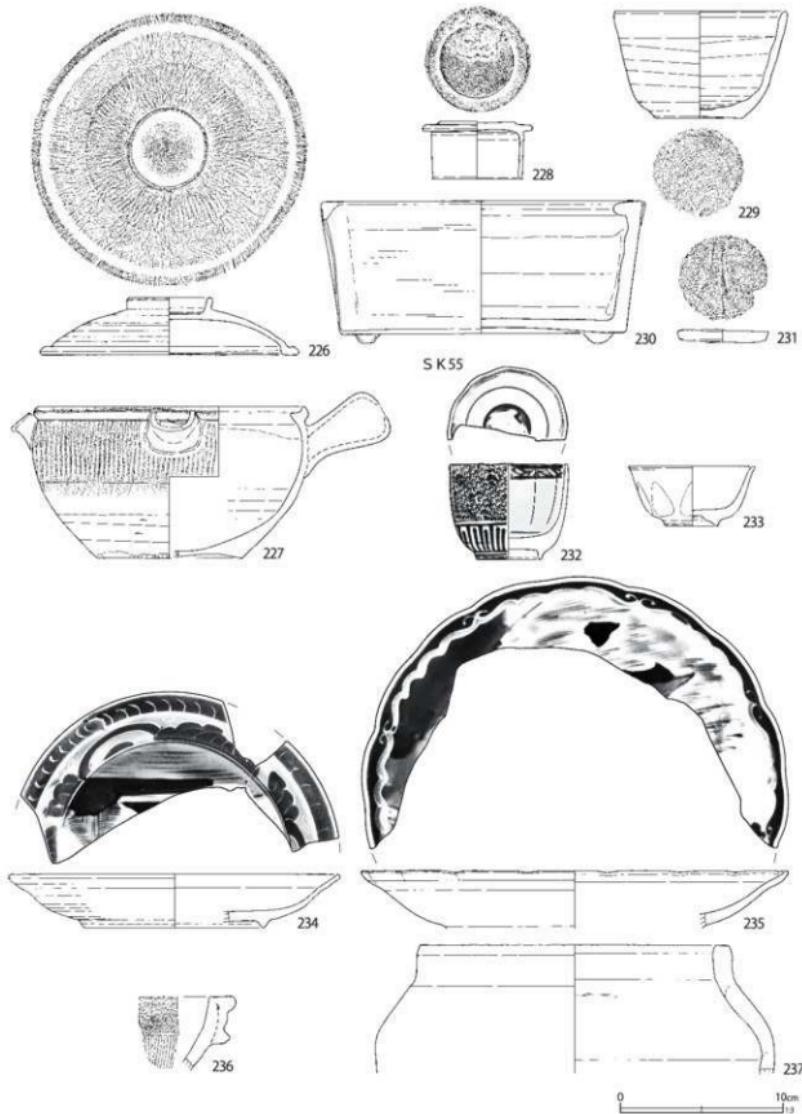


210~212 0 10cm 203~209 + 213~217 0 10cm

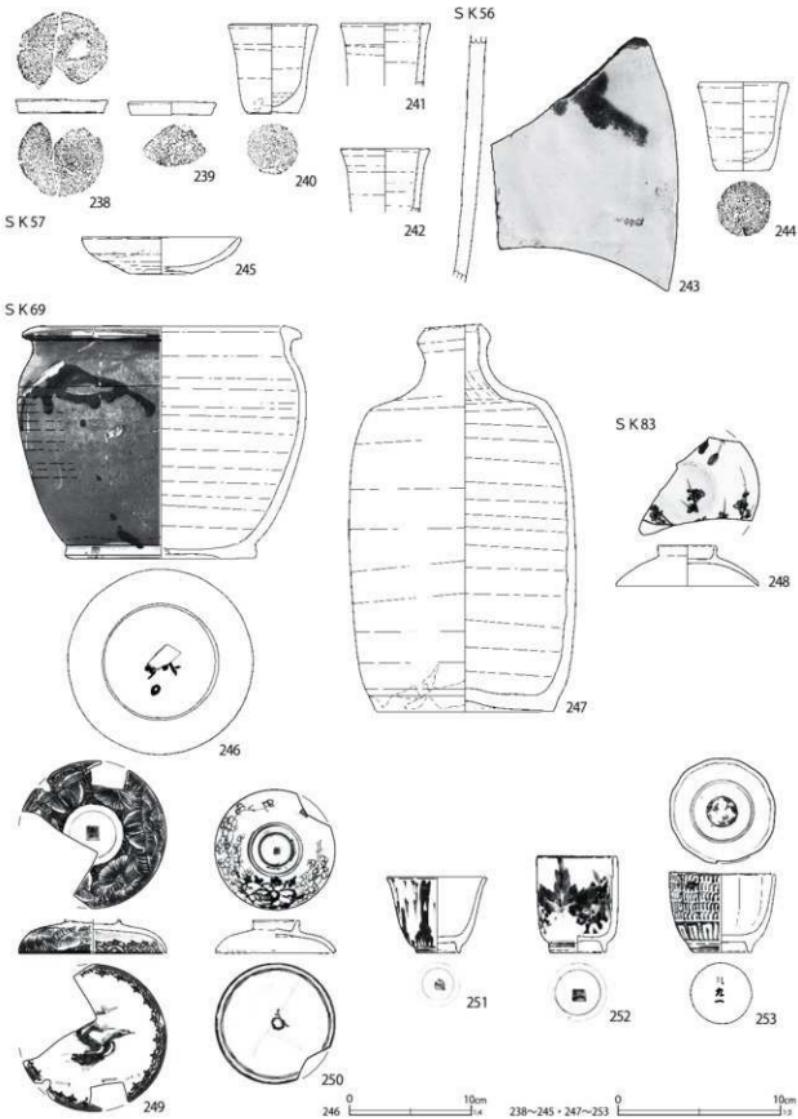
第248図 第2区画の土壤出土遺物 (17)



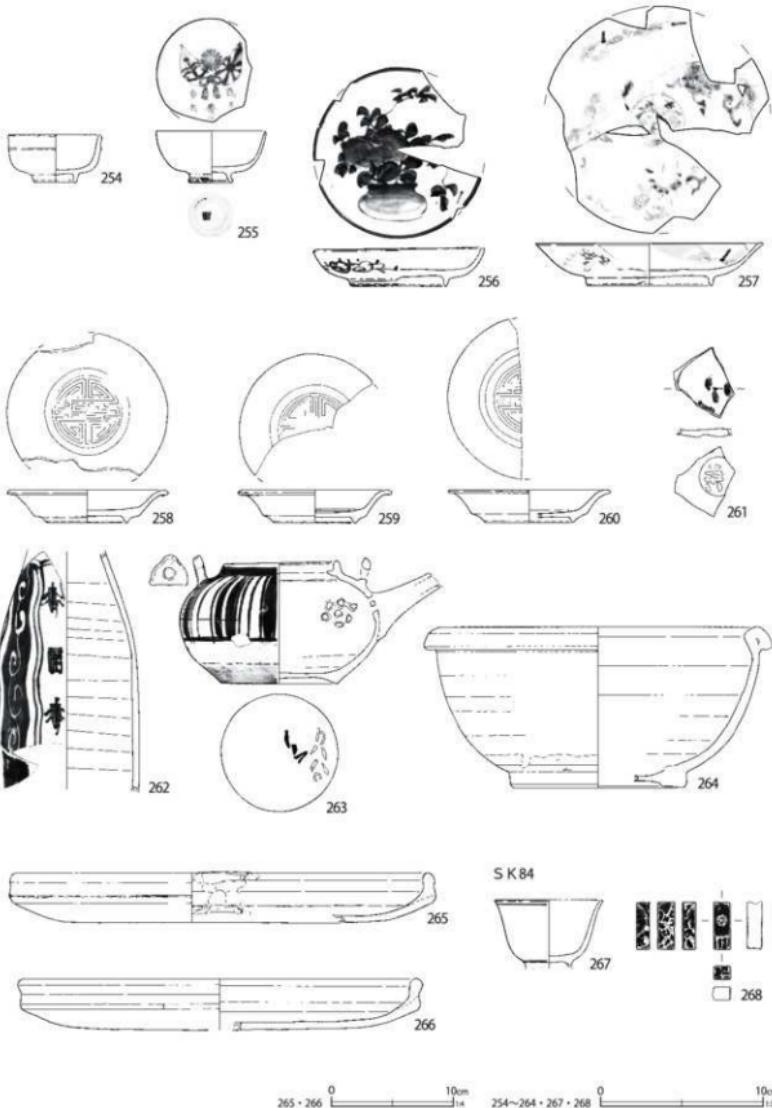
第249図 第2区画の土壤出土遺物 (18)



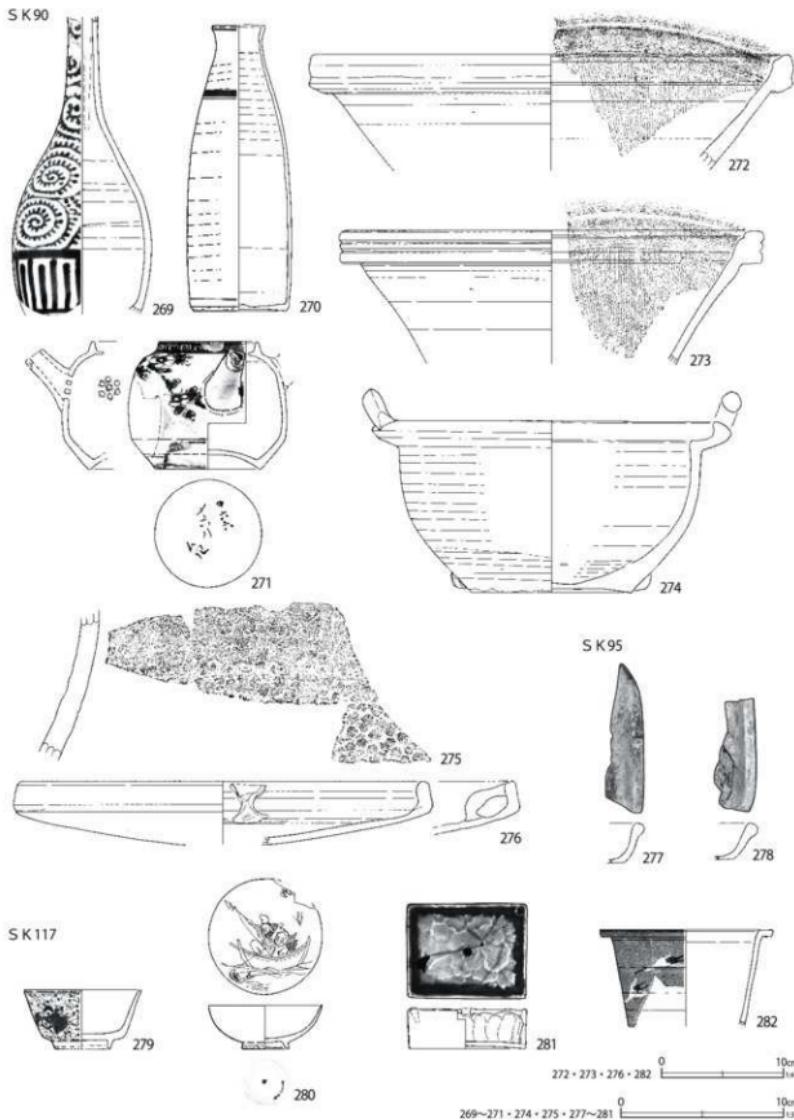
第250図 第2区画の土壤出土遺物（19）



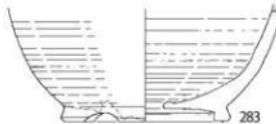
第251図 第2区画の土壤出土遺物 (20)



第252図 第2区画の土壤出土遺物 (21)



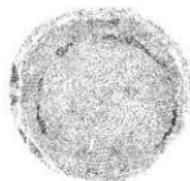
第253図 第2区画の土壤出土遺物 (22)



283



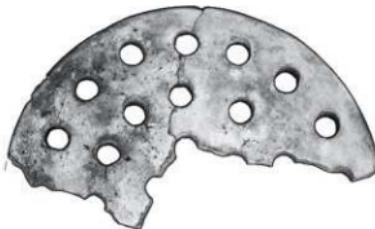
285



284



286



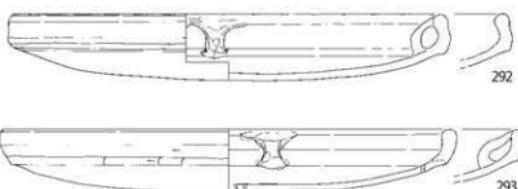
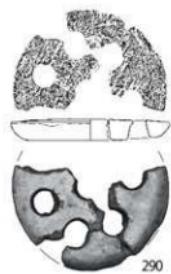
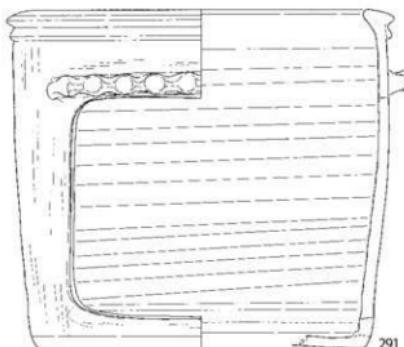
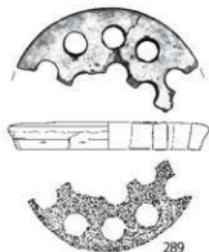
287



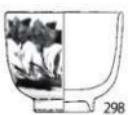
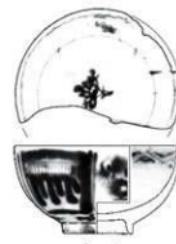
288

283・284 0 10cm 285～288 0 10cm

第254図 第2区画の土壤出土遺物 (23)

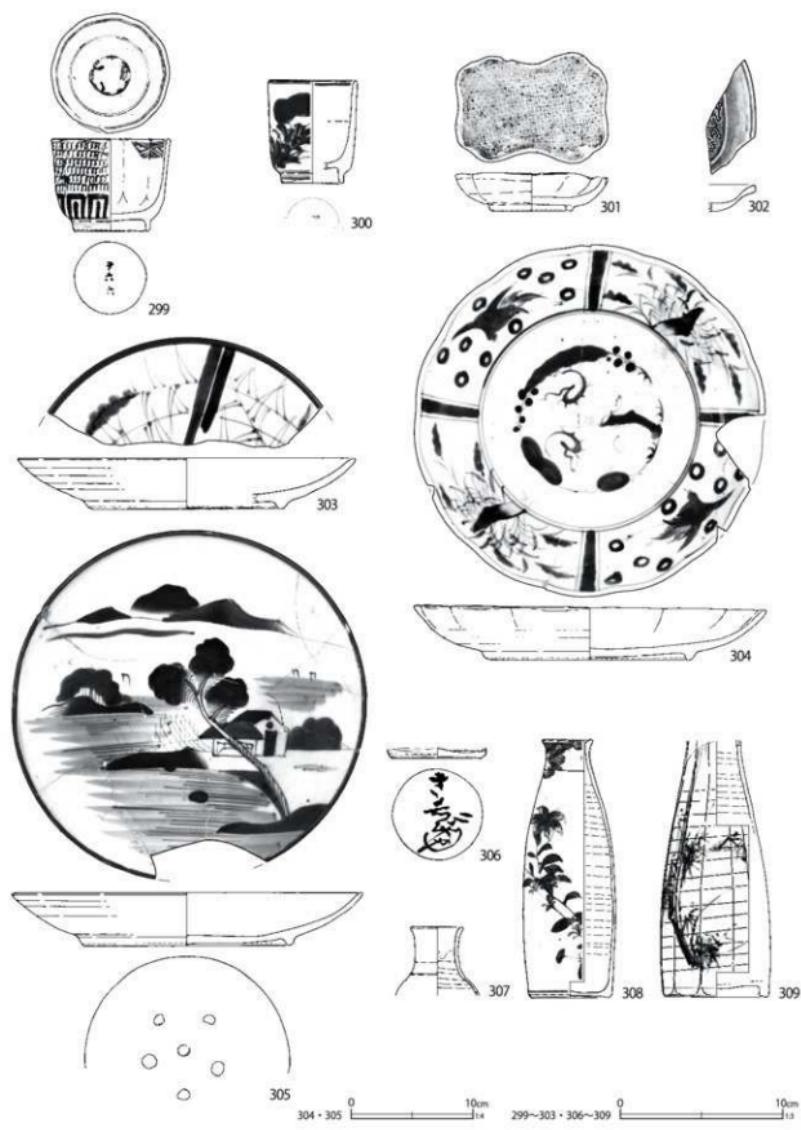


S K 192

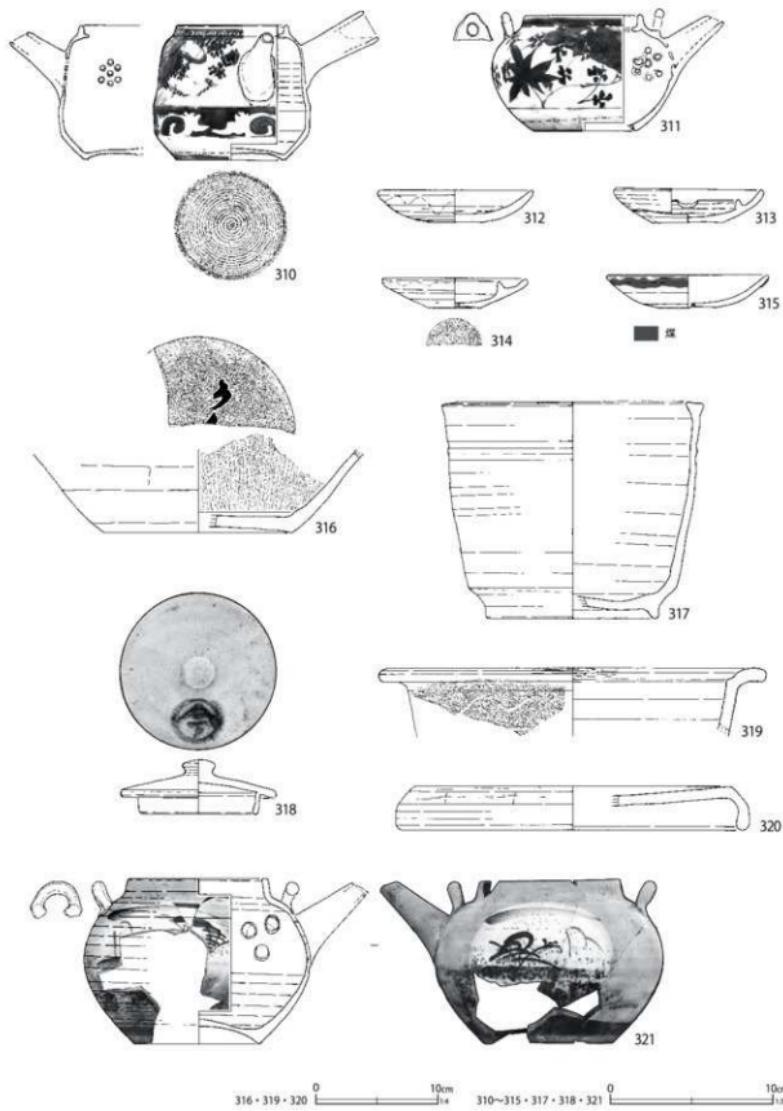


291~293 0 10cm 289・290・294~298 0 10cm

第255図 第2区画の土壤出土遺物 (24)

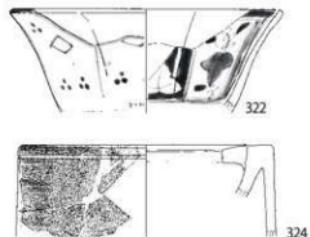


第256図 第2区画の土壤出土遺物 (25)

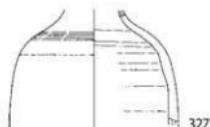
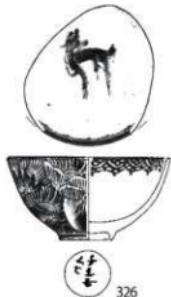


第257図 第2区画の土壤出土遺物 (26)

## SK 295



## SK 688



326

324

322

323 · 325 · 326 ~ 327

10cm

第258図 第2区画の土壤出土遺物 (27)

第127表 第2区画の土壤出土遺物観察表 (1) (第232~258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	造構	備考	図版
1	磁器	碗	11.7	6.1	4.9	-	85	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
2	磁器	杯	7.9	4.7	3.6	-	75	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁輪・外面酸化コバルト染付	
3	磁器	杯	7.9	3.3	3.0	-	65	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(赤・緑・金)、金彩「能露紀念」	
4	陶器	甕	(20.6)	[15.1]	-	IK	10	良好	灰白	SK1	益子系か 内外面施釉・鉄釉流し掛け	
5	陶器	急須	5.6	5.1	5.3	I	80	良好	赤灰	SK1	萬古系 外面施文 底部墨書き	
6	陶器	急須	(6.4)	6.5	5.2	-	45	良好	赤灰	SK1	萬古系 外面白盛給付「口拂町／自轉車」	
7	陶器	鉢皿	-	2.0	-	EIK	40	良好	にぶい赤褐色	SK1	笠間系か 内外面施釉 内面鉢目 長[9.2] 幅[8.8]	
8	陶器	便利	-	[5.7]	11.5	IK	20	良好	灰白	SK1	瀬戸美濃系か 内外面灰釉 外面鉄絵 「[ ] 量」 内外面煤付着	85-1
9	瓦質土器	火消壺	(17.0)	14.9	(17.0)	CEHIIK	10	普通	灰白	SK1	底部シワ状痕・スノコ状底 灰色施文 内面煤付着	
10	瓦質土器	蓋	24.5	5.6	26.7	CDHIIK	90	普通	灰褐色	SK1	つまみ部ミガキ 外面施文 内面煤付着	85-2
11	磁器	蓋物	12.1	7.2	11.4	-	90	良好	灰白	SK2	肥前系 内外面施釉 口唇部露胎 外面酸化コバルト染付 烧き織ぎ底・焼き織ぎ印(赤)	85-3
12	磁器	碗	(7.4)	5.5	(4.0)	-	25	良好	白	SK5	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
13	磁器	杯	6.2	4.8	2.6	-	100	良好	白	SK5	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面瑠璃釉単彩) 外面酸化コバルト染付	
14	磁器	皿	(11.4)	2.1	(7.0)	-	20	良好	白	SK5	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	86-6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
15	陶器	壺	4.8	6.1	3.4	IK	90	良好	灰白	SK5	磁器質 内外面施釉 外面染付	
16	陶器	豆甕	6.0	5.1	3.8	K	90	良好	にぶい橙	SK5	底部系切痕(右) 内面~外面上部に拂釉	86-7
17	陶器	皿	-	[2.3]	-	IK	5	良好	灰白	SK5	京都系か、軟質施釉陶器 内外面施釉 内面拂釉	
18	瓦質土器	蓋	(21.6)	[2.9]	(25.2)	CHK	5	普通	にぶい橙	SK5	酸化炎焼成ぎみ 上面シワ状痕	
19	土師質土器	燒塗蓋	(4.6)	6.4	3.4	AEIK	55	普通	橙	SK5	底部系切痕(左) 胎土粉質	87-1
20	土師質土器	燒塗蓋	(4.9)	6.2	3.3	AHK	75	普通	橙	SK5	底部系切痕(左) 胎土粉質	87-2
21	陶器	瓶	-	[3.6]	-	AK	5	良好	にぶい赤褐	SK6	偏前系 板作成形 外面施文 幅[5.0]	87-3
22	土師質土器	蓋	6.0	0.9	5.7	AHK	100	普通	にぶい橙	SK8	胎土粉質 (燒塗の蓋)	
23	土師質土器	燒塗蓋	(5.3)	6.1	3.2	AHK	40	普通	にぶい橙	SK8	底部系切痕(左) 胎土粉質	87-4
24	磁器	壺	(6.3)	4.2	2.9	-	55	良好	白	SK10	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
25	磁器	燭台利	(2.9)	[6.0]	-	-	10	良好	白	SK10	瀬戸美濃系 内外面施釉	
26	磁器	蓋	-	2.1	(6.1)	-	25	良好	白	SK10	内外面施釉 上面酸化コバルト染付 (急傾の蓋)	
27	磁器	碍子	-	7.8	3.8	-	90	良好	白	SK10	瀬戸美濃系 施釉 露胎墨書き 最大径9.5 cm	
28	陶器	德利	-	[6.8]	(8.2)	BHK	15	良好	褐灰	SK10	瀬戸美濃系 外面拂釉・底部拭き取り (べこん德利)	
29	陶器	甕	(18.5)	[7.8]	-	DEIK	10	良好	灰白	SK10	瀬戸美濃系 内外面拂釉 外面鉄流し掛け	
30	土師質土器	培塔	(32.4)	[3.7]	(33.0)	CHIK	5	普通	灰白	SK10	底部シワ状痕 外面少量煤付着	
31	磁器	碗	(9.1)	4.3	(3.8)	-	40	良好	白	SK11	肥前系 内外面施釉・染付	
32	磁器	皿	-	[1.9]	(5.9)	-	20	良好	白	SK11	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文(型押壽文皿)	
33	かわらけ	皿	-	[3.6]	-	AHK	5	普通	灰褐	SK11	口縁部に二次的に傷状の痕跡 大型	
34	土師質土器	灯火具	2.2	1.8	1.9	ACHK	95	普通	にぶい橙	SK11	底部系切痕(左) 灯芯受煤付着	87-5
35	瓦質土器	籠	(31.0)	4.0	(35.0)	CHI	30	普通	明褐色・褐	SK11	上面~内面煤付着 最大径(39.0) cm	
36	磁器	碗	(10.0)	4.3	3.5	-	70	良好	灰	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉・鋼版転写染付(青・茶)	87-6
37	磁器	碗	(11.8)	4.6	(3.8)	-	55	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面鋼版転写染付	
38	磁器	壺	8.0	4.1	3.8	-	85	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面鋼版転写染付 同文別個体1あり	
39	磁器	皿	9.0	1.4	5.0	-	70	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文(型押壽文皿)	88-1
40	磁器	皿	12.6	2.4	7.1	-	100	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面銅版転写染付(紺) 口紅	
41	磁器	皿	20.7	2.8	11.7	-	75	良好	白	SK12	肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ビン痕3 傷き繙ぎ底・焼き繙ぎ印(赤) 引き波熟	87-7
42	磁器	皿	25.7	3.3	15.7	-	60	良好	白	SK12	第2号埋設桶掘方接合 肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支柱 焼き繙ぎ底	88-7
43	磁器	土瓶	7.4	9.4	7.5	-	70	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	88-2
44	陶器	碗	(10.0)	[2.7]	-	K	5	良好	灰白	SK12	大堀相馬系 内面様白釉 外面铁釉	88-6
45	陶器	德利	-	[18.6]	7.3	IK	65	良好	褐灰	SK12	外面灰釉・眞須繪(文字)「見」「口場」	88-3
46	陶器	德利	3.1	24.2	11.4	IK	95	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 外面灰釉・底部拭き取り 脚部に二次穿孔か(孔2) 煤付着	88-4
47	陶器	德利	4.1	22.7	8.7	EIK	100	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 外面拂釉・底部拭き取り	88-5
48	瓦質土器	手培り	-	[2.4]	-	EHI	5	普通	灰白	SK12	上面ミガキ 体部外面トビガソナ状施文意の一部遺存 燐す	
49	土師質土器	焜炉	(24.0)	22.8	21.4	AHK	45	普通	にぶい橙	SK12	三河系 外面粗くミガキ・刻印 上面煤付着	
50	土師質土器	把手手鍋	-	[3.8]	-	AHK	5	普通	橙	SK12	江戸在地系 胎土粉質 外面煤付着 把手鉗痕片	
51	土師質土器	培塔	(34.4)	[4.6]	(35.4)	CHIK	10	普通	灰白	SK12	砂目底 外面煤付着	
52	土製品	土管	12.6	[33.5]	-	CHIK	-	普通	にぶい橙	SK12	外面刻印「金」	
53	土製品	土管	(12.0)	[33.6]	-	CHIK	-	普通	明褐色 黒褐	SK12	内面煤付着	
54	土製品	土管	(10.6)	[23.6]	-	CEHIC	-	普通	にぶい褐	SK12		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
55	磁器	蓋	3.7	2.5	9.9	-	70	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
56	磁器	皿	(9.5)	2.1	(5.8)	-	15	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文(型押文)	
57	磁器	紅皿	(5.5)	[1.4]	-	-	20	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内面~外面上位施釉 外面型押文(陰刻状)	
58	磁器	皿	(14.3)	4.2	8.7	-	35	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙模様染付	
59	磁器	爛滌利	(2.9)	18.7	5.7	-	80	良好	白	SK17	SK21 接合 瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体1あり	88-8
60	磁器	爛滌利	-	[8.4]	-	-	25	良好	灰白	SK17	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕	
61	磁器	急須	6.3	8.9	(6.0)	-	60	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕 底部露窓「り」弱く黒熱・煤付着	88-9
62	陶器	土瓶	8.2	10.5	7.3	IK	60	良好	灰白	SK17	外面灰釉・白盛、真須地繪付	
63	磁器	碗	(11.0)	[3.6]	-	-	20	良好	白	SK18	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙模様染付	
64	磁器	皿	10.3	2.3	6.3	-	90	良好	白	SK18	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 同文別個体1あり	
65	磁器	皿	14.5	3.9	8.1	-	45	良好	白	SK18	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
66	陶器	碗	-	[3.9]	-	IK	10	良好	褐灰	SK18	大堀相馬系 内外面灰釉 外面鉄繪	89-1
67	陶器	皿	(11.0)	2.3	(4.9)	BK	35	良好	灰白	SK18	内面~口縁部灰釉 内面ピン痕3遺存	
68	陶器	德利	-	[6.9]	8.5	K	15	良好	灰白	SK18	大堀相馬系か 胎土に微細な黒粒 外面灰釉 底部に二次穿孔か	89-2
69	磁器	急須	(8.0)	5.4	6.2	-	60	良好	白	SK20	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
70	磁器	碗	11.3	5.1	4.2	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 口縁部~外面酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕・焼き繙ぎ印(赤)	89-3
71	磁器	紅皿	4.2	1.2	1.2	-	100	良好	白	SK21	肥前系 型成形 内面~口縁部施釉 外面しおのぎ状施文	93-4
72	磁器	杯	6.4	2.7	2.6	-	80	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 破面に赤色物質付着	
73	磁器	杯	5.9	3.0	2.8	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 同文別個体2あり	
74	磁器	杯	5.8	2.7	2.0	-	70	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 内面染付(青) 同文別個体1あり	
75	磁器	杯	6.3	4.8	2.8	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体1以上あり	
76	磁器	杯	6.2	4.6	2.2	-	80	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
77	磁器	杯	6.1	4.6	2.6	-	70	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
78	磁器	杯	4.6	5.7	2.8	-	95	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体2あり	
79	磁器	杯	4.9	5.9	3.1	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付・緑色の繪付(文字)	89-4
80	磁器	杯	5.3	6.1	3.7	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体2あり	
81	磁器	皿	7.8	2.3	3.9	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押文・染付	89-5
82	磁器	皿	9.3	2.0	4.9	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押文(型押文) 同文別個体2あり	89-6
83	磁器	皿	10.4	2.4	5.9	-	100	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 染付 焼き繰ぎ痕・焼き繙ぎ印(赤) 同文別個体1あり	
84	磁器	皿	14.6	3.9	8.3	-	50	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目状高台 焼き繰ぎ痕・焼き繙ぎ印(赤)	89-7
85	磁器	皿	15.1	4.0	8.0	-	95	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉・染付 焼き繰ぎ痕・蛇の目状高台	
86	磁器	皿	14.9	4.8	9.3	-	95	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉・染付 焼き繰ぎ印(赤) 同文別個体1あり	90-1
87	磁器	蓋物	6.3	3.4	3.3	-	95	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕・焼き繙ぎ印(赤)	90-2
88	磁器	蓋物	9.3	5.2	5.0	-	75	良好	白	SK21	肥前系 内外面施釉 外面染付	90-3
89	磁器	蓮華	-	[3.3]	-	-	90	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面施文・染付長8.3 幅5.2	
90	磁器	爛滌利	-	[1.8]	-	-	5	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面部絵(緑・黄・紫)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
91	磁器	燐德利	-	[6.1]	(6.0)	-	10	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面赤絞(緑・黄・紫) 上下接点ない2破片から上復元 SK131・99に同一個体	90-4
92	磁器	燐德利	-	[7.0]	6.0	-	15	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 焼き繰ぎ痕(赤)	90-5
93	磁器	燐德利	3.1	18.1	5.7	-	85	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 外面施釉・焼成コバルト染付 底部墨書き	90-6
94	磁器	蓋	-	[2.0]	(4.4)	-	70	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 上面施釉・染付・穿孔1 焼き繰ぎ痕・焼き繰ぎ印(赤) 内面墨書き 最大径6.4cm(土瓶の蓋)	
95	磁器	土瓶	5.5	9.2	6.0	-	90	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼き繰ぎ痕・焼き繰ぎ印(赤) 底部墨書き	91-1
96	磁器	土瓶	7.0	8.3	7.0	-	95	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕・焼き繰ぎ印(赤)	91-2
97	磁器	急須	6.4	7.5	6.1	-	60	良好	白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕・焼き繰ぎ印(赤) 底部墨書き「くり」	91-3
98	陶器	灯明皿	10.3	1.9	4.2	AK	90	良好	灰白	SK21	京都信楽系 内面透明釉 内面ピン痕3 口縁部煤付着	
99	陶器	皿	7.9	1.3	5.7	E	50	良好	にぶい黄橙	SK21	型成形 内外面施釉 内面鉄絞 底部布压痕	91-4
100	陶器	皿	(8.8)	1.4	(6.1)	BI	30	良好	灰白	SK21	型成形 内外面施釉 内面錆跡掛け分け・鉄絞 底部布压痕	
101	陶器	鉢	14.6	7.3	7.4	IK	80	良好	灰白	SK21	内外面施釉 口縁部一部に鷹白釉散らす 内面目跡5 底部墨書き	91-5
102	陶器	鉢	(31.4)	[20.9]	-	K	5	良好	にぶい楓	SK21	内外面施釉 口縁部一部に白化粧後鷹白釉・緑釉流し掛け	92-1
103	陶器	半斗甕	(18.0)	18.2	(14.0)	EIK	40	良好	灰白	SK21	瀬戸美濃系 内外面施釉 口縁上端部日跡2道存 羽く被熱(一部黒化)	
104	陶器	徳利	-	[9.6]	-	IK	15	良好	にぶい黄橙	SK21	瀬戸美濃系 外面灰釉	
105	陶器	燐德利	2.5	17.3	6.0	K	90	良好	灰白	SK21	外施輪・三彩	92-2
106	陶器	蓋	2.0	1.3	6.2	-	70	良好	黄灰	SK21	萬古系 外面トピガンナ状施文 穿孔1	92-4
107	陶器	蓋	7.3	1.5	3.3	K	100	良好	にぶい黄橙	SK21	下面糸切痕(右) 上面灰釉・白盛、呉須で繪付 穿孔1 (土瓶の蓋)	
108	陶器	土瓶	7.8	10.1	7.3	IK	95	良好	灰黄	SK21	外面灰釉・白盛、呉須で繪付	
109	陶器	土瓶	(8.4)	10.6	7.3	CIK	65	良好	灰白	SK21	外面白土塗付	
110	陶器	土瓶	(6.4)	[5.0]	-	DHK	10	良好	灰黄褐	SK21	松岡系 外面と内面の一部に海鼠釉	92-3
111	陶器	急須	4.5	3.5	5.0	K	70	良好	にぶい黄橙	SK21	外面一部火焯状に施釉	92-5
112	陶器	蓋	6.4	3.4	3.1	ABIK	95	普通	にぶい楓	SK21	全面施釉、白色土器質	92-6
113	土師質土器	鉢	(9.1)	5.5	4.5	AIK	65	普通	にぶい楓	SK21	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質	92-7
114	瓦質土器	植木鉢	9.8	6.5	6.1	IK	70	普通	灰白	SK21	江戸在地系 底部糸切痕(左・右) 穿孔1 胎土粉質	92-8
115	土師質土器	香炉	(9.3)	8.0	9.6	AIIK	60	普通	橙	SK21	外側ミカギ・赤色塗布物	93-1
116	瓦質土器	火鉢	(15.5)	8.8	(11.6)	AIK	30	普通	灰白	SK21	江戸在地系 燐寸 外面施文 胎土粉質	93-2
117	瓦質土器	火鉢	-	[4.9]	(20.2)	BIIK	5	普通	橙	SK21	やや酸化夷焼成	
118	瓦質土器	竈	(30.2)	[10.4]	-	CFIK	5	普通	灰白	SK21	燐寸 口縁部煤付着	
119	瓦質土器	蓋	(22.0)	4.0	(26.0)	CFIK	25	普通	外:灰白 内:黄灰	SK21	上面砂目瓶 燐寸	
120	瓦質土器	竈蹲	(27.6)	3.5	(31.2)	CDHK	15	普通	褐灰	SK21	上面煤付着 最大径(35.2)cm	
121	瓦質土器	火消壺	20.3	22.2	20.3	CEHK	80	普通	褐灰	SK21	砂目底 燐寸	93-3
122	瓦質土器	火消壺	(19.0)	[16.8]	-	CHIK	15	普通	外:にぶい楓 内:にぶい楓	SK21	内部煤付着 燐寸	
123	かわらけ	皿	(17.0)	[1.8]	-	ACIK	5	普通	にぶい楓	SK23	胎土粉質	
124	磁器	碗	(11.0)	[2.8]	-	-	5	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施釉 口縁部~外面酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕(平綻)	
125	磁器	碗	(10.3)	5.4	3.6	-	30	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
126	磁器	碗	7.3	5.6	(4.2)	-	45	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕・焼き繰ぎ印(赤)	93-5
127	磁器	杯	(5.4)	6.2	3.9	-	40	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施釉・口縁部~外面酸化コバルト染付	
128	磁器	皿	(13.0)	2.6	(6.8)	-	40	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
129	磁器	蓮華	-	4.7	-	-	95	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面陽刻状の施文 長9.8 幅4.9	93-6
130	磁器	皿	9.5	2.2	4.9	-	65	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押文 (型押壽文皿)	93-7
131	磁器	皿	(9.5)	1.9	(5.2)	-	20	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型押文 (型押壽文皿)	93-7
132	磁器	皿	10.0	2.7	5.0	-	90	良好	白	SK24	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面施文 (木型打込) 高台内墨書 同文別個体1あり	94-1
133	陶器	皿	-	[1.6]	-	-	5	良好	灰白	SK24	淡路鹿平系 内外面緑釉 内底面型押文 SK31に同一個体	93-8
134	陶器	豆甕	5.8	5.1	2.7	I	70	良好	灰赤	SK24	内外面柿輪 強く被熱して変色 細付着 塗壇配用か	94-2
135	土師質土器	香炉	-	[3.0]	(9.5)	AHK	10	良好	橙	SK24	外:灰白 内:褐灰 里面ミガキ・赤色塗布物	94-3
136	瓦質土器	蓋	(25.0)	4.3	(27.4)	CIK	30	普通	SK24	上面砂目 濁す		
137	陶器	搗鉢	(36.2)	[6.1]	-	IK	5	良好	にぶい黄橙	SK25	笠間益子系 内外面柿輪 内面擦目	
138	瓦質土器	植木鉢	11.8	8.0	8.2	AHH	90	普通	明褐色・褐灰	SK25	底部系切痕 (左) 濁す	94-4
139	陶器	碗	-	[3.1]	-	K	5	良好	灰白	SK26	萩焼 内外面黒灰釉	94-5
140	磁器	碗	(7.0)	5.7	(3.5)	-	20	良好	白	SK27	瀬戸美濃系 内外面施釉 (外面銀瑪瑙彩) (湯呑形碗)	
141	陶器	甕	-	[9.5]	13.8	EIK	35	良好	灰白	SK27	瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面鉄釉輪し掛け 内面白目跡4 高台内墨書 第242表5	94-6
142	陶器	徳利	3.4	21.4	7.2	DIK	100	良好	灰白	SK31	瀬戸美濃系 外面灰釉・近部拭き取り	94-7
143	土師質土器	焼塙蓋	-	[2.6]	(3.3)	AHK	35	普通	橙	SK31	底部系切痕 (左) 脱土粉質	
144	瓦質土器	蓋	(19.0)	3.2	(23.4)	CIK	30	普通	外:灰白 内:黒褐色	SK31	上面砂目 濁す 内面付着 (火消蓋の意)	
145	磁器	碗	10.2	5.3	4.1	-	85	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	95-1
146	磁器	碗	12.2	5.7	4.3	-	65	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 (平碗)	95-2
147	磁器	碗	(11.4)	4.8	(4.1)	-	40	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 烧き繩ぎ痕 (平碗)	
148	磁器	碗	11.5	4.7	3.5	-	50	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 同文別個体2あり (平碗)	
149	磁器	蓋	3.7	2.4	9.7	-	95	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
150	磁器	碗	7.4	5.4	4.3	-	35	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 烧き繩ぎ瓶・焼き繩ぎ印 (赤) (湯呑形碗)	95-3
151	磁器	碗	6.6	4.9	3.5	-	85	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 烧き繩ぎ瓶・焼き繩ぎ印 (赤) (湯呑形碗)	95-4
152	磁器	碗	(6.4)	4.6	(3.2)	-	30	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 (外面瑠璃釉单影) 口紅 (湯呑形碗)	
153	磁器	蓋物	6.2	2.9	3.2	-	65	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 烧き繩ぎ瓶・焼き繩ぎ印 (赤)	95-5
154	磁器	杯	6.5	4.7	2.8	-	95	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	95-6
155	磁器	杯	6.2	4.4	3.0	-	60	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 同文別個体1あり	
156	磁器	杯	4.8	5.9	3.4	-	90	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 同文別個体3以上あり	
157	磁器	杯	4.9	5.5	2.8	-	55	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 (外面銀繪單影)・酸化コバルト染付	95-7
158	磁器	皿	9.3	2.0	4.8	-	80	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文 (型押壽文圖) 同文別個体2以上あり	95-8
159	磁器	皿	14.6	4.3	8.7	-	90	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 同文別個体1以上あり	
160	磁器	皿	14.9	4.1	7.7	-	75	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	96-1
161	磁器	鉢	-	[4.1]	5.4	-	30	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付 (酸化コバルト+緑色絞り)	
162	磁器	段重	10.8	3.8	9.9	-	75	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
163	磁器	燭台	2.9	18.4	5.6	-	60	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付 (酸化コバルト+緑色絞り) 「き志〔うや〕」	96-2

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考		図版
164	磁器	燐德利	-	[15.9]	6.0	-	55	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底面墨書き「紀口」		
165	磁器	燐德利	-	[15.2]	5.8	-	55	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底面墨書き「紀口屋」	96-3	
166	磁器	燐徳利	3.0	[16.1]	-	-	30	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面酸化クロム 青磁釉)・給付(緑・茶・白波)		
167	磁器	急須	(6.2)	[5.6]	-	-	40	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面酸化クロム 青磁釉)・給付(緑・茶・白波)		
168	磁器	土瓶	6.7	7.3	6.8	-	95	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面酸化コバルト 染付)		
169	陶器	壺	6.3	4.2	2.4	K	70	良好	灰白	SK40	京都信楽系 内外面灰釉 外面鉄釉 高台 に切り込み 3	96-4	
170	陶器	灯明皿	(9.4)	2.2	4.5	DK	80	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 内外面紺釉・底部拭き取り 体部外面下位直重ね焼き底		
171	陶器	片口鉢	(18.3)	10.0	(7.0)	EHK	45	良好	灰白	SK40	内外面灰釉(一部施釉流し掛け) 底面 目跡	96-5	
172	陶器	植木鉢	(12.3)	[7.8]	-	K	5	良好	灰白	SK40	内上面灰釉		
173	陶器	こね鉢	26.5	17.4	15.0	EIK	80	良好	明鵝灰	SK40	内外面灰釉 口縁部縁釉流し掛け 高台部 墨書き	96-6	
174	陶器	水鉢か	-	[14.1]	18.7	EHK	35	良好	灰白	SK40	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面縁釉、白色 釉流し掛け 内底面目跡 6 高台豊付部最 打痕 二次穿孔か		
175	陶器	土瓶	(6.4)	[4.8]	-	IK	5	良好	褐灰	SK40	大堀相馬系 外面青緑釉 胎土に黒斑多く 含む	96-7	
176	陶器	土瓶	6.5	10.5	7.8	IK	90	良好	灰白	SK40	外面灰釉		
177	陶器	土瓶	8.4	10.2	7.6	BHK	95	良好	灰白	SK40	外面灰釉・鉄絵(「桜沼園」、「ヤマに」) IK	97-1	
178	陶器	急須	7.1	[6.4]	8.0	-	80	良好	にぶい褐色	SK40	胎土マーブル状(練り込み式) 外面緑の しき状に施文 体部に墨書きの一部	96-8	
179	陶器	行平	(16.9)	[9.2]	-	BHK	30	良好	浅黄橙	SK40	内外面灰釉 外面トビガラナ状施文		
180	土師質土器	培塔	(33.2)	3.3	(33.4)	CIK	25	普通	灰白	SK40	底面シリ状痕 内底面炭化物痕 外面少量 煤付着		
181	土師質土器	培塔	(36.2)	4.1	(38.2)	CHIK	5	普通	灰白	SK40	底部シリ状痕 外面煤付着		
182	磁器	燐徳利	3.0	17.8	5.8	-	95	良好	白	SK41	瀬戸美濃系 外面施釉・型紙描绘染付	97-2	
183	土師質土器	燒塗蓋	(5.4)	5.2	3.2	AHK	40	普通	赤橙	SK41	底部系切痕 胎土粉質 被熟・赤化 上下 接合ない破片から団上復元		
184	磁器	碗	10.4	5.4	3.6	-	95	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施釉		
185	磁器	壺	6.0	2.8	2.2	-	95	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付(青) 外面染付		
186	磁器	燐徳利	2.8	17.4	5.6	-	80	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底面墨書き「三合ヶ」/「紀州屋」	97-3	
187	磁器	急須	6.8	6.5	6.0	-	90	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト 染付 底部墨書き「い七二」 焼き継ぎ底・ 焼き織き印(赤)	97-4	
188	磁器	土瓶	6.6	8.7	7.0	-	100	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト 染付 焼き継ぎ底・焼き織き印(赤)	97-5	
189	陶器	灯明皿	9.8	1.8	3.6	IK	80	良好	灰白	SK44	京都信楽系 内面へ口縁部透明釉 外面体 部下位重ね焼き底(変色)		
190	陶器	土瓶	(7.2)	[11.0]	-	DHK	20	良好	褐灰	SK44	松岡系 外面脱脂釉・灰釉流し掛け	98-1	
191	陶器	土瓶	(5.6)	[5.6]	-	K	10	良好	灰白	SK44	外面脱脂釉・白釉绘付	97-6	
192	陶器	蓋	-	2.6	6.8	IK	90	良好	灰白	SK44	上面脱脂釉・最大径 9.1 cm (土瓶の蓋)	98-2	
193	陶器	片口鉢	14.6	8.1	8.4	K	100	にぶい褐色	SK44	内外面灰釉・口縁部鉄釉	98-3		
194	瓦質土器	火鉢	(16.2)	[2.5]	-	CHIK	5	普通	灰白	SK44	口縁部ミガキ 体部外面糊背波状文 強く 備付		
195	瓦質土器	蓋	(25.3)	3.5	(28.4)	CFIK	15	普通	灰白・黄灰	SK44	上面砂目 燐す(火消透の蓋)		
196	瓦質土器	蓋	(24.5)	4.8	(27.4)	CFHJK	35	普通	灰白	SK44	上面砂目をヘラナダ 燐す		
197	土師質土器	燒塗蓋	4.7	5.2	3.0	AHK	100	普通	橙	SK44	底部系切痕(左) 胎土粉質 内底面黑色 付着物 被熟か	98-4	
198	土師質土器	燒塗蓋	(5.3)	[3.1]	-	AHK	20	普通	橙	SK44	胎土粉質 被熟か		
199	磁器	碗	7.0	5.0	3.0	-	90	良好	白	SK45	瀬戸美濃系 内外面施釉(外面珊瑚釉單彩) 口紅(鴻春形)	98-5	
200	磁器	碗	7.5	5.5	3.4	-	95	良好	白	SK49	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面木型 打ちによる施文後染付	98-6	
201	磁器	皿	10.2	2.7	5.0	-	95	良好	白	SK49	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面木型 打ちによる施文後染付		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
202	かわらけ	小皿	4.4	1.0	3.0	AIK	100	良好	桙	SK49	江戸在地系 底部糸切痕（左） 焼成前草 孔3 胎土粉質	98-7
203	磁器	植木鉢	-	[6.1]	6.8	-	30	良好	白	SK51	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 内面重ね焼き痕 焼き繕ぎ痕・焼き繕ぎ印 (赤)・墨書き「くり」	99-2
204	磁器	碗	10.0	5.7	3.8	-	50	良好	白	SK52	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付（外面本型 打込上より染付）	99-3
205	磁器	蓋	-	2.7	7.0	-	80	良好	白	SK52	SK41接合 瀬戸美濃系 内外面施釉 外 面酸化コバルト染付 空孔1	99-3
206	磁器	急須	7.5	6.0	8.0	-	85	良好	白	SK52	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付 焼き繕ぎ痕・焼き繕ぎ印(赤)	99-3
207	陶器	急須	7.1	9.4	6.2	K	80	良好	にぶい黄桙	SK52	全面灑脂 注口欠失	99-4
208	陶器	秉燭	(5.3)	3.6	4.0	EK	50	良好	灰白	SK52	内外面柿輪 底部墨書き	99-5
209	陶器	徳利	3.5	[15.7]	-	EHK	30	良好	灰白	SK52	瀬戸美濃系 外面灰釉 肘部窓道具痕	100-1
210	瓦質土器	蓋	(23.5)	3.1	(25.6)	CHIK	40	普通	外：にぶい 内：褐色	SK52	上面砂目 横す 内面煤付着	
211	土師質土器	培塿	(32.0)	[4.4]	(32.4)	CHIK	30	普通	灰白	SK52	砂目底 内外面煤付着	
212	土師質土器	培塿	(36.8)	[3.4]	(37.8)	CHIK	5	普通	灰白	SK52	底部シワ状痕	
213	土師質土器	培塿	-	[0.5]	-	HIK	5	普通	褐色	SK52	底部シワ状痕 内面墨書き	100-2
214	土師質土器	火鉢	-	[3.1]	-	AHK	5	普通	外：捲 内：褐色	SK52	軋用鉢具	100-3
215	磁器	壺	5.2	5.9	3.4	-	60	良好	灰白	SK53	内外面施釉 外面染付 体部八角形に成形 同文別個体1あり	
216	磁器	蓋	3.8	2.6	(10.1)	-	35	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙模様染付	
217	磁器	皿	11.6	1.8	(6.5)	-	45	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙模様染付	
218	磁器	皿	14.5	4.3	8.6	-	95	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙模様染付	
219	磁器	皿	14.8	3.6	8.3	-	55	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染 付 焼き繕ぎ痕・焼き繕ぎ印(赤)	100-4
220	磁器	土瓶	6.7	7.0	6.6	-	95	良好	白	SK53	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	
221	陶器	灯明皿	10.6	2.2	5.1	K	100	良好	灰白	SK53	内面～外面上位灰釉 外面下位直重ね焼き 痕	100-5
222	陶器	徳利	(3.5)	25.2	10.3	IK	60	良好	灰白	SK53	瀬戸美濃系 底部糸切痕 外面灰釉・底部 拭き取り	100-6
223	陶器	燭台徳利	-	[21.4]	7.3	I	95	良好	灰黄	SK53	外面灰釉・長須で文字「原勢屋」/ 直口	100-7
224	陶器	植木鉢	(22.3)	[12.4]	-	IK	35	良好	灰白	SK53	瀬戸美濃系か 口縁部～外面灰釉・鉛絆・ 瓦張跡	
225	施釉土器	鍋	(21.2)	8.8	(10.4)	HIK	10	普通	桙	SK53	内外面透明釉 外面トビガナ状施文 底 部は接点ない破片より回上復元	100-8
226	陶器	蓋	5.1	3.5	15.7	I	100	良好	にぶい黄桙	SK53	内外面柿輪、外面の一部拭き取り・トビガ ンナ状施文	101-2
227	陶器	行平	16.2	10.1	(8.9)	IK	70	良好	灰白	SK53	内面～外面上位柿輪 外面トビガナ状施文 底部外周二次巻打痕	101-2
228	土師質土器	蓋	4.5	3.5	(5.5)	AHK	80	普通	灰白	SK53	白色土器質	101-1
229	土師質土器	鉢	(10.5)	6.5	5.3	ACHIK	65	普通	にぶい桙	SK53	江戸在地系 底部糸切痕（左） 胎土粉質	101-3
230	瓦質土器	火鉢	19.6	8.7	17.2	CIK	85	普通	明褐	SK53	底部糸切痕 横す 平面形正方形	101-4
231	土師質土器	蓋	5.5	0.8	5.3	AHK	95	普通	明赤褐色	SK53	胎土粉質 被熱・赤化（燒塗器の蓋）	
232	磁器	碗	7.2	5.8	3.8	-	55	良好	白	SK55	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙模様染付	
233	磁器	壺	7.6	3.6	3.2	-	85	良好	白	SK55	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青釉輪	
234	磁器	皿	(20.1)	3.3	(11.0)	-	20	良好	白	SK55	肥前系 内外面施釉 内面染付	
235	磁器	皿	26.0	[3.5]	-	-	20	良好	白	SK55	肥前系 内外面施釉 内面染付	
236	陶器	植鉢	-	[4.5]	-	IK	10	良好	褐色	SK55	内面上位～外面柿輪 内面捺目 弱く被熱	
237	瓦質土器	火消壺	(19.0)	[7.8]	-	CEIK	5	普通	外：灰白内： 灰	SK55	横す	
238	土師質土器	蓋	5.4	0.8	5.1	AIK	80	普通	にぶい桙	SK55	胎土粉質	
239	土師質土器	蓋	(5.1)	0.8	(4.9)	ACK	35	普通	桙	SK55	下面砂目 胎土粉質 被熱・赤化	
240	土師質土器	燒塗壺	(5.4)	5.4	3.2	AHK	60	普通	桙	SK55	底部糸切痕（左） 胎土粉質	101-5
241	土師質土器	燒塗壺	(5.4)	[3.9]	-	AI	20	普通	にぶい桙	SK55	胎土粉質	
242	土師質土器	燒塗壺	(5.4)	[3.8]	-	AHK	10	普通	にぶい桙	SK55	胎土粉質	
243	陶器	火鉢	-	[15.1]	-	EK	5	良好	灰・にぶい 桙	SK56	笠間系か 内面上位～外面白化粧後練白釉 外面縦輪し掛け	101-6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
244	土師質土器	燒塗壺	(5, 3)	5.4	3.1	AEH	65	普通	櫻	SK56	底部系切痕（左） 胎土粉質 被熱・赤化	
245	陶器	灯明皿	(9, 6)	2.2	(3, 8)	IK	20	良好	にぶい赤褐	SK57	内面～外面上位柿輪	101-7
246	陶器	甕	(20, 2)	19.1	15.2	IK	60	良好	灰白	SK69	内外面施釉 外面鉄袖流し掛け 高台内墨 青	103-7
247	陶器	徳利	3.4	23.7	10.6	IK	70	良好	灰白	SK69	瀬戸美濃系 外面灰釉・底部拭き取り	103-8
248	磁器	蓋	3.5	2.5	(8, 7)	-	40	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト ト染付	
249	磁器	蓋	-	[2.1]	9.0	-	70	良好	白	SK83	肥前系 内外面施釉・酸化コバルト染付	
250	磁器	蓋	2.7	2.0	7.2	-	95	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面上給付（赤・ 青・緑）	105-5
251	磁器	坏	6.0	4.6	2.6	-	80	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト ト染付 同文別個体1あり	
252	磁器	坏	4.7	5.9	3.4	-	95	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト ト染付 同文別個体1あり	105-6
253	磁器	碗	6.4	4.8	3.6	-	90	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト 染付 焼き繙ぎ瓶・焼き繙ぎ印（赤）「口 九」	105-7
254	磁器	坏	5.6	2.9	2.5	-	85	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉	
255	磁器	坏	(6.7)	3.2	2.7	-	70	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト ト染付 上面上給付（金・赤・紫）「鎖口・ 齊藤／歩兵」銘 金線	
256	磁器	皿	10.3	2.3	5.7	-	80	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染 付	
257	磁器	皿	13.8	2.6	7.5	-	70	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉・上給付（桜・緑・ 白）	105-8
258	磁器	皿	9.8	2.0	4.9	-	75	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文（型 押丹文皿）同文別個体1あり	106-1
259	磁器	皿	(8, 8)	2.0	(5, 0)	-	40	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文（型 押丹文皿）	
260	磁器	皿	9.6	2.0	(5, 3)	-	40	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押文（型 押壽文皿）	
261	磁器	猪口	-	[0.5]	-	-	5	良好	白	SK83	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼き繙ぎ 印（白）	106-2
262	磁器	徳利	-	[14, 7]	-	-	40	良好	白	SK83	SK57接合 瀬戸美濃系 外面施釉・染付	106-3
263	磁器	土瓶	6.8	7.8	7.1	-	90	良好	白	SK83	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバ ルト染付 焼き繙ぎ瓶・焼き繙ぎ印（赤） 黒蓋	106-4
264	陶器	こね跡	(10, 4)	9.9	(10, 6)	IK	30	良好	にぶい黄褐	SK83	内外面施釉 内面跡2遺存	
265	土師質土器	培塔	(33, 6)	4.2	(34, 4)	CDHK	10	普通	にぶい櫻	SK83	底部シワ状痕 内耳欠失	
266	土師質土器	培塔	(32, 4)	[4.2]	(33, 0)	CEHK	20	普通	にぶい黄褐	SK83	底部シワ状痕 体部外周・底部内面煤付着	
267	磁器	碗	(6, 6)	[4, 2]	-	-	60	良好	白	SK84	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバル ト染付	
268	陶器	不明	-	-	-	-	-	良好	灰白	SK84	外外面施釉・給付 長[2.9] 幅1.0 厚 0.8	106-5
269	磁器	御神酒 徳利	-	[18, 3]	-	-	50	良好	白	SK90	肥前系 内面上位～外面上位 外面染付	
270	磁器	燐德利	(3, 0)	[17, 5]	5.6	-	95	良好	白	SK90	瀬戸美濃系 内面上位～外面上位 外面酸化コバ ルト染付	
271	磁器	急須	6.0	7.8	6.6	-	60	良好	白	SK90	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバ ルト染付 焼き繙ぎ瓶・焼き繙ぎ印（赤） 被熱	107-3
272	陶器	擂鉢	(39, 2)	[9, 5]	-	DEIK	10	良好	赤	SK90	堺明石系 内面擂目	
273	陶器	擂鉢	(34, 4)	[11, 0]	-	DEKL	5	良好	赤	SK90	堺明石系 内面擂目	
274	陶器	鍋	20.1	12.4	9.9	IK	60	良好	灰白	SK90	内外面施釉 底部外周細かく截打痕	
275	瓦質土器	火鉢	-	[9, 3]	-	CHI	10	普通	褐灰・灰褐	SK90	外面旋文	
276	土師質土器	培塔	(33, 0)	[5, 2]	(34, 0)	CHI	15	普通	灰白	SK90	砂目窓 内底面煤付着	
277	陶器	皿	-	[2, 4]	-	HIK	5	良好	明褐灰	SK95	内外面施釉 軟質施釉土器質 被熱	107-7
278	陶器	皿	-	[2, 2]	-	HIK	5	良好	明褐灰	SK95	内外面施釉 内面給付（茶・緑） 軟質施 釉土器質	107-8
279	磁器	坏	7.1	3.6	3.3	-	80	良好	白	SK117	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付（金 赤・青・緑等） 外面酸化コバルト染付	
280	磁器	坏	6.9	2.7	2.8	-	95	良好	白	SK117	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付（金 赤・青・緑等） 外面酸化コバルト染付	122-4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
281	磁器	水滴	7.3	2.4	7.1	-	95	良好	白	SK117 濱戸美濃系 内外面施釉 上面型押施文・染付 底部布压痕 空孔2	122-5	
282	陶器	楕木鉢	(14.1)	[7.9]	-	EIK	30	良好	灰白	SK117 外面繪付		
283	陶器	楕木鉢	-	[9.6]	(13.6)	I	20	良好	灰白	SK117 外面灰釉 高台部にえぐり 底部焼成前穿孔		
284	陶器	擂鉢	(27.7)	12.6	15.0	EIK	45	良好	にぶい赤褐	SK117 笠間系 内面上位～外面施釉 底部白化粧 内面攝目 内底面に環状鉢道具痕		
285	瓦質土器	楕木鉢	15.0	9.6	9.4	CEHIK	65	普通	にぶい赤褐	SK117 底部ナダ 胎土は酸化炎焼成ぎみ 燐寸		
286	瓦質土器	楕木鉢	(14.0)	9.0	(9.8)	CHIK	35	普通	橙	SK117 胎土は酸化炎焼成ぎみ 燐寸		
287	瓦質土器	皿	(23.0)	1.9	(22.0)	DEHIK	40	普通	にぶい赤	SK117 下面砂目 被熱・赤変		
288	瓦質土器	皿	(24.8)	1.9	(23.8)	CEHIK	35	普通	明赤褐	SK117 下面砂目 被熱・赤変		
289	瓦質土器	皿	(12.2)	1.6	(11.2)	CIK	30	普通	椎	SK117 下面砂目 被熱・赤変、上面白変		
290	瓦質土器	皿	9.7	1.3	7.8	AIK	45	普通	にぶい赤褐	SK117 三河系か 内外面白化		
291	瓦質土器	甌	27.4	27.8	26.8	ADEIK	70	普通	にぶい赤褐	SK117 真壁系か 砂目底 外面弱く燐寸 口縁部 煤付着	122-6	
292	土師質土器	焰塔	34.9	5.4	35.7	ACGHIK	90	普通	にぶい橙	SK117 底部シワ状痕	122-7	
293	土師質土器	焰塔	(36.4)	[5.1]	(35.5)	CHIK	20	普通	にぶい褐	SK117 底部シワ状痕 内面～外面部煤付着 補修孔2	122-8	
294	磁器	碗	10.1	5.9	3.8	-	100	良好	白	SK192 肥前系 内外面施釉・染付 少量煤付着 (端反碗)	193-6	
295	磁器	碗	(9.5)	5.1	3.7	-	50	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉・染付 (端反碗)		
296	磁器	碗	10.0	5.4	4.0	-	60	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き継ぎ印	193-7	
297	磁器	碗	(10.4)	[4.3]	-	-	20	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付		
298	磁器	碗	(7.0)	6.1	3.5	-	45	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉 外面染付 (湯呑形碗)		
299	磁器	碗	7.1	5.6	4.5	-	95	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼き継ぎ底・焼き継ぎ印(墨)	193-8	
300	磁器	杯	(5.3)	6.3	(3.7)	-	45	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付	194-1	
301	磁器	皿	9.3	2.3	5.0	-	95	良好	白	SK192 肥前系 型成形 内外面施釉 内面型紙摺 繪染付	194-3	
302	磁器	皿	-	[1.6]	-	-	10	良好	白	SK192 波路泥平系 型成形 内外面綠釉 内面型 押施文 同文別個体1あり	194-2	
303	磁器	皿	(20.4)	3.1	(11.5)	-	20	良好	白	SK192 肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅		
304	磁器	皿	28.7	4.4	16.1	-	95	良好	白	SK192 肥前系 内外面施釉 内面染付 高台内ハリ支底6	194-4	
305	磁器	皿	28.4	4.5	16.7	-	95	良好	白	SK192 肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 高台内ハリ支底6	194-5	
306	磁器	爛滌利	-	[0.6]	5.5	-	10	良好	白	SK192 濱戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底部墨書き「き志口や」	194-6	
307	磁器	爛滌利	3.0	[4.2]	-	-	10	良好	白	SK192 濱戸美濃系 外面施釉 焼き継ぎ底		
308	磁器	爛滌利	2.8	15.9	4.7	-	90	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付		
309	磁器	爛滌利	-	[15.7]	6.2	-	80	良好	白	SK192 濱戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 外面取り	194-7	
310	磁器	急須	6.6	9.1	6.8	-	90	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	194-8	
311	磁器	土瓶	7.0	7.4	6.3	-	80	良好	白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	195-1	
312	陶器	灯明皿	9.3	2.0	3.5	IK	100	良好	灰黄	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉・下位拭き取り 直重ね燒き底	195-2	
313	陶器	灯明皿	8.9	2.1	4.4	IK	100	良好	灰白	SK192 濱戸美濃系 内外面施釉・外面下位拭き取り 直重ね燒き底	195-3	
314	陶器	灯明皿	(8.6)	1.8	(3.4)	IK	40	良好	にぶい褐	SK192 内面柿釉	195-4	
315	陶器	灯明皿	(9.8)	2.0	(3.6)	IK	30	良好	灰白	SK192 京都信楽系 内面透明釉 口縁部煤付着		
316	陶器	擂鉢	-	[6.9]	(15.4)	EIK	10	良好	赤褐	SK192 堀内石系 砂目底 内面撥目・墨書き・重ね燒き底	195-5	
317	陶器	半胸甌	(19.1)	17.8	(13.6)	GIK	40	良好	灰白	SK192 濱戸美濃系 内外面柿釉・口唇部目暈		
318	陶器	蓋	-	3.3	6.9	AIK	100	良好	灰黄	SK192 外面灰釉・陰刻・呉須繪((◎)) 最大径 9.6 cm	195-6	
319	瓦質土器	火鉢	(30.2)	[5.6]	-	CHIK	5	普通	灰白・褐灰	SK192 口縁部ミガキ 外面施文 燐寸		

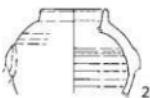
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
320	瓦質土器	蓋	(26.0)	3.6	(28.2)	ACIK	50	普通	灰白・黄灰	SK192	上面砂目 横寸	
321	陶器	土瓶	8.4	10.1	7.7	IK	80	良好	灰黄	SK192	外面灰釉・白土・鉄絵 外面下位媒付着	195-7
322	磁器	鉢	(16.4)	[6.3]	-	-	20	良好	白	SK295	肥前系 内外面施釉・染付 焼き繕ぎ痕	
323	陶器	土瓶	(8.1)	[2.7]	-	K	5	良好	灰白	SK295	外面青緑釉	
324	土師質土器	提炉	20.6	[7.5]	-	AH	10	良好	明褐灰	SK295	江戸在地系 外面ミガキ・施文	
325	かわらけ	皿	(18.0)	4.0	(11.7)	AEHK	20	普通	にぶい煙	SK295	大皿	
326	磁器	碗	(9.8)	5.1	3.1	-	45	良好	白	SK688	肥前系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼き繕ぎ印(赤)「チ五七／ム七」	231-3
327	陶器	徳利	-	[7.3]	-	IK	20	良好	灰白	SK688	瀬戸美濃系 外面灰釉	

SK41



1

SK52



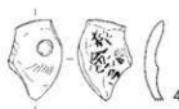
2

SK49



3

SK117



4

第259図 第2区画の土壤出土遺物(28)

第128表 第2区画の土壤出土遺物観察表(2)(第259図)

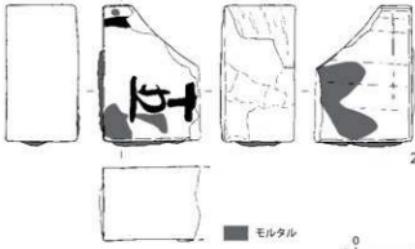
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	施釉土器	ミニチュア	-	[4.5]	2.3	9.6	K	良好	灰白	SK41	京都系 徳利 座部系切痕(中心・左) 外面黄色釉	242-16
2	陶器	ミニチュア	(3.6)	[3.5]	-	8.5	K	良好	淡黄	SK52	水注 外面白化粧 蓋釉 鉄絵	
番号	種別	器種	幅 / 長	高さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
3	土製品	泥面子	[2.3] / [2.4]	-	0.8	2.9	-	良好	橙	SK49	江戸在地系 一枚成型形 苣子面	242-17
4	土製品	人形	[2.2] / [3.2]	-	0.5	2.9	A D	良好		SK117	京都系 魚型成形 内面墨書き	243-4

SK64



1

SK688



2

第260図 第2区画の土壤出土遺物(29)

第129表 第2区画の土壤出土遺物観察表(3)(第260図)

番号	種別	器種	法量					遺構	備考	図版
1	土製品	埴輪	口径2.7	器高4.8	重さ20.7				SK64 焼成:良好 色調:灰白 内面緑青付 着:浮化	285-2
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構
2	土製品	焼瓦	11.2	(8.0)	6.0	-	E1	良好	明褐灰	備考
									赤煉瓦 墨書き「十五」 モルタル付着 手抜き成形 焼成後の再加工あり	SK688

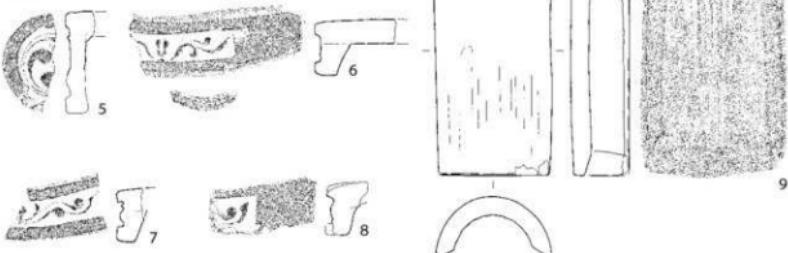
SK12



SK17



SK21



SK24



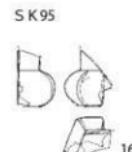
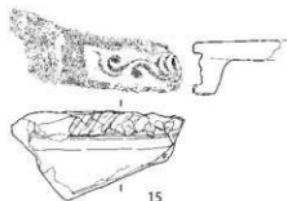
SK40



SK44



SK55



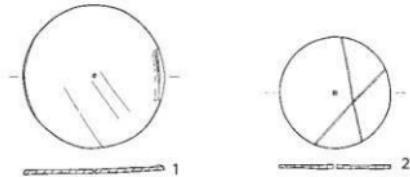
1~8・10~15 0 10cm 16 0 20cm

第261図 第2区画の土壤出土遺物 (30)

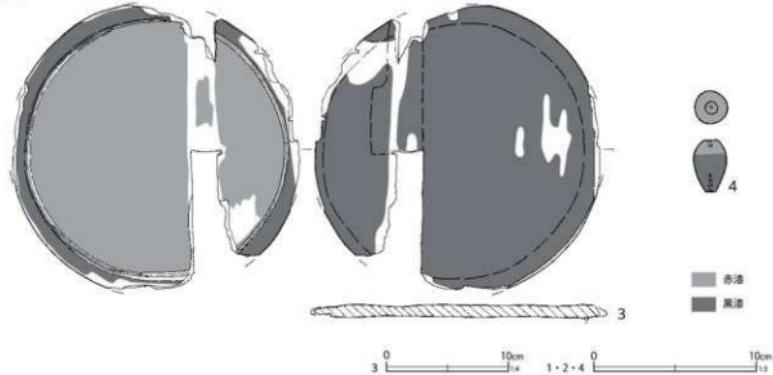
第130表 第2区画の土壌出土遺物観察表(4)(第261図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棟瓦	[5.4]	[12.0]	6.5	AIK	普通	灰白	SK12	梅鉢状文	
2	瓦	軒棟瓦	[7.6]	[13.2]	6.5	ACIK	良好	灰白	SK12	左巻き 8珠文	
3	瓦	軒棟瓦	[4.8]	[5.1]	-	AIK	普通	灰白	SK12		
4	瓦	軒棟瓦	[17.6]	[13.4]	-	ACIK	普通	灰白	SK17	胎土軟質	250-1
5	瓦	軒棟瓦	[2.9]	[5.5]	8.0	AHHK	良好	灰白	SK21	胎土硬質	
6	瓦	軒棟瓦	[6.8]	[14.6]	-	AEIK	良好	灰白	SK21	胎土硬質	250-2
7	瓦	軒棟瓦	[2.6]	[8.7]	-	ACIK	良好	灰	SK21	胎土硬質	
8	瓦	軒棟瓦	[3.4]	[8.9]	-	AIK	普通	灰白	SK21	胎土軟質	
9	瓦	丸瓦	30.4	14.7	-	AIK	普通	灰白	SK21	ヘラナゲ腹あり	
10	瓦	軒棟瓦	[4.7]	[9.0]	8.0	AIK	普通	灰白	SK24	右巻き 8珠文 胎土軟質	
11	瓦	軒棟瓦	[5.7]	[12.8]	-	AIK	良好	灰白	SK24	胎土硬質	250-3
12	瓦	軒棟瓦	[5.5]	[9.5]	-	AIK	良好	灰白	SK40	東海式文様 胎土硬質	250-4
13	瓦	軒棟瓦	-	[6.1]	-	AIK	普通	灰白	SK44		
14	瓦	軒棟瓦	[17.9]	[18.2]	-	ACIK	普通	灰白	SK44		
15	瓦	軒棟瓦	[7.1]	[14.4]	-	AIK	普通	灰白	SK55	瓦当部下面を二次整形(工具痕)	250-5
16	瓦	道具瓦	[5.9]	[7.0]	-	IK	良好	灰	SK95	棟部のある伏間瓦 一部白変 胎土極めて硬質	250-8

SK21

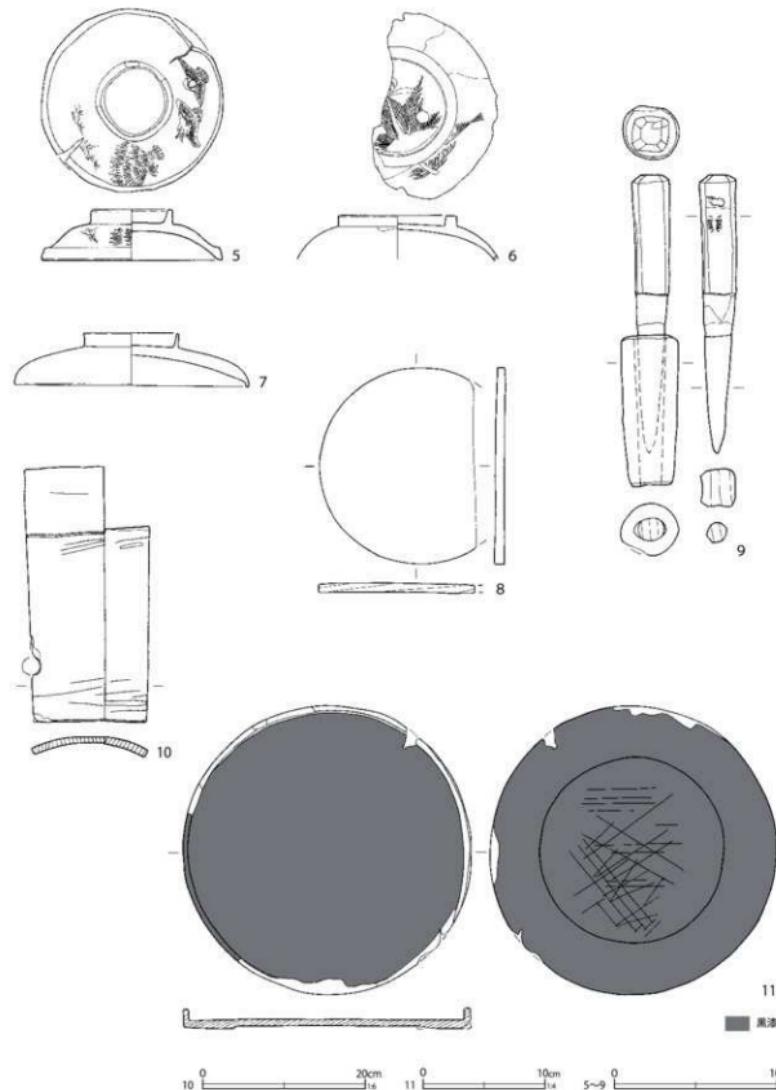


SK40

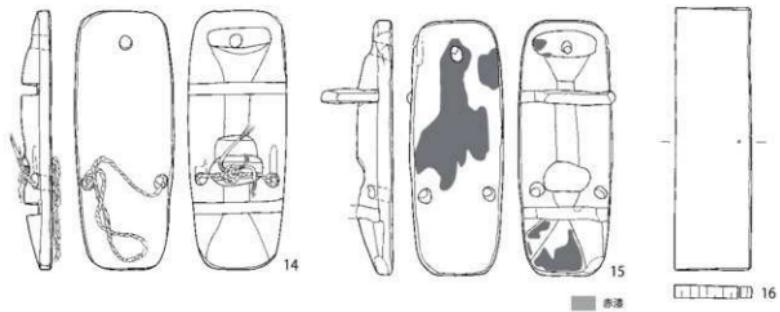
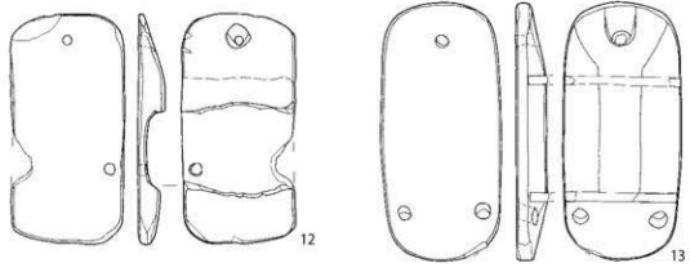


第262図 第2区画の土壌出土遺物(31)

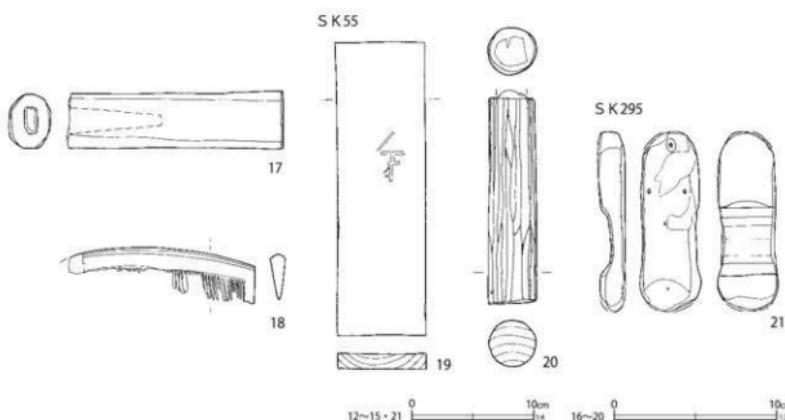
SK44



第263図 第2区画の土壤出土遺物 (32)



赤漆  
黒漆

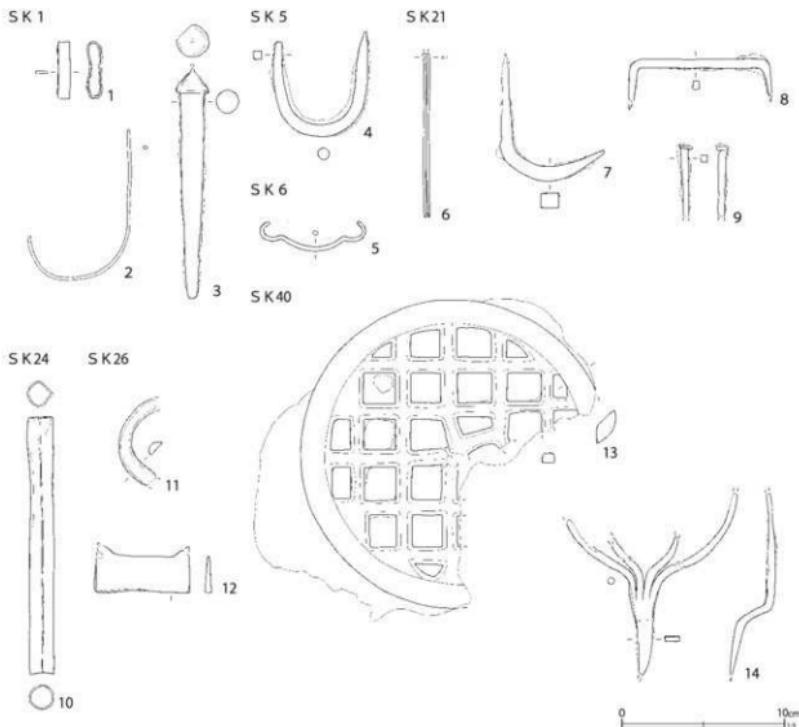


12~15・21 0 10cm 16~20 0 10cm

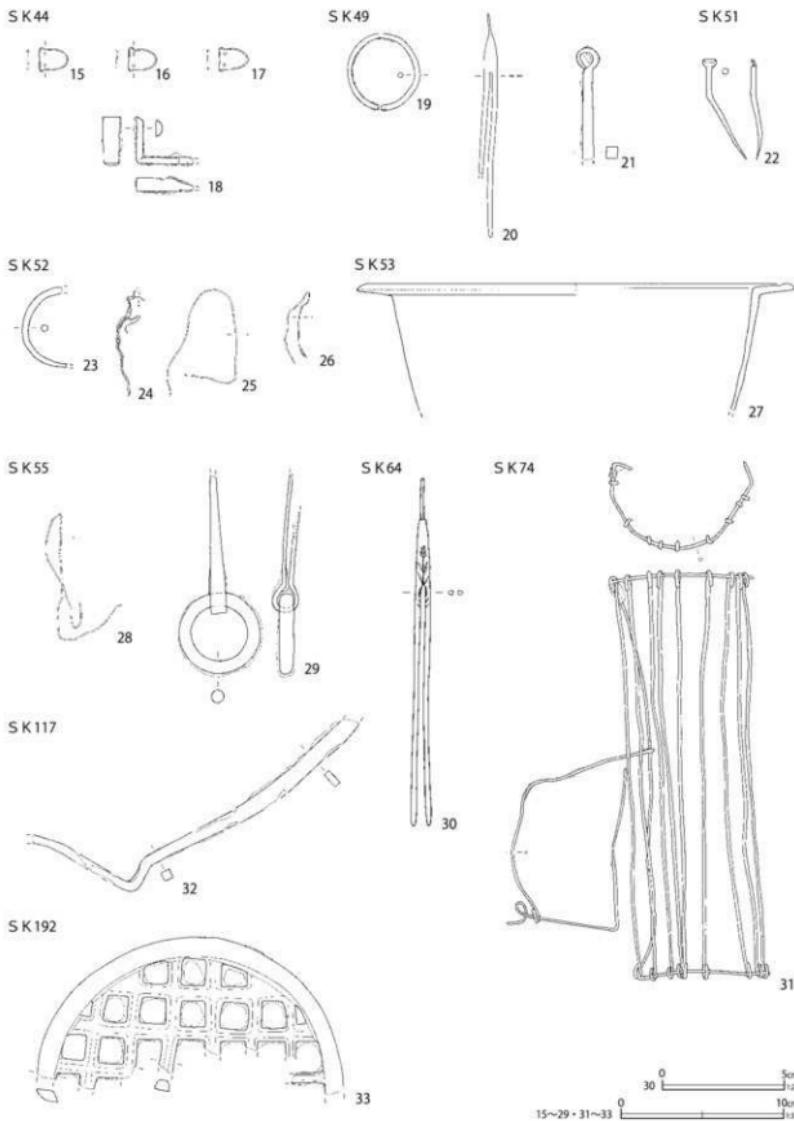
第264図 第2区画の土壤出土遺物 (33)

第131表 第2区画の土壤出土遺物観察表(5)(第262~264図)木

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	曲物	-	-	0.3	8.8	-	-	板目	側板付着 工具痕 孔1		
2	木製品	曲物	-	-	0.2	6.8	-	-	板目	側板 表面切り込み 孔1		
3	木製品	蓋	-	-	1.3	(24.1)	-	-	板目	表面黒漆 裏面中央赤漆 外周黒漆 側板一部残存		
4	木製品	浮子	3.1	-	-	2.0	-	-	分割材	SK40 上部赤漆 下部黒漆 上下に孔	258-4	
5	木製品	漆椀蓋	つまみ径 5.0	-	-	11.2	3.1	-	横木 SK44 取り	内外面赤漆 黒漆と金でスズメと稻わら、植物の絵	258-1	
6	木製品	漆椀蓋	つまみ径 7.2	-	-	[2.7]	-	-	横木 SK44 取り	つまみ内・外面黒漆に金で文様 内面赤漆	258-6	
7	木製品	漆椀蓋	つまみ径 5.6	-	-	14.2	3.2	-	横木 SK44 取り	内面赤漆 外面黒漆		
8	木製品	曲物	-	-	0.6	12.0	-	-	板目	SK44 蓋 表面墨書き		
9	木製品	木栓	17.0	2.2	2.2	-	-	-	板目	SK44 焼印(瓢箪の絵と文字)	258-3	
10	木製品	樽	31.7	14.4	0.9	-	-	-	板目	SK44 側板 表面墨書き		
11	木製品	漆盆	-	-	-	23.5	1.5	-	板目	SK44 全面黒漆 裏面切痕	258-2	
12	木製品	下駄	18.8	9.4	-	-	2.2	-	板目	SK44 朝り下駄	258-5	
13	木製品	下駄	21.1	9.8	-	-	[2.7]	-	板目	SK44 隆起下駄	258-7	



第265図 第2区画の土壤出土遺物(34)



第266図 第2区画の土壌出土遺物 (35)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	本取り	遺構	備考	図版
14	木製品	下駄	21.2	8.1	—	—	[2.5]	—	板目	SK44	陰卯下駄	259-2
15	木製品	下駄	20.9	7.7	—	—	5.9	—	板目	SK44	両面・陰卯下駄 全面墨塗 孔3箇所	259-1
16	木製品	木札	16.0	4.7	0.7	—	—	—	板目	SK44	表面墨書	
17	木製品	包丁の柄	3.5	13.1	2.5	—	—	—	板目	SK44	穴長5.2cm	259-3
18	木製品	櫛	[11.3]	2.7	0.9	—	—	—	不明	SK44		
19	木製品	木札	17.9	5.5	1.0	—	—	—	板目	SK55	表面に焼印「空」	
20	木製品	不明品	[13.1]	2.9	2.8	—	—	—	削り出し	SK55	墨書き 加工痕明瞭 下部に穿孔 第241表10	296-5
21	木製品	下駄	14.7	5.0	—	—	2.2	—	板目	SK295	無眼下駄	271-2

第132表 第2区画の土壤出土遺物観察表(6)(第265・266図)

番号	種別	器種	法量				遺構	備考	図版	
1	銅製品	不明	長さ3.5	厚さ0.1	重さ5.0			SK1		
2	銅製品	針金	縦9.2	横6.4	厚さ0.2	重さ3.5		SK1		
3	鉈製品か	不明	長さ[14.2]	厚さ1.4	重さ87.9			SKI		
4	鉈製品	鉈金具か	長さ6.5	厚さ0.7	重さ39.2			SK5		
5	銅製品	把手	縦1.8	横6.5	厚さ0.25	重さ2.1		SB6		
6	銅製品	管	長さ[10.1]	幅0.4	厚さ0.1	重さ4.5		SK21	飾り・耳搔き欠失	
7	鉈製品	鉈金具か	長さ[7.9]	幅1.1	厚さ0.9	重さ34.4		SK21		
8	鉈製品	鍵	長さ8.8	幅0.5	厚さ0.4	重さ13.7		SK21		
9	鉈製品	釘	長さ[4.3]	幅0.4	厚さ0.4	重さ2.8		SK21		
10	銅製品	不明	長さ15.8	幅1.6	厚さ0.1	重さ36.9		SK24	中空 簡状工具	
11	銅製品	不明	縦[5.3]	横[2.3]	厚さ0.4	重さ7.3		SK26	断面直角形	
12	鉈製品	火打金	長さ5.8	幅[2.9]	厚さ0.4	重さ20.5		SK26		
13	鉈製品	火格子	径19.0	横[18.1]	厚さ0.9	重さ1326.8		SK40		
14	鉈製品	不明	縦[11.2]	横[10.6]	厚さ0.4	重さ21.9		SK40		
15	銅製品	こはぜ	長さ1.5	幅1.8	厚さ0.1	重さ0.6		SK44		
16	銅製品	こはぜ	長さ1.5	幅1.8	厚さ0.1	重さ0.6		SK44	鍍金あり	
17	銅製品	こはぜ	長さ1.5	幅1.8	厚さ0.1	重さ0.6		SK44	鍍金あり	
18	鉈製品	類受金具	縦2.9	横[3.5]	幅1.0	厚さ0.4	重さ10.0	SK44		
19	銅製品	環金具	径4.7	× 4.5	厚さ0.3	重さ7.8		SK49		
20	銅製品	管	長さ13.8	幅0.8	厚さ0.1	重さ4.5		SK49	飾・片脚欠失	274-1
21	鉈製品	火箸	長さ[6.9]	厚さ0.7	重さ11.7			SK49	箸頭瘤状	
22	鉈製品	釘	長さ6.2	幅0.3	厚さ0.3	重さ2.6		SK51		
23	銅製品	不明	縦4.9	横[2.8]	厚さ0.4	重さ6.9		SK52		
24	銅製品	針金	縦6.7	横1.8	厚さ0.08	重さ1.1		SK52		
25	銅製品	針金	縦6.5	横4.3	厚さ0.08	重さ0.5		SK52		
26	銅製品	針金	縦4.5	横1.8	厚さ0.08	重さ0.3		SK52		
27	鉈製品	鍔	口径(26.0)	器高[7.8]	厚さ0.4	重さ177.1		SK53		
28	銅製品	針金	縦7.8	横4.7	厚さ0.1	重さ0.7		SK55		
29	鉈製品	吊金具	径5.0	縦[12.2]	厚さ0.8	重さ59.3		SK55		
30	銅製品	管	長さ14.3	幅0.6	厚さ0.2	重さ9.3		SK64	飾欠失 草葉文	274-1
31	銅製品	不明	縦25.2	横16.3	厚さ0.1	重さ58.4		SK74	筒状	
32	鉈製品	雨穂受け金具	長さ[19.6]	幅1.0	厚さ0.6	重さ31.4		SK117		
33	鉈製品	火格子	縦[9.6]	横[18.9]	厚さ0.6	重さ227.8		SK192		278-3

SK40

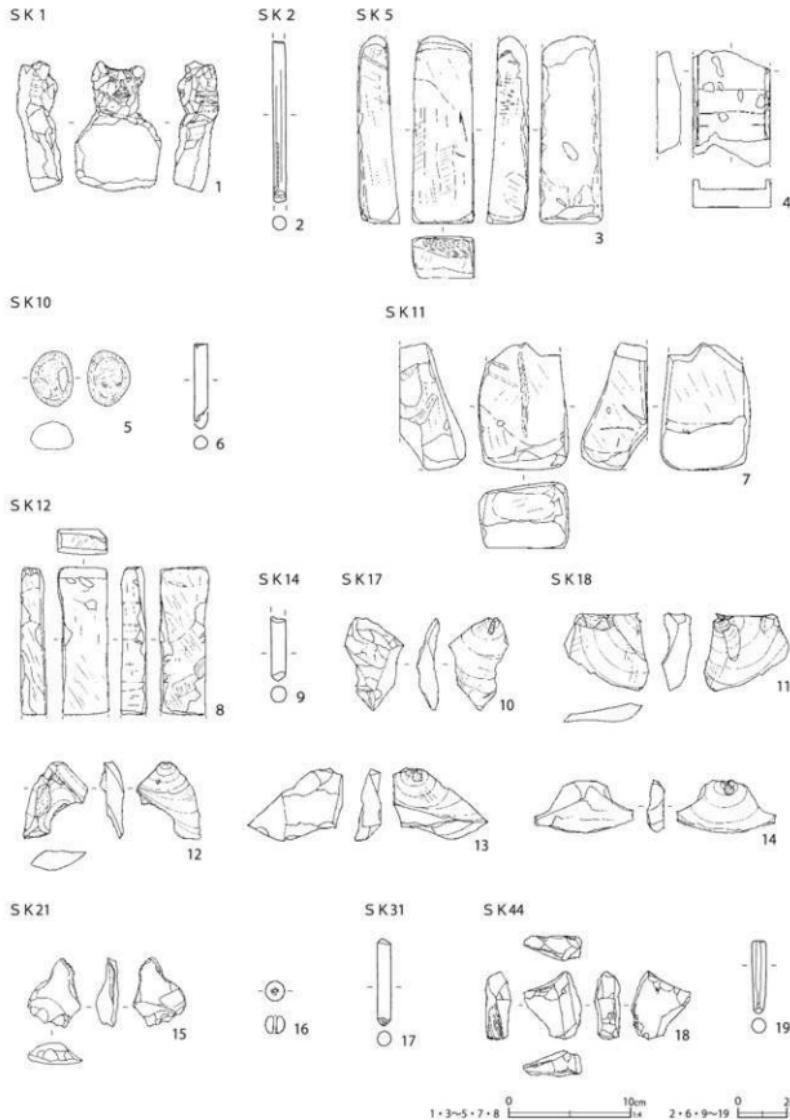


SK44



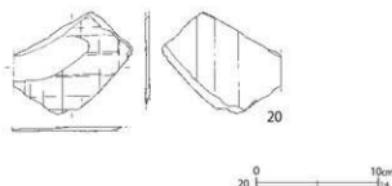
0 5cm  
3cm

第267図 第2区画の土壤出土遺物(36)

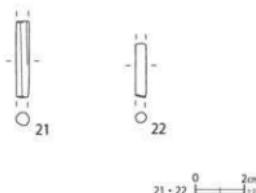


第268図 第2区画の土壤出土遺物 (37)

SK53



SK95



第269図 第2区画の土壤出土遺物 (38)

第133表 第2区画の土壤出土遺物観察表 (7) (第267図)

番号	種別	器種	法量				遺構	備考	図版
1	銅製品	鉢	径 24.4	厚さ 0.9	重さ 2.5		SK40	寛永通寶 (古)	
2	銅製品	鉢	径 22.6	厚さ 1.1	重さ 2.0		SK40	寛永通寶 (新)	
3	銅製品	鉢	径 22.4	厚さ 1.0	重さ 1.9		SK40	寛永通寶 (新)	279-7
4	銅製品	鉢	径 22.6	厚さ 1.0	重さ 2.2		SK44	寛永通寶 (新)	

第134表 第2区画の土壤出土遺物観察表 (8) (第268・269図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	人形	[10.7]	[7.1]	[3.7]	174.9	礫灰岩	SK1	工具痕多数	280-8
2	石製品	石斧	[6.6]	径 0.5	4.7		滑石	SK2	白色不透明	284-2
3	石製品	砥石	[15.4]	5.1	3.4	416.4	雲母片岩	SK5	ノコギリ痕 刃物痕 砥面 5	
4	石製品	礫	[9.6]	6.4	-	157.8	礫灰岩	SK5	器高 2.3 cm 全面黒色塗付物 内面刃物傷	280-9
5	石製品	磨石	4.5	3.5	2.3	23.3	角閃石安山岩	SK10	多孔質 自然面遺存 使用面 I	284-1
6	石製品	石斧	[3.2]	径 0.6	2.3		滑石	SK10	茶色味帯びる	284-2
7	石製品	砥石	[10.4]	7.4	5.4	486.9	砂岩	SK11	刃物痕 砥面 5	
8	石製品	砥石	[12.2]	4.1	2.1	174.9	礫灰岩	SK12	幅広工具痕 刃物痕 砥面 5	280-10
9	石製品	石斧	[2.6]	径 0.6	2.4		滑石	SK14	白色不透明	284-2
10	石製品	火打石	3.8	2.4	0.9	4.7	玉髓	SK17	剝片 未使用	284-3
11	石製品	火打石	3.2	3.5	1.2	8.6	玉髓	SK18	剝片 未使用	284-3
12	石製品	火打石	3.1	2.6	1.0	4.0	玉髓	SK18	剝片 未使用	284-3
13	石製品	火打石	2.9	3.9	1.1	7.2	玉髓	SK18	剝片 未使用	284-3
14	石製品	火打石	2.1	4.1	0.7	4.7	玉髓	SK18	剝片 未使用	284-3
15	石製品	火打石	2.8	2.2	0.9	4.4	玉髓	SK21	剥片素材 (打面欠失) 使用痕あり	284-3
16	石製品	管の玉	径 0.8	高さ 0.7	孔 0.15		石灰岩か	SK21		280-11
			重さ 0.6							
17	石製品	石斧	3.6	径 0.6	2.6		滑石	SK31	白色不透明	284-2
18	石製品	火打石	2.8	2.4	1.0	7.1	玉髓	SK44	使用痕あり	284-3
19	石製品	石斧	3.0	径 0.6	2.3		滑石	SK44		284-2
20	石製品	石板	[8.4]	[9.8]	0.3	33.6	粘板岩	SK53	表面算線あり	
21	石製品	石斧	[3.2]	径 0.5	1.9		滑石	SK95	白色不透明	284-2
22	石製品	石斧	[2.2]	径 0.4	0.7		滑石	SK95	白色不透明	284-2

282・283は陶器の植木鉢である。282は基本的に露胎で、胎土に発泡した長石の湧出が目立つ。外面の露体部に、白盛・鉄絵で直接繪付けを施す。284は笠間系陶器の播鉢で、白化粧後に柿釉を施釉する。内面の播目は一单位28本と密で、内底面には播目の上に、11.6cmほどの環状の窯道具痕が残る。291は瓦質土器の壺である。内面には稜の強いロクロナデがみられる。外面は縦の、幅の狭いヨコナデで処理され、弱く焼される。胎土に雲母微細粒を多く含み、径3mm程の長石・石英も含まれている。真壁系土器の可能性を考えられる。

第266図32は金属製品で、鉄製の雨樋受け金具である。

陶磁器類の様相は第95号土壤と大差無く、現場で確認された新旧関係を裏付けるには至らなかつた。極めて接近した時期に構築・廃絶したものであろうか。

第192号土壤は49・21号土壤と重複する。遺存する南側辺の長さは1.43mである。出土した陶磁器を第255～257図294～321に示す。296は瀬戸美濃系磁器の丸碗である。外面の模様は崩れており、柳文や竜文を染付けているらしい。高台部に「ル八九」とみられる焼き緋印がある。302は淡路珉平系の皿で、鮮やかな緑釉を施す。内面に龍文の一部が陰刻状に型押し施文される。303～305は肥前系磁器の皿であり、このうち304・305は口径28cmを超える大皿である。306～309は瀬戸美濃系磁器の燭徳利で、306・308・309には酸化コバルト染付が施される。306は底部に墨書があり「き口や」と読める。

314は地方窯系の灯明皿と思われ、やや赤味を帯びた胎土には多量の黒色粒子が含まれる。釉薬は光沢の強い不透明の柿釉、内面受部は径5.4cmほどで、上端は露胎とする。外面は口縁部附近をヨコナデ、以下、ロクロナデ、最下位はケズリが施される。底部は回転ケズリで処理される。316

は堺明石系陶器の播鉢で、内面に墨書がみられる。また、内外面の底部にリング状の窯道具の痕跡が認められる。318は陶器の土瓶蓋で光沢の強い灰釉が施される。上面に「◎」の屋号文を陰刻し、同じ位置を呉須で彩色する。321は陶器土瓶で、灰釉を施し、外面に楕円形の窓状に白土・鉄絵で山水文を描く。

第266図33は金属製品で、鉄製の火格子である。径は19cm前後と思われる。

本跡と重複する第49・21号土壤との時期差はほとんどなく、栗橋9期でも古い段階である。

第295号土壤は、区画の西部側、第41号土壤に接して検出された。長軸1.1mの楕円形を呈する。第258図322～325が出土した陶磁器類で、325は大型のかわらけである。本跡は栗橋7～8期に帰属する。

第688号土壤は、区画の北西側、第1号竹樋と第2号竹樋の分岐点付近で検出された土壤で、重複する第2号溝跡・竹樋より新しい。長軸1.45mの隅丸長方形である。出土した土製品に、手抜き成型の煉瓦が複数認められる。第260図には、このうち墨書があるものを示した。平手面に撫で板で平滑に仕上げた痕跡、木製の型枠で押し当たった痕跡などが認められる。焼成時に複数個を重ねて焼いた痕跡も確認される。漆喰が各面に付着していることから、基礎部分に用いられたものとみられる。平手面の一部は焼成後に寸断された後、曲面状に削りを施した加工痕跡がある。これは陶管などに当てるための加工であろう。また、墨書がみとめられ「十五」と判読できる。出土した陶磁器には、肥前系磁器の戸車、瀬戸美濃系磁器の酸化クロム青磁釉が施された端反の坏、酸化コバルト染付の磁器植木鉢、型紙摺絵染付の磁器燭徳利、産地不詳陶器で白土染付が施された土瓶などが認められた。

以上、第2区画では、栗橋9期でも比較的古い段階の土壤が多く検出されている。

### (3) 第3区画(区画Y)

第3区画では、敷地内を第2区画から北へ向かう第1号竹桶が横切り、敷地北側には第3号竹桶が東西に通過する。これらは暗渠構造の竹桶と考えられるので、必ずしも地表の区画施設とは認識されない。建物跡は敷地のやや北側によって第4号建物跡と第5号建物跡が検出されている。土壌

の分布傾向に特徴は乏しく、建物跡の周囲に散在している。

『絵図』の「旅籠屋 喜右衛門」「営業便覽」の「荒物商 紀州屋 坂庭重蔵」の区画とみられる。

第3区画では第50・78・79・305号土壌について個別に取り上げ、その他の土壌はまとめて図示・記述する。

第135表 第3区画土壤一覧表

単位:m

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
28	3	E7-J6	楕円形	0.90	0.50	0.10	N-85°-E	SB4より新 図面はSB4とともに掲載	37~39
32	3	E7-J6	楕円形	0.60	0.50	0.10	N-10°-E	SB4・SK35より新	282
33	3	E7-J6	円形	0.33	0.31	0.10	-		282
34	3	E7-J6	不整形	0.40	0.30	0.05	N-53°-E		282
35	3	E7-J6	隅丸長方形	2.95	1.32	0.15	N-72°-E	SK32/54より古 SB4より新	282
38	3	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	1.05	0.60	0.20	N-71°-E		282
39	3	F7-A6	楕円形	0.90	0.75	0.20	N-72°-E		282
42	3	F7-A5	楕円形	0.75	0.60	0.30	N-85°-E	SK50重複	282
43	3	F7-A5	不整形	0.50	0.45	0.10	N-18°-E		282
46	3	E7-J5	円形	0.90	0.90	0.10	-	SK48/305より新	282
47	3	E7-J5	隅丸方形	0.75	0.65	0.20	N-50°-E	SK48重複	282
48	3	E7-J5	隅丸方形	1.70	1.70	0.10	N-15°-E	SK46より古 SK305より新 SK47重複	282
50	3	E7-J5 F7-A5	隅丸長方形	3.45	1.70	0.35	N-70°-E	SK42/75+F7-A5 P1重複	270
54	3	E7-J6	不整形	0.93	0.80	0.15	N-72°-E	SB4・SK35より新 SE1重複	282
62	3	E7-J5/6	不整形	1.40	0.57	0.20	N-70°-E	SB4より新 図面はSB4とともに掲載	37~39
63	3	E7-J5	円形	0.80	0.75	0.40	-		283
68	3	E7-J6	長楕円形	1.75	0.55	0.20	N-70°-E		283
70	3	E7-J6	円形	[0.30]	0.28	0.20	-	SB4より新 図面はSB4とともに掲載 SB4の基礎石の抜き取り穴か	37~39
71	3	E7-J5	不整形	1.30	0.60	0.05	N-26°-E	SD2より古 SB5重複	283
72	3	F7-A5	不整形	1.00	0.75	0.30	N-25°-E	SK125重複	283
73	3	F7-A5	隅丸長方形	0.60	0.45	0.10	N-72°-E	SD4重複	283
75	3	F7-A5	楕円形	(0.40)	0.40	0.15	N-10°-E	SD4・SK50重複	283
77	3	E7-J6	隅丸長方形	1.50	0.85	0.05	N-72°-E	SK80/81より新 SB4+E7-J6 P1重複	283
78	3	E7-J6/7	不整形	0.80	0.55	0.05	N-60°-E	SK268重複	274
79	3	E7-J7	楕円形	0.70	0.60	0.20	N-80°-E		274
80	3	E7-J6	楕円形	0.57	0.35	0.07	N-72°-E	SK77より古	283
81	3	E7-J6	楕円形	0.55	0.35	0.07	N-72°-E	SK77より古	283
82	3	E7-J6	隅丸長方形	1.50	0.85	0.40	N-32°-E	SB4・SK119重複	283
85	3	F7-A5	楕円形	0.95	0.35	0.10	N-25°-E		276
86	3	F7-A5	楕円形	1.00	0.70	0.20	N-75°-E	SK87より新 SD4重複	283
87	3	F7-A5	隅丸方形	1.15	(1.05)	0.25	N-70°-E	SK86より古 SD4/16重複	283
93	3	E7-J5	楕円形	0.60	0.30	0.10	N-40°-E		283
94	3	E7-J7	円形	1.25	1.22	0.20	-		283
96	3	E7-J7	楕円形	0.75	0.68	0.10	N-32°-E		283
97	3	E7-J7	隅丸長方形	1.35	1.20	0.65	N-70°-E	SK98より古	284
98	3	E7-J7	不整形	(0.70)	(0.70)	0.20	N-70°-E	SK97より新 SD4重複	284
100	3	E7-J6	不整形	(0.55)	0.33	0.10	N-20°-E	SD4重複	284
114	3	E7-J6 F7-A6	隅丸長方形	0.70	0.45	0.10	N-70°-E	SD4より新	284
116	3	E7-J6	楕円形	0.50	0.47	0.10	N-72°-E	SB4より新 図面はSB4とともに掲載 SB4の基礎石の抜き取り穴か	37~39
119	3	E7-J6	隅丸方形	1.10	1.00	0.13	N-10°-E	SK82重複	284

番号	区画	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	挿図
124	3	F7-A5	楕円形	(0.60)	0.50	0.25	N-10°-W	SD4 重複	283
125	3	F7-A5	楕円形	0.50	0.43	0.30	N-52°-E	SK72 重複	284
126	3	F7-A5	隅丸長方形	1.20	0.62	0.05	N-80°-E		284
127	3	E7-J5	隅丸長方形	1.00	0.80	0.05	N-42°-E		284
128	3	F7-A5	楕円形	0.60	0.45	0.25	N-46°-W		284
129	3	E7-J6	不整形	1.20	(1.00)	0.30	N-42°-E	SB4 より古	284
130	3	F7-A5	隅丸長方形	0.40	0.30	0.15	N-73°-E		284
268	3	E7-J7	隅丸長方形	1.15	0.85	0.40	N-65°-E	SK78 重複	284
269	3	E7-J7	隅丸方形	0.60	0.55	0.35	N-7°-W		284
276	3	E7-J4	不整形	0.57	(0.45)	0.35	N-40°-W	SK277 より古	285
277	3	E7-J4/5 F7-A4/5	不整形	1.25	(0.70)	0.40	N-47°-W	SK278/312 より古 SK276 より新	285
278	3	E7-J4/5 F7-A4/5	楕円形	(0.60)	0.50	0.15	N-70°-E	SK277 より新	285
279	3	F7-A5	不整形	(0.80)	0.65	0.35	N-63°-E		284
291	3	F7-A5	楕円形	0.50	0.40	0.15	N-72°-E		284
305	3	E7-J5	不整形	0.75	0.75	0.30	N-60°-W	SK46/48 より古	278
309	3	E7-J6	隅丸長方形	1.85	(0.55)	0.45	N-74°-E	SB4 より古	285
312	3	E7-J5 F7-A5	不整形	1.55	1.00	0.30	N-20°-W	SK277 より新	285

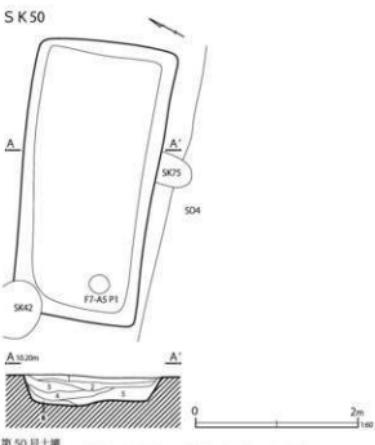
### 第50号土壌 (第270～273図)

敷地の南部、E 7-J 5・F 7-A 5 グリッドに位置する隅丸長方形の土壌である。長軸3.45m、短軸1.7mである。灰褐色～灰褐色の砂質土が主体の土層で、一部グライ化した灰色土の層を挟む。

出土遺物は多くは無い。第271図には陶磁器を示した。1は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗で、山水文を染付する。2は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、内外面にしっかりと柿釉が掛けられる。内面に径4.5cmの重ね焼き痕がある。3は陶器の土瓶だが形態が変わっている。外面には白盛で絵付けがみられる。焼き継ぎ痕があり、底部に僅かに墨書きらしい痕跡がある。このほか、肥前系磁器の筒形碗、瀬戸美濃系磁器の端反の杯、陶器の鉄釉土瓶などが出土している。栗橋7～8期の土壌である。なおV章に記すように底面の一部から浅間A火山灰が検出されたが、遺物と年代差が大きく、本跡が栗橋5期に遡るとは考え難い。

第272図は金属製品である。1は煙管の吸い口、2は不明銅製品で、1枚の銅板を畳んで合せる。3は銅製針金、4は鉄釘である。

第273図1は玉鮎製の火打石である。2は花崗



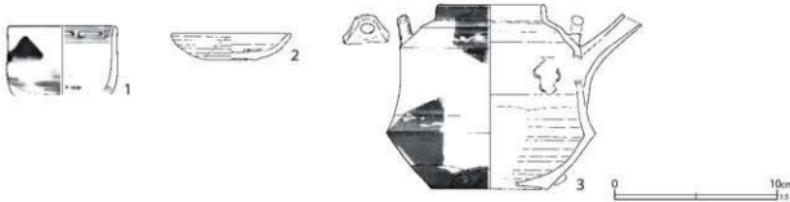
第50号土壌  
 1 灰褐色土 砂質土、細砂混入、灰褐色土上小ブロック少量含む  
 2 灰褐色土 砂質土、細砂混入、灰褐色土上小ブロック少量含む  
 3 灰色土 ダイカス、灰褐色土上の小ブロック少量含む 固化物(φ1～3mm)微量含む  
 4 灰褐色土 砂質土、細砂混入、灰褐色土上の小ブロックを含む 固化物(φ1～3mm)微量含む  
 5 灰褐色土 砂質土、灰褐色土上の小ブロック、固化物(φ1～3mm)を少量含む  
 6 灰褐色土 主に灰褐色細砂を少量含む 直横上部の崩落による

第270図 第50号土壌

岩製の石臼（上臼）である。

### 第78・79号土壌 (第274～275図)

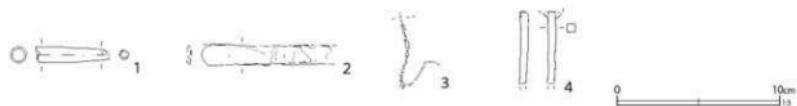
敷地の北東部、E 7-J 6・7 グリッドに隣接して位置する楕円形の土壌である。第78号土壌



第271図 第50号土壤出土遺物（1）

第136表 第50号土壤出土遺物観察表（1）（第271図）

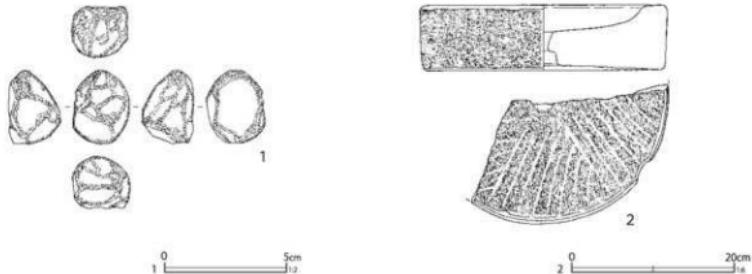
番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(6, 5)	[4, 1]	-	-	20	良好	白	SK50	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付（湯呑形碗）	
2	陶器	灯明皿	7, 1	1, 6	3, 1	K	100	良好	灰白	SK50	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面下位拭き板 り 内面直重ね拭き板	
3	陶器	土瓶	(6, 3)	11, 3	7, 0	K	40	良好	灰白	SK50	外面灰釉・白盛給付 焼き継ぎ瓶	99-1



第272図 第50号土壤出土遺物（2）

第137表 第50号土壤出土遺物観察表（2）（第272図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ [4.5] 小口径 1.0 重さ 6.6	SK50	吸口 小口・口付欠損	
2	銅製品	不明	縦 1.3 横 [8.0] 厚さ 0.03 重さ 1.8	SK50	1枚の銅板を畳んで合わせる	
3	銅製品	針金	縦 4.7 横 2.5 厚さ 0.1 重さ 0.5	SK50	2本辺れ	
4	鉄製品	釘	長さ [4.4] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 5.9	SK50		

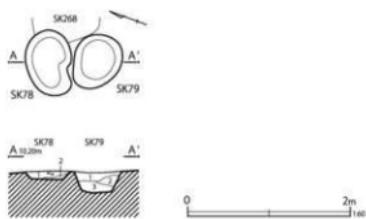


第273図 第50号土壤出土遺物（3）

第138表 第50号土壤出土遺物観察表(3)(第273図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	国版
1	石製品	火打石	3.0	2.3	2.1	19.4	玉髓	SK50	棱の潰れ著しい	284-3
2	石製品	石臼	径(30.2)	器高8.1	4430.0		花崗岩	SK50	上臼 下面に目 中心軸穿孔	

SK78-79



第78号土壤

- 1 暗灰色土  
2 暗灰色土  
第79号土壤  
1 暗灰色土  
2 暗灰色土  
3 暗灰色土
- 粘質 褐色粒子多量 粘性弱 しまりあり  
粘質 1割より高い 褐色粒子少量 粘性弱 しまりあり  
粘質 褐色粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量 粘性あり しまり弱  
粘質 2割より高い 褐色粒子多量 粘性弱 しまりあり  
粘質 2割より高い 褐色粒子少量 粘性弱 しまりあり

第274図 第78・79号土壤

は長軸0.8m、短軸0.55m、第79号土壤は長軸0.7m、短軸0.6mで、いずれも規模の小さい土壤である。覆土はいずれも暗灰色粘質土である。

二基のうち、第78号土壤からは比較的豊富に遺物が出土している。第275図には、第78号土壤出土の陶磁器類を示した。

1～3は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗である。4は瀬戸美濃系磁器の蓋で、赤を主体に上絵付けが施される。5は肥前系磁器の蓋である。6は瀬戸美濃系磁器の広東碗で、胎土は粗雑である。7は肥前系磁器の鶴首瓶の体部で、釘書き「固カ」がみられる。8は三田青磁の鉢である。9・10は比較的大きなサイズの肥前系磁器の皿である。9は口縁部が平らになって、その上に連続的な刻みを入れてから施釉する。10は遺存している体部の形態から、口縁部が円形ではなく、歪みを持たせて加飾している可能性が高い。11は土瓶の蓋と思われる。白っぽい硬質の胎土で、萬古系陶器であろうか。つまみ直下にワンポイントで糠白釉

が掛けられる。外面は刻印状に花文を施文、内面は指頭圧痕が顕著で型成形と考えられる。12は青緑釉土瓶だが、形態が一般的なものと異なる。13～15は瀬戸美濃系陶器の灰釉徳利で、14には釘書きがある。13・15はやや小型の徳利の底部である。二合半徳利であろうか。16は瀬戸美濃系陶器の水甕ないし鉢である。外面は鉄化粧後、鉄釉を掛ける。17・18は瓦質土器火鉢だが、いずれも酸化炎焼成ぎみである。17は白色味強く、少量の角閃石を含む。18は橙色味が強いが断面中心は黒くなる。角閃石を多く含む。いずれも脚部の小破片である。陶磁器類の様相としては、瀬戸美濃系磁器の筒形容器が多く、陶器の土瓶各種が多く出土している。磁器の皿には、多角形に仕上げる大皿が含まれている。栗橋8期の様相である。

第275図19・20は石製品で、角閃石安山岩の磨石である。

本跡は小規模な遺構であるにも関わらず、遺物が豊富である。形状から本来は埋設桶などの掘方であった可能性もある。

第78号土壤に比して、第79号土壤からは遺物がほとんど出土しなかった。陶磁器は磁器5片、陶器1片で小破片であった。磁器には瀬戸美濃系磁器の柵徳利が含まれている。陶器は地方窯系の柿釉の筒形容器が認められる。栗橋8期ないし、9期のはじめ頃の遺構と考えられる。

#### 第85号土壤(第276・277図)

F 7-A 5 グリッドに位置する楕円形プランの土壤で、長軸0.95m、短軸0.35mほどの規模である。深さ10cm程度が遺存する。第5号建物跡の南西側に位置する南北に長い土壤である。覆土は暗褐色土の単層であった。

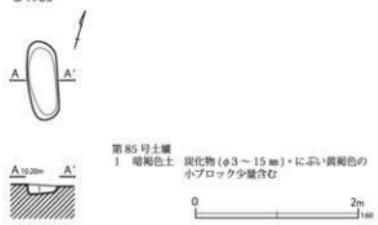


第275図 第78号土壌出土遺物

第139表 第78号土壤出土遺物観察表(第275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考		図版
1	磁器	碗	(7.0)	[4.8]	-	-	20	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面染付(湯呑形碗)		
2	磁器	碗	(7.7)	[4.7]	-	-	25	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(湯呑形碗)		
3	磁器	碗	(6.8)	4.7	3.0	-	30	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(湯呑形碗)		
4	磁器	蓋	(2.9)	2.4	(8.6)	-	20	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・金)(端反脇の蓋)	104-8	
5	磁器	蓋	4.0	3.0	(9.5)	-	35	良好	白	SK78	肥前系 内外面施釉・染付(端反脇の蓋)		
6	磁器	碗	(12.0)	6.7	(6.0)	-	35	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(広東碗)		
7	磁器	徳利	-	[2.4]	-	-	5	良好	白	SK78	肥前系 外面施釉・軒書き	104-6	
8	磁器	鉢	-	[3.4]	-	-	5	良好	白	SK78	三田系 内面施文後外面青緑釉		
9	磁器	皿	(26.0)	4.9	(14.0)	-	10	良好	白	SK78	肥前系 内外面施釉・染付 口唇部に陰刻状施文		
10	磁器	皿	-	[4.5]	9.9	-	20	良好	白	SK78	肥前系 内外面施釉・染付	104-7	
11	陶器	蓋	-	2.8	(6.0)	IK	60	良好	灰白	SK78	外面施文・一部舞白釉 内面指頭正旗	105-1	
12	陶器	土瓶	(5.8)	[3.8]	-	EK	15	良好	灰白	SK78	外面青緑釉	105-2	
13	陶器	徳利	-	[3.4]	(7.4)	IK	10	良好	褐灰	SK78	瀬戸美濃系 外面灰釉・底部拭き取り		
14	陶器	徳利	-	[7.7]	-	IK	5	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 外面灰釉・軒書き	105-3	
15	陶器	徳利	-	[5.0]	(7.2)	EK	10	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 外面灰釉・底部拭き取り		
16	陶器	水鉢か	-	[8.4]	(15.0)	DI	10	良好	灰白	SK78	瀬戸美濃系 内面灰釉・縁転流し掛け・目跡	105-4	
17	瓦質土器	火鉢	-	[4.5]	(17.5)	CEHJK	5	普通	にぶい模様	SK78	やや酸化焼成		
18	瓦質土器	火鉢	-	[4.0]	(18.4)	CIK	5	普通	外:にぶい 内:褐色	SK78	やや酸化焼成		
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考				図版
19	石製品	磨石	5.9	5.1	3.0	51.7	角閃石安山岩	SK78	多孔質 自然面遺存 使用面3 線状痕あり				284-1
20	石製品	磨石	5.0	[4.7]	2.1	27.9	角閃石安山岩	SK78	多孔質 自然面遺存 使用面3				284-1

## SK85



第276図 第85号土壤

第277図に出土遺物を示した。

磁器は5点を図示した。明確な酸化コバルト染付の製品は含まれていない。1は瀬戸美濃系磁器で小型の湯呑形碗である。胎質はやや粗である。外面には王維による「竹里館」の詩文を染付する。2は薄手の瀬戸美濃系磁器で内面に青で「鉢◇」(けんびし)と上絵付けがされる。けんびし(劍菱)は16世紀代とされる創業から昭

和元年まで伊丹で醸造され続けた酒の銘柄である。17世紀ごろから剣に◆の屋号紋を用いるようになり、以降一貫している。「鉢◇.」という表記は伊丹・灘の資料には見えない。判じ絵で下り酒らしく見せるための工夫と思われる。3は瀬戸美濃系磁器の急須蓋である。裏面には施釉前の回転ナデの痕跡が、渦巻き状(時計回り)に残る。5はヨーロッパ系磁器の小型の皿である。内面に黒インクで銅版転写染付を施す。ペルギー、ボッホ・フレールの「ファンテース」と呼ばれる文様パターンと思われる。

6は陶器で、京都都信楽系の灯明皿である。以上に示した陶磁器の様相から、栗橋8期ないし、9期はじめ頃に帰属する土壤と考えられる。

## 第305号土壤(第278~281図)

E-7-J 5グリッドから検出された土壤で、第4号建物跡と第5号建物跡の間に位置するが、建

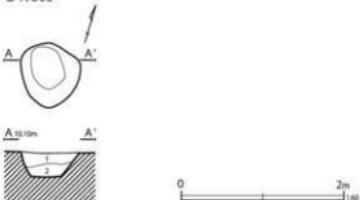


第277図 第85号土壤出土遺物

第140表 第85号土壤出土遺物観察表(第277図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(6.3)	4.7	(3.0)	-	35	良好	白	SK85 漣戸美濃系 内外面施釉・染付(湯呑形碗)	106-6	
2	磁器	杯	-	[2.5]	3.0	-	45	良好	白	SK85 漣戸美濃系 内外面施釉・外面染付・内面 上給付(青)	106-7	
3	磁器	蓋	-	2.1	5.2	-	100	良好	白	SK85 漣戸美濃系 内外面施釉 上面染付・穿孔 1(急須の蓋)		
4	磁器	蘭徳利	-	[7.9]	-	-	15	良好	白	SK85 漣戸美濃系 外面施釉・染付		
5	磁器	皿	(12.0)	[2.3]	-	K	10	良好	白	SK85 ヨーロッパ系 内外面施釉・ペルギー・ボッホ・フレール 内面鋼版板写染付(黒)	106-8	
6	陶器	灯明皿	(8.2)	1.8	(3.0)	IK	25	良好	灰黄	SK85 京都信楽系 口縁部へ内面透明釉 一部煤 付着		

SK305



第305号土壤  
1 暗灰褐色土 シルト質、暗灰褐色シルト多量 焼土無性・粘性弱  
2 暗灰褐色土 シルト質 木質少量・粘性・しまり弱

第278図 第305号土壤

物跡との関連は不明である。本跡は第46・48号土壤の下面から検出された遺構であり、第一面の他の遺構の検出面よりも、若干低い位置から検出されたものである。径0.75mほどの不整円形の土壤で、シルト質の暗灰褐色土を覆土とする。

第279図に出土した陶磁器を示す。

1は肥前系磁器の広東碗で、外面には折り鶴の間に「福」「壽」の文字を、内面は口縁部に二重圓線、底部付近にも圓線を染付する。焼き継ぎ痕がみられる。2は肥前系磁器の皿で、蛇の目圓形高台の露胎部に墨書きがある。内面の周囲に亀甲文

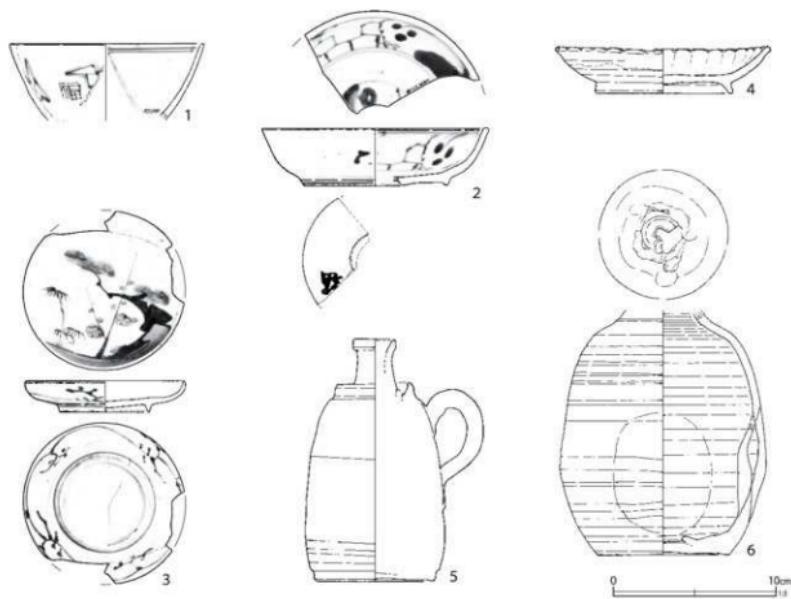
と草花文、底面に山水文を染付する。3は肥前系磁器の小皿で、内面に松竹梅文を染付する。4は瀬戸美濃系陶器の菊花皿で、完形である。内底面には目跡が三箇所ある。5は瀬戸美濃系陶器の油徳利で、完形である。6は瀬戸美濃系陶器の油徳利で、完形である。6は瀬戸美濃系陶器の油徳利で、鉄漿壺に転用されている。

このほかにも、肥前系磁器の雪輪草花文の碗や、波佐見系の粗製皿が完形で出土している。また、径10cm程度の肥前系磁器小皿や、瀬戸美濃系陶器柿付灯明皿も、全体の8~9割が遺存するものが出土している。比較的陶磁器の残存状態が良いのが特徴である。最新期の陶磁器は1に示した広東碗で、非掲載の資料にも広東碗の蓋が認められる。本跡の時期は栗橋5~6期と考えられ、第一面検出の土壤としては古期に属する。

第280図1は土製品の人形である。2は木製品の漆桶である。

第281図1~4は、石製品の砥石である。

1は流紋岩製の砥石で、灰白色の石材である。上面は使用、両側面も一部使用(研磨)がみられる。裏面は製作時の痕跡を留め、刃幅の広い工具



第279図 第305号土壤出土遺物(1)

第141表 第305号土壤出土遺物観察表(1)(第279図)

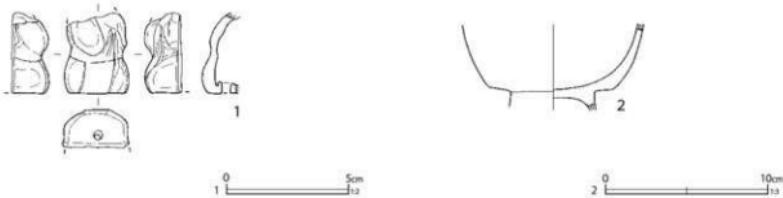
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(11.8)	[4.7]	-	-	15	良好	白	SK305 肥前系 内外面施釉・染付 焼き繕ぎ痕 (広東碗)		
2	磁器	皿	(13.8)	3.5	(8.6)	-	25	良好	灰白	SK305 肥前系 内外面施釉・染付 台 黒墨 第242表 23	227-3	
3	磁器	皿	9.8	1.9	5.5	-	90	良好	白	SK305 肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1 あり	227-4	
4	陶器	皿	12.9	2.8	8.1	DI	100	良好	灰白	SK305 漸戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3	227-5	
5	陶器	油滴利	2.5	14.8	7.1	IK	100	良好	灰白	SK305 漸戸美濃系 外面施釉・底部拭き取り	227-6	
6	陶器	德利	-	[15.0]	8.0	IK	60	良好	褐灰	SK305 漸戸美濃系 外面施釉・底部拭き取り 内 底面に青水通寶(銀錢)遺存・少量の鉄分 付着 鉄鏽壺転用		

による整形痕跡である。なお、中央付近の両縁側に抉り状の剥離痕を有す。

2は粘板岩製の砥石で、石質が良い。上面は使用(研磨)し、曲面状になる。側面はノコギリ状の削痕を有すもので、成形時の痕跡である。側縁と下面側の角は、やはりノコギリ状の工具で取りを施している。下面側は一部に研磨痕がみられるが、不規則で、使用痕では無いものとみられる

る。僅かに工具(ノミ状工具か)による浅い整形痕も認められる。

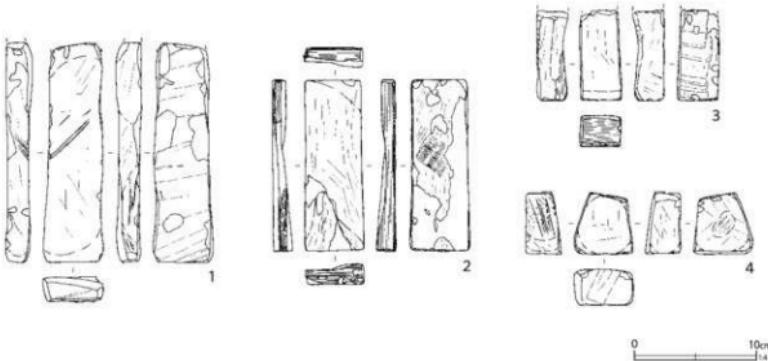
3は流紋岩製の砥石で、クリーム色味を帯びる灰白色の石材である。1より小型である。上面は使用(研磨)し、曲面状になる。側面も研磨が認められるが、使用によるものか否かは不詳である。端面には筋状の工具痕が残る。同様の工具跡は、長軸方向の側縁部(左側縁)にも研磨に先



第280図 第305号土壤出土遺物(2)

第142表 第305号土壤出土遺物観察表(2)(第280図)

番号	種別	器種	幅	長さ	厚さ	重さ	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	人形	2.7/ [3.3]	-	0.5	8.1	A I K	良好	橙	SK305 大黒 前後合二枚型成形 能付物付着		245-17
2	木製品	漆桶	-	-	-	-	[5.3]	-	木取り 遺構 横木取 SK305 り	内外面赤漆		図版



第281図 第305号土壤出土遺物(3)

第143表 第305号土壤出土遺物観察表(3)(第281図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砾石	[18.0]	5.0	2.1	302.4	流紋岩	SK305	幅広工具痕か 砥面3	283-8
2	石製品	砾石	14.0	4.9	1.6	140.8	粘板岩	SK305	ノコギリ痕 砥面2	283-9
3	石製品	砾石	[7.4]	3.4	[2.6]	114.9	流紋岩	SK305	幅広工具痕 砥面4	283-10
4	石製品	砾石	[5.0]	4.9	2.0	109.8	流紋岩	SK305	幅広工具痕 刀物痕 砥面4	

立って施される。櫛歯状工具痕ではないかと思われるが、筋の間隔が密でありノコギリ状工具痕にも類似する。下面是刃幅の広い工具（手斧状工具か）による成形痕が顕著に残り、研磨は見られない。端面側は弱く面取りが見られる。

4も3と同色の流紋岩製である。端面を除き、研磨が施され、刃ならし痕も認められる。破損面（図の上側）も周囲に僅かに研磨が及んでおり、破損後に手持ち砥として使用されたものであろう。端面に整形時の工具痕（刃幅の広い工具痕）

を残す。

本跡も第78・79号土壙等と同じく、小規模な不整円形プランの土壙である。性格は不明であるが、砥石が4点まとまって出土したのは特徴的である。

### 第3区画のその他の土壙（第282～298図）

個別に取上げた以外の土壙については、遺物が多く出土した土壙を中心に概観する。第3区画検出の土壙は、上面が削平された浅い土壙が多くみられる。覆土の観察が難しく、遺物の出土も少ない傾向にあった。

第35号土壙は、長方形プランの土壙で、長軸2.95m、短軸1.32mほどだが、遺存範囲は極めて浅く出土遺物はほとんどない。僅かに第296図1に示した鉄錢の寛永通寶が出土している。

同じく、上面が削平された状態の第46号土壙は、径90cmの円形プランの土壙で、陶磁器の出土は、磁器・陶器の細片3片のみである。

第48号土壙は、一辺1.7mの方形プランの土壙で、重複関係から第46号土壙より古い。僅かに残る覆土は鉄分の酸化が認められる暗灰色土である。遺物は極めて少ないが、第296図4に示した寛永通寶の新寛永が出土している。陶磁器に銅版転写染付の磁器蓋物破片が認められ、第46号・48号土壙は栗橋9期の帰属と考えられる。なお、両遺構と重複して複数の杭が残っていたが、性格は把握できていない。

第39号・42号・43号・47号・63号土壙はいずれも径1mに満たない、平面形円形～不整円形の土壙である。遺物も少なく、第42・47・63号土壙から第269図2・3・5に示した寛永通寶が出土している。

第28・62・70・116号土壙については、第4号建物跡の基礎との関連が考えられたので、第4号建物跡（第38図）とともに遺構図を掲載した。いずれも第4号建物跡の基礎を掘り込んでいる。

第62号土壙は、第4号建物跡の基礎石材の抜

き取り穴である可能性が高いものである。遺物は第286図1・2に示した。1は肥前系磁器の端反碗の蓋で、外面には蛸唐草文、内面には見込みに環状の松竹梅文、周縁に四方襷文が染付けられる。2は瓦質土器の丸火鉢である。出土した遺物の様相は栗橋7期以降であるが、建物跡との関係から栗橋9期に帰属する可能性が高い。

第72号土壙は、平面形円形の土壙で、長径1mとやや大型である。覆土には瓦片が多量に含まれていた。第286図4・5は同一個体と考えられる鰐肌釉の土瓶で、体部に海鼠釉が流し掛けされる。胎土から松岡系と思われる。第297図1・2は石製品の砥石である。第293図1は出土した瓦で軒棧瓦である。

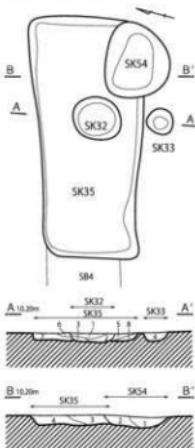
第75・124号土壙も小型の土壙と考えられるが、第4号溝跡や第50号土壙との重複により、全体の形態は不詳である。このうち第75号土壙からは比較的良好な状態で陶磁器が出土しており、第286図7～13に示す。10は地方窯系の陶器擂鉢で、やや小型の製品である。内外面にかけられる鉄釉は黒っぽい。遺物の様相から、本跡の帰属は栗橋8期であろう。

第68・77・80・81・82・119・309号土壙は、第4号建物跡の基礎に囲まれた範囲内に位置し、第4号建物跡との併存が考え難い土壙である。

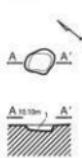
第68号土壙は長軸1.75mの梢円形を呈する土壙である。第286図3に示したのは、松岡系陶器土瓶である。海鼠釉を施釉し、体部上位に段が付くものである。第295図1は鉄製品の刃物、第296図6は寛永通寶の新寛永である。遺物の内容から栗橋7期以降に帰属する。

第77・80・81号土壙は重複関係にある土壙で、長径60cm弱の梢円形を呈する第80・81号土壙の上面に、長軸1.5mほどの第77号土壙が構築されている。第77号土壙から磁器片1、陶器片3、土器片1が出土しており、松岡系陶器の土瓶細片1と産地不詳陶器の三彩土瓶片2が含まれて

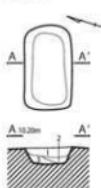
S K 32・33・35・54



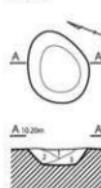
S K 34



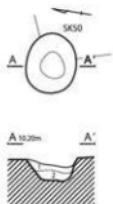
S K 38



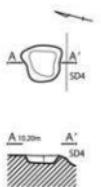
S K 39



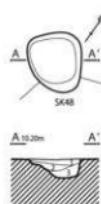
S K 42



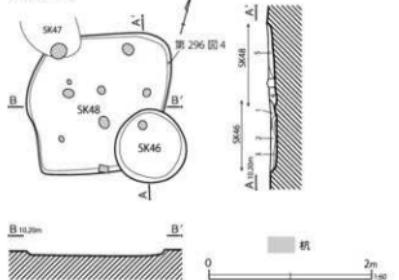
S K 43



S K 47



S K 46・48



第 32・33・35 号土壌

- 暗褐色土 粘土質 白色粒子少量 粘性あり しまり強 (SK32)
- 暗灰褐色土 粘土質 白色粒子・炭化物粒子少量 粘性あり しまり強 (SK33)
- 暗灰褐色土 粘土質 2層より弱い 白色粒子少量 炭化物粒子微量 粘性弱 しまりあり (SK35)
- 灰色土 シルト質 炭化物粒子多量 白色粒子少量 粘性弱 しまり (SK32)
- 暗灰褐色土 粘土質 白色粒子多量 粘性・しまりあり (SK35)
- 暗灰褐色土 粘土質 5層より弱い 白色粒子多量 粘性・しまりあり (SK35)
- 暗褐色土 粘土質 白色粒子多量 炭化物粒子少量 粘性・しまり中 (SK35)
- 暗褐色土 粘土質 白色粒子多量 粘性・しまり中 (SK35)

第 35・54 号土壌

- 黒色土 烧土層 炭化物・焼土ブロック多量 白色粒子少量 粘性・しまりあり (SK54)
- 黒色土 烧土層 炭化物・焼土ブロック・粘土ブロック多量 白色粒子少額 粘性弱 しまり (SK54)
- 暗褐色土 粘土層 炭化物粒子少額 粘性あり しまり強 (SK35)
- 暗灰褐色土 粘土層 3層より弱い 周色粒子少量 粘性・しまりあり (SK35)

第 34 号土壌

- 暗褐色土 粘土質 炭化物粒・褐色粒子少量 粘性あり しまり強
- 第 38 号土壌
- 暗褐色土 粘土質 しまり強
- 粘土質 粘性・しまりあり
- 灰褐色土 粘土質 1層より弱い 炭化物粒子・褐色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 暗褐色土 粘土質 炭化物粒子多量 褐色粒子少量 粘性あり しまりあり

第 39 号土壌

- 暗褐色土 粘土質 無機物・炭化物粒子・白色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 暗褐色土 粘土質 1層より弱い 炭化物多量 白色粒子少量 粘性弱 しまり強
- 暗褐色土 粘土質 無機物・炭化物粒子多量 白色粒子少量 粘性あり しまり強

第 42 号土壌

- 暗褐色土 粘土質 無機物・燒土粒子・白色粒子少量 粘性・しまりあり
- 粘土質 無機物・燒土粒子・燒土粒子多量 白色粒子少量 粘性あり しまり強

第 43 号土壌

- 暗褐色土 粘土質 無機物・白色粒子少量 粘性弱 しまり強

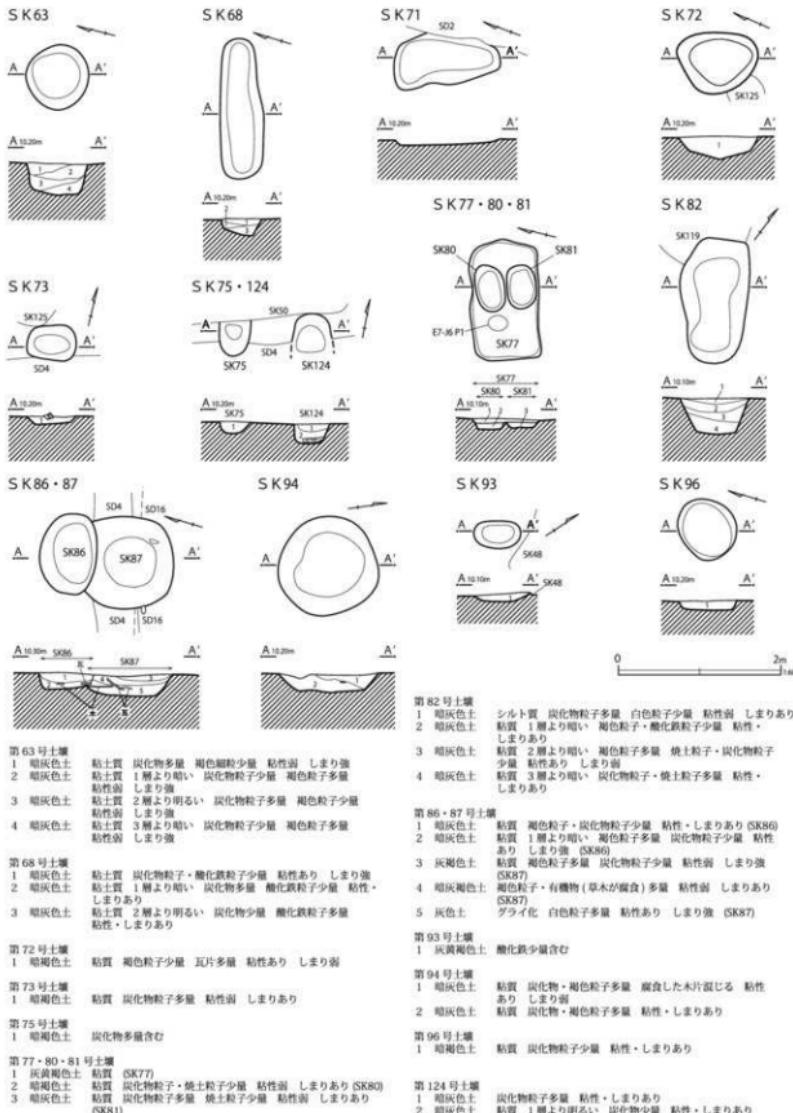
第 46・48 号土壌

- 暗褐色土 粘土質 無機物・燒土粒子多量 褐色粒子少量 粘性弱 しまり強 (SK46)
- 暗褐色土 粘土質 1層より明るい 炭化物多量 焼土粒子微量 無機物粒子少額 粘性・しまりあり (SK46)
- 黑色土 粘土質 無機物・燒土粒子多量 粘性・しまり弱 (SK48)
- 暗褐色土 粘土質 無機物・燒土粒子多量 褐色粒子少量 粘性弱 しまり強 (SK48)
- 暗褐色土 粘土質 4層より明るい 炭化物粒子・褐色粒子少量 黏分の無機化著しい 粘性弱 しまり強 (SK48)

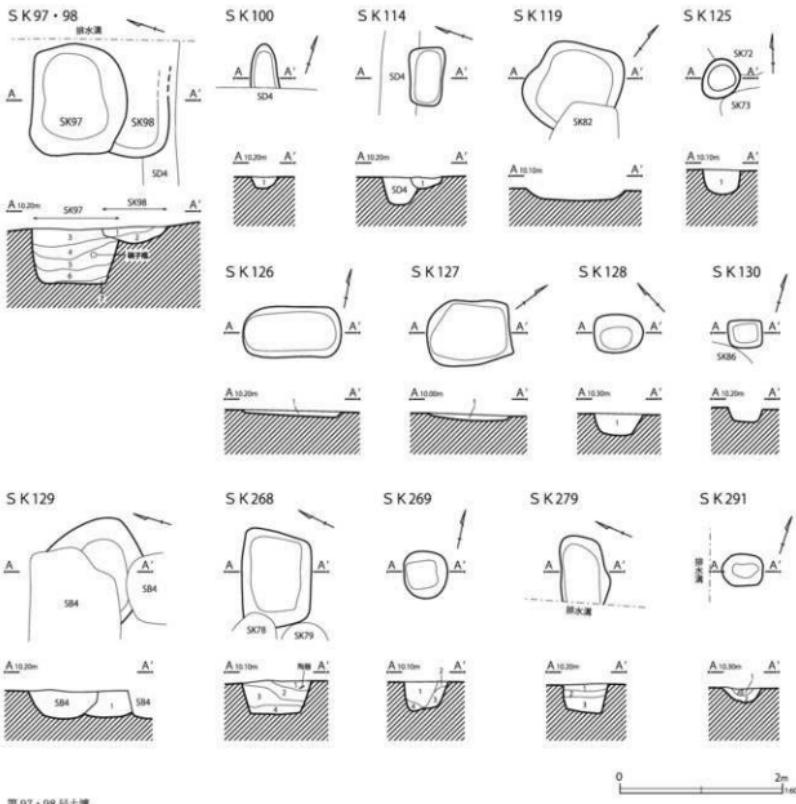
第 47 号土壌

- 暗褐色土 粘土質 無機物粒子・燒土粒子・褐色粒子少量 粘性・しまりあり
- 暗褐色土 粘土質 無機物粒子多量 褐色粒子少量 粘性・しまり強
- 暗褐色土 粘土質 2層より明るい 烧土粒子・褐色粒子少額 無機物粒子微量 粘性弱 しまり強

第 282 図 第 3 区画の土壌 (1)



第283図 第3区画の土壤 (2)



#### 第 97・98 号土壤

- 1 黄褐色土 灰色粘土塊・砂・瓦・陶器等多量 (SK98)
- 2 黄褐色土 粘質・黄褐色粒子・白色粘土子少量・炭化物粒子少量 (SK98)
- 3 黄褐色砂 灰色砂粒多量・炭化物・灰色粘土少量 (SK97)
- 4 黄褐色砂 灰色粘土ブロック (約 1 ~ 5 cm) 多量 (SK97)
- 5 黄褐色砂 灰色砂粒少量・3 層より細かい砂粒 (SK97)
- 6 青灰色土 シルト質・炭化物・鉄分・灰白砂含む・粘性あり・しまりややあり (SK97)
- 7 青灰色土 砂質・炭化物少量・鉄分含む・粘性ややあり・しまり弱い (SK97)

#### 第 100 号土壤

- 1 黄褐色土 粘質・褐色粒子多量・炭化物粒子少量・粘性あり・しまり強

#### 第 114 号土壤

- 1 黄褐色土 粘質・炭化物・白色粒子少量・粘性あり・しまり弱

#### 第 125 号土壤

- 1 灰黄褐色土 炭化物・離化鉄鐵合む

#### 第 126 号土壤

- 1 黄褐色土

#### 第 127 号土壤

- 1 黄褐色土 炭化物少量含む

#### 第 128 号土壤

- 1 黄褐色土 炭化物含む・燒土 ( $\phi 3 \sim 20 \text{ mm}$ ) 混入

#### 第 129 号土壤

- 1 黑褐色土 粗砂微量

#### 第 268 号土壤

- 1 喀灰褐色土 シルト質・炭化物含む・粘性・しまり弱
- 2 灰色土 砂質・木質含む・粘性弱・しまりあり
- 3 喀灰褐色土 シルト質・燒土粒子少量・粘性・しまり弱
- 4 喀灰褐色土 シルト質・炭化物多量・粘性・しまり弱

#### 第 269 号土壤

- 1 喀灰褐色土 砂質・炭化物多量・鉄分含む・粘性・しまり弱
- 2 喀灰褐色土 砂質・鉄分少量・粘性・しまり弱
- 3 喀灰褐色土 砂質・炭化物・鉄分少量・粘性・しまり弱
- 4 喀灰褐色土 砂質・炭化物・鉄分少量・粘性・しまり弱

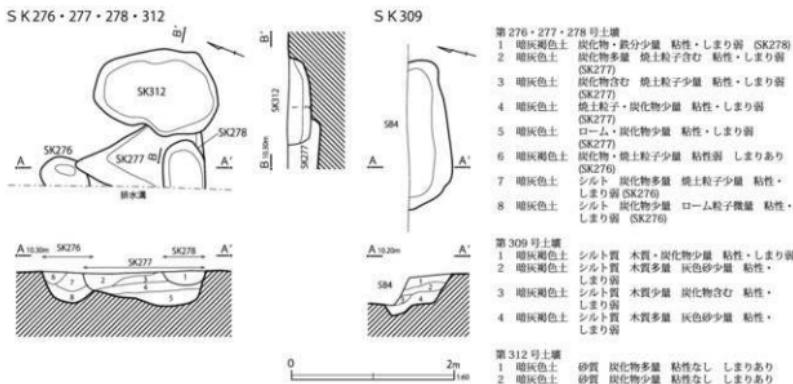
#### 第 279 号土壤

- 1 喀灰褐色土 炭化物・燒土粒子少量・粘性・しまり弱
- 2 喀灰褐色土 鉄分少量・粘性・しまり弱
- 3 喀灰褐色土 鉄分多量・粘性・しまり弱

#### 第 291 号土壤

- 1 喀灰褐色土 砂質・炭化物少量・粘性・しまり弱
- 2 喀灰褐色土 砂質・鉄分少量・粘性・しまり弱

第 284 図 第 3 区画の土壤 (3)



第285図 第3区画の土壤(4)

いる。栗橋7期以降に帰属する。なお、第77号土壤の範囲とほぼ一致して杭が検出されている。建物基礎の捨杭としては、間隔が密で不規則である。あるいは、第77号土壤に関わる何らかの木組み構築物の痕跡とも考えられるが、その場合、第5号建物跡との位置関係を考慮する必要がある。

第82・119号土壤は、建物跡の中心付近に位置する2基の土壤で、重複しているが新旧関係は不明である。第82号土壤の遺物は少なかったが、瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗が出土しており、栗橋7期以降に帰属する。第119号土壤も遺物は少なかった。第291図57の磁器香炉や、第293図4の土製品ミニチュア(徳利)が出土している。第294図1・2は木製品である。1の漆製品蓋には「⑤」の焼き印がある。2は漆器台である。第297図8・9は石製品の砥石である。8は粘板岩製のものだが、色調は黄褐色で被熱している可能性もある。表面の一部に刃幅3mm程度の平ノミ状工具による加工痕が認められるが、これは通常の平ノミ状工具痕より明らかに狭く、再加工痕跡の可能性が高い。墨書があるが判読できない。9は

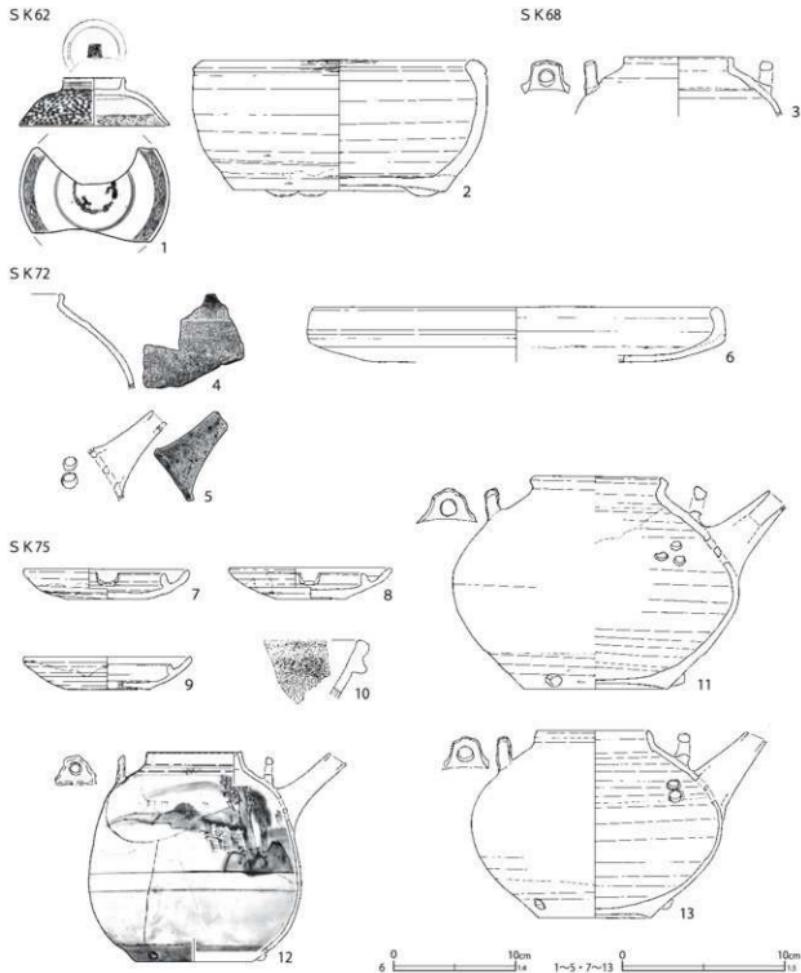
粒子の粗い砂岩を用いる荒砥である。第298図12は、墓石などの石塔類の破片である。

第309号土壤は、第4号建物跡の北東部に重複する土壤で、建物の基礎に掘り込まれる。長軸1.85mの隅丸長方形を呈する。第291図74に出土した陶器土瓶を図示した。図示した以外に瀬戸美濃系磁器の型押陽刻文の角皿が出土しており、磁器の湯呑形碗も複数出土している。また、陶器土瓶類は種類が多く、青緑釉土瓶や白土染付・三彩・イッキン施文の土瓶などが揃っている。従つて本跡は栗橋8期の土壤とみて良いだろう。

以上のように、第4号建物跡の基礎に埋まれた内側からは、栗橋7~8期の土壤が検出されており、明確に9期に降るものはない。建物跡の構築時期を考える上で参考になろう。

なお、第294図6は第309号土壤出土の木札に「栗橋宿/紀州屋喜右衛門様行」の墨書きがある。江戸期の『絵図』にみえる「旅館屋 喜右衛門」と明治35年の『営業便覧』にみえる「紀州屋坂庭重蔵」で、屋号が継続していることが窺われる。

第86・87号土壤は重複する二基の円形プラン



第286図 第3区画の土壤出土遺物（1）

の土壤である。第86号土壤のほうが新しい。出土遺物を第287図に示した。14は、第86号土壤出土の瀬戸美濃系磁器植木鉢である。施釉前に器面を浅く彫り込んで、斜方向の区画を作り、その部

分に呉須で染付している。焼き継ぎ痕が顕著である。15～18は第87号土壤の出土陶磁器である。15は瀬戸美濃系磁器の皿で、酸化コバルト染付が施される。蛇の目状高台の露胎部に、焼き継ぎ

印で「サ六一」と朱書される。16は瀬戸美濃系磁器の植木鉢で、脚部は欠失するが、遺存部分から外面に大きくふくらむ形状と判断される。17は陶器の植木鉢で、白土染付で竹文を描く。18は瓦質土器の植木鉢である。

以上の様相から、二基の土壙は栗橋9期の帰属である。第295図2~4は、第86号土壙出土の金属製品である。

第94号土壙は、区画東側の調査区際に近い場所に位置する。平面形は、径1.2m前後の円形を呈する。覆土は粘質の暗灰色土で、上層を中心に腐食木質が混じる。遺物は比較的豊富で、第287~288図の19~32に陶磁器類を示した。19・20は型紙摺絵染付の磁器平碗、21は型紙摺絵染付の磁器丸碗である。

23は、口縁部に一重、腰部に二重の圓線を酸化コバルト染付で描く端反の坏で、同文のものが他に5個体ある。24も瀬戸美濃系磁器の端反坏で、外面に色絵を描く。25は平面形が変形の八角形を呈する皿で、酸化コバルトで染付される。高台は円形である。27は肥前系磁器の鉢で、焼き継ぎが施される。29は酸化コバルト染付の磁器急須で、『後赤壁賦』（蘇軾）の「是歲十月之望、步自雪堂、將歸于臨皋」の一節を染付する。30は炻器質の陶器蓋で、胎質から萬古系陶器と思われる。内面には全体に薄く、不透明の緑釉が施される。外面側面部は施文、上端面を中心にして白盛などで絵付けがみられる。32は土師質土器の焼塩壺である。細かい雲母を多く含む。胎土がやや赤化しており、被熱と思われる。第297図4には砂岩製砥石を示す。側面にはツルハシを連想させる先の尖った工具（サキノミ状工具）による加工痕を残す。石の目は細かく、色調はやや黄褐色味を帯びており、銚子砂岩に類似する。

第97・98号土壙は、区画南東から検出された土壙で、重複関係から第97号土壙が古い。第289図33~36が第97号土壙から出土した陶磁器で、

33は銅版転写染付の磁器坏、34は酸化コバルト染付の磁器土瓶である。35は地方窯系と考えられる陶器擂鉢で、全体が鐵化粧され内面の一部に柿釉が施される。胎土は瀬戸美濃系陶器に類似するが橙色味が強い。径1mm程の長石・石英を多く含む。36は瓦質土器の植木鉢である。混入鉱物はほとんど確認できないが江戸在地系であろう。

第297図5・6には石製品の硯と石筆を示す。

第289図37から第290図56までは第98号土壙出土の陶磁器である。37は肥前系磁器の広東碗である。38・39は瀬戸美濃系磁器の平碗と坏で、外面銅版転写の染付が施される。41・42は堺明石系陶器擂鉢、43は益子系陶器の擂鉢である。44~50は瓦質土器の植木鉢である。51は瓦質土器の火消壺で、外面上位は横のミガキ、胴部は横のケズリで処理される。52は瓦質土器の火鉢類としたが、竈の可能性が高い。54は土師質土器焙烙で、煤の付着などは見られない。55・56は角閃石を含む在地系土器の甕である。

両土壙は第4号竹櫓の埋設後に掘られており、竹櫓の埋設時期を考える上で注意される。

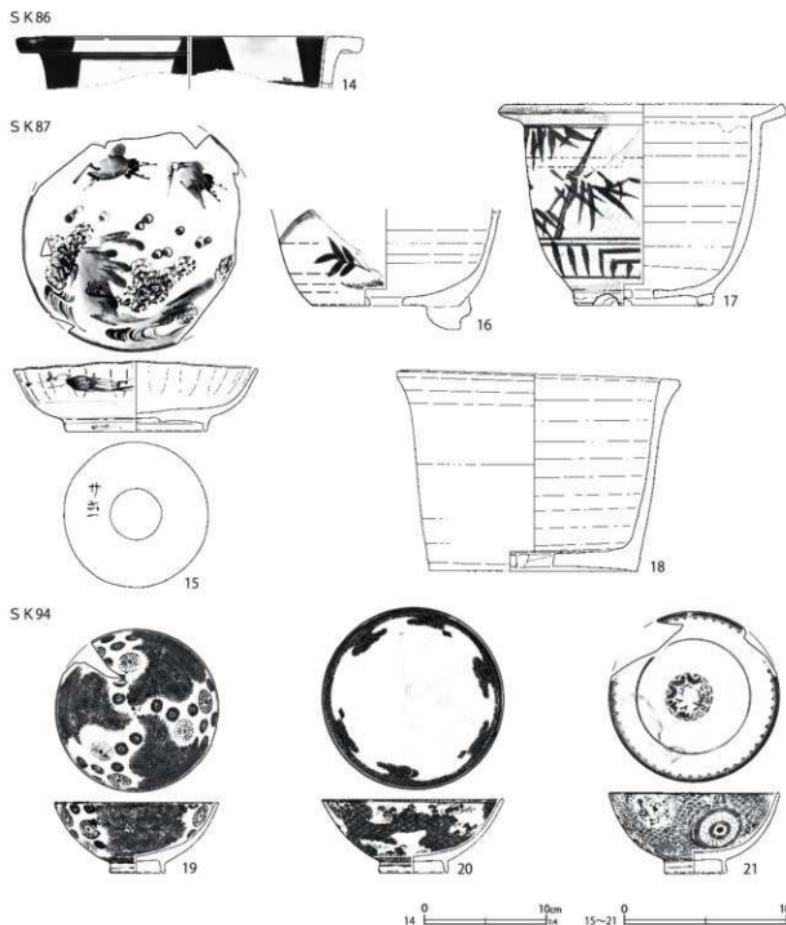
第126号土壙は、区画西南側に位置する土壙で、長軸1.2m程の隅丸長方形を呈する。覆土が浅かったにも関わらず、遺物は比較的豊富であった。第291図58~66は出土した陶磁器類である。58は瀬戸美濃系磁器の小型の丸碗で、外面に赤を主体に緑・青を加えて色絵を施す。59は瀬戸美濃系磁器の丸碗で被熱しており、部分的に焦げている。

60は瀬戸美濃系磁器の坏で、外面に稜線が巡り、口紅が施される。61は瀬戸美濃系磁器の型押壽文皿である。62は肥前系磁器の皿で、蛇の目状高台は高い。63は瀬戸美濃系磁器の植木鉢で、僅かに被熱して焦げている。64は產地不詳の陶器の両手鍋である。灰釉は、鶯色に発色し、屈曲部の釉薬が厚い部分は、うのふ釉状に青へ白味を帯びる。65は施釉土器の鉢である。全体に

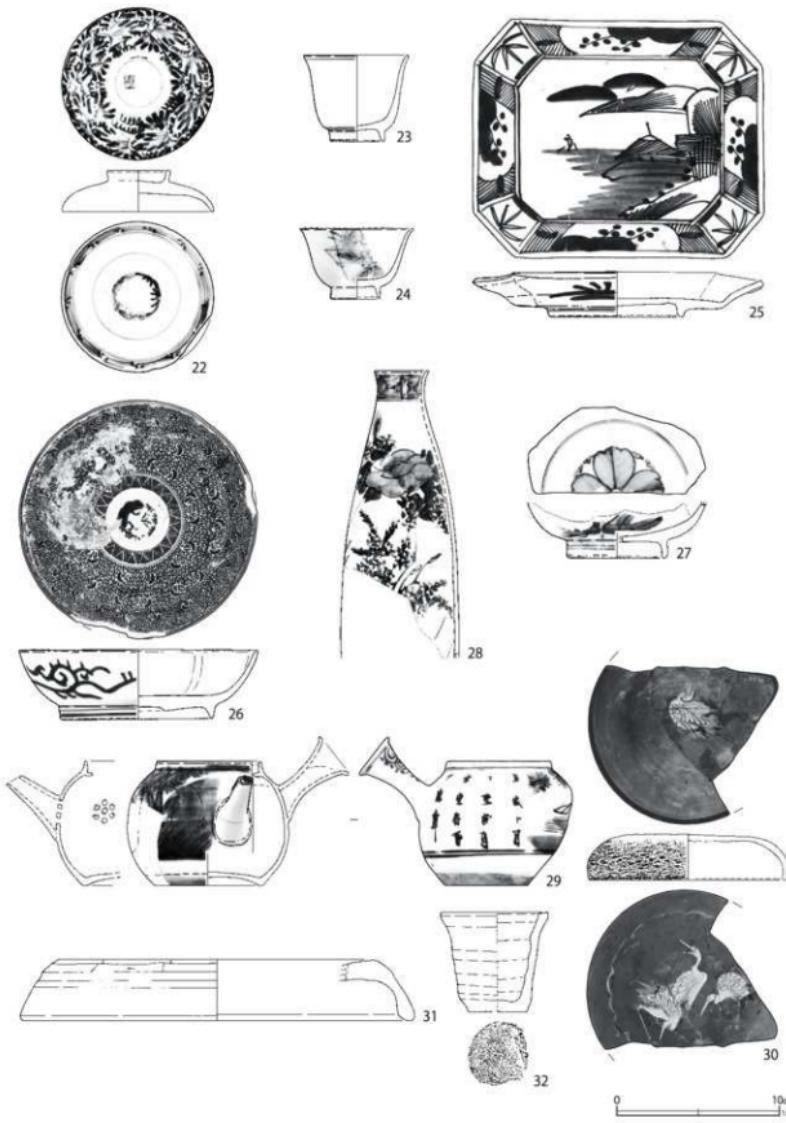
透明釉が施釉されるが、胎土の色調から橙色に仕上がる。底部の釉薬は拭き取っている。66は瓦質土器の竈窓で、煤が多く付着している。時期は栗橋8期の終わりか、9期のはじめであろう。

第268号土壙は、区画北東の調査区際から検出された土壙で、長軸1.15mの隅丸長方形を呈す

る。第291図71・72は出土した磁器である。72は中国・徳化窯系磁器の特徴を備えるが、胎質が著しく粗悪で色調も灰白色である。第295図8には煉瓦の表面に付着した金糸（幅約0.5mm）を示す。第298図13は石臼（粉挽臼）の下臼である。



第287図 第3区画の土壙出土遺物（2）

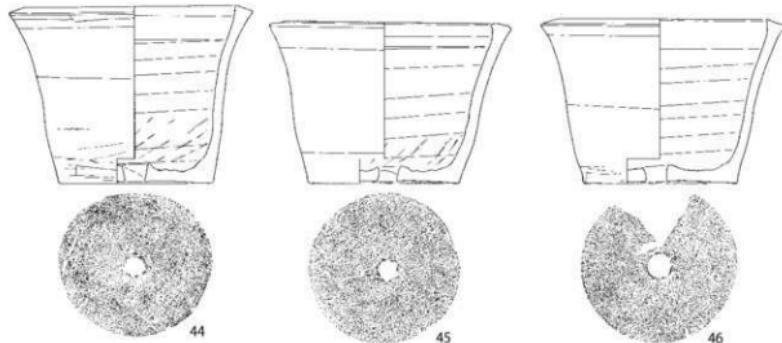
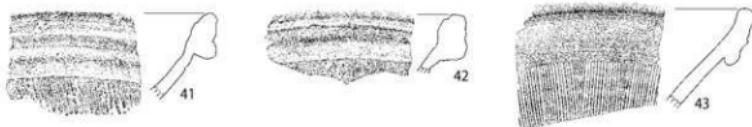
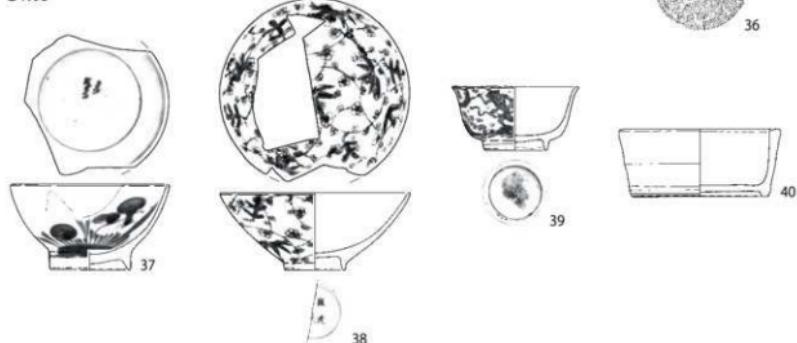


第288図 第3区画の土壤出土遺物（3）

SK97

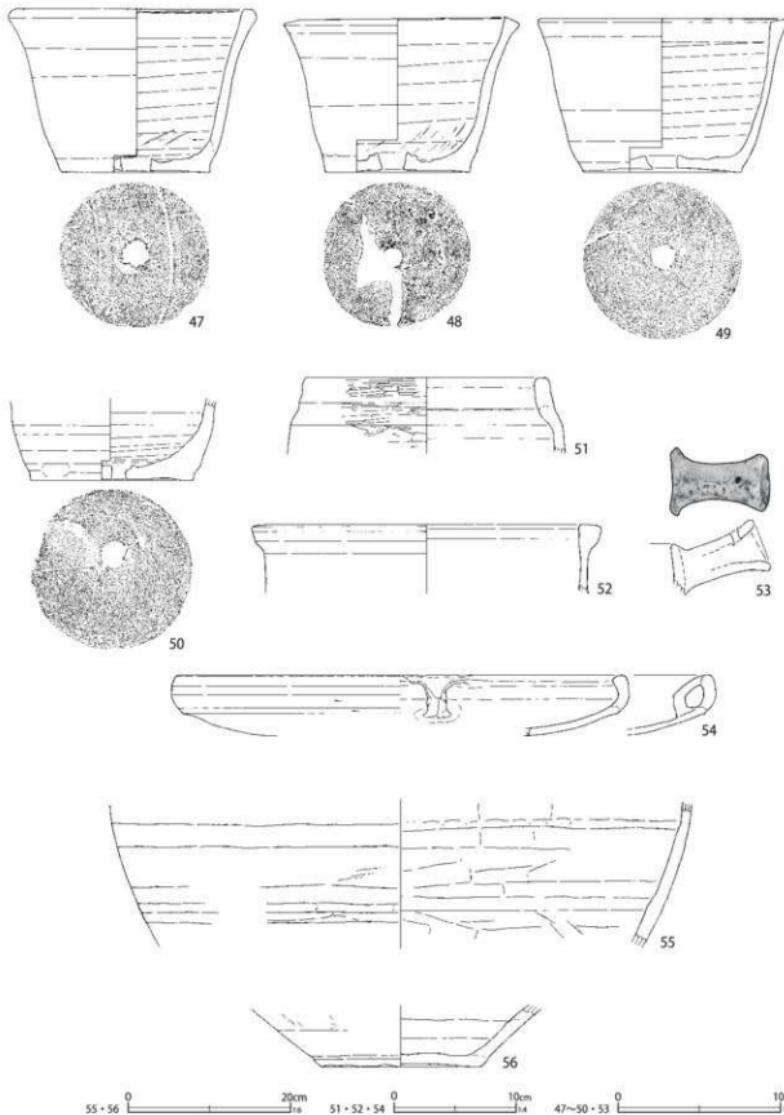


SK98



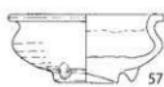
0 10cm

第289図 第3区画の土壤出土遺物（4）

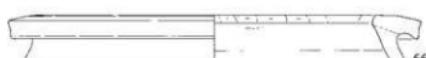
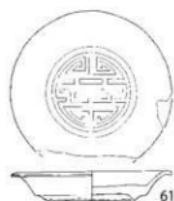


第290図 第3区画の土壤出土遺物（5）

SK 119



SK 126



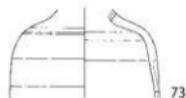
SK 129



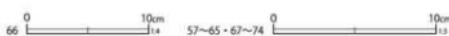
SK 268



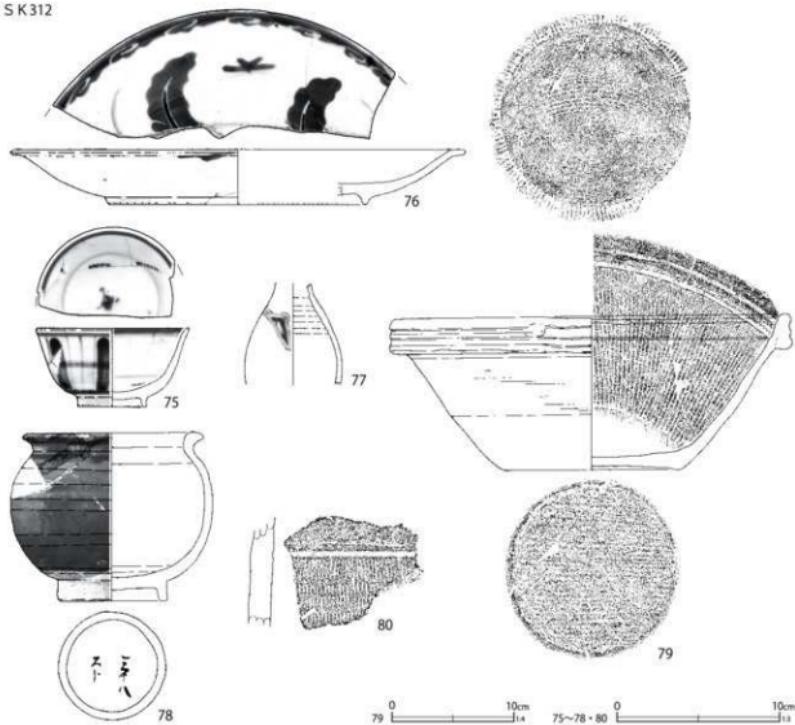
SK 276~278



SK 309



第291図 第3区画の土壤出土遺物（6）



第292図 第3区画の土壤出土遺物(7)

第144表 第3区画の土壤出土遺物観察表(1)(第286~292図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	3.6	2.9	9.1	-	50	良好	白	SK62	肥前系 内外面施釉・染付 (端反輪の蓋)	
2	瓦質土器	火鉢	(16.6)	8.4	13.0	CEIK	65	普通	灰白・暗灰	SK62	底部一方向からのナゲ後外周ナゲ 口縁部 ミガキ 磨十	102-1
3	陶器	土瓶	(6.4)	[3.6]	-	EIK	10	良好	灰	SK68	内外面海鼠釉	103-6
4	陶器	土瓶	-	[5.8]	-	EK	5	良好	褐灰	SK72	外面絞肌釉・海鼠釉流し掛け	104-1
5	陶器	土瓶	-	[5.6]	-	EK	5	良好	褐灰	SK72	松岡系 外面絞肌釉・海鼠釉流し掛け 4と同一個体か	104-1
6	土師質土器	培塿	(33.0)	[4.5]	(34.4)	ACHIK	40	普通	にぶい緋	SK72	砂目底	
7	陶器	灯明皿	9.9	1.9	4.9	IK	100	良好	灰黄	SK75	瀬戸美濃系 内外面祐釉 外面下位拭き取り・直重ね焼き痕	
8	陶器	灯明皿	9.7	1.9	4.2	IK	100	良好	灰黄	SK75	瀬戸美濃系 内外面祐釉 外面下位拭き取り・直重ね焼き痕	
9	陶器	灯明皿	(10.1)	2.0	(5.0)	I	40	良好	灰黄	SK75	瀬戸美濃系 内外面祐釉 外面下位拭き取り・直重ね焼き痕	
10	陶器	擂鉢	-	[3.6]	-	IK	5	良好	灰白	SK75	内面～外面上位祐釉 内面擂目	104-2
11	陶器	土瓶	7.7	13.1	8.8	HIK	95	良好	灰白	SK75	松岡系 外面海鼠釉	104-3
12	陶器	土瓶	5.9	12.9	7.0	IK	90	良好	褐灰	SK75	外面施釉・三彩給付 底部白化粧(三彩土瓶)	104-4

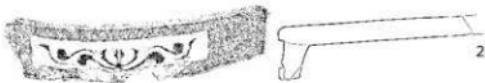
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
13	陶器	土瓶	6.7	11.5	6.8	EK	95	良好	灰白	SK75	外面青緑釉	104-5
14	磁器	楕木鉢	(24.0)	[4.3]	-	-	5	良好	白	SK86	瀬戸美濃系 内外面施釉・斜方向区画文を削りこみ、その範囲を染付 焼き繰ぎ痕	
15	磁器	皿	(14.9)	4.3	8.5	-	80	良好	白	SK87	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼き繰ぎ痕・焼き繰ぎ印(赤)「サ六一」蛇の目状高台	107-1
16	磁器	楕木鉢	-	[5.9]	(9.0)	-	15	良好	白	SK87	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 焼き繰ぎ痕 底部目跡・脚欠失	
17	陶器	楕木鉢	(17.0)	12.3	8.2	III	50	良好	にぶい黄橙	SK87	内面上位～外面上白土染付 底部穿孔	
18	瓦質土器	楕木鉢	15.2	12.3	12.8	AHK	80	普通	灰白	SK87	底部系切痕(左) 硬質瓦質(礫土)	107-2
19	磁器	碗	9.9	4.3	3.2	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙捺絵染付	
20	磁器	碗	11.0	4.5	4.0	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙捺絵染付	
21	磁器	碗	10.3	4.9	3.6	-	80	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙捺絵染付	
22	磁器	蓋	3.6	2.5	9.2	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
23	磁器	壺	6.3	5.2	3.3	-	95	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面酸化コバルト染付 同文別個体5あり	
24	磁器	壺	6.8	4.3	3.0	-	70	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面酸化(黒茶・黄)	107-4
25	磁器	皿	17.6	2.8	8.0	-	100	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 短脚口径14.4cm	107-5
26	磁器	皿	14.5	4.3	9.2	-	90	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙捺絵染付	
27	磁器	鉢	-	[3.4]	(5.8)	-	20	良好	白	SK94	肥前系 内外面施釉・染付 焼き繰ぎ痕	
28	銀器	ティッシュ	3.1	[17.1]	-	-	60	良好	白	SK94	瀬戸美濃系 内面上位～外面上白土染付 外面酸化コバルト染付	
29	磁器	急須	6.3	9.1	6.6	-	70	良好	灰白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面酸化コバルト染付	
30	陶器	蓋	-	2.8	(12.1)	I	45	良好	灰褐	SK94	萬古系か 内面綠釉 外面繪付・施文	
31	瓦質土器	蓋	(19.3)	3.8	(24.0)	CHIK	15	普通	黒・黒褐	SK94	上面砂目 磨す	
32	土師質土器	焼塗壺	(6.5)	6.1	3.5	AHI	60	普通	橙	SK94	底部系切痕(左) 胎土粉質 被熟	107-6
33	磁器	壺	(8.0)	[2.7]	-	-	15	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付	
34	磁器	土瓶	(7.4)	[6.1]	-	-	10	良好	白	SK97	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面酸化コバルト染付 同文別個体1あり	
35	陶器	擂鉢	-	[3.4]	-	DEIK	5	良好	にぶい緑	SK97	内外面鉄化粧 内面柿釉・擂目	108-1
36	瓦質土器	楕木鉢	-	[4.8]	5.9	IK	30	良好	灰白	SK97	底部系切痕(左) 穿孔 強く還元	
37	磁器	碗	(9.6)	5.2	4.8	-	60	良好	白	SK98	肥前系 内外面施釉・染付(広東碗)	
38	磁器	碗	11.6	4.7	(3.6)	-	70	良好	白	SK98	瀬戸美濃系 内外面施釉・銅版転写染付	
39	磁器	壺	7.7	3.9	3.7	-	80	良好	白	SK98	瀬戸美濃系 内外面施釉・外面銅版転写染付 同文別個体1あり	
40	陶器	鉢	(9.4)	4.1	8.3	-	50	良好	灰白	SK98	淡路灰平系 内外面黄色釉	108-2
41	陶器	擂鉢	-	[5.3]	-	DEK	5	良好	灰褐	SK98	明石系 内面擂目	
42	陶器	擂鉢	-	[3.6]	-	DEK	5	良好	搗灰	SK98	明石系 内面擂目	
43	陶器	擂鉢	-	[6.1]	-	IK	10	良好	搗灰	SK98	益子系 内外面柿釉 内面擂目	
44	瓦質土器	楕木鉢	13.0	10.9	9.5	CHIK	80	良好	にぶい褐	SK98	底部静止系切痕・穿孔 磨す	
45	瓦質土器	楕木鉢	13.1	9.9	9.3	CHIK	80	普通	にぶい黄橙	SK98	底部静止系切痕・穿孔 磨す	
46	瓦質土器	楕木鉢	12.7	10.1	9.4	CHIK	55	普通	にぶい緑	SK98	底部静止系切痕・穿孔 磨す	
47	瓦質土器	楕木鉢	(14.2)	10.0	9.1	CHIK	60	普通	にぶい黄橙	SK98	底部静止系切痕・穿孔 磨す	
48	瓦質土器	楕木鉢	12.7	9.5	8.8	CHI	85	普通	にぶい黄橙	SK98	底部ナデ・穿孔 磨す	
49	瓦質土器	楕木鉢	15.2	9.4	9.7	CHIK	60	普通	外：にぶい 裡：搗灰	SK98	底部系切痕・穿孔 磨す	
50	瓦質土器	楕木鉢	-	[5.0]	10.0	AIK	35	普通	灰白	SK98	江戸在地系か 底部系切痕・穿孔 磨す	
51	瓦質土器	火消壺	(19.6)	[6.3]	-	CIK	5	普通	灰・灰白	SK98	磨す	
52	瓦質土器	火鉢	(25.8)	[5.7]	-	CHIK	5	普通	灰黄褐	SK98	磨す	
53	土師質土器	把手付鍋	-	[4.6]	-	CHIK	10	普通	橙	SK98	穿孔	
54	土師質土器	焰燈	(36.5)	[5.0]	(35.6)	HIK	40	普通	にぶい褐	SK98	底部シワ状痕	
55	瓦質土器	甕	-	[18.0]	-	CHIK	30	良好	黒・灰黄褐	SK98	56と同一個体	
56	瓦質土器	甕	-	[7.7]	20.0	CHIK	良好	黒・灰黄褐	SK98	砂目底 55と同一個体		
57	磁器	香炉	9.4	4.2	3.9	-	100	良好	灰白	SK119	肥前系 内面上位～外面上青磁釉	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
58	磁器	碗	(10.0)	5.0	(4.0)	-	45	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 内外面施釉・色絵(赤・青・緑)	
59	磁器	碗	(11.0)	[4.7]	-	-	5	良好	灰白	SK126	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼き織ぎ 楕・被熱・煤付着	
60	磁器	环	(5.7)	[2.7]	-	-	35	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 内外面施釉 口紅	
61	磁器	皿	9.3	1.8	5.4	-	90	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 内面型 押文施(書文皿)	
62	磁器	皿	(14.6)	4.1	(8.6)	-	45	良好	灰白	SK126	肥前系 内外面施釉 内面染付 口紅 蛇の目状高台	126-2
63	磁器	植木鉢	(15.7)	[6.6]	-	-	15	良好	白	SK126	瀬戸美濃系 口縁部～外面施釉 外面・口縁上面に染付 焼き織ぎ 楕・被熱・煤付着	
64	陶器	鍋	-	[1.4]	-	IK	5	良好	灰白	SK126	内外面灰釉	126-3
65	施釉土器	鉢	(12.8)	5.0	(12.1)	AIK	35	普通	橙	SK126	底面ペラナデ 内外面透明釉 底部拭き取 り 胎土粉質	126-4
66	瓦質土器	窓跨	(26.2)	3.9	(30.2)	CI	25	普通	灰褐	SK126	煤多く付着 最大径(33.8)cm	
67	陶器	土瓶	-	[2.3]	-	K	5	良好	灰白	SK129	大堀相馬系 外面灰釉 胎土に黒色粒子多く含む	126-5
68	陶器	土瓶	-	[2.3]	-	K	5	良好	にぶい黄褐	SK129	外側施文・一部難白釉流し掛け	126-6
69	陶器	土瓶	-	[2.5]	-	K	5	良好	にぶい黄褐	SK129	型成形 外面施文・一部難白釉流し掛け 68と同一個体	126-6
70	陶器	蓋	-	[0.9]	(6.6)	IK	20	良好	にぶい黄褐	SK129	型成形 外面施文(土瓶の蓋)	126-7
71	磁器	环	(7.2)	3.9	(3.8)	-	45	良好	白	SK268	江戸在地系 内外面施釉 外面銅版転写染付	218-1
72	磁器	碗	(8.2)	3.9	(3.4)	-	20	良好	灰白	SK268	中国徳化窯系か 内外面施釉 口縁部釉剥 落	
73	陶器	德利	-	[5.4]	-	IK	15	良好	灰白	SK276	瀬戸美濃系 外面灰釉 27-278	
74	陶器	土瓶	5.5	[4.0]	-	IK	25	良好	橙	SK309	外面白化粧 緑釉・繪付	227-7
75	磁器	碗	(9.2)	4.8	4.0	-	50	普通	白	SK312	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付(端反碗)	
76	磁器	皿	(26.3)	3.3	(15.6)	-	15	良好	白	SK312	肥前系 内外面施釉 内面染付 焼き織ぎ 楕	
77	磁器	御神酒 德利 甕	-	[6.3]	-	-	20	良好	白	SK312	肥前系 外面施釉・色絵(赤・緑)	
78	陶器	擂鉢	10.3	10.3	6.5	DI	80	良好	灰白	SK312	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面鉄転流掛 底部墨書き 第242表24	228-1
79	陶器	擂鉢	32.3	12.8	14.2	EGHIL	70	普通	明赤褐	SK312	堺明石系 底部板状压痕・窯道具痕 内面 埋目	228-2
80	瓦質土器	火鉢	-	[6.7]	-	AEHHK	5	普通	にぶい黄褐	SK312	江戸在地系 外面上位ミガキ、下位トピガ ンナ状施文 胎土粉質 錆付	

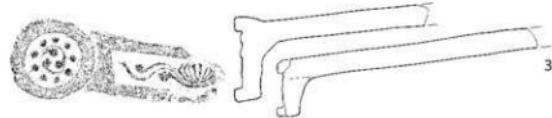
SK72



SK87



SK119



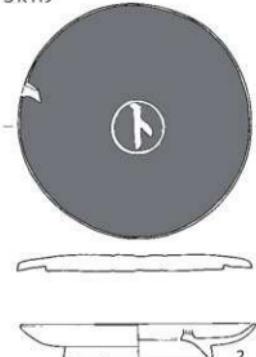
1~3 0 10cm 4 0 5cm

第293図 第3区画の土壤出土遺物(8)

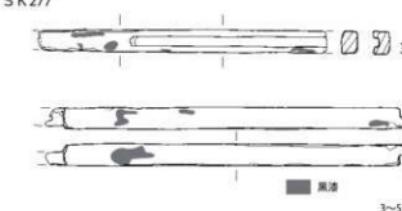
第145表 第3区画の土壤出土遺物観察表(2)(第293図)

番号	種別	器種	長さ	幅	径	粘土	焼成	色調	遺構	備考	図版	
1	瓦	軒棟瓦	[4.0]	[15.7]	-	ACIK	普通	灰白	SK72		250-6	
2	瓦	軒棟瓦	[16.1]	[22.0]	-	ACIK	普通	灰白	SK87		250-7	
3	瓦	軒棟瓦	[23.9]	[22.5]	6.7	ACIK	良好	灰白	SK87	右巻き 9珠文		
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	粘土	焼成	色調	遺構	備考	
4	土製品	ミニチュア	-	[4.3]	2.2	13.6	EHK	良好	灰白	SK119	京都系 二枚型形成 中空 外面施輪 六角形	図版 243-5

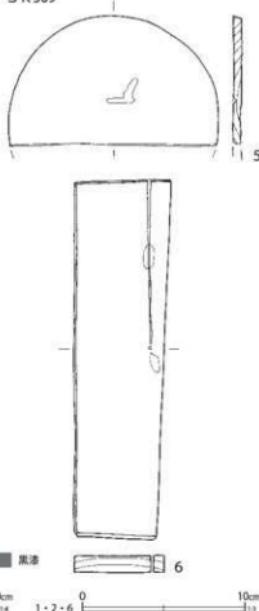
SK119



SK277



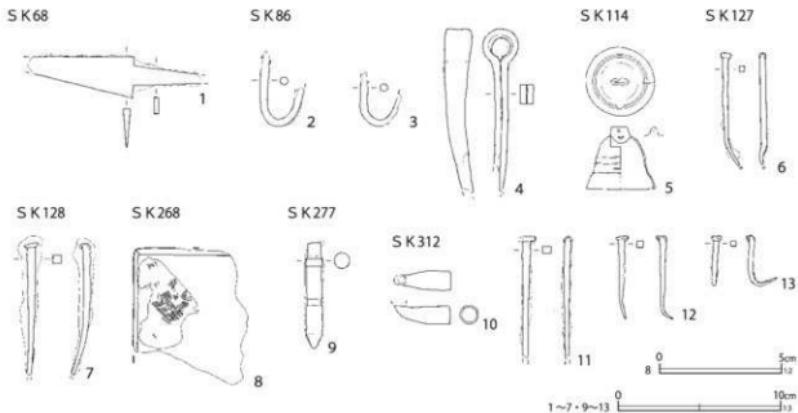
SK309



第294図 第3区画の土壤出土遺物(9)

第146表 第3区画の土壤出土遺物観察表(3)(第294図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	蓋	-	-	-	14.3	1.0	-	板目	両面黒漆 内外面焼印「①」側板一部 残存	263-1
2	木製品	漆器台	-	-	-	(14.3)	[2.2]	(9.0)	横木取り	全体黒漆	263-2
3	木製品	不明品	[23.8]	1.9	1.3	-	-	-	板目	全面赤色塗料 黒漆	
4	木製品	不明品	[31.3]	1.8	1.8	-	-	-	板目	全面赤色塗料 黒漆	
5	木製品	櫛	[10.6]	17.3	0.7	-	-	-	板目	蓋表面墨書き 第241表44	299-3
6	木製品	木札	22.0	5.5	1.0	-	-	-	板目	背面墨書き 第241表45	299-4



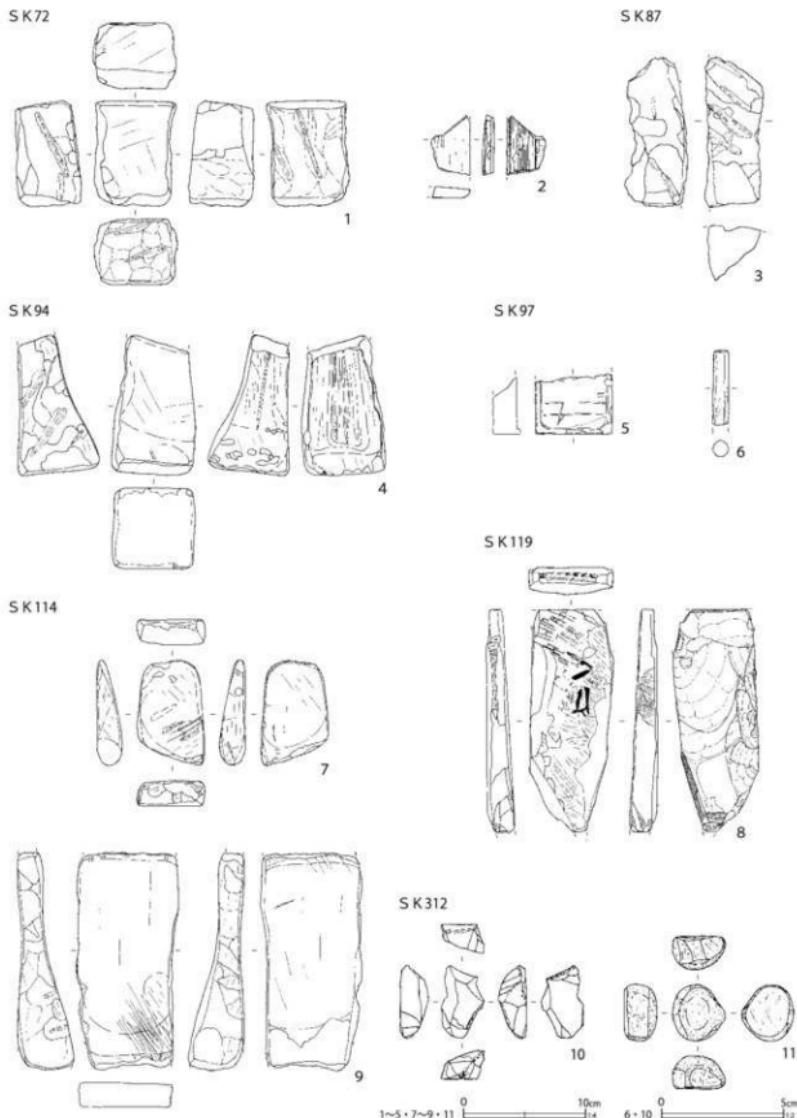
第295図 第3区画の土壤出土遺物(10)

第147表 第3区画の土壤出土遺物観察表(4)(第295図)

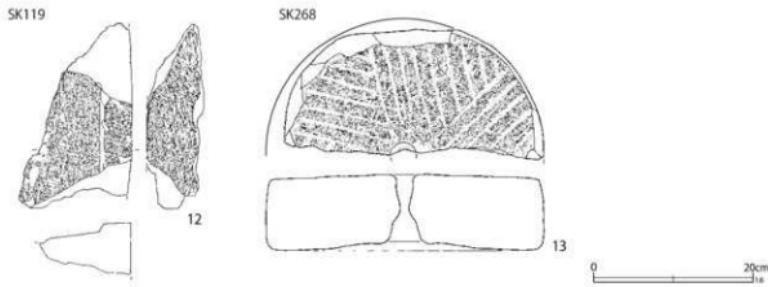
番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	刀子	長さ [10.8] 刃長 [6.5] 刃幅 2.4 背幅 0.4 重さ 22.8	SK68		275-2
2	鉄製品	鉤金具か	長さ [4.7] 厚さ 0.5 重さ 5.0	SK86		
3	鉄製品	鉤金具か	長さ [3.4] 厚さ 0.5 重さ 2.6	SK86		
4	鉄製品	環釘	長さ [10.0] 幅 0.4 厚さ 1.2 重さ 41.2	SK86		
5	銅製品	環釘	底径 4.2 高さ 3.8 厚さ 0.1 重さ 28.7	SK114		
6	鉄製品	釘	長さ [6.9] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.8	SK127		
7	鉄製品	釘	長さ [8.1] 幅 (0.5) 厚さ (0.5) 重さ 10.0	SK128		
8	金製品	金糸	幅 0.05	SK268	煉瓦に付着	279-4
9	鉄製品	不明	長さ 6.5 幅 1.0 厚さ 1.0 重さ 32.5	SK277		
10	銅製品	煙管	長さ [3.5] 小口径 1.1 重さ 5.2	SK312	雅首 火皿欠失	
11	鉄製品	釘	長さ [7.5] 幅 0.5 厚さ 0.4 重さ 5.7	SK312		
12	鉄製品	釘	長さ 5.1 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 2.2	SK312		
13	鉄製品	釘	長さ 3.1 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.1	SK312		



第296図 第3区画の土壤出土遺物(11)



第297図 第3区画の土壤出土遺物（12）



第298図 第3区画の土壤出土遺物(13)

第148表 第3区画の土壤出土遺物観察表(5)(第296図)

番号	種別	器種	法量				遺構	備考	図版
1	鉄製品	錢貨	径 23.5	厚さ 1.8	重さ 2.7		SK35	寛永通寶(新)	
2	銅製品	錢貨	径 23.0	厚さ 1.2	重さ 2.3		SK42	寛永通寶(新)	
3	銅製品	錢貨	径 23.8	厚さ 1.0	重さ 2.8		SK47	寛永通寶(古)	
4	銅製品	錢貨	径 23.0	厚さ 0.9	重さ 2.2		SK48	寛永通寶(新)	
5	銅製品	錢貨	径 21.9	厚さ 1.1	重さ 2.4		SK63	寛永通寶(新)	
6	銅製品	錢貨	径 22.5	厚さ 0.9	重さ 2.1		SK68	寛永通寶(新)	
7	鉄製品	錢貨	径 23.0	厚さ 2.1	重さ 3.1		SK82	寛永通寶(新)	
8	銅製品	錢貨	径 23.0	厚さ 0.8	重さ 2.0		SK119	寛永通寶(新)	
9	銅製品	錢貨	径 24.6	厚さ 0.9	重さ 2.4		SK129	寛永通寶(新)	
10	銅製品	錢貨	径 23.7	厚さ 1.1	重さ 2.3		SK277	寛永通寶(新)	
11	銅製品	錢貨	径 23.2	厚さ 1.1	重さ 1.8		SK278	寛永通寶(新)	

第149表 第3区画の土壤出土遺物観察表(6)(第297・298図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砾石	8.7	6.9	5.4	524.4	砂岩	SK72	サキノミ状工具痕 砥面2 荒砥	280-12
2	石製品	砾石	[4.8]	[3.2]	0.9	20.4	ホルンフェルス	SK72	ノコギリ痕 砥面2	
3	石製品	切石石材	[12.4]	[4.9]	[4.9]	235.8	凝灰岩	SK87	表面ツルハシ状工具痕 砂質	280-13
4	石製品	砾石	[11.5]	6.9	6.7	616.5	砂岩	SK94	サキノミ状工具痕 刃物痕 砥面3	280-14
5	石製品	硯	[4.9]	6.3	-	85.7	凝灰岩	SK97	器高 2.3 cm 欠損部に褐色物質付着	
6	石製品	石筆	[3.0]	0.6	0.7	2.6	滑石	SK97	白色不透明	284-2
7	石製品	砾石	8.6	5.6	2.0	128.6	流紋岩	SK114	刃物痕 砥面6	281-6
8	石製品	砾石	[18.2]	6.9	2.3	359.3	粘板岩	SK119	刃幅の狭い平ノミ状工具痕 ノコギリ痕 幅広工具痕 砥面2 被熱(一部剥落)	281-7
9	石製品	砾石	[17.8]	[8.4]	[4.3]	779.0	砂岩	SK119	サキノミ状工具痕 砥面2 荒砥	281-8
10	石製品	火打石	3.0	1.8	1.2	6.2	玉髓	SK312	使用痕あり	284-3
11	石製品	磨石	4.6	4.4	2.7	34.3	角閃石安山岩	SK312	多孔質 自然面遺存 使用面4	284-1
12	石製品	石塔	[23.4]	[14.3]	[7.2]	1696.8	安山岩	SK119	表面剝離の一部遺存 墓石か	
13	石製品	石臼	径 (35.4)	高 9.6		8920.0	花崗岩	SK268	下臼 上面擗目(摩耗) 被熱(一部黒化)	283-5

## 報告書抄録

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第474集

## 栗橋宿跡 VII

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第1分冊)

令和4年3月15日 発刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493（39）3955

<http://www.saimabun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社